

1760迄 (2926件)

1741年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「マヌエル・レオニス・デ・カストロ」(〜同年)⇒「フレイ・ジ・エラルド・デ・サン・ホセ」(〜1742年)

1741年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハカン・スルタン「Muhammad Sahaddin」(〜1780年)

1741年-05:30|インド| |||<国名変更>ヴァイナムガム国(ハローダに負けハデイに移転)⇒ハデイ国

1741年-05:30|インド| |||<就任>アスカル国ラジャ「カラン・デ・ビ・ア・シン・ハ・ワルタ・パ・トナク」(〜1771年)

1741年-05:30|インド| |||<就任>カッチ国摂政「ラク・ハ・ツィ」(〜1752年)

1741年-05:30|インド| |||<就任>キューラー国ラジャ「コウ・アルダン・チャント」(〜1773年)

1741年-05:30|インド| |||<就任>テンカナル国ラジャ「タモタル・ライ・シン」(〜1743年)

1741年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ラジャ「トリビ・クラム・マル・ラー・ジ・ハリヤンダン」(〜1742年)

1741年-05:30|インド| |||<就任>ヒラフル国ラジャ「デ・ウ・イ・チャント」(〜1778年没)

1741年-05:30|インド| |||<就任>ラクタル国統治者(タル・サーヒブ)「アハ・ラジ・2世・カランシンジ」(〜1769年)

1741年-05:30|インド| |||ティルヴァッタムコト国にエラヤタトゥ・スルハムが併合される

1741年-05:30|インド| |||マラーター王国がベンガル地方に侵入

1741年-05:00|ウズベキスタン| |||タシュケントはコントが占領(〜1742年)

1741年-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督代行「デ・イ・エ・ト・サン・マルタン」(2回目〜17421218)

1741年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「ギオルギ9世」(〜1742年)

1741年-04:00|セイシェル/フランス| |||フランス人が初めてセイシェル島を探索

1741年-04:00|ロシア/イラン| |||メフタリガベ・ルジャに占領される(〜1742年)

1741年-03:00|コモロ| |||<死去>ソス・ワニ・スルタン国スルタン「サリム」

1741年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラ・ワリス「ハジ・ハリル・ハ・シャ」(〜1747年)

1741年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブガンダ王国首相「Kagali」(〜1750年)

1741年-03:00|スーダン| |||<即位>ダルフール・スルタン国スルタン「ムハマト・ハナ」(〜1746年頃)

1741年-03:00|ウガンダ| |||<即位>ブガンダ王国国王「Namugala」(〜1750年)

1741年-03:00|コモロ| |||<即位>ソス・ワニ・スルタン国スルタン「サイティ・アハマト」(〜1782年)

1741年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ハティフ・ザート・ヤヒヤ・ハ・シャ」(〜17430703)

1741年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムミ「ミバンツ・ウエ3世」(〜1746年)

1741年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||スレイマン・ハ・シャ・アルアムスが再びダマスカス総督に就任

1741年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「メフメト・ハ・シャ」(〜1742年)

1741年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「カジ・アイヴ・アス・メフメト・ハ・シャ」(〜1742年)

1741年-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=アイゼナハ公「エルンスト・アウグスト1世」(〜17480119死去)

1741年-01:00|チャド| |||<即位>ハギルミ王国スルタン「Loel, Mbangi」(〜1751年)

1741年-01:00|スペイン/イギリス/コロンビア| |||ヴァーノンはカルタヘナ攻撃を試みるが、堅い守りにあい撃退される

1741年-01:00|フランス| |||フランスの時計師が円錐滑車工作機械を発明

1741年 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<死去>スペイン王国エルバントウ島永続的軍政知事「Jose Sanchez Dumpierrez」

1741年 00:00|セネガル| |||<就任>ワタ・ト・ロ統治者(デナク・サティギ)「キンコ・フ・ブ・ム・サ」(2回目〜1743年)

1741年 00:00|イギリス/キューバ| |||英国首相ウォルポール、兵5千を送りゲアンタモを攻撃

1741年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<死去>イギリス領アンギラ副総督「John Richardson」

1741年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヴァージン諸島副総督「ジョン・Pickering」(〜1742. 6)

1741年 04:00|セントクリストファー=ネビス/イギリス| |||<就任>ネビス副総督「ランズロット・ストーリー」(〜1761年没)

1741年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島副知事「John Pickering」(〜1742. 6)

1741年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「トマス・ヘルメシバルト・デ・アラナ」(〜1745年)

1741年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「トマス・フェリペ・デ・ウイントゥイセン」(〜1743年)

1741年1月5日-09:00|日本|東京都千代田区|元文5年11月18日|<加増>一橋徳川家5万俵「徳川宗尹」+1万俵⇒6万俵(⇒延享3(1746)年9月15日、10万石に加増)

1741年1月8日-09:00|日本|鳥取県|元文5年11月21日|<元文一揆>一揆の首謀者・松田勘右衛門らの処刑執行/同時に処罰された関係者40名あまりが追放刑に処せられた

1741年1月11日-09:00|日本|京都府京都市|元文5年11月24日|桜町天皇が280年ぶりに新嘗祭を挙行

1741年1月15日-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ騎士団総長「ラモン・デ・スプイク・イ・マルティネス・デ・マルソーヤ」

1741年1月16日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「ヒエロ・フランチェスコ・フェデリコ・ロロ・デ・イ・グアレネ」(〜18日)

1741年1月17日 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Andres Bonito de Pignatelli」(〜1744年)

1741年1月18日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「マヌエル・ピント・ダ・フォンセカ」(〜17730124没)

1741年1月23日-09:00|日本|東京都台東区|元文5年12月7日|<死去>出羽岩崎藩主「佐竹義長」(86歳)⇒婿養子の義道が継いだ

1741年2月4日-01:00|オランダ| |||<就任>メーゲン伯「フェルディナント・フライヘル・フォン・シャル・ベル」(⇒17450907、シャル・ツール・ベル伯〜17831203没)

1741年2月12日-09:00|日本|山形県新庄市|元文5年12月27日|<死去>戸沢正庸(77歳)前出羽新庄藩主

1741年2月16日-08:00|中国| |||清・乾隆6年|清朝が初の人口調査を実施、1億4341万人

1741年2月17日-09:00|日本|愛知県名古屋市|元文6年1月2日|名古屋大火/日置橋から7Km消失

1741年2月19日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||フリードリヒ2世が、再びシュレージンに出陣

1741年2月27日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ウスター公「ジョン・カー」

1760迄 (2926件)

1741年2月27日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ロクスバラ公「ロバート・カー」(~17550820死去)
 1741年2月28日 06:00|アメリカ| |||ニューヨークで黒人と貧民の暴動。黒人13人が焚刑、18人が絞首刑に処せられる。ほかに70人の黒人が奴隷として売り飛ばされる。スペインを支持するカトリック教会の神父が「黒人の陰謀」を組織したとされ、白人4人も処刑される
 1741年3月8日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ハロン・ジェイコフ・デ・ピーターセン」(~17470411)
 1741年3月14日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア第一閣僚「ゲラフ・アントレイ・イワノヴィッチ・オスターマン」(2回目~12.23)
 1741年3月21日-09:00|日本|大阪府松原市|元文6年2月5日|<死去>河内丹南藩1万石「高木正陳」(77歳)⇒4月2日、養子「高木正恒」が継ぐ(⇒寛保3(1743)年6月4日、30歳で死去)
 1741年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・マリア・ジャンジ」「マリノ・ティニ」
 1741年4月2日-04:00|ロシア| |||<死去>カラムイク・ハン国ハン「トントック・オンボ」
 1741年4月2日-04:00|ロシア| |||<即位>カラムイク・ハン国ハン代行「ザルコ」(8人の評議会)」(~9.15)
 1741年4月10日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||プロシエン王フリードリッヒ2世がモルヴィッツの戦いでオーストリア軍を破り、シュレジエンを占領
 1741年4月11日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ウォルト・グレイヴ伯「ジェームズ・ウォルト・グレイヴ」
 1741年4月11日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ウォルト・グレイヴ伯「ジェームズ・ウォルト・グレイヴ」先代の息子(~17630413死去)
 1741年4月12日-09:00|日本| ||寛保1年2月27日|「寛保」に改元
 1741年4月13日-09:00|日本|京都府京都市|寛保1年2月28日|<死去>6代家宣室天英院殿[後水尾帝第一皇女常子内親王息女]/76
 1741年4月21日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「ジョン・ティンカー」(~17580710没)
 1741年4月22日-09:00|日本|愛媛県上浮穴郡久万高原町|寛保1年3月7日|浮穴郡久万山農民、紙方新法により困窮倍加し、強訴をはかり久米村まで出る(~11日)
 1741年5月 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Antonio Ferrao de Castello Branco」(~6.26死去)
 1741年5月8日-01:00|オーストリア/フランス/ドイツ| |||フランスとバリエルがコンフェンブルク条約を結び、ザクセン、スペイン、プロシエンを加えて対オーストリア同盟が成立
 1741年5月9日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ロバート・ジェンキンス」(~17420322)
 1741年5月12日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|寛保1年3月27日|<死去>六郷政晴(67歳)前出羽本荘藩主
 1741年5月15日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|寛保1年4月1日|<死去>大和小泉藩11129石「片桐貞起」(73歳)⇒次男「片桐貞音」が継ぐ(⇒寛延3(1750)年4月3日、39歳で死去)
 1741年5月18日-05:30|イント/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領イント総督「リサル侯爵ルイス・カルロス・イサオ・ザビエル・デ・メネシス」(2回目~17420614)
 1741年5月22日-09:00|日本|東京都品川区|寛保1年4月8日|幕府が品川沖で無許可の小船が諸廻船と密売買することを禁じる
 1741年6月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァ・ハン国ハン「ムハンマド・ターヒル」
 1741年6月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国ハン「ヌール・アリ1世」(~1742年)
 1741年6月4日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューハンプシャー州植民地総督「ベニング・ウェントワース」(~17670730)
 1741年6月9日-09:00|日本| ||寛保1年4月26日|幕府が取退無尽・寺社建立講を賭博として禁じる
 1741年6月13日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「ザイン・アル・アビデイン・イブン・イスマイル・アル＝ザミン」(~11.24廃位~1762年死去70歳)
 1741年6月13日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(~17571110死去79歳)
 1741年6月14日-09:00|日本|青森県八戸市|寛保1年5月2日|<死去>陸奥八戸藩2万石「南部広信」(33歳)⇒嫡男「南部信興」が継ぐ(⇒明和2(1765)年5月29日、隠居)
 1741年6月16日 00:00|イギリス| |||<死去>2代オックスフォード伯「モティマー伯「エドワード・ハーレー」
 1741年6月16日 00:00|イギリス| |||<就任>3代オックスフォード伯「モティマー伯「エドワード・ハーレー」(~17550411死去)
 1741年6月17日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「アルヴィゼー・ピサニ」急死
 1741年6月17日-09:00|日本|広島県広島市|寛保1年5月5日|安芸郡矢賀村出火、全焼
 1741年6月18日-01:00|チュニジア| |||ハバルカがザイン朝ベイに降伏
 1741年6月22日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「ヤンシュ・ゲルハルプ・エルデディ」(2回目~17510324)
 1741年6月24日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ノーセスク伯「デヴィッド・カーネギー」
 1741年6月24日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ノーセスク伯「ジョージ・カーネギー」(~17920120死去)
 1741年6月24日-09:00|日本|青森県八戸市|寛保1年5月12日|<死去>三谷宗鎮(77歳)儒学者、茶人
 1741年6月25日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチアのバン「ザグレブ司教ジェルジ・ブランシ」(3度目)、代行「バルタザール・ベテコヴィッチ・コルスキ」(~1742年)
 1741年6月25日-01:00|ハンガリー| |||ハプスブルク家のマリア・テレジアが、ハンガリー女王として戴冠
 1741年6月26日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<死去>サントメ植民地総督「Antonio Ferrao de Castello Branco」
 1741年6月26日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Chamber Senate」(~1744年)
 1741年6月28日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛保1年5月16日|<初演>文耕堂、三好松洛、小川半平「新薄雪物語」竹本座
 1741年6月30日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ピエトロ・ゲリマーニ」(~17520307死去)
 1741年6月30日-01:00|イタリア| |||ベネツィアでサントマ教会を再建中のフランチェスコ・ボニョロ、最古の遺跡を発見
 1741年6月30日 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「アーサー・Hodge」(~17490128死去)

1760迄 (2926件)

1741年7月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Ibrahim Agha」(1期目~8.25)
1741年7月13日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランケバル)司令官「イヴァル・ボンサック」(~17440917)
1741年7月16日-04:00|ロシア/アメリカ| |||ベーリングの船がアラスカのセントエリ阿斯山を発見
1741年7月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>サッケン=アイゼナハ侯「William Henry」
1741年7月26日-01:00|ドイツ| |||<就任>サッケン=アイゼナハ侯「Ernst August1世」(~17480119死去)
1741年7月28日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴィヴァルディ/63歳(誕生16780304)イタリアの作曲家
1741年8月8日-01:00|スウェーデン/ロシア| |||スウェーデンのハット党政権がロシアに宣戦布告
1741年8月10日-05:30|インド/オランダ| |||トラヴァンコール王マルタンダ・ヴァルマがコラチュルの戦いでオランダ軍を破った
1741年8月10日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「マク・ジョセフ・ラサバル」(~17491110)
1741年8月14日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マチュセツ湾直轄植民地総督「ウィリアム・シャーリー」(~17490911)
1741年8月15日-09:00|日本|愛媛県上浮穴郡久万高原町|寛保1年7月5日|伊予国久万山に百姓一揆が起こる
1741年8月20日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユスティウス島暫定司令官「Jasper Ellis」(~17430622)
1741年8月23日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「アウグスティン・デ・ロ・マロ・デ・ビシヤベセンソ」(~17421103)
1741年8月25日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Sulayman Pasha al-Azm」(2期目~17430825)
1741年8月25日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|寛保1年7月15日|<初演>「播州皿屋敷」[合作]人形浄瑠璃、豊竹座
1741年8月26日-01:00|オランダ/オーストリア| |||<死去>オーストリア領ネーデルラント総督「マリア・エリーザベト・フォン・エスターライヒ」
1741年8月26日-01:00|オランダ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ネーデルラント総督「フリードリヒ・アウグスト・フォン・ハハ」(~1744年)
1741年8月26日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルグ総督代行「フリードリヒ・アウグスト・ゲルガース・グラーフ・ハラッハ・ス・ローウ」(~17430316)
1741年8月29日-09:00|日本|北海道|寛保1年7月19日|<寛保元年渡島大島津波>北海道西南沖の大島で火山性地震(M6.9). 大津波発生、佐渡・能登・若狭にも津波、死者2033人
1741年9月1日-09:00|日本|香川県高松市|寛保1年7月22日|高松藩領内、暁より大風雨が夜半まで続き、町・郷の潰家2115軒
1741年9月3日-02:00|フィンランド/ロシア| |||ロシア軍が、フィンランドのウイマンシュランドでスウェーデン軍に大勝
1741年9月7日-09:00|日本|京都府福知山市|寛保1年7月28日|<死去>朽木植治(77歳)前丹波福知山藩主
1741年9月14日-01:00|ドイツ| |||(8月22日~)ドイツ生まれ英国のヘンデルがオトリオの「メイズ」作曲
1741年9月16日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「ミハイ・イオン・ラウ・イ・ツァ」(2回目~1744年7月死去)
1741年9月16日-04:00|ロシア| |||<即位>カラムイク・ハン国ハン「ドンツク・ダシ」(17570402まで摂政~17610202没)
1741年9月21日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||バイエルン軍が、オーストリアのリツを占領
1741年9月21日-09:00|日本|京都府京都市|寛保1年8月12日|<初演>歌舞伎「新薄雪物語」京都早雲座
1741年9月22日-09:00|日本|奈良県天理市|寛保1年8月13日|<死去>大和柳本藩1万石「織田信方」(30歳)⇒長男「織田秀賢」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年8月26日、隠居)
1741年10月1日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・ニコラエ・マヴロコダット」(2回目~17430720)
1741年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロベリコ・ベルツィ」「ビエール・アントニオ・ウーリーニ」
1741年10月8日-09:00|日本|北海道松前郡松前町|寛保1年8月29日|渡島大島、地震・噴火、山体崩壊に伴う岩屑なだれで大津波、犠牲者1467名
1741年10月11日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>コネチカット植民地総督「ジョセフ・タルコット」
1741年10月11日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>コネチカット植民地総督「ジョサン・ロー」(~17501106死去)
1741年10月14日-09:00|日本|福島県いわき市|寛保1年9月5日|<死去>陸奥湯長谷藩15000石「内藤政醇」(31歳)⇒長男「内藤政業」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年11月14日、隠居)
1741年10月28日-09:00|日本|京都府舞鶴市|寛保1年9月19日|<死去>牧野英成(71歳)前丹後田辺藩主、寺社奉行・京都所司代
1741年11月-04:00|ロシア| |||ベーリングの一隊がアリューシャン列島でテライクウを発見
1741年11月6日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Johannes Thedens」(~17430528)
1741年11月10日-09:00|日本| |||寛保1年10月3日|<死去>鷹司輔信(62歳)茶人
1741年11月16日-01:00|チェコ/フランス/ドイツ/スロバキア| |||プラーハが、バイエルンとフランスの連合軍によって陥落
1741年11月20日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛保1年10月13日|<交替>播磨姫路藩15万石「榊原政岑」強制隠居(吉原の遊女を身受けしたため蟄居謹慎)⇒長男「榊原政純」が継ぐ(⇒11月1日、越後高田藩15万石に移封)
1741年11月24日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「ザイン・アル・アビデイン・イブン・イスマイル・アル・サミン」(~1762年死去70歳)
1741年11月24日 00:00|モロッコ| |||<復位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(4回目~17420203廃位~17571110死去79歳)
1741年11月26日-09:00|日本|栃木県下都賀郡壬生町|寛保1年10月19日|<死去>西郷寿員(69歳)元下野上田藩主
1741年12月4日 04:00|アンティガ・ア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||<死去>アンティガ・ア副総督「エドワード・バイルム」
1741年12月6日-04:00|ロシア| |||ロシア暦11月25日|<即位>ロシア皇帝「エリザベータ1世」皇后/近衛隊が宮廷革命を起こし擁立(~17620105没)
1741年12月8日-09:00|日本|新潟県上越市|寛保1年11月1日|<移封>播磨姫路藩15万石「榊原政純」⇒越後高田藩15万石(⇒延享元(1744)年12月11日、病死)
1741年12月8日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛保1年11月1日|<移封>陸奥国白河藩15万石「松平明矩」⇒播磨姫路藩15万石(⇒寛延元年11月17日(17490105)、死去)

1760迄 (2926件)

1741年12月8日-09:00|日本|福島県白河市|寛保1年11月1日|<移封>越後高田藩113000石「松平定賢」⇒陸奥白河藩11万石(⇒明和7(1770)年7月12日、死去)

1741年12月9日-01:00|チエコ| ||<即位>ホヘミ王「カル・アルブレヒト」(~17430512) 神聖ローマ皇帝、ハイルン選帝侯

1741年12月9日-01:00|チエコ| ||<退位>ホヘミ王「マリエ・テレジエ」

1741年12月16日 00:00|イギリス| ||<死去>3代エルギン伯・2代アイルズベリー伯「トマス・ブルース」

1741年12月16日 00:00|イギリス| ||<就任>4代エルギン伯・3代アイルズベリー伯「チャールズ・ブルース」先代の次男(~17470210死去アイルズベリー伯断絶)

1741年12月19日-01:00|デンマーク/ロシア/アメリカ| ||ロシア暦12月8日|ヒートスベリングが壊血病のためベリング島で死去/(誕生:1680)。ベリング海峡を発見した

1741年12月27日-01:00|オーストリア/ドイツ| ||オーストリア軍がリンツを包囲し、ハイルン=フランス連合軍をハイルン領に押し返す

1742年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「フアンシスコ・ザビエル・デ・ユエル」(~1746年)

1742年-08:00|マレーシア| ||<即位>ペラ・スルタン「ムハマト・シャー・アミヌッラー・イブニ・アル・マルフム・スルタン・マンスール・シャー(下ペラ支配)」(~1750年没)

1742年-05:30|インド| ||<国名変更>ジャワート国(新首都ドゥランガトウ設立)⇒ドゥランガトウ国

1742年-05:30|インド| ||<就任>ジャハル国ラジャ「クリシュナ3世」(~1758年没)

1742年-05:30|インド| ||<就任>ナルグント国統治者(5才)「ヨギ・ラオ」(~1760年)

1742年-05:30|インド| ||<就任>ニルギリ国ラジャ「ラグナート・マルドラージ・ハリチャンドラン」(~1752年)

1742年-05:30|インド| ||<就任>ホパール国支配者(サワブ)「ファイズ・モハマト・カーン」(~17771212没)

1742年-05:30|インド| ||<即位>ゴワ・スルタン「I Maappibabasa Sultan Abdul Kudus」(~1753年)

1742年-05:30|インド| ||<即位>ホパール太守「Nawab Faiz Mohammad Khan」(~17771212死去)

1742年-05:00|パキスタン| ||<就任>ラハバウ国ジャム・サハブ「ヒビ・チャグリ」再建国⇒「アリ・カーン1世」(~1765年)

1742年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<即位>ヒヴァ・ハン国ハン「アブ・アル・ガーズィー2世」(~1747.7死去)

1742年-04:00|ジョージア| ||<即位>イメリティ王「アレクサンドル5世」(2回目~1747年)

1742年-04:00|ロシア/イラン| ||ロシア暦10月17日|カイトクがペルシャに占領される(~1743年)

1742年-03:00|カンタラ| ||<死去>ブナ統治者(オムカマ)「ルミ1世」

1742年-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダット・ワリス「ハジ・アフマト・ハシヤ」(~1747年)

1742年-03:00|カンタラ| ||<就任>ブナ統治者(オムカマ)「キヌマ2世」(~1768年)

1742年-03:00|エチオピア| ||<即位>カファ帝国カフィ・アティオ「ガリ・ガチヨ」(~1765年)

1742年-03:00|イラク| ||<即位>ハバン首長「Nawaub Salim Pasha」(~1754年)

1742年-01:00|フランス| ||<就任>初代ブロイ公「フランソワ・マリ」(~17450522死去)

1742年-01:00|セルビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハチムスタファ・ハシヤ」(~1743年)

1742年-01:00|クロアチア| ||<就任>クロアチアとダルマチアのパン代行「ザグレブ」司教ジョエルジ・ブラニン(4度目~17430310)

1742年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア総督「イエゲン・メフメト・ハシヤ」(~1744年)

1742年-01:00|ベナン| ||<即位>アラダのフォン王国国王「デカ」(~1792年)

1742年-01:00|イタリア| ||<即位>グラーヴィナ公「Filippo Bernualdo Orsini」(~1824年)

1742年-01:00|ベルギー| ||<即位>ベルク公グイッテルスハッ家(ブファルツ=スルツハッ家系)「カール・テオドル」(~1799年)

1742年-01:00|クロアチア| ||<即位>ホルヴィツ大公「イワン・ノヴァコヴィッチ」(~1747年)

1742年-01:00|スウェーデン| ||スウェーデンのセルシウスが摂氏温度を作成

1742年 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| ||<就任>カーボベルデ 総督「ジョアン・スザンテ・デ・サンタ・マリア」(~1751年)

1742年 04:00|アンティグア・ババーダ/イギリス| ||<就任>アンティグア副総督「ジョージ・ルーカス」(~1747年没)

1742年 04:00|トミニカ国/フランス| ||<就任>フランス・トミニカ司令官「デッサン・ボンタン」(~1754年没)

1742年 05:00|パナマ| ||トレロニ-自ら兵を率い、パナマを攻撃するが敗退

1742年 05:00|ペルー| ||ペルーのアンデス東斜面でサント・アタールが反乱

1742年1月 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス総督「Sir Thomas Robinson」(~17470414解任)

1742年1月 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領メリーランド 植民地総督「トマス・ブレイトン」(~1746年)

1742年1月1日 00:00|イギリス| ||<死去>2代アンカスター=ケステイグン公・第5代リンジー伯「ヘンリー・バートン」

1742年1月1日 00:00|イギリス| ||<就任>3代アンカスター=ケステイグン公・第6代リンジー伯「ヘンリー・バートン」(~17780812死去)

1742年1月1日 05:00|日本|京都府京都市|寛保1年11月25日|<京都寛保元年の大火>未の刻(14時頃)、四条大橋の南側、四条石垣町から出火、四条河原の伝統を継ぐ芝居小屋や芝居茶屋、水茶屋などを残らず焼失/炎は大和橋を落とし、祇園新地、知恩院門前から三条通に焼け抜け、壇王法林寺の東、頂妙寺新地から西は清光寺、東光院など皆な類焼させ、亥の刻(22時頃)鎮火/町家2800戸、寺院14所が焼失

1742年1月7日 00:00|イギリス| ||<死去>初代モントローズ公「ジェームズ・グラハム」

1742年1月7日 00:00|イギリス| ||<就任>2代モントローズ公「ウィリアム・グラハム」(~17900925死去)

1742年1月8日-05:30|スリランカ/オランダ| ||<就任>オランダ領セイロン総督「ダニエル・オーバーベック」(~17430511)

1742年1月14日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 総督「ジョゼフ・フランソワ・デュプレックス」(~1754年)

1742年1月14日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1742/1/3|イギリスの天文学者エドモンド・ハレー没/85歳(誕生:16561029)/1682年にハレー彗星を観測し、周期彗星の存在を確認し、1705年にハレー彗星の記録を調査して同一彗星が周期的に楕円軌道を描いて再現することを確認した

1742年1月20日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|寛保1年12月14日|<死去>豊後日出藩25000石「木下長監」(18歳)⇒弟「木下俊能」が継ぐ(⇒寛延元(1748)年8月30日、死去)

1742年1月24日-01:00|ドイツ/オーストリア/チエコ/イタリア| ||<即位>神聖ローマ皇帝・ドイツ王(グイッテルスハッ朝)「カール7世」ハイルン選帝侯「カル・アルブレヒト・フェルディナント2世」の玄孫(~17450120死去)ホヘミ王・ハイルン選帝侯

1760迄 (2926件)

1742年2月-04:00|オーストリア| |||<即位>アールハブ 王朝イマム「スルタン・イブン・ムルシド」(~17430620死去)
1742年2月3日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(~17571110死去79歳)
1742年2月3日 00:00|モロッコ| |||<復位>アラウィー朝スルタン「アル・ムスタディ」(2回目~1743年5月廃位)
1742年2月5日-09:00|日本| ||寛保2年1月|彗星河鼓南及河鼓に現る
1742年2月6日 00:00|イギリス| |||<就任>初代オフォード伯「ロバート・ウオルポール」(~17450318死去)
1742年2月8日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「ヨハン・フリードリヒ・グラーフ・フォン・ザイレルン」(~15日)
1742年2月9日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ハリントン伯「ウィリアム・スタンホープ」(~17561208死去)
1742年2月10日-09:00|日本|茨城県笠間市|寛保2年1月6日|<死去>常陸宍戸藩1万石「松平頼慶」(64歳)⇒長男「松平頼多」が継ぐ(⇒明和3(1766)年11月20日、45歳で死去)
1742年2月12日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリア軍が、バリエル選帝侯領に侵入し、首都ミュンヘンを開城させる
1742年2月14日-02:00|ギリシャ| |||ギリシャ、ザキントスで地震(M6.5)死者120人
1742年2月15日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「ルフィッツ・アントン・グラーフ・フォン・コウルフェルト」(~17530513)
1742年2月16日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン連合王国首相「ウィルミントン伯スペンサー・コンプトン」(~17430702死去)W
hg
1742年2月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アーマー大主教ヒュー・ポールター(9.27まで)/アーマー大司教ジョン・ホドリー(12.3から)/ロバート・ジョセリン/ハンリー・ポイル」(~17430929)
1742年2月20日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「トメニコ・カヴァッロ」(~17440220)
1742年2月22日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦2月11日|<辞任>イギリス首相「ロバート・ウオルポール」66歳
1742年2月26日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ホブトン伯「チャールズ・ホブ」
1742年2月26日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ホブトン伯「ジョン・ホブ」先代の息子(~17810212死去)
1742年2月27日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1742/2/16|<就任>グレートブリテン王国第2代首相「(初代ウィルミントン伯爵)スペンサー・コンプトン」ホイッグ党(~17430702)
1742年3月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<死去>フランス領マルティニーク知事「Jean Francois Louis de Brach」
1742年3月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Andre Martin」(~1744年)
1742年3月10日-09:00|日本|秋田県|寛保2年2月4日|<死去>佐竹義堅(51歳)元出羽久保田新田藩主
1742年3月22日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「トマス・ランバート」(~7.20死去)
1742年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジローモ・ゴジ」「ジョヴァンニ・マルテッリ」
1742年4月2日-09:00|日本|東京都|寛保2年2月27日|<死去>3代市川團十郎(22歳)歌舞伎役者
1742年4月11日-09:00|日本|熊本県熊本市|寛保2年3月7日|<交替>熊本新田藩35000石「細川利恭」隠居⇒甥「細川利寛」が継ぐ(⇒明和4(1767)年9月24日、死去)
1742年4月13日 00:00|アイルランド/ドイツ| |||ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルのオラトリオ「メサイア」がタヴリンで初演される
1742年4月21日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ヘミル・アリ・パシャ」(2期目~9.23)
1742年4月23日-09:00|日本|新潟県長岡市|寛保2年3月19日|<死去>井伊直矩(49歳)前越後与板藩主
1742年5月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・乾隆7年4月|朝鮮全国に熱病が流行し死者が多数
1742年5月7日-09:00|日本|埼玉県川越市|寛保2年4月3日|<交替>武蔵川越6万石「秋元喬求」隠居⇒養子「秋元涼朝」が継ぐ(⇒明和4(1767)年閏9月15、出羽山形藩6万石に移封)
1742年5月10日-09:00|日本| ||寛保2年4月6日|吉宗の法令集「公事方御定書」(御定書百か条)が完成
1742年5月11日-09:00|日本|三重県桑名市|寛保2年4月7日|<交替>伊勢長島藩2万石「増山正任」隠居⇒次男「増山正武」が継ぐ(⇒延享4年6月11日(17470718)、死去)
1742年5月17日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||コウツツ=チャスラの戦いで、フリードリヒ2世の騎兵隊がオーストリア軍を破る
1742年5月28日 00:00|イギリス| |||世界初の屋内プールがロンドンで開設
1742年6月-01:00|イタリア/オーストリア| |||オーストリア軍モデナ公国を占領(~1748)
1742年6月 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島副知事「ジョン・ハント」(~1751年死去)
1742年6月 05:00|ペルー| |||インディオのファン・サントス・アタワパ、インカ帝国の復活を唱え、フニン州のハウハ、タルマを根城に反乱開始
1742年6月3日-03:00|日本| ||寛保2年5月1日|午前6時~8時、西日本から北陸地方、東北地方にかけての広い範囲で皆既日食
1742年6月11日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||ブレスラの和約が結ばれ、オーストリアがプロシヤに上下シレジアを割譲
1742年6月11日-09:00|日本|東京都|寛保2年5月9日|幕府が市中での辻駕籠の戸を立てることを禁止し、牛車・大八車・地車の通行・駐車による往来妨害を取り締まる/また火を携行しての行商を禁じる
1742年6月14日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「統治委員会:フランシスコ・デ・ガアスコンチェロス(17430330まで)/ルイス・カエターノ・デ・メネズ/ローレンソ・デ・ノロニャ(17430518から)」(~17440924)
1742年6月21日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「トミンゴ・オルト・イ・ズ・デ・ロサス・ガルシア・デ・ビジャヤソ、町の侯爵」(~17451122)
1742年6月23日 06:00|ホンジュラス/イギリス| |||ベイズ諸島マタ島のポート・ロイヤルをイギリス軍が再占領(~1752年)
1742年6月23日-09:00|日本|愛知県岡崎市|寛保2年5月21日|<死去>三河奥殿藩16000石「松平盈乗」(27歳)⇒7月、長男「松平乗穩」が継ぐ(⇒天明2(1782)年11月21日、隠居)
1742年7月2日-09:00|日本|京都府京都市|寛保2年6月1日|<就任>京都所司代「牧野貞通」(⇒1749(寛延2年9月18日))
1742年7月2日-09:00|日本|東京都千代田区|寛保2年6月1日|<就任>老中「土岐頼稔」(~延享1年9月12日)
1742年7月6日-09:00|日本|東京都|寛保2年6月5日|<死去>初代・林屋正蔵(落語家)[1781年生~]
1742年7月7日 06:00|アメリカ/スペイン| |||ブラッディ・マーシュの戦いで植民地軍、スペイン軍に勝利

1760迄 (2926件)

1742年7月7日-09:00|日本|東京都中央区|寛保2年6月6日|<死去>早野巴人(67歳)俳人
1742年7月14日-01:00|スペイン/アメリカ| |||<死去>スペイン軍退却、ジェンクス'の耳戦争、北米で終結
1742年7月17日-09:00|日本|東京都中央区|寛保2年6月16日|大名陸奥、暴れて場外に出されたのを怨み大挙して葛屋町市村座に押しかけ暴れる
1742年7月20日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<死去>イギリス領セントヘレナ総督「トマス・ランバート」
1742年7月20日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「ジョージ・ガブリエル・パウル」(~17440311)
1742年7月21日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ペーージャ公「フランシスコ」
1742年7月21日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ペーージャ公「ペドロ3世」(~17860525死去)ポルトガル王ジョアン5世の息子
1742年7月21日-09:00|日本|新潟県柏崎市|寛保2年6月20日|<死去>堀直央(55歳)前越後椎谷藩主
1742年7月27日-09:00|日本| ||寛保2年6月26日|<死去>田中桐江(75歳)儒学者、漢詩人
1742年7月28日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<条約>オーストリアとプロシヤ間の第1次シュレジンゲン戦争が終結
1742年7月29日-09:00|日本|茨城県石岡市|寛保2年6月28日|<死去>常陸府中藩2万石「松平頼幸」(24歳)⇒8月13日、養子「松平頼濟」が継ぐ(⇒天明4(1784)年5月29日、65歳で死去)
1742年8月-01:00|スペイン/ペルー| |||副王軍によるアタワパ 討伐失敗。アタワパ は逆にキリ攻略に成功。インディオに支持をひろげる
1742年8月18日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「トマス・Robinson卿」(~17470414)
1742年8月27日-09:00|日本|京都府京都市|寛保2年7月27日|畿内大暴風雨、鴨川洪水、三条大橋落ちる
1742年8月28日-09:00|日本|群馬県沼田市|寛保2年7月28日|<移封>駿河田中藩35000石「土岐頼稔」⇒上野沼田藩35000石(⇒延享元(1744)年9月12日、50歳で死去)
1742年8月28日-09:00|日本|千葉県君津市|寛保2年7月28日|<移封>上野沼田藩3万石「黒田直純」⇒上総国久留里藩3万石(⇒安永4(1775)年閏12月27日、死去)
1742年8月29日-02:00|フィンランド/ロシア| |||ロシア暦1月28日|<就任>ロシア領フィンランド 司令官「フランス・エドワード・ジェームズ・キース」(~17430102)
1742年8月29日-02:00|フィンランド/ロシア| |||ロシア暦1月28日|フィンランド をロシアが占領(~17430616)
1742年8月30日-09:00|日本|長野県|寛保2年8月1日|<寛保2年「千曲川」の満水>夜中から2日の朝にかけて、信濃国佐久平の南端にある上畑村では千曲川と支流の大石川など4つの川が氾らんし集落は全滅248人死亡/佐久平北側の小諸藩領内では、同町を貫流する支流の中沢川が氾らんし城下から城中に流れ込み507人が死亡/小県郡の上田藩領では158人死亡、中でも松代藩領の善光寺平は千曲川と犀川が合流する地点なので水量も多く、御幣川村が全滅するなど全藩領の被害は家屋流失1731軒、同全壊857軒、1220人死亡/隣の須坂藩領、幕府領の現小布施町一帯、奥信濃の飯山藩領などすべて千曲川沿岸部一帯に甚大な被害が出て全体で2800人が死亡
1742年8月31日-09:00|日本|東京都|寛保2年8月2日|<寛保2年「関東大洪水」>夜、関東では荒川が決壊し洪水により葛西で2000人余りが死亡
1742年9月2日-09:00|日本| ||寛保2年8月4日|荷田在満の歌論書「国歌八論」完成
1742年9月3日-09:00|日本| ||寛保2年8月5日|<寛保2年「関東大洪水」>利根川が決壊して大洪水となり、中流の越谷で3700人、粕壁では1800人が死亡/下流の隅田川沿岸部の本所、深川、浅草、下谷なども大洪水となり3914人が死亡/山手ではがけ崩れが起き、神田川、渋谷川、目黒川が氾らん、大森、品川の江戸湾沿岸部では大波で多くの船が破壊されている
1742年9月5日-09:00|日本|大分県佐伯市|寛保2年8月7日|<交替>豊後佐伯藩2万石「毛利高慶」隠居⇒嫡孫「毛利高丘」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年6月16日、33歳で死去)
1742年9月7日-09:00|日本|新潟県上越市|寛保2年8月9日|高田町南の荒川橋が洪水で落橋/高田藩、今町から渡船1艘を派遣し、輸送にあたらせる
1742年9月17日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「クリスチャン・ド・ホルツァップフェル」(~1743年)
1742年9月23日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「セイド・ハサン・パシャ」(~17460809)
1742年9月25日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国フェルテベントラ島永続的軍政知事「Melchor de Cabrera Bethencourt Dumpierrez」(~1762年死去)
1742年9月28日-09:00|日本|静岡県沼津市|寛保2年8月30日|<死去>駿河松永13000石「大久保教端」(56歳)⇒三男「大久保教起」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年2月8日、死去)
1742年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ビアンチ・アントニオ・マルテッリ」「ドメニコ・ベルトニ」
1742年10月2日-05:30|インド| |||<就任>アール・カト国支配者「モハメド・サアト・トゥッラー・カーン2世」(~17440704没)
1742年10月7日-09:00|日本|東京都|寛保2年9月9日|幕府が市中で富士山の加持水を薬と称して病人に飲ませる者を取り締まる
1742年10月15日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督「ヨハン・ヤコブ・マウリウス」(~17510423)
1742年10月16日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「トマス・デ・リベラ・イ・サンタクルス」(~17480926)
1742年10月31日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛保2年10月4日|<死去>紀海音(80歳)浄瑠璃作者、狂歌師、俳人
1742年11月3日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「フェンクラ伯爵ペドロ・セプリアン・イ・アグスティン」(~17460708)
1742年11月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ツェルプスト候「Johann August」
1742年11月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ツェルプスト候「Johann Ludwig2世」(~17461105死去)、「Christian Augustus」(~17470316) 共同統治

1760迄 (2926件)

1742年11月9日-09:00|日本|大分県竹田市|寛保2年10月13日|<死去>豊後岡藩70440石「中川久忠」(46歳)⇒12月19日、養子「中川久慶」が継ぐ(⇒寛保3年10月30日(17431215)、死去)
1742年11月21日-04:00|セイシェル/フランス| |||ラザール・ビコーによって、ブルトネ島と名付けた島をフランス領宣言
1742年11月26日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相「グラーフ・アレクセイ・ポロウ・イチ・ベ・ストゥジエフ・リュミン」(17440726まで副首相~17580226)
1742年12月 00:00|イギリス/ペルー| |||エンソ海軍中將の率いるイギリス艦、パナマ港を占拠
1742年12月12日-09:00|日本|奈良県奈良市|寛保2年11月16日|<交替>大和柳生藩1万石「柳生俊平」隠居⇒養子「柳生俊峯」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年8月29日、死去)
1742年12月17日-09:00|日本|兵庫県加東市|寛保2年11月21日|<移封>美作・河内国内1万石「丹羽薫氏」⇒播磨三草藩1万石(⇒宝暦7(1757)年5月22日、死去)
1742年12月21日-09:00|日本|京都府京都市|寛保2年11月25日|京都大火、「京都寛保の大火」、芝居小屋、茶店残らず焼失
1742年12月31日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>ユリヒ=クレフェ=ベルグ連合公・フ・ファルツ=ノイブルク公・フ・ファルツ選帝侯「カール3世フィリップ」
1742年12月31日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<即位>ユリヒ=クレフェ=ベルグ連合公・フ・ファルツ=ノイブルク公「カール・フィリップ・テオドール」兼フ・ファルツ選帝侯「カール4世フィリップ・テオドール」(⇒17771230、パリエル選帝侯位と統合)(~17990216死去)
1742年12月31日-01:00|ドイツ| |||<退位>フ・ファルツ=ズルツバッハ公「カール・テオドール」(⇒フ・ファルツ選帝侯、パリエル選帝侯)
1743年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Nathaniel Steinmetz」(~1748年)
1743年-08:00|マレーシア| |||<即位>セランゴール王「ラジャ・ム・ビン・ダイン・チェラ」建国(~1766年)
1743年-08:00|インドネシア| |||<即位>パマサン君主「Adikara4世」(~1750年)
1743年-08:00|インドネシア| |||マタラム王国パトゥワナ2世が王都カタスラを捨て、ソロ村に王居を設け、「スラカルタ・アデニンガラット」と命名して歴代の首都にした/以来ソロは「スラカルタ」とも呼ばれる
1743年-05:30|インド| |||<就任>アフガニスタン統治者「キシュマ」(~1751年)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ウタラ国ラジャ「パトマナヴァデーヴァ」(~不明)
1743年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「カレックス・メルセン」(~1747年)
1743年-05:30|インド| |||<就任>カンパイ国支配者(サワ)「ムフタル・ヌール・アッティン・モハマト・ムシン・カン2世」(~1783年没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>セイラウラ国ラジャ「アビラム・シン」(~1818年没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>タンタ国統治者(マハラ)「ウイクラマデヴァ」(~同年)⇒「カラシムジ」(~不明)⇒「ラタシムジ・カラシムジ」(~不明)⇒「アバシムジ・カラシムジ」(~1795年没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>チョタ・ウダグール国ラジャ「フラタシムジ」建国(~1762年)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ティグリア国ラジャ「ゴビナート・チャムパティ・シン」(~不明)⇒「ジャトウマニ・ライ・シン」(~1793年)
1743年-05:30|インド| |||<就任>デシカル国ラジャ「ジャナート・ハラマハラ」(~1745年)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ナグプール国統治者(セ・サセヒバ・スパー)「ラグジ1世」建国(~17550214没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>パガル国統治者(ラ)「フー・フ・チャント」(~1778年没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ハラナバ国支配者(ラウト)「パナタル・マンカラジ」(~1748年)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ハラナバル国統治者(デ・イワン)「パナタル・マンカラジ」(~1768年没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ファルカバード国支配者(サワ)「カラム・カン」(~17481122没)
1743年-05:30|インド| |||<就任>ラトナ国ラジャ「フリスグ・イ・シン」(~1773年没)
1743年-04:00|アゼルバイジャン| |||シャキは地元の反乱軍に占領される(~1746年)
1743年-04:00|マーン/イラン| |||マスカットとザハルはペルシャに占領された(~1749年)
1743年-03:00|カンタ| |||<就任>バグウェリ統治者(オムカマ)「キルタ1世」(~1755年頃)
1743年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モモタハ総司令官「ペドロ・ド・レゴ・バレット・ダ・ガマ・エ・カストロ」(~1746年)
1743年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||アサド・パシャ・アルアズムがダマスカス総督に就任
1743年-01:00|ルクセンブルク/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルク総督代行「ト・メリニ」(~1744年3月)
1743年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ウリス「ヤヒヤ・パシャ」(~1746年)
1743年-01:00|ドイツ| |||ドイツでサンスーシ宮殿が完成
1743年-01:00|フランス| |||フランスの数学者ダランベールが「動力学論」を刊
1743年 00:00|セカール| |||<就任>フクトーロ統治者(デ・ナンケ・サイギ)「スレー・ナジ」(1回目~1747年頃)
1743年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>サバ島副司令官「Peter Simmons」(~1778年)
1743年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督・大統領「デ・イニシオ・デ・アルチェト・ウガルテ・イ・エレラ」(~1749年)
1743年 05:00|ペルー/スペイン| |||副王軍、キリを攻略するが、アタリパは戦闘の末再度奪取に成功。副王軍守備隊96人は全員斬殺
1743年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第2代総督「ウィリアム・スティーヴンス」(~1751年)
1743年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「フスト・ホセ・イ・モレス」(~1744年)
1743年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Joaquin Codallos」(~1749年)
1743年 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ルイジアナ植民地総督「ピエール・フランソワ・トリコー」(~1753年)
1743年1月3日-02:00|フィンランド/ロシア| |||ロシア暦1月28日|<就任>ロシア領フィンランド総督「ヨハン・バルタザール・フォン・カンペンハウゼン」(~同年)
1743年1月8日 00:00|イギリス| |||<死去>エッセクス伯「ウィリアム・カペル」
1743年1月8日 00:00|イギリス| |||<就任>エッセクス伯「ウィリアム・アン・カペル」(~17990304死去)
1743年1月26日-09:00|日本|J. フロントリイリク|寛保3年|下村彦右衛門正啓、江戸日本橋大伝馬町3丁目に「大丸屋」江

1760迄 (2926件)

戸店開業

1743年1月29日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王国首席大臣(宰相)「アントン・ド・ル・ヴィル・ド・フルーリ枢機卿」フランスの聖職者(1653~、89歳)

1743年1月30日-09:00|日本|東京都|寛保3年1月5日|<死去>生島新五郎(73)元歌舞伎役者、前年赦免で江戸に帰ったばかり

1743年2月6日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウカウー国王「ナラハ・ヤ」(~17611028)

1743年2月12日 00:00|イギリス| |||<死去>初代エフィンガム伯「フランス・ハワード」

1743年2月12日 00:00|イギリス| |||<就任>2代エフィンガム伯「トマス・ハワード」(~17631119死去)

1743年2月15日 00:00|イギリス| |||<死去>2代リッチフィールド伯「Sir ジョージ・ヘンリー・リー」

1743年2月15日 00:00|イギリス| |||<就任>3代リッチフィールド伯「Sir ジョージ・ヘンリー・リー」(~17720917死去)

1743年2月17日-09:00|日本| ||寛保3年1月23日|<死去>初代江戸半太夫(不明)浄瑠璃太夫

1743年2月19日-09:00|日本|青森県弘前市|寛保3年1月25日|<死去>津軽政たけ(77歳)前陸奥黒石領主

1743年2月20日-01:00|イタリア| |||イオニア海で地震(M6.9~7.3)イタリアで180人死亡

1743年2月24日-09:00|日本|兵庫県明石市|寛保3年2月|<交替>播磨明石藩6万石「松平直常」隠居⇒長男「松平直純」が継ぐ(⇒明和元(1764)年3月20日、死去)

1743年3月2日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ハミルトン公・2代ブランドン公「ジェームズ・ハミルトン」

1743年3月2日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ハミルトン公・3代ブランドン公「ジェームズ・ハミルトン」先代の息子(~17580117死去)

1743年3月10日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチアのバン「カール・ヨーゼフ・バツチャーニ」(~17560315)

1743年3月14日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛保3年2月19日|<死去>榊原政岑(31歳)元播磨姫路藩主

1743年3月16日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルグ総督代行「カール・フェルディナント・グラーフ・フォン・ケーニヒベック・エルプス」(~17440108)

1743年3月22日 00:00|イギリス| |||<就任>ドンカスター伯「フランス・スコット」2代バクル公(~17510422死去)

1743年3月24日-09:00|日本|栃木県鹿沼市|寛保3年2月29日|<死去>内田正偏(51歳)元下野鹿沼藩主

1743年3月25日-09:00|日本|徳島県|寛保3年2月30日|<死去>蜂須賀宗英(60歳)前阿波徳島藩主

1743年3月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=マインゲン公「カール・フリードリヒ」

1743年3月28日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=マインゲン公「フリードリヒ・ヴィルヘルム」(~17460310死去)

1743年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・マネンティ・ベッリツィ」「フィリッポ・ファブリーニ」

1743年4月3日-05:45|ネーデルラント| |||<死去>ゴッラ・ラジャ「ナラ・ブ・パル・シャー」

1743年4月3日-05:45|ネーデルラント| |||<即位>ゴッラ・ラジャ「フリット・ヴィ・ナラヤ・シャー」(⇒17680925ネーデルラント国王~17750111没)

1743年4月17日-09:00|日本|新潟県五泉市|寛保3年3月23日|<死去>堀直為(46歳)前越後村松藩主

1743年4月30日 05:00|日本|大分県大分市|寛保3年4月7日|<豊後府内寛保3年の大火>昼未の上刻(14時ごろ)、下柳町の市兵衛宅から出火、次々と延焼し城内の浄安寺へも炎が迫った/侍屋敷へも飛び火してたちまち燃え上がり、また今ひとつの飛び火が城内へ侵入し東の丸から本丸天守へと延び酉の中刻(19時ごろ)には焼け落としてしまった/城内も侍屋敷も町家もほぼ同時刻に出火したが、幸にも一人の犠牲者も出さなかった/三の曲輪のほか塩丸九升町も残らず焼けた/被害は本丸書院、天守、北大門、冠木門、二重櫓など城中の主だった建物が焼け、侍屋敷69軒、寺院は浄安寺、福寿院の2か所、塔頭2か寺、町家は42丁、1079軒、土蔵37か所が全焼/3人死

1743年5月 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アル・ムスタダ」

1743年5月 00:00|モロッコ| |||<復位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(4回目~1747年7月廃位)

1743年5月2日-09:00|日本|福井県大野市|寛保3年4月9日|<交替>越前大野藩4万石「土井利知」隠居⇒長男「土井利寛」が継ぐ(⇒延享3年8月16日(17460930)、死去)

1743年5月11日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ユリス・ヴァン・ステイン・ヴァン・ゴレンネ」(~17510506)

1743年5月12日-01:00|チェコ| |||<復位>ホーヘンシュタイン王「マリエ・テレジエ」(~17801129死去)オーストリア大公、ハンガリー女王

1743年5月13日-09:00|日本|香川県仲多度郡多度津町|寛保3年4月20日|<死去>京極高通(53歳)前讃岐多度津藩主

1743年5月26日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「クリスチャン・ゲロブ・トル」(~17440203)

1743年5月26日-09:00|日本|島根県鹿足郡津和野町|寛保3年閏4月3日|<交替>石見津和野藩43468石「亀井茲延」隠居⇒養子「亀井茲胤」が継ぐ(⇒宝暦2(1752)年7月9日、死去)

1743年5月28日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Gustaaf Willem van Imhoff」(~17501101死去)

1743年5月29日 05:00|日本|岐阜県|寛保3年閏4月6日|<岐阜寛保3年の大火>14時ごろ、今泉村の七軒町から出火した炎は各所に延焼し、翌朝6時ごろまで燃え続けた/全焼を免れたのは上今町北ノ端、今町上ノ切、同中ノ切、同下ノ切など10町だけで、岐阜の上、中、下竹屋町、上、中、下矢島町、蜂屋横町、女郎屋横町など36町、今泉村の4町、忠節村1町が全焼し、半焼で終わったのは米屋横町、東鍋屋横町、加和屋町と、つごう町家1513軒、土蔵70棟、寺院7か所が全焼し、消火のため14軒が破壊された/死亡者は1人

1743年5月31日-09:00|日本|千葉県成田市|寛保3年閏4月8日|<死去>井上政鄰(51歳)前下総高岡藩主

1743年5月31日-09:00|日本|北海道|寛保3年閏4月8日|<死去>蝦夷松前藩1万石「松前邦広」(39歳)⇒8月16日、長男「松前資広」が継ぐ(⇒明和2(1765)年3月19日、死去)

1743年6月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Gilbert Guillaouet」(3期目~1751.6)

1743年6月1日-02:00|フィンランド/ロシア| |||オラント諸島を(フィンランド全土とともに)ロシアが占領(~16日)

1743年6月8日-09:00|日本|東京都|寛保3年閏4月16日|幕府が、火事装束の華美を禁止

1743年6月16日 00:00|イギリス| |||<死去>2代アビンドン伯「モンタギュー・グエナブルズ=ハート」

1743年6月16日 00:00|イギリス| |||<就任>3代アビンドン伯「ウィリアム=ハート」(~17600610死去)

1760迄 (2926件)

1743年6月19日-09:00|日本|東京都|寛保3年閏4月27日|幕府が女子の櫛笄類の華美を禁止
1743年6月20日-04:00|オマーン| |||<死去>ヤーリハ 王朝イム「スルタン・イブン・ムルト」
1743年6月22日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島司令官「Johan Heyliger Pzn.」(~17521121、死去)
1743年6月27日-01:00|オーストリア/フランス/イギリス| ||ユリウス暦6月16日|オーストリア継承戦争で、イギリスを中心とするオーストリア連合軍が、デッティゲンでフランス軍を破る
1743年6月28日 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<死去>ポルトガル知事兼提督「Matias de Abadia」
1743年6月28日 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<就任>ポルトガル知事兼提督代理「Domingo Perez de Nanclares」(~10.29)
1743年6月30日-09:00|日本|広島県広島市|寛保3年5月9日|長雨・洪水、広島領の田畑損毛1万9040石余、流失全壊家屋560軒、死者9人
1743年7月-05:30|インド| |||ムガル帝国がマルワ地方を正式にマラーター王国に割譲
1743年7月2日 00:00|イギリス| |||<死去>グレートブリテン連合王国首相「ウィルミントン伯スペンサー・コンプトン」
1743年7月3日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハンマド・サイト・ハッシャ」(1回目~17440228)
1743年7月3日 05:00|エジプト/スペイン| |||<就任>スペイン領トビナス暫定総督・総司令官・大審問院長「マヌエル・ルビオ・デ・アレバロ・イ・マルティン」(1回目~17450322)
1743年7月7日 00:00|イギリス| |||<死去>レスター伯「ジョージ・シドニー」
1743年7月20日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「イオン・ニコラエ・マヴロポルト」(~1747年5月)
1743年7月21日-09:00|日本|東京都|寛保3年6月1日|幕府が、諸藩の留守居役が料亭で酒宴・遊興することを禁じる
1743年7月21日-09:00|日本|福島県田村郡三春町|寛保3年6月1日|<死去>陸奥三春藩5万石「秋田頼季」(48歳)⇒7月22日、長男「秋田治季(延季)」が継ぐ(⇒宝暦元(1751)年9月23日、隠居)
1743年7月22日 00:00|イギリス| |||<死去>シュルズベリー伯・ウォーターフォード伯「ギルバート・タルボット」
1743年7月22日 00:00|イギリス| |||<就任>シュルズベリー伯・ウォーターフォード伯「ジョージ・タルボット」先代の甥(~17870722死去)
1743年7月22日-09:00|日本| ||寛保3年6月2日|<死去>絵師陶工・尾形乾山/81歳(誕生:寛文3(1663))
1743年7月22日-09:00|日本| ||寛保3年6月2日|<死去>尾形乾山(81歳)陶工、絵師
1743年7月24日-09:00|日本|大阪府松原市|寛保3年6月4日|<死去>河内丹南藩1万石「高木正恒」(30歳)⇒7月25日、長男「高木正弼」が継ぐ(⇒安永9(1780)年9月27日、40歳で死去)
1743年7月27日-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ 王国マニコゴ「ガリシア4世」(~17520331没)
1743年8月18日-02:00|フィンランド/スウェーデン/ロシア| ||ロシア暦8月6日|オボでロシアとスウェーデンの間の条約が成立し、1741年以來の戦争が終結
1743年8月20日-09:00|日本|新潟県佐渡市|寛保3年7月|佐渡奉行所、鶴子銀・銅山の官営を停止/休山とする
1743年8月26日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Ibrahim Agha」(2回目~10.14)
1743年8月27日-09:00|日本|茨城県常陸太田市|寛保3年7月8日|<死去>中山信昌(45歳)常陸太田藩主、水戸藩家老⇒三男の政信が継いだ
1743年9月7日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1743/8/27|<就任>グレートブリテン連合王国第3代首相「ヘンリー・ペラム」ホイッグ党(~17540306死去)
1743年9月9日-09:00|日本|福島県福島市|寛保3年7月21日|<死去>陸奥福島藩3万石「板倉勝里」(38歳)⇒長男「板倉勝承」が継ぐ(⇒明和2年3月26日(17650515)、死去)
1743年9月13日-09:00|日本|宮城県仙台市|寛保3年7月25日|<交替>陸奥仙台藩62万石「伊達吉村」隠居⇒四男「伊達宗村」が継ぐ(⇒宝暦6年5月24日(17560621)、39歳で死去)
1743年9月18日-05:30|インド| |||<就任>ナガール国統治者(ジャム・サハブ)「ラジ3世・タチ」(~17671102没)、摂政「メル・カス」(1回目~17671102)
1743年9月21日-05:30|インド| |||<即位>ジャイプール国マハラジャ「サイ・イシュワリ・シン」(~17501225没)
1743年9月27日-09:00|日本|愛知県犬山市|寛保3年8月10日|<死去>成瀬正幸(64歳)前尾張犬山藩主、尾張藩家老
1743年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャコモ・ベグニ」フランチェスコ・アントニオリギ
1743年10月4日 00:00|イギリス| |||<死去>2代アーガイル公・初代グリニッジ公「ジョン・キャンベル」グリニッジ公廃絶
1743年10月4日 00:00|イギリス| |||<就任>3代アーガイル公「アーチバルド・キャンベル」(~17610415死去)
1743年10月10日-09:00|日本| ||寛保3年8月23日|<死去>沢露川(83歳)俳人
1743年10月14日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「As' ad Pasha al-Azem」(~17570121)
1743年10月17日-08:00|中国| ||清・乾隆8年9月|清の顧琮が限田法の施行を許可される
1743年10月25日-01:00|フランス/スペイン| |||フランスのルイ15世とスペインのフェリペ5世がフォンテンロー軍事条約を結ぶ/オーストリア継承戦争でのブルボン家の結束を確認
1743年10月29日 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<就任>ポルトガル知事兼提督「Juan Jose Colomo」(~17500811死去)
1743年10月29日-09:00|日本|大分県佐伯市|寛保3年9月13日|<死去>毛利高慶(69歳)前豊後佐伯藩主
1743年11月-01:00|オランダ/インドネシア| |||ハクワウォ/2世はジャワ東海岸地方をすべてオランダに譲り渡した
1743年11月8日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「ペーター・アウグスト・フリートリヒ・ヘルツォーク・フォン・ホルシュタイン＝ベック」(~1753年7月)
1743年11月8日-09:00|日本| ||寛保3年9月23日|幕府が潰銀の私売買を禁止
1743年11月8日 05:00|日本|秋田県能代市|寛保3年9月23日|<出羽能代寛保の大火>子の刻(午前0時ごろ)、清助町

1760迄 (2926件)

の山嘉兵衛の家から出火、瞬く間に町々に延焼/藩の能代奉行所関係の建物も多く焼けた/焼失したもの、在府屋(奉行所)、御札場(通貨を藩札に両替する所)、御米蔵、御休所、御細工小屋。町家は本家1245軒、借家257軒、合計1502軒焼失/そのほか土蔵67棟、穴蔵68か所、板蔵(造)物置41棟が焼失/寺10か所、神社2か所も焼けた/貯蔵していた秋田杉の角材約700本、同丸太約1900本なども焼失

1743年11月21日-09:00|日本|山口県|寛保3年10月6日|長州藩領内で風雨・洪水で13万石余が被害、家屋3484戸が倒壊

1743年12月5日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「ジョルジュ＝ルイ・ド・ベルギユ」

1743年12月5日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ大司教「デユラス伯爵、デルダール男爵ジャン＝ルイ・ヒヤント・ド・オイエンブルッヘ」(~17440310)

1743年12月11日-09:00|日本|東京都|寛保3年10月26日|幕府、治安維持のため覆面の着用を禁止

1743年12月13日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Didier de Saint-Martin」(1期目~17450508)

1743年12月13日-09:00|日本|福島県郡山市|寛保3年10月28日|<交替>陸奥守山藩2万石「松平頼貞」隠居⇒三男「松平頼寛」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年10月28日、死去)

1743年12月15日-09:00|日本|大分県竹田市|寛保3年10月30日|<死去>豊後岡藩70440石「中川久慶」(36歳)⇒12月21日、養子「中川久貞」が継ぐ(⇒寛政2年5月20日(17900702)、死去)

1743年12月16日-09:00|日本| |||寛保3年11月上旬|彗星東壁に出現/光芒斜め、奎指にあり/二旬稍衰

1743年12月17日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ジェームズ・ガレン」(~17560601)

1743年12月20日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハーン「セリム2世ギレイ」(~17480518死去)

1743年12月23日-09:00|日本| |||寛保3年11月8日|幕府が潰銀の私売買を禁止

1744年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Gerrard van Brandwijk van Blokland」(~1748年)

1744年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルボン・カマン君主「Sultan Anom4世 Khairuddin」(~1797年)

1744年-08:00|フィリピン| |||フィリピンのボホル島で知事の反乱

1744年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「シェラブ・ワンチュク」(~1763年)

1744年-05:30|インド| |||<就任>アッサム国ラジャ「スネンファー・フ・ラマッタ・シン」(~1751年没)

1744年-05:30|インド| |||<就任>トリプーラ国ラジャ「インドラジャ・マニーヤ2世」(~1746年頃)

1744年-05:30|インド| |||<就任>トランガドゥラ国統治者(ラージ・サヒブ)「ガジシムジ2世ライシムジ」(~17820405没)

1744年-05:30|インド| |||<就任>ラムドゥルグ国統治者(ラオ)「ヨーグラ1世バーベ」ナルグンドから分離(~1777年)

1744年-05:00|イスパキスタン| |||タシュケントはコカンドが占領(~1745年)

1744年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(アルサイド朝)イマーム「アフマド・ビン・サイド・アルブサイディ」オマーンからペルシャ人を駆逐

1744年-04:00|オマーン| |||<即位>ヤーリバ王朝イマーム「ビラッブ・イブン・ヒムヤル」(第2治世~1749年死去)

1744年-03:00|ケニア/オマーン| |||モンパサガオマーンからの独立を宣言

1744年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレッポ・ワリス(総督)「Sehla Ahmed Pasha」(1期目~1745.4)

1744年-01:00|ドイツ| |||<死去>ロイス＝シュライツ伯「Heinrich1世」

1744年-01:00|ニジェール| |||<就任>アイル国統治者(アモナル)「ムハンマド・フマト・イブン・ムハンマド・アルムハラク」(2回目~1759年)

1744年-01:00|オランダ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ネーデルラント総督「マリア・アンナ・フォン・エスターライヒ」(~17441216死去)

1744年-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「カール・クリスティアン・エルトマン」(~1792年)

1744年-01:00|オランダ| |||<就任>ゲルト司令官「ヨハン・ヨセフ男爵ファン・デル・ヌート」(~17631130没)

1744年-01:00|ベナン| |||<就任>ダホメ王国サグィ・フェダ総督「デ・テレ」(~1765年)

1744年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ハシメグル・アリ・パシャ」(2回目~17451006)

1744年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス＝シュライツ伯「Heinrich12世」(~1784年死去)

1744年-01:00|ドイツ| |||<昇格>イゼンブルク＝ビュデインゲン＝イン・ヒルシュタイン伯「ヴォルフガング・エルスト1世」⇒イゼンブルク＝ウンター・ビュデインゲン＝イン・ヒルシュタイン侯(~1754年)

1744年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Francisco Luis da Conceicao」(~同年死去)⇒代理「Francisco de Alvaro Brandao」(~1745年)

1744年 00:00|セカール| |||<就任>ザアリ統治者(ファンカラ)「テンバ・シーガ・ジャロ」(~1796年)

1744年 00:00|カナ/フランス| |||<設立>フランスのアノマブのアナボエ砦(1753年8月にイギリス軍が占領、ウィリアム砦と改名)

1744年 04:00|サン・バルテルミー/フランス| |||<死去>フランス領サン・バルテルミー島司令官「Jacques Greaux, Jr.」

1744年 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア司令官「マルタン」(~同年没)

1744年 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス領バミューダ総督「Francis Jones」(~1747年)

1744年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Charles de Tubieres de Pastel de Levoy de Grimouire」(~1750年死去)

1744年 04:00|サン・バルテルミー/フランス| |||<就任>フランス領サン・バルテルミー島司令官代理「Veret」(~1746年)

1744年 04:00|セントルシア/フランス| |||<制定>フランス植民地サントルーシー

1744年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「イシドロ・デ・イアス・デ・ヒバル」(~1751年)

1744年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「フランシスコ・ガリア・リオス」(~1748年)

1744年1月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチー司令官「デ・イオニツィオ・カヴァーリョ・デ・アブレウ」(~1747年)

1744年1月8日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルク総督「マリア・アンナ・エルツヘルツォーギン・フォン・オステルライヒ」(~12.16没)

1744年1月11日 00:00|イギリス| |||<死去>7代アバコン伯「ジェームズ・ハミルトン」

1744年1月11日 00:00|イギリス| |||<就任>8代アバコン伯「ジェームズ・ハミルトン」先代の息子(~17891009死去)

1744年1月19日-09:00|日本|兵庫県三田市|寛保3年12月5日|<死去>摂津三田藩36000石「九鬼隆由」(26歳)⇒29日、

1760迄 (2926件)

養子「九鬼隆昌」が継ぐ(⇒天明5(1785)年11月14日、隠居)
1744年2月1日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「ロレンツォ・デ・マリ」(~17460201)
1744年2月3日 00:00|カナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールト=コースト長官「ヨルゲン・ビルセン」(~17450311)
1744年2月10日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ウイクタン伯「ジョン・フレミング」
1744年2月10日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ウイクタン伯「チャールズ・フレミング」(~17470516死去)
1744年2月11日-09:00|日本| ||寛保3年12月28日|彗星再度明るく輝く/11月以来稍が西北、宮室下星へ向かい、近宮室下星で切れる
1744年2月14日-09:00|日本|福島県いわき市|寛保4年|<創業>鉱泉旅館藤屋(玉山温泉)
1744年2月14日-09:00|日本|東京都中央区|寛保4年1月|<初演>「百千鳥娘道成寺」初代瀬川菊之丞、江戸中村座
1744年2月23日-03:00|エチオピア| |||<就任>シェワ支配君主「アム・イヤサ・ケダミ・カル」(~17750206没)
1744年2月23日-01:00|フランス/イギリス/スペイン| |||<オーストリア継承戦争:トゥロン海戦>(22日~)トマス・マシュス 指揮下のイギリス戦列艦30隻が、フランス・スペイン連合艦隊27隻の後衛を成すスペイン戦隊を攻撃。午後5時に両者は互いに離脱。翌日も互いに遠くから砲火を交わしたが、イギリス艦隊は痛手を被っており、さらにフランス艦がスペイン艦隊の支援に近づいてきたため、イギリス側は撤退
1744年3月-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督「ヴァルヘルム・ラインハルト・ゲラーフ・ナイペルク」(5回目~1753年)
1744年3月1日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「コカ・メフメト・ラケフ・パシャ」(~17480831、地元軍によって退却を余儀なくされた)
1744年3月3日-09:00|日本|東京都|寛保4年1月19日|幕府が偽虚無僧の取り締まり令を出す
1744年3月10日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ大司教「バウティエル公爵ジャン11世オトール」(~17630127没)
1744年3月11日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「デヴィッド・ダンバー」(~17470314)
1744年3月11日 00:00|イギリス| |||サミュエル・ベーカーがオークションハウス「ザ・ビーズ」設立(ロンドン)
1744年3月15日-01:00|オーストリア/フランス/イギリス| ||ユリウス暦3月4日|フランスがイギリスに宣戦布告し、イギリスが全面的にオーストリア継承戦争に参加することになる
1744年3月18日-09:00|日本|岩手県北上市|寛保4年2月5日|陸奥国黒沢尻通で、南部藩の新田開発反対の一揆が起こる
1744年3月25日-01:00|赤道ギニア/ポルトガル| |||アンボボン島をポルトガル王が所有
1744年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」「アルフォンソ・ジヤンギ」
1744年4月1日-09:00|日本| ||寛保4年2月19日|<死去>太田巴静(67歳)俳人
1744年4月2日 00:00|イギリス| |||世界初のゴルフオープン競技会がスコットランドで開催
1744年4月3日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Christian von Schweder」(~17470425)
1744年4月3日-09:00|日本| ||延享1年2月21日|「延享」に改元
1744年4月8日-09:00|日本|埼玉県川越市|延享1年2月26日|<死去>秋元喬求(29歳)前武蔵川越藩主
1744年4月12日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アーサー大司教ジョン・ホートリー/ニューボート男爵ロバート・ジョセリン/ヘンリー・ボイル」(~17450831)
1744年4月13日-09:00|日本|岡山県高梁市|延享1年3月1日|<移封>伊勢亀山藩5万石「板倉勝澄」⇒備中松山藩5万石(⇒寛延4(1751)年9月23日、隠居)
1744年4月13日-09:00|日本|三重県亀山市|延享1年3月1日|<移封>備中松山藩6万石「石川総慶」⇒伊勢亀山藩6万石(⇒明和元(1764)年6月30日、死去)
1744年4月16日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア暫定総督「Poul Jensen Lindemark」(~17470515死去)
1744年4月21日 05:00|日本|福島県会津若松市|延享1年3月9日|会津実成寺焼失
1744年5月9日 00:00|イギリス| |||<就任>レスター伯「トマス・クック」(~17590420死去)
1744年5月9日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Charles de Tubieres de Grimoard de Pestel de Levis」(~17500512死去)
1744年5月13日-01:00|オーストリア| |||<初演>クリストフ・グアイバルト・ゲルック《歌劇「奴隷の娘」》
1744年5月14日 05:00|日本|広島県広島市南区|延享1年4月3日|広島稲荷町出火、土手町全焼
1744年5月21日-01:00|フランス/イギリス/インド| |||イギリスとフランスの両軍がインドでも戦争に突入
1744年5月21日-09:00|日本|茨城県筑西市|延享1年4月10日|<死去>石川総陽(52歳)前常陸下館藩主
1744年5月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>東フリースラント伯「Charles Edzard」
1744年5月29日-09:00|日本|静岡県浜松市|延享1年4月18日|<死去>遠江浜松藩7万石(老中)「松平信祝」(62歳)⇒6月4日、長男「松平信復」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年10月15日、三河吉田藩7万石に移封)
1744年5月30日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1744/5/19|<死去>イギリスの詩人で風刺作家アレクサンダー・ポープ/56歳(誕生16880521)
1744年6月 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Jose Masones de Lima y Sotomayor」(~1745.9死去)
1744年6月1日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Patrick Lindsay」(~1751年)
1744年6月2日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ルダニー島知事「John Le Mesurier2世」(~17930312死去)
1744年6月8日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア司令官「ニコラ・バティスト・デ・リエト・ロンジユール」(1回目~17530311)

1760迄 (2926件)

1744年6月11日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享1年5月1日|<就任>大坂城代「堀田正亮」(⇒延享2(1745)年11月13日)

1744年6月11日-09:00|日本|東京都千代田区|延享1年5月1日|<就任>老中「酒井忠恭」(~寛永2年1月15日)

1744年6月20日-09:00|日本|兵庫県明石市|延享1年5月10日|<死去>松平直常(66歳)前播磨明石藩主

1744年6月29日-09:00|日本| ||延享1年5月19日|<死去>河村若元(77歳)画家

1744年7月-04:00|ジョージア| ||<即位>カヘティ王「エクレ2世」(~17620119)

1744年7月-04:00|ジョージア| ||<即位>カトリ王「テムラ2世」(~17620119没)

1744年7月-02:00|ルーマニア| ||<死去>ワキア総督・領主「ミハイ・イオン・ラコヴィツァ」

1744年7月-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア総督・領主「コンスタンティ・ニコラエ・マヴロカタット」(4回目~1748年4月)

1744年7月4日-05:30|インド| ||<就任>ア・カト国支配者「ムハンマド・アッワルディン・カーン」(~17490803没)

1744年7月5日-09:00|日本|青森県弘前市|延享1年5月25日|<死去>陸奥弘前藩46000石「津軽信著」(26歳)病死⇒8月2日、長男「津軽信寧」が継ぐ(⇒天明4年閏1月2日(17840222)死去)

1744年7月5日-09:00|日本|福岡県柳川市|延享1年5月25日|<死去>筑後柳河藩104200石「立花貞儼」糖尿病とその合併症のため(47歳)⇒次男「立花貞則」が継ぐ(⇒延享3年7月17日(17460902)謎の暴漢集団に豊前国大里浜にて襲撃され死去)

1744年7月28日-09:00|日本| ||延享1年6月19日|幕府が江戸七軒飛脚問屋の請願により継早飛脚の廃止を命じる

1744年8月-01:00|オランダ| ||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「デルフト・ウイン男爵フィリップ・ス・ウィルム」(~1746年6月)

1744年8月9日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ジャント・ス公・初代カーナヴァン侯「ジェームズ・フリップス」

1744年8月9日 00:00|イギリス| ||<就任>2代ジャント・ス公・2代カーナヴァン侯「ヘンリー・フリップス」先代の息子(~17711128死去)

1744年8月10日-09:00|日本|三重県桑名市|延享1年7月3日|<死去>増山正任(66歳)前伊勢長島藩主

1744年8月13日-09:00|日本|静岡県掛川市|延享1年7月6日|<死去>遠江掛川藩6万石「小笠原長庸」(23歳)⇒長男「小笠原長恭」が継ぐ(⇒延享3(1746)年9月25日、陸奥棚倉藩6万石に移封)

1744年8月15日-01:00|オーストリア/ドイツ| ||第2次シレシヤ戦争が始まる(~17451225:ドレスデン条約)

1744年8月15日-09:00|日本|愛媛県西条市|延享1年7月8日|<死去>伊予小松藩1万石「一柳頼邦」(50歳)⇒三男「一柳頼寿」が継ぐ(⇒安永8(1779)年8月7日、隠居)

1744年8月24日-09:00|日本|佐賀県唐津市|延享1年7月17日|<死去>肥前唐津藩7万石「土井利延」(22歳)⇒弟「土井利里」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年9月30日、下総古河藩に転封)

1744年9月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>アレクボ・ワリス(総督)「Hekimoglu Ali Pasha」(2期目~同年)

1744年9月1日-01:00|ドイツ| ||<死去>シュヴァルツベルク＝エルドルシュタット侯「フリードリヒ・アントン」

1744年9月1日-01:00|ドイツ| ||<就任>シュヴァルツベルク＝エルドルシュタット侯「John Frederick」(~17670710死去)

1744年9月1日-09:00|日本| ||延享1年7月25日|<死去>竹本播磨少掾(54歳)浄瑠璃太夫

1744年9月6日-09:00|日本| ||延享1年7月30日|<死去>中川宗瑞(60歳)俳人

1744年9月9日-09:00|日本|福島県郡山市|延享1年8月3日|<死去>松平頼貞(81歳)前陸奥守山藩主

1744年9月16日-09:00|日本|香川県高松市|延享1年8月10日|高松城下周辺で高潮となる。東西の新開・四番丁通りまで潮入る。侍屋敷45軒大破、78軒小破、町屋3167軒潮入り、百姓屋817軒倒壊

1744年9月16日-09:00|日本|広島県|延享1年8月10日|風雨洪水。広島領の流失全壊996軒、死者9人

1744年9月16日-09:00|日本|福岡県福岡市|延享1年8月10日|<死去>黒田宣政(60歳)前筑前福岡藩主

1744年9月16日-09:00|日本|山口県|延享1年8月10日|長州藩領で風雨洪水。20人死亡、5080戸が倒壊

1744年9月17日-05:30|インド/デンマーク| ||<就任>デンマーク領東インド諸島(トンガバル)司令官「ハンス・エルスト・ボンサック」(~17540905)

1744年9月24日-05:30|インド/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領インド総督「アスル伯爵、カステロ・ノヴォ侯爵、アロウ侯爵ペドロ・ミゲル・デ・アルメイダ・エ・ポルトガル」(~17500927)

1744年9月25日-09:00|日本|東京都港区|延享1年8月19日|江戸芝浦に津波/家屋多数倒壊、死者多数

1744年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・マリア・ジヤンツ」/「ウインチェンツォ・モラッチ」

1744年10月7日-09:00|日本|宮崎県日南市|延享1年9月2日|<死去>日向飢肥藩51000石「伊東祐之」(18歳)⇒異母兄「伊東祐隆」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年8月18日、死去)

1744年10月8日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ケラングイル女伯「クレイス・カートレット」

1744年10月8日 00:00|イギリス| ||<就任>2代ケラングイル伯「ジョン・カートレット」(~17630102死去)

1744年10月13日-09:00|日本|京都府宮津市|延享1年9月8日|<死去>丹後宮津藩48000石「青山幸秀」(49歳)⇒10月晦日、三男「青山幸道」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年12月27日、美濃郡上藩48000石に移封)

1744年10月17日-09:00|日本| ||延享1年9月12日|幕府が蔵米を担保とした御家人の借金帳消し令をだす

1744年10月17日-09:00|日本|群馬県沼田市|延享1年9月12日|<死去>上野沼田藩35000石(老中)「土岐頼稔」(50歳)⇒10月29日、長男「土岐頼熙」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年3月25日、37歳で死去)

1744年10月17日-09:00|日本|佐賀県小城市|延享1年9月12日|<死去>肥前小城藩73000石「鍋島直英」(46歳)⇒次男「鍋島直員」が継ぐ(⇒宝暦14(1764)年5月、隠居)

1744年10月23日-09:00|日本|東京都千代田区|延享1年9月18日|<就任>老中「酒井忠恭」(~1749年1月15日)

1744年10月29日-09:00|日本|京都府|延享1年9月24日|<死去>石田梅巖(60歳)思想家、倫理学者/石門心学

1744年10月30日-09:00|日本|広島県広島市|延享1年9月25日|<死去>広島新田藩3万石「浅野長賢」(52歳)⇒11月19日、長男「浅野長喬」が継ぐ(⇒明和6年12月12日(17700108)、死去)

1744年11月1日-09:00|日本|広島県広島市|延享1年9月27日|<死去>土屋安親(75歳)装剣金工

1760迄 (2926件)

1744年11月17日 04:00|バミュータ/イギリス| |||<死去>イギリス直轄植民地バミュータ 総督「アリュレット・ホップル」
1744年11月20日 04:00|バミュータ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミュータ 総督代理「フランス・ジョーンズ」(1期目~17470623)
1744年12月3日 00:00|イギリス| |||<死去>3代セカーク伯・ラヴラン伯「ジョン・ハミルトン」
1744年12月3日 00:00|イギリス| |||<就任>4代セカーク伯「ダンパー・ダグラス」先代の弟の孫(~17990614死去)
1744年12月4日-09:00|日本| ||延享1年11月|「御触書寛保集成」完成
1744年12月6日-09:00|日本| ||延享1年11月3日|<死去>森田治良兵衛(不明)機業家、丹後縮緬の始祖
1744年12月16日-01:00|オランダ/オーストリア| |||<死去>オーストリア領ネーデルラント 総督「マリア・アンナ・フォン・エスターライヒ」
1744年12月16日-01:00|オランダ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ネーデルラント 総督「カール・アレクサンダー・フォン・ロートリンゲン」(~17800704死去)
1744年12月16日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルグ総督「カール・アレクサンダー・ブリンツ・フォン・ロートリンゲン・ウント・パール」(1回目~17460316)
1744年12月18日-09:00|日本|京都府南丹市|延享1年11月15日|<死去>丹波国部落24000石「小出英貞」(61歳)⇒12月26日、長男「小出英持」が継ぐ(⇒明和4(1767)年10月15日、62歳で死去)
1745年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハンガラン君主「Cakraningrat5世」(~1770年)
1745年-08:00|フィリピン| |||フィリピンで修道会アジエンダの土地収奪に抗議する農民反乱
1745年-05:45|ネパール| |||<死去>ラリタワラ王「シリ・ジャヤワ・イシュマラ」
1745年-05:45|ネパール| |||<即位>ラリタワラ王「シヤラジャ・ワラサマツラ」(~1758年10月没)
1745年-05:30|インド| |||<就任>アラル王国ラジャ「アリ・ラジャ・クンヒ・アム2世」(~1777年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>カチャリ国ラジャ「コヒ・チャントラ・ナヤン」(~1757年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>カンヌール国統治者「アリ・ラジャ」「クンヒ・アム2世7代」(~1777年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>ジャッソラ国ワル「イブラヒム・カン1世」(1回目~1757年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>チョタ・ナグプール国支配者(ラジャ)「ハルラム・ナート・シャー」(~1748年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>テンカナル国ラジャ「マンスン・トリロハン・マヒンドラ・バハドール」(~1785年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>パムラ国ラジャ「シタ・サル・デブ」(~1779年)
1745年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カミール総督「アフ・マンスール・カン」(~1748年)
1745年-05:00|パキスタン| |||<即位>パルティスタン国王「スルタン・ムラト2世」(~1780年)
1745年-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>マリアヌ島司令官「ルイ・ローラン・デュリュッポ・ド・ビュッシー」(~1746年)
1745年-04:00|ロシア/イラン| |||列キは再びペルシャの宗主権下(~1747年)
1745年-03:00|ササアラビア| |||アルワハブ家がサウード家に身を寄せ第1次ワハブ王国が成立
1745年-02:00|エスワティニ| |||<即位>スワジランド国王「スガワ3世」(~1780年)
1745年-01:00|イタリア| |||<死去>ヒェンボネ公「Eleonora」
1745年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ暫定総督「Juan Antonio Tineo y Fuertes」(~同年)⇒総督「Juan Jose de Palafox y Centurion」(~1746年)
1745年-01:00|イタリア| |||<即位>ヒェンボネ公「Gaetano」(~1777年)
1745年-01:00|ドイツ| |||ドイツの物理学者クライストが蓄電用のライデン瓶を発明
1745年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Chamber Senate」(~1747年)
1745年 04:00|モントセロ/イギリス| |||<死去>イギリス植民地モントセロ副総督「Robert Carpenter」
1745年 04:00|セントクリストファー・ネビス/イギリス| |||<就任>ネビス大統領「ジェームズ・シモンズ」(~1756年)
1745年 04:00|セントピント/フランス| |||<就任>フランス軍セントピント司令官「フレグオスト」(~1761年)
1745年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「ルイス・マチャド」(~1746年)
1745年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「パナオス フランシスコ・アントニオ・カレス・イ・モリネド」
1745年 10:00|ポリネシア| |||<死去>タウヌア統治者「Tau niua」
1745年 10:00|ポリネシア| |||<就任>タウヌア統治者「Te ari'i maeva rua1世」(~1778年死去)
1745年1月3日-09:00|日本| ||延享1年12月|幕府、米売買取り締まりのため米吟味所を開設
1745年1月8日-01:00|オーストリア/ドイツ/ポーランド| |||オーストリア側4国が、ワルシャワでプロシヤの分割を協定
1745年1月11日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ブリッジウォーター公「スコープ・エジャートン」
1745年1月11日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ブリッジウォーター公「ジョン・エジャートン」(~17480226死去)
1745年1月13日-09:00|日本|新潟県上越市|延享1年12月11日|<死去>越後高田藩15万石「榊原政純」病死⇒弟「榊原政永」が継ぐ(⇒寛政元(1789)年5月10日、隠居)
1745年1月20日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/チェコ| |||<死去>神聖ローマ皇帝・ハインリッヒ選帝侯「カール1世アルブレヒト」兼ドイツ王「カール7世」47歳(誕生16970806)
1745年1月20日-01:00|ドイツ| |||<就任>神聖ローマ帝国牧師「ハインリッヒ公マクシミリアン3世ヨゼフ・ザクセンのハティノー伯爵、ザクセン公フリードリヒ・アウグスト2世(2回目)」(~9.13)
1745年1月20日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<就任>ハインリッヒ選帝侯「マクシミリアン3世ヨゼフ」カール1世アルブレヒトの息子(~17771230)
1745年1月22日-09:00|日本|富山県富山市|延享1年12月20日|<死去>越中富山藩10万石「前田利隆」(55歳)⇒翌年2月13日、長男「前田利幸」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年9月4日、死去)
1745年1月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・乾隆9年12月28日|朝鮮で「続大典」完成
1745年2月1日-09:00|日本|J. フロントリイック|延享2年|いとう呉服店が京都室町姉小路に仕入店を開設
1745年2月1日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延享2年|<加増>下総国佐倉藩6万石「松平乗邑」+1万石⇒7万石(⇒10月10日、加増分の1万石減封隠居)

1760迄 (2926件)

1745年2月1日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|延享2年|<加増>伊勢神戸藩1万石「本多忠統」+5000石⇒15000石(⇒寛延3(1750)年11月19日、隠居)

1745年2月24日 00:00|イギリス| ||<死去>ホーフォート公「ヘンリー・サマセット=スキューダモア」

1745年2月24日 00:00|イギリス| ||<就任>ホーフォート公「チャールズ・サマセット」先代の弟(〜17561028死去)

1745年3月2日-09:00|日本|広島県府中市|延享2年1月30日|備後府中上市出火、町を全焼し出口村に延焼、焼失家屋1000軒余

1745年3月3日-09:00|日本|福井県|延享2年2月1日|南条郡埴村で雪崩、死者14人

1745年3月7日-09:00|日本|東京都江東区|延享2年2月5日|亀戸天満宮全焼

1745年3月10日-09:00|日本|福井県大野市|延享2年2月8日|<死去>土井利知(72歳)前越前大野藩主

1745年3月11日 00:00|ガーナ/デนมาร์ク| ||<就任>デนมาร์ク領ゴールト=コスト長官「トマス・ブロック」(〜23日)

1745年3月14日-09:00|日本|東京都|延享2年2月12日|<江戸延享2年の大火「六道火事」>午の刻(午前12時ごろ)千駄ヶ谷の滝川播磨守下屋敷から出火、青山を全焼、桜田から麻布三軒家、本村から氷川社、善福寺門前町を全焼/その後、広尾から白金の寺や細川越中守の中屋敷も焼き尽くし、三田伊皿子から白金の瑞聖寺、猿町、二本榎、車町から高輪へと延焼、南品川までの武家屋敷、町家を焼き尽くし翌日鎮火/焼失した家は、武家屋敷、町家、寺院など合わせて2万8678軒、そのほか630軒を消火のため壊した/1323人が死亡したが、避難先の細川越中守中屋敷で236人、松平(伊達)陸奥守の下屋敷で398人が死亡

1745年3月18日 00:00|イギリス| ||<死去>初代オフォート 伯「ロバート・ウォルポール」

1745年3月18日 00:00|イギリス| ||<就任>2代オフォート 伯「ロバート・ウォルポール」(〜17510331死去)

1745年3月18日-09:00|日本|香川県仲多度郡琴平町|延享2年2月16日|讃岐日量弟子日忠琴平に福成寺を創す

1745年3月22日 05:00|エアドル/スペイン| ||<就任>スペイン領オーストリア総督・総司令官・大審問院長「ソラダ 侯爵フェルナンド・フェリックス・サンチェス・デ・オリバーナ・イ・ラダ」(〜17530922)

1745年3月23日 00:00|ガーナ/デนมาร์ク| ||<就任>デนมาร์ク領ゴールト=コスト長官「ヨハン・ワイルダー」(〜4. 23)

1745年3月30日 00:00|イギリス| ||<死去>2代アバディーン伯「ウィリアム・ゴートン」

1745年3月30日 00:00|イギリス| ||<就任>3代アバディーン伯「ジョージ・ゴートン」(〜18010813死去)

1745年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャンバティスタ・ザンピエニ」「ホッネ・イ・ゾリ」

1745年4月2日-09:00|日本| ||日食が起こる/最大で52%

1745年4月22日-01:00|オーストリア| ||マクシミリアン・ヨーゼフ選帝侯が、フッセンの和約を結んでオーストリアに屈する

1745年4月22日 00:00|イギリス| ||<死去>サフォーク伯「ヘンリー・ハワード」

1745年4月22日 00:00|イギリス| ||<就任>サフォーク伯「ヘンリー・ホース・ハワード」ハークシャー伯(〜17570321死去)

1745年4月23日 00:00|ガーナ/デนมาร์ク| ||<就任>デนมาร์ク領ゴールト=コスト長官代行「アグネス・フレデリック・ハッケンバーグ」(〜17460621)

1745年4月29日-09:00|日本| ||延享2年3月28日|<死去>3代千宗守(53歳)茶人、武者小路千家家元

1745年5月-01:00|ベルギー/フランス| ||リッブルをフランスが占領(〜17481018);リッブルをフランスが占領<就任>フランス軍リッブル総督「モリッツ・フォン・ザクセン」(〜17481018)

1745年5月11日-01:00|ベルギー/フランス/オランダ/イギリス| ||フランスのルイ15世が王太子とともにベルギーのフォントノワの戦いに
出陣し、イギリス・オランダ連合軍に勝利を得る

1745年5月15日-04:00|ルネオン/フランス| ||<就任>ブルボン島司令官「Jean-Baptiste Azema」(〜10. 31死去)

1745年5月19日-09:00|日本| ||延享2年4月18日|<死去>関口黄山(28歳)書家

1745年5月22日-01:00|フランス| ||<死去>初代プロイ公「フランソワ=マリ」

1745年5月22日-01:00|フランス| ||<就任>第2代プロイ公「ヴィクトル=フランソワ」(〜18040330死去)

1745年5月27日 04:00|モントセロ/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モントセロ副総督「ベンジャミン・Carpenter」(1期目〜1782年)

1745年6月4日-01:00|チェコ/オーストリア/ドイツ| ||<オーストリア継承戦争:ホーエンリートベルクの戦い>プロイセン軍がオーストリア連合軍に
勝利

1745年6月4日 04:00|チリ/スペイン| ||<就任>チリ総督代行「オアント 侯爵フランシスコ・セルデ・オアント・ソリス」(〜1746年3月)

1745年6月8日-09:00|日本|福島県二本松市|延享2年5月9日|<交替>陸奥二本松藩100700石「丹羽高寛」隠居⇒長男
「丹羽高庸」が継ぐ(⇒明和2年12月14日(17660124)、死去)

1745年6月11日-09:00|日本| ||延享2年5月12日|<死去>理豊女王(74歳)後西天皇の皇女

1745年6月12日-09:00|日本|静岡県富士宮市|延享2年5月13日|日因、大石寺塔中東之坊を創す

1745年6月16日 06:00|カタール/フランス/イギリス| ||ユリウス暦:1745/6/5|<オーストリア継承戦争:ジョージ王戦争>ニューイングランド軍
がフランス側ルイブル要塞を攻略

1745年6月17日-09:00|日本|東京都|延享2年5月18日|幕府が各町書役に町内雑務を代行することを禁じる

1745年7月4日-09:00|日本|栃木県大田原市|延享2年6月5日|<死去>下野大田原藩11400石「大田原扶清」(57歳)⇒
六男「大田原友清」が継ぐ(⇒安永4(1775)年2月8日、隠居)

1745年7月10日-09:00|日本| ||延享2年6月11日|<死去>初代伊佐幸琢(62歳)茶人

1745年7月11日-09:00|日本|石川県|延享2年6月12日|<死去>加賀藩102万5千石「前田吉徳」(56歳)⇒嫡男の「前田
宗辰」が継ぐ(⇒翌年12月8日(17470118)、死去)

1745年7月11日-09:00|日本|愛媛県大洲市|延享2年6月12日|<死去>伊予大洲藩5万石「加藤泰温」(30歳)⇒養子「加
藤泰三」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年2月1日、隠居)

1745年7月12日 05:00|ペルー/スペイン| ||<就任>ペルー副王「スーペルンダ 伯爵セル・アントニオ・マヌエル・デ・ペラスコ・イ・サンチェス・デ・サマ
エロ」(〜17611012)

1745年7月19日-05:30|インド| ||<就任>ケワリル国統治者「スータル」「ジャハ・ラオ・シンデ・イ」(〜17550725没)

1760迄 (2926件)

1745年7月28日-09:00|日本|福井県勝山市|延享2年6月29日|<死去>越前勝山藩22000石「小笠原信胤」(31歳)⇒養子「小笠原信房」が継ぐ(⇒安永9(1780)年11月16日、隠居)

1745年8月4日-09:00|日本| ||延享2年7月7日|<死去>狩野随川(54歳)狩野派の絵師

1745年8月6日 00:00|イギリス| ||<死去>3代フェラーズ伯「ヘンリー・シャーリー」

1745年8月6日 00:00|イギリス| ||<就任>4代フェラーズ伯「ローレンス・シャーリー」(~17600505死去)

1745年8月13日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン=ヒルトブルクハウゼン公「エルスト・フリートリヒ2世」

1745年8月13日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン=ヒルトブルクハウゼン公「エルスト・フリートリヒ3世」(~17800923死去)1748年まで母のカリーネ・フォン・エルバッハ=フェルステナウが摂政を務めた

1745年8月13日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享2年7月16日|<初演>並木千柳, 三好松洛, 竹田小出雲「夏祭浪花鑑」竹本座

1745年8月19日 00:00|イギリス| ||チャールズ・エドワード・スチュアートによる「ジャコバイト」復元反乱(~17460420)

1745年8月23日 06:00|ニカラガア/スペイン| ||<就任>ニカラガア総督「ファン・デ・ベラ」(~1746年12月)

1745年8月23日-09:00|日本|茨城県結城市|延享2年7月26日|<死去>水野勝政(61歳)前下総結城藩主

1745年8月27日-08:00|中国| ||清・乾隆10年8月|<死去>ジュンガル・ホンタイジ「カルタン・ツェリン」ジュンガル部に内乱起こる

1745年8月27日-08:00|中国| ||清・乾隆10年8月|<即位>ジュンガル・ホンタイジ「ツェワン・ドルジ・ナムジャル」(~1750年)

1745年8月29日-01:00|イタリア| ||ベネチアでサン・パント教会再建と献堂

1745年8月31日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿「チェスターフィールド伯爵フィリップ・トーマス・スタンホープ」(~17470913)

1745年9月 00:00|カリブ諸島/スペイン| ||<死去>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Jose Masones de Lima y Sotomayor」

1745年9月 00:00|カリブ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Luis Mayony y Salazar」(~1746.8死去)

1745年9月3日-09:00|日本|愛知県田原市|延享2年8月8日|<交替>三河田原藩12000石「三宅康德」隠居⇒長男「三宅康高」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年8月28日、隠居)

1745年9月4日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン=コーブルク=ザールフェルト公「クリスティアン・エルスト2世」

1745年9月4日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン=コーブルク=ザールフェルト公「フランツ・ヨシアス」ザクセン=ザールフェルト公ヨハン・エルストの息子(~17640916死去)

1745年9月9日-09:00|日本|山形県新庄市|延享2年8月14日|<死去>出羽新庄藩68200石「戸沢正勝」(27歳)⇒10月7日、弟「戸沢正誼」が継ぐ(⇒明和2(1765)年9月20日、死去)

1745年9月13日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア| ||<即位>神聖ローマ皇帝・ドイツ王「フランツ1世」フェルディナント3世の曾孫。カール6世の女婿(~17650818死去)オーストリア大公・トスカニ大公・ロレーヌ公/皇后:マリア・テレジア(1717年~1780年)

1745年9月16日-01:00|イタリア/スペイン| ||バルマをスペインが占領

1745年9月16日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享2年8月21日|<初演>初代竹田出雲・竹田小出雲・三好松洛・初代並木千柳の合作「菅原伝授手習鑑」大阪竹本座

1745年9月21日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<死去>スペイン領フィリピン諸島総督「カスパー・デ・ラ・トレ」

1745年9月21日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督代理「Archbishop Juan Archederra」(~17500720)

1745年9月23日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享2年8月28日|<死去>「富永仲基」大坂の町人学者、思想家

1745年9月24日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|延享2年8月29日|<死去>出羽亀田藩2万石「岩城隆韶」(39歳)⇒11月10日、養子「岩城隆恭」が継ぐ(⇒天明2(1782)年11月3日、死去)

1745年9月26日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|延享2年9月1日|<廃止>天王寺村領高津新地錢座

1745年9月26日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|延享2年9月1日|<加増>遠江横須賀藩25000石「西尾忠尚」+5000石⇒3万石(⇒寛延2(1749)年12月15日、5000石加増され35000石)

1745年9月26日-09:00|日本|東京都千代田区|延享2年9月1日|<就任>老中「西尾忠尚」(~延享4年3月1日)

1745年9月27日-09:00|日本|富山県高岡市|延享2年9月2日|高岡大仏創建

1745年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジローモ・ゴジ」「トマス・カッジオニ」

1745年10月1日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|延享2年9月6日|<死去>大和国郡山藩15万1200石「柳沢吉里」(59歳)⇒四男「柳沢信鴻」が継ぐ(⇒安永2(1773)年10月3日、隠居)

1745年10月3日-09:00|日本|岐阜県山県市|延享2年9月8日|<死去>美濃高富藩1万石「本庄道矩」(37歳)⇒11月4日、養子「本庄道倫」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年5月20日、死去)

1745年10月6日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア総督「ボスτανジ・スレイマン・パシャ」(~17460428)

1745年10月9日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1745/9/28|ロンドンのド・ガリー・レーン劇場で英国国歌初めて歌われる

1745年10月13日-09:00|日本|大分県大分市|延享2年9月18日|<交替>豊後府内藩22200石「松平近貞」隠居⇒長男「松平近形」が継ぐ(⇒明和7(1770)年7月21日、隠居)

1745年10月14日 00:00|イギリス| ||<死去>9代バカン伯「デヴィッド・アースキン」

1745年10月14日 00:00|イギリス| ||<就任>10代バカン伯「ヘンリー・デヴィッド・アースキン」(~17671201死去)

1745年10月15日-09:00|日本|岡山県倉敷市|延享2年9月20日|<死去>伊東長教(84歳)前備中岡田藩主

1745年10月18日-09:00|日本|東京都|延享2年9月23日|<死去>初代水木辰之助(73歳)歌舞伎役者(1681年露川龍之助, 1685年二代目鶴川辰之助, 1687年初代榎辰之助, 1690年水木辰之助, 引退後は、大和屋丑松、大和屋宇左衛門)

1745年10月19日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1745/10/8|<死去>スウィフト/77歳(誕生16671130)イギリスの小説家、「ガリバー旅行記」など

1745年10月20日-09:00|日本|東京都千代田区|延享2年9月25日|徳川吉宗が隠居して大御所となり、徳川家重が家

1760迄 (2926件)

督を相続

1745年10月22日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ホウイス侯「ウィリアム・ハーバート」
1745年10月22日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ホウイス侯「ウィリアム・ハーバート」(~17480308死去廃絶)
1745年10月26日-09:00|日本| ||延享2年10月2日|<死去>服部沾圃(83歳)能役者、俳人
1745年10月29日-09:00|日本|熊本県宇土市|延享2年10月5日|<死去>肥後宇土藩3万石「細川興里」(24歳)⇒閏12月16日、弟「細川興文」が継ぐ(⇒明和9(1772)年正月25日、隠居)
1745年10月31日-04:00|レユニオン/フランス| |||<死去>ブルボン島司令官「Jean-Baptiste Azema」
1745年11月-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデ・イ「イブラヒム4世キチュク」(~1748年2月)
1745年11月1日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Didier de Saint-Martin」(2期目~12.18)
1745年11月2日-01:00|リビア/トルコ| |||<死去>オスマン帝国トリポリニア・ベイルベ「イブラヒム1世パシャ」
1745年11月2日-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリニア・ベイルベ「メフメトパシャ」(~17540724没)
1745年11月2日-09:00|日本|東京都千代田区|延享2年10月9日|<解任>老中「松平乗邑」
1745年11月3日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延享2年10月10日|<交替>下総佐倉藩7万石「松平乗邑」失策の責任をとり6万石に減封され隠居⇒次男「松平乗祐」が継ぐ(⇒延享3(1746)年1月23日、出羽山形藩に移封)
1745年11月4日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ロッキンガム伯「リス・ワトソン」
1745年11月4日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ロッキンガム伯「トマス・ワトソン」(~17460226死去廃絶)
1745年11月16日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|延享2年10月23日|<死去>4代鴻池善右衛門(48歳)豪商
1745年11月21日-09:00|日本|広島県福山市|延享2年10月28日|<死去>儒学者「伊藤梅宇」36歳
1745年11月22日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「セルゲ・アントナキ・イ・ラ・プラタ」(~17561104)
1745年11月23日-09:00|日本|東京都中央区|延享2年11月|<初演>「女暫」江戸市村座
1745年11月23日-09:00|日本|東京都中央区|延享2年11月|<初演>「扇伊豆日記」奴丹前・初代中村仲蔵、中村座
1745年11月24日-09:00|日本|東京都千代田区|延享2年11月2日|徳川家重(35)の將軍宣下の儀が行われ、第9代の征夷大將軍に叙せられる~17600513/吉宗は大御所として政治を見る
1745年11月29日 06:00|アメリカ/フランス| |||フランス軍、ニューヨーク植民地サトウを焼き払う
1745年12月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Sehla Ahmed Pasha」(2期目~1746.11)
1745年12月3日-09:00|日本| ||延享2年11月11日|<死去>八文字屋自笑(85歳)浮世草子作者、版元
1745年12月4日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード知事「フェリックス・エスピノサ・デ・ロス・モンテロス」(~17460619)
1745年12月5日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享2年11月13日|<就任>大坂城代「阿部正福」(~延享4(1747)年12月20日)
1745年12月5日-09:00|日本|東京都千代田区|延享2年11月13日|<就任>老中「堀田正亮」(~宝暦11年2月11日)
1745年12月6日-09:00|日本|東京都|延享2年11月13日|幕府が牛車・大八車の荷物に無断で御用札を立てて運送することを禁じる
1745年12月25日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||ドレゼン条約が締結され、プロシヤとオーストリアの第2次シュレジン戦争が終結/プロシヤがフランス1世を神聖ローマ皇帝として承認する代りに、シュレジンでプロシヤが支配することになる
1745年12月29日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Gerard Gaspard de Ballade」(1期目~17470328)
1746年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「マヌエル・コレイア・デ・ラ・セウダ」(~1750年)
1746年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>バンクーレン副総督(マドラス総督に從属)「ジョセフ・Hurlock」(~1752年)
1746年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・ラジャ「ラジャ・ロング・スライマン・イブニ・アル・マラム・スルタン・ロング・ハハル」(2度目~1756年)
1746年-08:00|インドネシア| |||<即位>ジャバ第2代スルタン「Abdul Jalil Rahmad Shah2世」(~1765年)
1746年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン精神的支配者・国家元首「ジグミ・ドゥクパ1世」(~1761年没)
1746年-05:45|ネパール| |||<即位>カンティプラ王「ジャヤジャョティプラサマ」(~1752年)
1746年-05:30|インド| |||<就任>アウンド国統治者(パンツ・プラティニディ)「ジャギヴァンラオ・パラシュラム・ダトバ」(1回目~1749年)
1746年-05:30|インド| |||<就任>コーチン国統治者(マハラジャ・ガナガタラ・コウイラディ・カリカル)「クラヴァル1世」(~17490114没)
1746年-05:30|インド| |||<就任>トリプラ国ラジャ「ヒンジャ・マニヤ3世」(~1748年頃)
1746年-05:30|インド| |||<就任>ラージコット国統治者(タクル・サヒブ)「ラジ1世ラマル」(1回目~不明)⇒「マフラムジ3世ラジ」(~1794年没)
1746年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>コーカンド(フェルガナ)ベグ「Abd al-Karim Biy」
1746年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>コーカンド(フェルガナ)ベグ「Abd ar-Rahman Biy」⇒「Irdana Biy」(1期目~1751年)
1746年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメリ王「ラムカ」(~1749年)
1746年-03:00|タンザニア/オマーン| |||<就任>オマーン・ザンバル総督「アフダラ・ビン・ガット」(~1765年)
1746年-03:00|スーダン| |||<即位>ダルフール・スルタン国スルタン「ウマル・レイル」(~1753年頃)
1746年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・デ・クアム、モモタバ 総司令官「カエターノ・コレイア・ダ・サ」(~1750年1月)
1746年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムツィ「ユビ4世ガヒンディロ」(~1802年)
1746年-01:00|ニジェール| |||<死去>ダマガラム国統治者(サルキン・ダマガラム)「マラム・ユヌス・タン・イブラ」
1746年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラの対立ワリス「メフメト・ブシャトリ」
1746年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Jose Orcasitas y Oleaga」(~1751年)
1746年-01:00|ニジェール| |||<就任>ダマガラム国統治者(サルキン・ダマガラム)「ハバ・タン・マラム」(~1757年)
1746年-01:00|ベナン| |||<即位>アジヤチ・イェのフォン王国国王「ワデ」(~1752年)

1760迄 (2926件)

1746年-01:00|ナヰヰヰ| |||<即位>オヨ王国「ムニワエ、アラフィン」(~同年)→「オニヰル、アラフィン」(~1754年)
1746年-01:00|スヰン/メシコ| |||タマリハスの原住民、平定される
1746年-01:00|スヰン/ペル| |||サ・リヤスのひきいる大規模なアタルハ討伐隊が密林地帯に進攻するが、アタルハの迎撃にあい惨敗。逆に山岳地帯のモバンハまでアタルハにより奪取される
1746年 00:00|セカ/フランス| |||<就任>東インド会社セカ/局長「シヤン=バティスト・エスト・パン・ド・ラ・ル・エ」(~17580430)
1746年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「大佐 Charles Hutchinson」(~1764年)
1746年 00:00|イギリス/ジャマイカ| |||ジャマイカで、再び黒人奴隷の反乱が発生。総督府は参加者全員を処刑
1746年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・フ・ラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ト・ミンゴ・デ・ジャウレギ」(~1754年)
1746年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニュー・ジャージー総督「ジョン・ハミルトン」(~1747年)
1746年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド植民地総督「サミュエル・オーグル」(~1752年)
1746年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「ファン・デ・ウエラ」(~1747年)
1746年1月2日-09:00|日本|群馬県高崎市|延享2年12月11日|<交替>上野高崎藩72000石(老中格)「松平輝貞」隠居
⇒従弟「松平輝規」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年2月9日、隠居)
1746年1月3日-09:00|日本|奈良県桜井市|延享2年12月12日|<陣屋移転>大和戒重藩1万石「織田輔宜」⇒大和芝村藩1万石(⇒安永7(1778)年2月25日、隠居)
1746年2月16日 00:00|イギリス| |||<死去>5代キヤロウェイ伯「ジェームズ・ステュアート」
1746年2月16日 00:00|イギリス| |||<就任>6代キヤロウェイ伯「アレクサンダー・ステュアート」(~17730924死去)
1746年2月26日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ロッキンガム伯「トマス・ワトソン」廃絶
1746年3月3日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「シヤン・フランセスコ・フリノレ・サレ2世」(~17480303)
1746年3月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=マインゲン公「フリードリヒ・ヴィルヘルム」
1746年3月10日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=マインゲン公「アントン・ウルリヒ」(~17630127)
1746年3月10日-09:00|日本|青森県弘前市|延享3年1月19日|<死去>津軽信寿(78歳)元陸奥弘前藩主
1746年3月14日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延享3年1月23日|<移封>出羽山形藩10万石「堀田正亮」⇒下総佐倉藩10万石(⇒宝暦10(1760)年4月1日、1万石加増され11万石)
1746年3月14日-09:00|日本|山形県山形市|延享3年1月23日|<移封>下総佐倉藩6万石「松平乗祐」⇒出羽山形藩6万石(⇒明和元(1764)年6月21日、三河国西尾藩6万石へ移封)
1746年3月15日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|延享3年1月24日|<死去>森川俊胤(77歳)元下総生実藩主
1746年3月23日-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督代行「デ・イ・エ・ト・サン=マルタン」(~17461006)
1746年3月25日 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督「ト・ミンゴ・オルティス・デ・ロサ・イ・ガルシア・デ・ガイラス」(~1755年12月)
1746年4月1日-01:00|サマリ| |||<就任>サマリ共和国執政「ロド・ウ・イコ・ベルツツ」
1746年4月3日-09:00|日本|長野県飯田市|延享3年2月13日|<死去>信濃飯田藩2万石「堀親蔵」(32歳)⇒長男「堀親長」が継ぐ(⇒安永8(1779)年、隠居)
1746年4月5日 00:00|イギリス| |||<爵位剥奪>3代クマティ伯「シ・ジョージ・マッケンジー」(~17660928死去)
1746年4月11日-05:00|パキスタン| |||<死去>バ・ハワフル国ナワブ・エミール「サデ・ク・モハマト・カーン1世」
1746年4月11日-05:00|パキスタン| |||<就任>バ・ハワフル国ナワブ・アミール「モハマト・バ・ハワフル・カーン1世」(~17500612没)
1746年4月16日 00:00|イギリス| |||<カデテンの戦い>スコットランドで英国軍がジャコバイト軍に完勝。虐殺有り
1746年4月19日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ロッキンガム侯「トマス・ワトソン=ウェントワース」初代モルトン伯(~17501214死去)
1746年4月20日-01:00|オーストリア/イタリア| |||バ・ルマはオーストリアが奪回
1746年4月20日 13:00|日本|東京都|延享3年2月30日|<江戸延享3年の大火「坪内火事」>夜四つ時前(22時ごろ)、築地本願寺脇の坪内権左衛門宅から出火、炎は周辺の武家街から南八丁堀、東八丁堀、茅場町、小網町へと延焼、ついで大坂町、堺町、芦屋町、村松町、橘町へと延びこの辺りの武家屋敷を全焼、大川端(隅田川沿岸)通りを進んだ炎は馬喰町から浜町、柳原同朋町を灰とした/浜町から大川を飛び越え本所に飛び火、小泉町、横網町、松井町、相生町、亀沢町へと延焼
1746年4月21日 02:00|日本|東京都|延享3年3月1日|<江戸延享3年の大火「坪内火事」>昼四つ半ごろ(午前11時ごろ)、前日からの火事が浅草寺の子院、寿命院の屋根に飛び火、周辺の寺院ごとごとく類焼/ついで南、北馬道町から花川戸町、山之宿町から聖天町、橋場町を総なめにし、夕七つ時(16時ごろ)ようやく小塚原で止んだ
1746年4月22日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「ファン・アントニオ・ティエラ・イ・フェルナ」(~7.21没)
1746年4月25日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アマー大司教ジョン・ホドリー(17460719まで)/アマー大司教ジョージ・ストーン(17470410から)/ニューポート男爵ロバート・ジョセリン/ヘンリー・ホイ」(~17470913)
1746年4月26日-09:00|日本|東京都|延享3年3月6日|町奉行が、火災時に建具・家財を路上に持ち出し、大八車に積んで引き出すことを禁じる
1746年4月28日-01:00|ボスニア=ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ヘンリケル・アリ・パシャ」(3回目~17480401)
1746年5月2日-09:00|日本|福井県|延享3年3月12日|勝山城下で火事、町家33軒・家中73軒など焼失
1746年5月11日-09:00|日本| ||延享3年3月21日|幕府が武家諸法度頒布
1746年5月12日-09:00|日本| ||延享3年3月22日|幕府が諸士法度頒布
1746年5月13日-01:00|オランダ/ドイツ| |||<就任>オランダ総督・総司令官・提督「ウィレム4世カレル・ヘントリック・フリーゾ・フリント・ヴァン・オラニエ=エン=ナッソー」(~17511022没)
1746年5月15日-05:30|インド| |||<死去>ヒンダール国マハラジャ「ララ・ラハル・シン」
1746年5月15日-05:30|インド| |||<即位>ヒンダール国マハラジャ「ガ・イ・シン」(~17870325没)
1746年5月19日-09:00|日本| ||延享3年3月29日|幕府が市中に悪徳高利貸取締令を出す

1760迄 (2926件)

1746年5月23日-09:00|日本|新潟県長岡市|延享3年4月4日|<交替>越後長岡藩74000石「牧野忠周」隠居⇒養子「牧野忠敬」が継ぐ(⇒延享5(1748)年6月29日、死去)

1746年5月31日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ハース公(ジャコブ・イト)「ジェームズ・トラumont」

1746年5月31日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ハース公(ジャコブ・イト)「ジョン・トラumont」先代の弟(〜17470928死去)

1746年6月-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「ヘッセン＝フリップ・スタール公グィルヘルム・ルートヴィヒ」(〜1748年)

1746年6月4日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延享3年4月16日|<死去>松平乗邑(61歳)元下総佐倉藩主、老中

1746年6月7日-01:00|イタリア| |||コルシカ独立宣言

1746年6月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ホンブルク方伯「フリートリヒ3世」

1746年6月8日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ホンブルク方伯「フリートリヒ4世」(〜17510207死去)

1746年6月16日-01:00|イタリア/オーストリア/フランス/スペイン| |||<オーストリア継承戦争:ピアチェンツァの戦い>オーストリア軍がフランス＝スペイン連合軍に勝利

1746年6月18日-09:00|日本|群馬県安中市|延享3年4月30日|<死去>上野安中藩2万石「内藤政里」(34歳)⇒次男「内藤政苗」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年2月6日、三河挙母藩2万石に移封)

1746年6月19日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード知事「ファン・ホセ・サルセド」(〜17520107)

1746年6月21日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴートランド＝コスト長官「ヨースト・フランドアス」(〜17510306)

1746年6月26日-09:00|日本|岐阜県恵那市|延享3年5月8日|<死去>美濃国岩村藩2万石(老中)「松平乗賢」(54歳)⇒養子「松平乗蒔」が継ぐ(⇒天明元(1781)年4月22日、隠居)

1746年6月30日-09:00|日本|東京都|延享3年5月12日|幕府が小普請組支配組頭を創置

1746年7月3日-09:00|日本|群馬県館林市|延享3年5月15日|<移封>陸奥棚倉藩54000石「松平武元」⇒上野国館林藩54000石(⇒明和6(1769)年12月1日、7000石加増され61000石)

1746年7月3日-09:00|日本|東京都千代田区|延享3年5月15日|<就任>老中「松平武元」(〜安永8年7月29日)

1746年7月6日-09:00|日本|千葉県香取市|延享3年5月18日|<死去>下総小見川藩1万石「内田正親」(37歳)⇒長男「内田正美」が継ぐ(⇒翌年5月24日、死去)

1746年7月7日 00:00|イギリス| |||<就任>ブルック伯「フランス・グレヴィル」(⇒17591113兼ウリック伯〜17730706死去)

1746年7月8日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ゴア伯「ジョン・ルソン＝ゴア」(〜17541225死去)

1746年7月9日-01:00|スペイン| |||<死去>スペイン王「フェリペ5世」

1746年7月9日-01:00|スペイン| |||<即位>スペイン国王(ホセフ1世朝)「フェルナンド6世」フェリペ5世の息子(〜17590810死去45歳)

1746年7月9日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニア副王「レオパルド・伯爵ファン・フランシスコ・デ・グエメス・イ・オルシータス」(〜17551109)

1746年7月13日-09:00|日本|茨城県那珂市|延享3年5月25日|<死去>新庄直祐(55歳)前常陸麻生藩主

1746年7月18日-09:00|日本|東京都千代田区|延享3年6月1日|<解任>老中「本多忠良」死去

1746年7月21日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官代行「デ・イエゴ・デ・ベニャロサ」(〜17470609)

1746年8月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<死去>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Luis Mayony y Salazar」

1746年8月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官代理「Pedro Enriquez de Ovideo」(〜同年)

1746年8月 06:00|アメリカ/フランス| |||フランス軍、マチューセツ砦を焼き払う

1746年8月2日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|延享3年6月16日|<死去>下野宇都宮藩77850石「戸田忠余」(58歳)⇒次男「戸田忠盈」(⇒寛延2(1749)年7月23日、肥前島原藩77000石に移封)

1746年8月6日-01:00|ルウェー/デンマーク/ドイツ| |||<死去>ルウェー＝デンマーク王・シュレーズヴィヒ公「クリスチャン6世」兼ホルシュタイン方伯「クリスチャン9世」46歳

1746年8月6日-01:00|ルウェー/デンマーク/ドイツ| |||<即位>ルウェー＝デンマーク王・シュレーズヴィヒ公・ホルシュタイン公「フレデリク5世」兼ホルシュタイン方伯「フレデリク3世」クリスチャン6世とゾフィー・マクダレーネ・フォン・ブランデンブルク＝クルムバッハの息子(〜17660114死去42歳)

1746年8月6日-09:00|日本|三重県桑名市|延享3年6月20日|<死去>伊勢桑名藩10万石「松平忠雅」(64歳)⇒三男「松平忠刻」が継ぐ(⇒明和8(1771)年6月14日、隠居)

1746年8月9日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ティリヤキ・ハチ・メフメト・パシャ」(〜17470824)

1746年8月13日-01:00|スイス| |||スイス出身の天文学者ト・シェーザがト・シェーザ彗星発見/絶対等級がマイナスの4彗星の1つ

1746年8月16日-02:00|ルーマニア| |||ワキアで農奴制が廃止される

1746年8月18日-09:00|日本|石川県|延享3年7月2日|加賀藩、藩の財政改革にあたっていた前藩主の寵臣大槻伝蔵を蟄居・閉門とする(加賀騒動)

1746年9月2日-09:00|日本|福岡県柳川市|延享3年7月17日|<死去>筑後柳河藩104200石「立花貞則」(20歳)謎の暴漢集団に豊前国大里浜にて襲撃され⇒弟「立花鑑通」が継ぐ(⇒寛政8(1796)年閏7月22日、隠居)

1746年9月4日-04:30|アフガニスタン/トルコ| |||オスマン朝とアフシャール朝がカスリ・シーリン条約を結ぶ

1746年9月4日-03:30|イラン/イラク| |||クルダン条約を締結し、イラク・イランの国境を画定

1746年9月5日 00:00|イギリス| |||<就任>初代バッキンガムシャー伯「ジョン・ホバート」(〜17560922死去)

1746年9月6日-01:00|オーストリア/イタリア| |||ジェノヴァ共和国はオーストリアに降伏

1746年9月7日-05:30|インド| |||<就任>スーラト国支配者(ナワブ)「ベグラール・カーン・ミルザ・ガダ・ベグ」(〜1747年2月没)

1746年9月10日-05:30|インド/フランス| |||フランスがマダガスカルを占領(〜17490821)

1746年9月14日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Juan de Urbina」(〜1761年)

1746年9月15日-08:00|中国| |||清・乾隆11年8月|清の福建上杭県で羅日光らの抗租暴動がおこる

1746年9月21日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Domingo Gomez de la Sierra」(〜1749

1760迄 (2926件)

0908)

1746年9月26日-09:00|日本|山形県米沢市|延享3年8月12日|<死去>出羽米沢藩15万石「上杉宗房」(29歳)⇒9月26日、弟「上杉重定」が継ぐ(⇒明和4(1767)年4月24日、隠居)

1746年9月27日-09:00|日本|長野県佐久市|延享3年8月13日|<死去>信濃岩村田藩15000石「内藤正敬」(42歳)⇒長男「内藤正弼」が継ぐ(⇒明和7(1770)年6月18日、死去)

1746年9月27日-09:00|日本|山口県|延享3年8月13日|<延享3年長門国風水害>萩城下付近では猛烈な暴風雨となり、長門国の表高16万7000石の81%の田が損害を受けた/家屋倒潰大小およそ3670ばかり、寺社156宇、破船42艘、死亡者16名、牛馬死3頭

1746年9月30日-09:00|日本|福井県大野市|延享3年8月16日|<死去>越前大野藩4万石「土井利寛」(29歳)⇒長男「土井利貞」が継ぐ(⇒文化2(1805)年11月8日、隠居)

1746年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・マネンティ・ベルツィ」 「トメニコ・ベルトーニ」

1746年10月1日-09:00|日本|三重県四日市市|延享3年8月17日|<死去>伊勢東阿倉川1万石「加納久通」⇒甥「加納久堅」が継ぐ(⇒天明6(1786)年8月24日、死去)

1746年10月5日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享3年8月21日|<初演>竹田出雲・並木千柳・三好松洛・竹田小出雲、人形浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」大坂竹本座

1746年10月6日-04:00|モリシヤス/フランス/レユニオン/セイシェル| ||<就任>マスカリン諸島総督「ピエール・フェリックス・バルテミ・ダヴィッド」 (~17530210)

1746年10月12日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|延享3年8月28日|<死去>近江水口藩25000石「加藤明経」(24歳)⇒養子「加藤明熙」が継ぐ(⇒明和4(1767)年10月14日、死去)

1746年10月13日 00:00|イギリス| ||<死去>ハンティントン伯「テオフィロス・ヘイスティングス」

1746年10月13日 00:00|イギリス| ||<就任>ハンティントン伯「フランス・ヘイスティングス」 (~17891002死去)

1746年10月15日-09:00|日本|京都府京都市|延享3年9月|<初演>歌舞伎「菅原伝授手習鑑」京都嵐座

1746年10月20日-05:30|インド| ||第1次カーナティック戦争で、フランス軍がイギリス領マドラスを占領

1746年10月22日 06:00|アメリカ| ||カルッジ・オグ・ニュー・ジャージー(後のプリンストン大学)創立

1746年10月28日 05:00|ペルー| ||ペルー、リマ・カヤ沖で地震(マグニチュード8.6)死者1万8000人

1746年10月29日-09:00|日本|東京都千代田区|延享3年9月15日|<加増>一橋徳川家6万俵「徳川宗尹」⇒10万石(⇒明和元(1764)年12月22日、死去)

1746年10月29日-09:00|日本|東京都千代田区|延享3年9月15日|<加増>田安德川家「徳川宗武」賄料10万石(⇒明和8(1771)年6月4日、死去)⇒7月3日、五男「徳川治察」が継ぐ(⇒安永3(1774)年9月8日死去、当主なしの状態)

1746年11月5日-01:00|ドイツ| ||<死去>アンハルト-ツェルブスト侯「Johann Ludwig2世」

1746年11月8日-09:00|日本|静岡県掛川市|延享3年9月25日|<移封>上野館林藩5万石「太田資俊」⇒遠江掛川藩5万石(⇒宝暦13(1763)年12月10日、死去)

1746年11月8日-09:00|日本|静岡県牧之原市|延享3年9月25日|<移封>陸奥泉藩15000石「板倉勝清」⇒遠江相良藩15000石(⇒寛延元(1748)年11月、2万石に加増)

1746年11月8日-09:00|日本|福島県いわき市|延享3年9月25日|<移封>遠江国相良藩15000石「本多忠如」⇒陸奥泉藩15000石(⇒宝暦4(1754)年8月29日、隠居)

1746年11月8日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|延享3年9月25日|<移封>遠江掛川藩6万石「小笠原長恭」⇒陸奥棚倉藩6万石(⇒安永5(1776)年5月29日、死去)

1746年11月19日 05:00|ハイチ/フランス| ||<就任>フランスのサント・ミッコ 総督代行「エティエンヌ・コシャル・デュ・ペルノ・ド・シャステワ」(3回目~17480812)

1746年12月 06:00|ニカラガ/スペイン| ||<就任>ニカラガ総督「アロンソ・フェルナンデス・デ・エレディア」(~1752年)

1746年12月4日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国国家主席補佐官「ルイス・カルロス・デ・ランカステル」(~17540409)

1746年12月7日-09:00|日本|東京都千代田区|延享3年10月25日|<就任>老中「本多正珍」(~宝暦8年9月2日)

1746年12月12日-09:00|日本|鹿児島県|延享3年11月|<交替>薩摩藩72万8700石「島津継豊」隠居⇒長男「島津宗信」が継ぐ(⇒寛延2年7月10日(17490822)、死去)

1746年12月25日-09:00|日本|大分県中津市|延享3年11月14日|<死去>豊前中津藩10万石「奥平昌成」(53歳)⇒次男「奥平昌敦」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年9月26日、死去)

1747年-08:00|マレーシア| ||<就任>ジョホール統治者(ウダング・ルアカ・ジョホール)「ダトウク・ランブット・パンジヤン」(~1760年頃没)

1747年-07:00|カンボジア| ||<死去>カンボジア王国国王「トンモレアキア2世」

1747年-07:00|カンボジア| ||<即位>カンボジア王国国王「トンモレアキア4世」(~同年没)⇒「ラマティイ2世」(1回目~1749年)

1747年-05:30|インド/オランダ| ||<就任>オランダ領インド総督「リブレイト・ファン」(~1753年)

1747年-05:30|インド| ||<就任>カナンディ国ラジャ「ライジング・デオ3世」(~1771年)

1747年-05:30|インド| ||<就任>カンガラ国ラジャ「アバ・イ・チャントラ」(~1750年)

1747年-05:30|インド| ||<就任>チュダ国統治者(タークル)「ライシンジ・アブ・ハシジ」(~1768年没)

1747年-05:30|インド| ||<就任>ハンスワラ国統治者(マハラ)「プリウ・イ・シン」(~1786年没)

1747年-05:30|インド| ||<就任>ホンチ国ラジャ「ムハンマド・ザマン」(~1748年没)

1747年-05:30|インド| ||<就任>マニポール国ラジャ「チツアイ(ウガット・シャー)(篡奪者)」(~1751年)

1747年-05:30|インド| ||<就任>ラージガル国支配者(ラワット)「ジャガット・シン」(~1775年)

1747年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| ||<死去>ブハラ・ハン国ジャーン朝ハン「アブル・ファイズ・ハーン」

1747年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>カラカル・ク・ハン「Baybori Khan」(~1757年死去)

1747年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| ||<即位>ブハラ・ハン国ジャーン朝ハン「アブドゥル=ムウミン」アブル・ファイズの長男 (~1748年)

1760迄 (2926件)

1747年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ・ハン国マンギト朝アタリク「ムハンマド・ラヒム」(⇒1753年アミールを称す⇒1756年ハンを僭称~1758年死去)
1747年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>カーブル首相(ワジール・イ・アザム)「バギ・ハーン・サリフザイ・ハミザイ(シャー・ワリ・カーン)」(~1773年)
1747年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>シバルガン汗国ハキム「ダウラット・カーン」建国(~1800年)
1747年-04:30|アフガニスタン| |||ハミヤールはアフガニスタンの一部
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>イェニ・シャマク汗国ハーン「ハジ・ムハンマド・ア・リー・ハーン」(~1763年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>イルス・スルタン「アフマド・ハーン1世」(~1756年)
1747年-04:00|アルメニア/イラン| |||<就任>エリヴァン汗国ハーン「メフディー・ハーン・カセム」建国(~1748年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>カラバーク汗国ハーン「ハナ・アリー・ハーン」建国(~1763年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ガングザ汗国ハーン「シャー・ワレフ・イ・ハーン」建国(~1760年死去)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>カバ汗国ハーン「フサイン・アリー・ハーン」建国(2度目~1758年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>サルヤン汗国ハーン「イブラヒム・ハーン」再建(~1757年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャッキ汗国ハーン「ハジ・チャラヒ・ハーン」再建(~1755年死去)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ジャワト汗国ハーン「キヤス・ハーン」建国(~1750年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ナフチヴァン汗国ハーン「ハイダル・クーリー・ハーン」建国(~1764年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>バクー汗国ハーン「ハジ・ミルザ・ムハンマド・ハーン1世」再建(~17681017死去)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ホージャ・シャマク汗国ハーン「ムハンマド・サイード・カーン」(~1768年)
1747年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>マク汗国ハーン「アフマド・カーン・ハヤット」(~1778年)
1747年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメリエ王「マムカ」(~1749年)
1747年-04:00|UAE| |||<即位>シャルジャ統治者(ハキム)「Sheikh Rashid ibn Matar ibn Rahman al-Qasimi」(~1777年死去)
1747年-03:30|イラン| |||<就任>カンガリ汗国(アルメニア、ホイの北西、エレバンの南60マイル)カーン「アフマド・スルタン・カンガリ」建国(~1778年)
1747年-03:30|イラン| |||<就任>サラブ汗国(イラン北西部、タブリーズの東)カーン「アリ・カーン・シャカキ」建国(~1786年)
1747年-03:30|イラン| |||<就任>タブリーズ汗国カーン「ナジャフキル・カーン1世」建国(~1784年)
1747年-03:30|イラン| |||<就任>トンボリ汗国カーン「サバス・ハーン2世イブン・ムルトウザグル」建国(1744年から統治者~1763年)
1747年-03:30|イラン| |||<就任>パティョグル汗国(イラン北西部、サラブの東、カスピ海の南西隅の西)カーン「パティール・カーン」建国(~1763年)、「ナシル・ハーン」(~1808年)
1747年-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ副王「ミール・サイード・ムハンマド・マラシ(後にスレイマン2世)」(~1748年)
1747年-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「モハマド・ハサン・カーン・ガジヤール」(アストラバードで対立~1757年)
1747年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>パース・ワリス「ベジル・ケスリイェリ・アフメット・パシャ」(~1750年)
1747年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブシキ統治者(オムカ)「イシヨ」(~1791年頃)
1747年-03:00|イラク| |||ハゲダットでマムルーク勢力が支配権を握る
1747年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Sehla Ahmed Pasha」(3期目~同年)
1747年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「セイイト・メフメト・パシャ」(~1748年)
1747年-01:00|クロアチア| |||<即位>ホルヴィツァ大公「マルコ・バリッチ」(~1760年)
1747年-01:00|デンマーク| |||デンマークで貴族の子弟向けアカデミーが設立
1747年-01:00|オーストリア/ドイツ| |||ベルリンに最初のレアルシュレ(実科学校)が設立
1747年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Francisco Luis das Chagas」(~1748年)
1747年 00:00|セカール| |||<就任>フクトーロ統治者(デナンケ・サティギ)「ブフ・ガインリ」(~1749年頃)
1747年 04:00|アンティグア・ババーダ/イギリス| |||<就任>アンティグア大統領「チャールズ・ダンバー」(~1750年4月)
1747年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニュージャージー総督「ジョン・リーディング」(~同年)⇒「ジョン・ネルチャー」(~1757年)
1747年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ペンシルベニア植民地総督「アンソニー・ハーマー」(~同年)
1747年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「アロンソ・フェルナンデス・デ・エレーディア」(~同年)
1747年 06:00|カナダ/フランス/アメリカ| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ラ・ガリソニエール伯爵ローラン・ミシェル・バリン・ド・ラ・ガリソニエール」(~1749年)
1747年1月6日-09:00|日本/中国| ||延享3年11月26日|唐船が香焼島で難破し、乗員80人中56人が水死
1747年1月14日-09:00|日本|東京都千代田区|延享3年12月4日|幕府が神田佐久間町に天文台を設ける
1747年1月16日-09:00|日本|高知県高知市|延享3年12月6日|<高知延享3年の大火>昼八時過ぎ(14時過ぎごろ)火元は高知城下西部の中須賀村の紺屋(染物屋)で、井口村、小高坂西町、築地を初め、上町分残らず、中嶋町、鷹匠町、唐人町、雑喉場、堺町、浦戸町、朝倉町、弘岡町残らず焼失/焼失家屋は、城下2185軒、郊外の村256軒で合計2441軒焼失、55人死亡
1747年1月18日-09:00|日本|石川県金沢市|延享3年12月8日|<死去>加賀藩102万5千石「前田宗辰」⇒弟の「前田重熙」が継ぐ(宝暦3年4月8日(17530510)、死去)
1747年1月18日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|延享3年12月8日|<死去>播磨赤穂藩2万石「森政房」(37歳)⇒翌年2月6日、養子「森忠洪」が継ぐ(⇒明和6(1769)年7月23日、隠居)
1747年1月25日-09:00|日本|京都府京都市|延享3年12月15日|<就任>関白「一条道香」
1747年1月31日 00:00|イギリス| |||ロンドンに世界初の性病専門の病院が開院「ロンドン・ロック病院」
1747年2月-05:30|インド| |||<就任>スラト国支配者(サワ)「サダール・ムハンマド・カーン・ミルザ・グラム・マフムド」(1回目~1748年)
1747年2月-01:00|スペイン/ペルー| |||マヌエル・アルバラン神父ら、アタリハ説得にあたるが、一行30人はカンパ族の弓矢攻撃に

1760迄 (2926件)

より全滅

1747年2月4日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏「ヨハン・カスパー・ラーバ」(~1751年)
1747年2月9日-08:00|中国| ||清・乾隆12年|<就任>チベット摂政「ギェルメナムギャル」(~1750年)
1747年2月9日-09:00|日本|千葉県香取郡多古町|延享3年12月30日|<死去>松平勝房(45歳)前下総多胡藩主
1747年2月10日 00:00|イギリス| |||<死去>4代エルキン伯・3代アイルズヘリー伯「チャールズ・ブルース」アイルズヘリー伯断絶
1747年2月10日 00:00|イギリス| |||<就任>5代エルキン伯「チャールズ・ブルース」9代キンカーデイン伯(~17710514死去)
1747年2月14日-09:00|日本|福岡県北九州市|延享4年1月5日|<死去>小倉新田藩(篠崎屋敷)1万石「小笠原貞通」(62歳)⇒六男「小笠原貞顕」が継ぐ(⇒天明2(1782)年8月19日、隠居)
1747年2月16日-09:00|日本|京都府京都市|延享4年1月7日|日本左衛門こと濱嶋長兵衛、京都西町奉行所に自首
1747年2月22日-03:00|エチオピア| |||<死去>ハラル首長国エミール「ハミド・イブン・アビ・バクル」
1747年2月22日-03:00|エチオピア| |||<就任>ハラル首長国エミール「ユスフ・イブン・アビ・バクル」(~17551230没)
1747年3月4日-09:00|日本| ||延享4年1月23日|幕府西川正休・渋川則休をして貞享暦を改正せしむ
1747年3月11日-08:00|中国| ||清・乾隆12年2月|四川でチベット族大金川土司サラベン(莎羅奔)と小金川土司ツェワン(沢旺)との間の内紛から大金川の反乱がおこる
1747年3月14日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「チャールズ・ハッチソン」(⇒17640425総督~17640513)
1747年3月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ツェルプスト候「Christian Augustus」
1747年3月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ツェルプスト候「Friedrich August」(~17930303死去)
1747年3月21日-09:00|日本|愛知県刈谷市|延享4年2月11日|<移封>三河西尾藩23000石「土井利信」⇒三河刈谷藩23000石(⇒明和4(1767)年8月18日、隠居)
1747年3月21日-09:00|日本|愛知県西尾市|延享4年2月11日|<移封>三河刈谷藩23000石「三浦義理」⇒三河西尾藩23000石(⇒宝暦6(1756)年7月3日、死去)
1747年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジヤコモ・ベッケニ」「オットアヴィオ・ファッツィーニ」
1747年4月1日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《オトリオ「ユダ・マカベウス」》
1747年4月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・デッサウ候「Leopold1世」
1747年4月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・デッサウ候「Leopold2世」(~17511216死去)
1747年4月10日-09:00|日本|東京都千代田区|延享4年3月|江戸牛込御門前牡丹屋彦右衛門が、血の道の薬「人参熱湯散」と疾瘡毒の薬「妙応散」を売り出す
1747年4月10日-09:00|日本|東京都千代田区|延享4年3月1日|<解任>老中「西尾忠尚」
1747年4月11日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ヤン・ファン・フォールスト」(~17540714)
1747年4月12日-08:00|中国| ||清・乾隆12年3月3日|チベットでホラネが没し、その子ギェルメが独立政策をとる
1747年4月14日-04:00|リュネン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Didier de Saint-Martin」(~17481111)
1747年4月14日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<解任>イギリス領バルバドス総督「Sir Thomas Robinson」
1747年4月14日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ヘンリー・Grenville」(~17530523)
1747年4月14日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Henry Grenville」(~1756年)
1747年4月20日-09:00|日本|東京都中央区|延享4年3月11日|<死去>日本左衛門。捕縛され、小伝馬町牢獄で処刑された(29歳、1719年生)盗賊(「白波五人男」の頭・日本駄右衛門のモロル)
1747年4月25日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・マス島・セントジョン島総督「Christian Suhm」(~17580601)
1747年4月26日-09:00|日本| ||延享4年3月17日|<死去>初代吉田三郎兵衛(不明)人形浄瑠璃の人形遣い
1747年4月28日-09:00|日本|茨城県笠間市|延享4年3月19日|<移封>日向延岡藩8万石「牧野貞通」⇒常陸笠間藩8万石(⇒寛延2(1749)年9月13日、43歳で死去)
1747年4月28日-09:00|日本|福島県いわき市|延享4年3月19日|<減移封>常陸笠間藩6万石「井上正経」⇒陸奥磐城平藩37000石(⇒宝暦8(1758)年12月、遠江国浜松藩6万石に加増移封)
1747年4月28日-09:00|日本|宮崎県延岡市|延享4年3月19日|<加増移封>陸奥磐城平藩6万石「内藤政樹」⇒日向延岡藩7万石(⇒宝暦6(1756)年10月21日、隠居)
1747年5月-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>スウェーデン王領フィンランド総督「グスタフ・フレドリック・フォン・ローゼン」(~1754年7月)
1747年5月7日-01:00|ドイツ| |||<初演>J. S. バッハ《音楽の捧げもの》
1747年5月13日-01:00|オランダ| |||<就任>ネーデルラント連邦共和国全州総督「オラニエ公ウィレム4世」オラニエ公ヨハン・ウィレム・フリーゾの子(~17511022死去40歳)
1747年5月14日-01:00|スペイン/イギリス/フランス| |||<オーストリア継承戦争: 第一次フィステル岬の海戦>英国艦隊がフランス艦隊に勝利
1747年5月15日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルム・セバスティアン・ダ・ヴィクトリア・エン・パラン・イ・ロウ」(~17561002)
1747年5月15日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<死去>セントクロア暫定総督「Poul Jensen Lindemark」
1747年5月15日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「Jens Hansen」(~17511222)
1747年5月16日 00:00|イギリス| |||<死去>7代ウイグタン伯「チャールズ・フレミング」
1747年5月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ロイス=エーベルスドルフ伯「Heinrich29世」
1747年5月22日-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス=エーベルスドルフ伯「Heinrich24世」(~17790513死去)
1747年5月24日-09:00|日本|東京都千代田区|延享4年4月16日|江戸城二の丸が焼失
1747年5月26日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マデイラ総督代理「Joao do Nascimento」(~17510827)

1760迄 (2926件)

1747年6月-04:00|アゼルバイジャン/イラン| |||<就任>クリシュ汗国ハン「ミール・サイード・ジャマラン・ハン(ガウ・ハン)」建国(〜1787年6月死去)

1747年6月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクシ・ワリス(総督)「Kazikci Huseyin Pasha」(〜同年)⇒「Kur Vesir Pasha」(〜1749年)

1747年6月9日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「カシガル侯爵フアン・スコ・アントニオ・カシガル・デ・ラ・ベガ」(〜17600518)

1747年6月9日-09:00|日本|京都府京都市|延享4年5月2日|<就任>摂政「一条道香」

1747年6月9日-09:00|日本|京都府京都市|延享4年5月2日|<譲位>115代「桜町天皇」

1747年6月9日-09:00|日本|京都府京都市|延享4年5月2日|<踐祚>116代「桃園天皇」/9月21日即位式(〜17620712)

1747年6月12日 04:30|ペネシア/スペイン| |||<就任>スペイン領ペネシア総督「Luis Francisco de Castellanos」(〜17491201)

1747年6月13日-02:00|トルコ| |||<就任>カラ・リア公(両シリア王の推定相続人の称号)「インファント・フィリップ」ナポリ王カルロ7世の長男(〜17770919病死)

1747年6月14日 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケ・ア県暫定総督「デ・イコ・デ・タラダ」(〜1750年)

1747年6月20日-03:30|イラン| |||<死去>アフシャール朝シャー「ナーデル・シャー」暗殺される

1747年6月20日-09:00|日本|山形県上山市|延享4年5月13日|上山藩領内の上山町の町人が、米価高騰により富家を打ち壊し、在郷農民も金納値段の引き下げなどを要求して強訴する(上山騒動)

1747年6月23日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督「ウィリアム・ホップル」(1期目、1752. 1)

1747年6月26日-09:00|日本| ||延享4年5月19日|幕府が御家人の子に関し母が家出して行方不明の場合は、原則として家督相続を禁じる

1747年6月26日-09:00|日本|福岡県大牟田市|延享4年5月19日|<死去>筑後三池藩1万石「立花貫長」(61歳)⇒長男「立花長熙」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年9月26日、隠居)

1747年6月29日-01:00|オーストリア| |||<初演>クリストフ・グ・イリバルト・ゲルック《歌劇「エルコレとエベ」の結婚》

1747年7月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァ・ハン国ハン「アフ・アル・ガースィー2世」

1747年7月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第34代ハン「カイク・バトゥル」の子(〜1757. 11)

1747年7月 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アフド・アッラー」

1747年7月 00:00|モロッコ| |||<復位>アラウィー朝スルタン「アル・ムスタイ」(3回目〜1748年廃位)

1747年7月1日-09:00|日本|千葉県香取市|延享4年5月24日|<死去>下総小見川藩1万石「内田正美」⇒養子「内田正良」が継ぐ(⇒文化4(1807)年11月11日、死去)

1747年7月2日-09:00|日本| ||延享4年5月25日|<死去>初代大谷広次(52歳)歌舞伎役者

1747年7月6日-03:30|イラン| |||<即位>アフシャール朝シャー「ナーデル・シャー」(〜17480929)

1747年7月7日-09:00|日本|東京都|延享4年5月30日|<死去>古文辞学派の儒者・太宰春台(68)

1747年7月10日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ゲリゴール・マティ・ギカ」(3回目〜1748年4月〜17520903死去)

1747年7月10日-09:00|日本|東京都|延享4年6月3日|<死去>小川破笠(85歳)漆芸家、浮世絵師、俳人

1747年7月11日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享4年6月4日|<死去>初代竹田出雲(不明)浄瑠璃作者

1747年7月18日-09:00|日本|三重県桑名市|延享4年6月11日|<死去>伊勢長島藩2万石「増山正武」(43歳)⇒8月5日、義弟「増山正賛」が継ぐ(⇒安永5(1776)年4月5日、死去)

1747年8月6日-08:00|中国| ||清・乾隆12年7月|清が八旗漢軍人の外省居住を許す

1747年8月7日-09:00|日本|山形県米沢市|延享4年7月2日|<死去>米沢新田藩1万石「上杉勝周」(52歳)⇒長男「上杉勝承」が継ぐ(⇒天明5(1785)年6月10日、死去)

1747年8月9日-09:00|日本|岡山県浅口市|延享4年7月4日|<死去>池田政倚(79歳)前備中鴨方藩主

1747年8月11日-05:30|スリランカ| |||<死去>キャンティ王国国王・シンハラ国王「シリ・ウジヤ・ラジャシンハ」

1747年8月12日-05:30|スリランカ| |||<即位>キャンティ王国国王・シンハラ国王「キルティシリ・ラジャシンハ」(〜17820102死去)

1747年8月12日-09:00|日本|群馬県邑楽郡邑楽町|延享4年7月7日|<移封>陸奥桑折藩2万石「松平忠恒」⇒上野篠塚藩2万石(⇒明和5(1767)年閏9月28日、上野小幡藩に陣屋移転)

1747年8月24日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「セイイド・アフドゥッラー・パシャ」(〜17500103)

1747年9月7日-09:00|日本|愛媛県松山市|延享4年8月3日|<死去>松山新田藩1万石「松平定章」(48歳)⇒長男「松平定静」が継ぐ(⇒明和2(1765)年2月12日、宗家松山藩を相続し廃藩)

1747年9月13日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「ハントン伯爵ウィリアム・スタンホープ」(〜17510919)

1747年9月14日-09:00|日本|兵庫県たつの市|延享4年8月10日|<死去>播磨龍野藩51000石「脇坂安興」(31歳)⇒長男「脇坂安弘」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年7月17日、死去)

1747年9月19日-09:00|日本|熊本県熊本市|延享4年8月15日|<死去>肥後熊本藩54万石「細川宗孝」(32歳)江戸城大広間の便所で旗本板倉勝該に殺害される⇒弟「細川重賢」が継ぐ(⇒天明5(1785)年10月26日、死去)

1747年9月25日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|延享4年8月21日|<死去>因幡鳥取藩32万石「池田宗泰」(31歳)⇒長男「池田重寛」が継ぐ(⇒天明3(1783)年10月12日、死去)

1747年9月27日-09:00|日本|東京都|延享4年8月23日|<処刑>「板倉勝該」切腹(熊本藩主「細川宗孝」殺害の罪)

1747年9月28日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ハース公(ジャコブ・イト)「ジョン・ド・ラモント」

1747年9月28日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ハース公(ジャコブ・イト)「ジョン・ド・ラモント」先代の叔父(〜17571027死去)

1747年9月28日-09:00|日本|滋賀県大津市|延享4年8月24日|<死去>近江膳所藩6万石「本多康敏」(55歳)⇒養子「本多康桓」が継ぐ(⇒明和2(1765)年1月25日、隠居)

1747年10月-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ドゥッラーニー帝国シャー「アフマト・シャー・ドゥッラーニー」アフシャール朝から自立(〜17720604)

1747年10月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「ヒョジ・オ・アントニオ・マルテリ」「ジョヴァンニ・マルテリ」

1760迄 (2926件)

1747年10月6日-09:00|日本|東京都千代田区|延享4年9月3日|<就任>老中「松平武元」(~1779年7月25日)
1747年10月9日-09:00|日本|愛媛県大洲市|延享4年9月6日|大洲藩に、藩校「止善書院明倫堂」創立
1747年10月17日-09:00|日本|新潟県村上市|延享4年9月14日|<死去>松平輝貞(83歳)前越後村上藩主、側用人・老中格
1747年10月25日-01:00|スペイン/イギリス/フランス| |||<オーストリア継承戦争:第二次フィニステ岬の海戦>英国艦隊がフランス艦隊に決定的勝利
1747年11月2日-09:00|日本| ||延享4年9月30日|<死去>親世清親(55歳)能役者
1747年11月5日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督代行「フランシスコ・ハビエル・デ・オレアム・イ・バスケス・メンデス」(1回目~17480122)
1747年11月12日-09:00|日本|鹿児島県|延享4年10月10日|<死去>島津吉貴(73歳)前薩摩藩主
1747年11月27日-09:00|日本|東京都|延享4年10月25日|宮古路文字太夫が姓を常磐津と改め、常磐津節を始める
1747年12月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ペーグ国王「ピンニャ・タラ」(~17570502)
1747年12月17日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享4年11月16日|<初演>竹田出雲・三好松洛・並木千柳、人形浄瑠璃「義経千本桜」大坂竹本座
1748年-12:00|カリス・ツナ| |||<即位>トウア(アロ)王「Nimo o le Tano'a」(~同年)⇒「Veliteki」(~1756年)
1748年-08:00|フィリピン| |||<死去>マギンタ・サ王国スルタン「Sultan Muhammad Tahir Ud-din」
1748年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Cornelis Rosenboom」(~1750年)
1748年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「ムハンマド・Muizuddin」(~1763年死去)
1748年-05:30|インド| |||<就任>コハラ国統治者(サルケル)「トウラジ・アングリア」(~1755年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>シマウ国ラジャ「ガイ・シン」(~1752年没)
1748年-05:30|インド| |||<就任>ジュナガド国支配者(ナワブ)「モハメド・ハバード・ウル・ハンジ-1世」建国(~17580928没)
1748年-05:30|インド| |||<就任>スーラト国支配者(ナワブ)「ミール・モイン・アッデイン・ムハンマド・カーン・ミアン・アッチャン」(1回目~1750年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>スケト国ラジャ「ヒ・カム・セン」(~1762年没)
1748年-05:30|インド| |||<就任>タフラール国統治者(デ・シュムカ)「イェシュワント・ラオ」(~1759年没)
1748年-05:30|インド| |||<就任>チャンパ国ラジャ「ウメット・シン」(~17640513没)
1748年-05:30|インド| |||<就任>チョタ・ナグプール国支配者(ラジャ)「マヒナート・シャー」(~1762年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>トリプーラ国ラジャ「ラクシュマン・マニヤ」(~1760年没)、摂政「シャムシール・ガージ」(~1758年頃没)
1748年-05:30|インド| |||<就任>ナゴト国ラジャ「アラト・シン」(~1780年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>パランパ国支配者(ラウト)「バド・マヴ・ア・ヒルバ-・マンラジ」(~1793年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>ファルタン国統治者(ナイク)「マトジ・ラオ・ニハル・カール3世」(~1765年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>ホンチ国ラジャ「ラティフ・ウッラー-」(篡奪者)」(~1749年)
1748年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カミール総督「アフサ・カーン」(~1751年没)
1748年-05:30|インド| |||パランパ国をカト・ハラが占領(~1749年)
1748年-05:00|サウジアラビア| |||<即位>小ジユス・ハン「ハ・トル」(~1771年)
1748年-05:00|ウズベキスタン| |||タシュケントはコントが占領(~1750年)
1748年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>バダフشان・ハン「スルタンベグ」(~1765年)
1748年-04:00|アルメニア/イラン| |||<就任>エリヴァン汗国ハン「ハサン・アリ=ハーン」(~1750年)
1748年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナ・ワリス(総督)「ムスタファ・ハ・シャ」(~1759年)
1748年-02:00|キプロス/トルコ| |||キプロスが再びオスマン帝国大宰相の領地となる(~1784年)
1748年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「シェリフ・ハリル・ユースフ・ハ・シャ」(~1750年)
1748年-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「フレトリウス・バント・レアス・アウグスト」(~1760年)
1748年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Leopold Ernest Graf von Firmian」(~17580907)
1748年-01:00|ポーランド| |||ポーランドでザウスキ図書館が設立
1748年-01:00|イタリア| |||ロンバルディアはウイジエヴァーノ・オルトレボ-、ヴァルトツラを失う
1748年 00:00|イギリス| |||<就任>初代ポウイス伯「ヘンリー・アーサー・ハーバート」(~17720910死去)
1748年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「ジョアン・デ・タウラ」(~1751年)
1748年 00:00|セネガル| |||<就任>ケール統治者(タンメル)「イサ・ビツジ」(1回目~1749年)
1748年 00:00|トーゴ| |||<就任>ケニガバ統治者(フィオ)「エウエ・アジヤロ」(~1754年)
1748年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Chamber Senate」(~17510521)
1748年 00:00|セネガル| |||<就任>ジョロ帝国統治者(ブルバ・ジョロ)「ヒラウ・ケメ」(~1750年頃)
1748年 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>ラ・コメラ伯「Domingo de Herrera」(~17661214)
1748年 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウー朝スルタン「ムハンマド3世アルハティフ」(1回目~10月)
1748年 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウー朝スルタン「アル・ムスタティ」
1748年 04:00|グレタ/フランス| |||<就任>グレタ総督「ロベール・フィリップ・ド・ロンクヴァリエト・ド・アンシー」(~1757年)
1748年 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>マリー・ガランテ知事「Joseph de Jarrier de La Chassaigne」(1期目~1752年)
1748年 05:00|キューバ| |||サン・ヘロニモ大学がハバナに創設される
1748年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ベネチア植民地総督「ジェームズ・ハミルトン」(~1754年)
1748年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「ペドロ・デル・パリオ・フンコ・イ・エスクリエラ」(~1750年)
1748年 06:00|ニカラガ/イギリス| |||イギリス軍、サンファン・デル・ヌルテを占領、アキグラン友好条約により返還
1748年1月1日-09:00|日本|静岡県周智郡森町|延享4年12月|遠江・駿河・信濃等の勧進によって一宮小國神社が造営される

1760迄 (2926件)

1748年1月5日-09:00|日本|京都府京都市|延享4年12月5日|四条火災、芝居小屋辺焼亡
1748年1月19日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=ヴァイマル公・ザクセン=アイゼナハ公「エルスト・アウグスト1世」
1748年1月19日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=アイゼナハ公・ザクセン=アイゼナハ公「エルスト・アウグスト2世コンスタンティン」エルスト・アウグスト1世の息子(〜17580528死去)
1748年1月22日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ暫定総督「ルス・デ・イエス・ナハ・ロ・イ・アルバ・カーキ」(〜17500314)
1748年1月23日-09:00|日本|大阪府大阪市|延享4年12月23日|<就任>大坂城代「酒井忠用」(宝暦2(1752)年4月7日)
1748年1月30日-09:00|日本|愛媛県松山市|延享5年|松山の湯神社拝殿の普請完成
1748年1月30日-09:00|日本|三重県伊勢市|延享5年1月|<初演>歌舞伎「義経千本桜」伊勢
1748年2月-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「ムハンマド 4世エル・レトル」(〜17541211没)
1748年2月14日-09:00|日本|大阪府高槻市|延享5年1月16日|<交替>摂津高槻藩36000石「永井直期」隠居⇒長男「永井直行」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年4月22日、死去)
1748年2月26日 00:00|イギリス| |||<死去>2代フリッグウォーター公「ジョン・エジヤートン」
1748年2月26日 00:00|イギリス| |||<就任>3代フリッグウォーター公・3代ブラックリー侯「フランス・エジヤートン」(〜18030308死去フリッグウォーター公位廃絶)
1748年2月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・乾隆13年2月|朝鮮が通信使を日本に派遣
1748年3月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダット・ワリス「カスリル・アハメド・ハッシャ」(〜11月)
1748年3月6日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「al-Mansur al-Husayn 2世」
1748年3月6日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「セザーレ・カッタネ・デラ・ウオルタ」(〜17500306)
1748年3月7日-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルマデ・イ・アッハス」アルマンスール・アルセイ2世の息子(〜17750904死去)
1748年3月8日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ボウイス侯「ウィリアム・ハーバート」廃絶
1748年3月8日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|延享5年2月10日|名古屋に蟹養育を中心とした官許立の巾下学問所を創設(明倫堂のはじまり)
1748年3月14日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「ハフリー・ブランド」(〜17540531)
1748年3月23日-01:00|スペイン| |||スペイン・バレンシア地震、死者多数
1748年4月-05:30|インド| |||<死去>キジャンガル国マハラジャ「ラージ・シン」
1748年4月-05:30|インド| |||<即位>キジャンガル国マハラジャ「ハート・ウル・シン」(〜1781年没)、対抗マハラジャ「サマント・シン」(⇒1756年、ルプナガル国ラジャ〜17650821没)
1748年4月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・ニコラエ・マウロルダット」(3回目〜17490831)
1748年4月-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「ゲリゴール・マティ・ギカ」(2回目〜17520823)
1748年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・マリノ・ジヤンツ」(フランチェスコ・アントニオ・リギ)
1748年4月1日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「コカ・ハシ・ベク・ムハメド・シャ」(4回目〜17480425)
1748年4月11日-09:00|日本| ||延享5年3月14日|<死去>鳥丸光栄(60歳)内大臣、歌人
1748年4月17日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「運営委員会(フレイ・マノエル・デ・サント・イネス/グイクトリア・デ・ファリア・エ・メロウ・アレンジャン・カスッロ・ブランコ/フェルナント・ホセ・ダ・クニャ・ペレイラ)」(〜17490112)
1748年4月17日-09:00|日本|東京都|延享5年3月20日|町方の女子の羽織着用が禁止される
1748年4月20日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アーサー・大司教ジョージ・ストーン/ニューボート男爵ロバート・ジョセリン/ヘンリー・ポイル」(〜17490920)
1748年4月26日-05:30|インド| |||<死去>ムガル帝国皇帝「ムハンマド・シャー」45歳
1748年4月26日-05:30|インド| |||<即位>ムガル帝国皇帝「アフマド・シャー」(〜17540602退位〜17750101死去49歳)
1748年4月28日-05:30|インド| |||<就任>アワド国統治者(スバ・タル・ナワブ、ワジル・アル=ママリク)「アブール・マンスール・モハメド・モキム・カーン」(6.29まで代行〜17530513)
1748年5月14日-01:00|オーストリア| |||<初演>クリストフ・グイバルト・グリュック《歌劇「認められたセラムーテ」》
1748年5月15日-09:00|日本|J.フロントリイック|延享5年4月18日|<死去>下村彦右衛門(61歳)商人、大丸屋の創業者
1748年5月15日-09:00|日本|富山県南砺市|延享5年4月18日|前田家の臣大槻伝蔵、藩主毒殺の嫌疑により越中五箇山の祖山村に流刑(10月4日自害)
1748年5月18日-02:00|ウクライナ| |||<死去>クリミア・ハン国ハン「セリム2世ギレイ」
1748年5月22日-05:30|インド| |||<即位>ニザム王国2代国王「ナシル・ジヤング」(〜17501216第二次カーナティック戦争で戦死)
1748年5月27日-08:00|中国| ||清・乾隆13年5月|蘇州で米騒動が発生、年内に中国各地に波及し、食糧暴動が頻発
1748年5月29日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「アルスラン・ギレイ」(1期目〜1756.3)
1748年6月1日-05:30|インド| |||<死去>アッジャマー王朝ハイデラバード・ニザム「カマルッディーン・ハーン」
1748年6月1日-05:30|インド| |||<就任>ハイデラバード国統治者(ニザム・アル=モルク)「ナシル・ジヤン・ミル・アフマド」(〜17501216没)
1748年6月1日-05:30|インド| |||<即位>アッジャマー王朝ハイデラバード・ニザム「ナシル・ジヤング」(〜17501216死去)
1748年6月14日-09:00|日本|愛媛県大洲市|延享5年5月19日|大洲領中村より出火、104軒を焼失
1748年6月25日-09:00|日本| ||延享5年5月30日|<死去>佐久間柳居(63歳)俳人
1748年7月15日-09:00|日本|新潟県柏崎市|延享5年6月20日|<死去>越後椎谷藩1万石「堀直旧」(30歳)⇒従弟「堀直喜」が継ぐ(⇒寛延4年6月22日(17510714)、死去)
1748年7月21日-09:00|日本|千葉県館山市|延享5年6月26日|<死去>安房国北条藩15000石「水野忠定」(58歳)⇒次男「水野忠見」が継ぐ(⇒安永4(1775)年8月19日、46歳で死去)
1748年7月24日-09:00|日本|新潟県長岡市|延享5年6月29日|<死去>越後長岡藩74000石「牧野忠敬」(20歳)⇒弟「牧野忠利」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年7月24日、22歳で死去)

1760迄 (2926件)

1748年7月25日-09:00|日本| ||延享5年7月1日|朝鮮人風の衣装を身に着けて、辻踊りをするのが禁じられる
1748年8月-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「イケン・アリ・パシャ」(~1週間)
1748年8月5日-09:00|日本| ||寛延1年7月12日|「寛延」に改元
1748年8月12日 05:00|ハイチ/フランス| ||<就任>フランスのサント・ミシゴ 総督「コンフラン伯ユベール・ド・ブリエヌ」(~17510329)
1748年8月22日-09:00|日本|埼玉県行田市|寛延1年7月29日|<交替>武蔵忍藩10万石「阿部正喬」隠居⇒甥「阿部正允」が継ぐ(⇒安永9(1780)年11月24日、死去)
1748年8月24日-09:00|日本|群馬県高崎市|寛延1年8月|<陣屋移転>上野篠塚藩12200石「松平忠恒」⇒上野上里見藩2万石(⇒明和4(1767)年閏9月28日、上野小幡藩へ移封)
1748年8月26日-09:00|日本|京都府亀岡市|寛延1年8月3日|<移封>丹波篠山藩5万石「松平信岑」⇒丹波亀山藩5万石(⇒宝暦13(1763)年11月20日、死去)
1748年8月26日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|寛延1年8月3日|<移封>丹波亀山藩5万石「青山忠朝」⇒丹波篠山藩5万石(⇒宝暦10年7月15日(17600825)、死去)
1748年9月1日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ニヤンチ・アフメド・パシャ」(~1752年1月)
1748年9月6日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛延1年8月14日|<初演>竹田出雲・竹田出雲・三好松洛・並木千柳, 人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」大坂竹本座
1748年9月9日-09:00|日本|三重県四日市市|寛延1年8月17日|<死去>伊勢八田藩主「加納久通」(76歳)若年寄⇒養嗣子の加納久堅(実兄加納政信の五男)が継いだ
1748年9月14日-09:00|日本|千葉県野田市|寛延1年8月22日|<交替>下総関宿藩58000石「久世暉之」隠居⇒養子「久世広明」が継ぐ(⇒天明5(1785)年1月24日、死去)
1748年9月15日-05:30|インド| ||<即位>ラッポール太守「Faizullah Khan」(~17930724), 摂政「Hafiz Rahmat Khan」(~17740423)
1748年9月22日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|寛延1年8月30日|<死去>豊後日出藩25000石「木下俊能」(24歳)⇒弟「木下俊泰」が継ぐ(⇒明和5(1768)年7月29日、43歳で死去)
1748年9月24日-09:00|日本|広島県|寛延1年9月2日|中国地方で風雨洪水/安芸で死者132人、6421戸が流出/広島・三原両城破損
1748年9月26日 06:00|ケニア/スペイン| ||<就任>スペイン領ケニア総督・総司令官・大統領「ホセ・アラウ・ヨ・イリオ」(~17520117)
1748年9月29日-03:30|イラン| ||<即位>アフシャール王朝シャー「エブラヒム」(12.8まで摂政~1749年5月没)
1748年9月30日-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島ランタ 総督「Johan Elias van Mylendonk」(~17551216)
1748年10月-01:00|ベルギー| ||<就任>リンブルグ総督代行「カール・ヨーゼフ・グラーフ・バウティヤニー」(~17490423)
1748年10月 00:00|モロッコ| ||<復位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(5回目~17571110死去)
1748年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「コスタンティーノ・ボネリ」「ボネ・イ・ゾリ」
1748年10月3日-09:00|日本|岡山県倉敷市|寛延1年9月11日|<死去>岡山新田藩15000石「池田政晴」(45歳)⇒次男「池田政員」が継ぐ(⇒明和4(1767)年正月25日、31歳で死去)
1748年10月18日-01:00|イタリア| ||<即位>パルマ公「フィリッポ」(~17650718死去45歳)
1748年10月18日-01:00|オーストリア/ドイツ/イギリス| ||シュレジエン戦争が終結/ロシアが介入する姿勢を見せたため、ヨーロッパ各国がアヘンの和約を結ぶ。オーストリア王位継承戦争終結。敗れたオーストリアはシレジアをプロシヤなどに割譲。同盟側はマリヤ・テレジアの帝位相続権を承認
1748年11月-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダット・ワリス「ムハンマド・テリキ・パシャ」(~1751年)
1748年11月-01:00|フランス| ||フランスの思想家モンテスキューが「法の精神」を刊
1748年11月5日-09:00|日本|滋賀県長浜市|寛延1年10月15日|<加増>近江宮川藩1万石「堀田正陳」+3000石⇒13000石(⇒宝暦3(1753)年10月4日、45歳で死去)
1748年11月7日-09:00|日本| ||寛延1年10月17日|<死去>橘守国(70歳)狩野派の絵師
1748年11月7日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|寛延1年10月17日|<死去>三井高房(65歳)豪商
1748年11月21日-09:00|日本|愛知県岡崎市|寛延1年閏10月1日|<拝領>三河西大平藩1万石「大岡忠相」(⇒寛延4(1751)年12月19日、死去)
1748年11月22日-05:30|インド| ||<就任>ファルカート 国支配者(ナワブ)「イーム・カーン」(~1749年)
1748年11月22日-04:00|レユニオン/フランス| ||<就任>ブルボン島知事「Gerard Gaspard de Ballade」(2期目~17490317)
1748年12月2日 00:00|イギリス| ||<死去>サマセット公「チャールズ・シーモア」
1748年12月2日 00:00|イギリス| ||<就任>サマセット公「アルジャーノン・シーモア」(~17500207死去)
1748年12月11日-09:00|日本| ||寛延1年閏10月21日|<死去>堀内仙鶴(74歳)茶人、俳人
1748年12月20日-09:00|日本|静岡県牧之原市|寛延1年11月|<加増>遠江相良藩15000石「板倉勝清」⇒2万石(⇒寛延2(1749)年2月6日、上野安中藩に移封)
1748年12月22日-01:00|リトベシユタイン| ||<死去>リトベシユタイン公「ヨハン・フレデリック・カール」
1748年12月22日-01:00|リトベシユタイン| ||<復位>第4代リトベシユタイン公「ヨーゼフ・ヴァンツェル1世」(~17720210死去)
1748年12月22日-09:00|日本| ||寛延1年11月3日|幕府が町人・農民がかってに苗字を名乗り、帯刀することを禁じる
1749年-08:00|マレーシア| ||<即位>パタニ王国国王「ラジャ・ロング・ヌー」(~1771年)
1749年-08:00|インドネシア| ||<即位>マタラム王国スルタン「ハクワ・ウノ3世」(⇒1755年スラカルタとジョグジャカルタに分裂しスラカルタ君主~1788年死去)
1749年-08:00|インドネシア| ||ハクワ・ウノ2世の死後、ハクワ・ウノ3世(-1788)の即位をめぐってマタラム王国で争い(第3次

1760迄 (2926件)

ジャワ継承戦争～1755)

1749年-07:00|ラオス| |||<死去>ルアンパバーン王国国王「オ・アン(インターム)」
1749年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「チェッタ5世」(~1755年没)
1749年-07:00|ラオス| |||<即位>ルアンパバーン王国国王「インターム」(~同年)⇒「ソティカ・オマネ」(~1771年死去)
1749年-05:30|インド| |||<就任>アウット国統治者(パンツ・フ・ラティネイ)「シュリニガ・アスラオ・ガンカタル」(1回目~1752年)
1749年-05:30|インド| |||<就任>ウアンカナル国統治者(ラージ・サヒブ)「ハロジ・ケサルシンジ」(~1784年没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>コーチン国統治者(マハラジャ・ガンカダラ・コヴァイラディ・カリカル)「ラマヴァルマ7世」(~1760年8月没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>シムル国ラジャ「フラタップ・フ・ラカシュ」(~1754年没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>シヒ国統治者(ラオ)「フリスタ・イ・シン」(~1772年没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>スルグジャ国ラジャ「ハート・ウル・シン・デオ」(~1758年)
1749年-05:30|インド| |||<就任>ハンガハル国ラジャ「マン・パル」(~1770年没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>ファルカバート国支配者(ナワブ)「アフマド・カーン・ガール・ジャン」(~1771年11月没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>ブンディ国統治者(オ・ラジャ)「ウメイト・シン」(1回目~1770年)
1749年-05:30|インド| |||<就任>ホンチ国ラジャ「アスト・ヤール・カーン」(~1760年没)
1749年-05:30|インド| |||<就任>マクタイ国ラジャ「ヒルジ・クネ・ラニ」(~不明)⇒「タール・シャー」(~1765年)
1749年-05:30|インド| |||ティルウイタムコト国にウアダ・クムルが併合される
1749年-05:00|パキスタン| |||<死去>カラット国ワリ「ムハムマド・カーン」
1749年-05:00|パキスタン| |||<就任>カラット国ワリ「サイン・ナサル・カーン1世」(~1794年没)
1749年-04:00|モーン| |||<死去>ヤーリハ王朝イマム「ヒラフ・イブン・ヒムヤル」
1749年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「アレクサンドル5世」(3回目~1752年3月)
1749年-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「アサド・ハーン・アフガン」(タフリーズで対立~1756年)
1749年-03:00|エチオピア| |||<即位>アサ・スルタン国スルタン「ケファム・ハンマト・イブン・ケダフ」(~1779年)
1749年-01:00|ドイツ| |||<就任>イゼンブルク=ビュッテインゲン伯「グスタフ・フリートリヒ」(~1768年)
1749年-01:00|ドイツ| |||<就任>フンテン王国首相「Georg Dietloff von Arnim-Boitzenburg」(~1753年)
1749年-01:00|フランス| |||シャトレ夫人がニュートンのプリンキピアをフランス語訳
1749年-01:00|フランス| |||ビュフォンが「自然誌」の刊行を開始
1749年 00:00|イギリス| |||<死去>2代ダンバートン伯「ジョージ・ダグラス」断絶
1749年 00:00|セーガル| |||<就任>ケール統治者(ダンメル)「マ・バ・ティオ・サンブ」(~1757年)
1749年 00:00|セーガル| |||<就任>フカ・トール統治者(デ・ナンケ・サヒブ)「スレー・ナジ」(2回目~1752年頃)
1749年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||ブラリアはポルトガル王領に組み込まれた
1749年 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島副王「Rouve de La Perelle」司令官(2期目~1753年)
1749年 04:30|ベネズエラ| |||ギブスア会社の横暴に反対し大反乱(レオンの反乱). クリオジョによる最初の反乱となる
1749年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督・大統領「マヌエル・デ・モンティアノ・イ・ルヤント」(~1751年)
1749年 05:00|ハイチ/フランス| |||フランス人入植者がポルト・フランス建設
1749年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Tomas Velez Cachupin」(~1754年)
1749年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督「メルチョル・デ・ナブレ」(~1752年)
1749年 06:00|カナダ/フランス/アメリカ| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ラ・ジョンキエール侯爵ジャック=ピエール・ド・タファネル・デ・ラ・ジョンキエール」(~17520317死去)
1749年1月4日-09:00|日本|長崎県大村市|寛延1年11月16日|<死去>肥前大村藩24973石「大村純富」(38歳)⇒長男「大村純保」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年12月16日、27歳で死去)
1749年1月5日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛延1年11月17日|<死去>播磨姫路藩15万石「松平明矩」(36歳)⇒12月27日、長男「松平朝矩」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年1月22日、前橋藩15万石へ移封)
1749年1月7日-09:00|日本|広島県福山市|寛延1年11月19日|<交替>備後福山藩10万石「阿部正福」隠居⇒次男「阿部正右」が継ぐ(⇒明和6(1769)年7月12日、死去)
1749年1月9日 00:00|イギリス| |||<就任>ペンソルック伯・モンゴメリー伯「ヘンリー・ハーバート」(~17940126死去)
1749年1月9日 00:00|イギリス| |||<退任>ペンソルック伯・モンゴメリー伯「ヘンリー・ハーバート」
1749年1月12日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ラウラジ・オバントニオ・デ・アルメイダ・ソアレス・エ・ポルトガル」(~17530731)
1749年1月19日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛延1年12月|<初演>歌舞伎「恋淵血夕絞染」角の芝居、坂東豊三郎座
1749年1月19日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛延1年12月|<初演>歌舞伎「假名手本忠臣蔵」大坂中の芝居、嵐三五郎座
1749年1月22日-08:00|中国| |||清・乾隆13年12月4日|清朝の中央政治機構の内閣大学士の制度が改められ、三殿三閣制となる
1749年1月28日 04:00|アンギラ/イギリス| |||<死去>イギリス領アンギラ副総督「アーサー・Hodge」
1749年1月28日 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「John Welch」(~1750年)
1749年2月2日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<就任>サクレメント新植民地ポルトガル総督「Luis Garcia de Bivar」(1期目~17530125)
1749年2月17日-08:00|中国| |||清・乾隆14年1月|清で四川の大金川反乱の指導者が投降し反乱が終結
1749年3月3日-09:00|日本|東京都千代田区|寛延2年1月15日|<解任>老中「酒井忠恭」
1749年3月10日-09:00|日本|群馬県前橋市|寛延2年1月22日|<移封>播磨姫路藩15万石「松平朝矩」⇒上野国前橋藩15万石(⇒明和4(1767)年閏9月15日、川越藩15万石へ移封)

1760迄 (2926件)

1749年3月10日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛延2年1月22日|<移封>上野厩橋藩15万石「酒井忠恭」⇒播磨姫路藩15万石(⇒明和7(1770)年閏6月23日、八男「忠交」に姫路新田藩1万石を分与立藩⇒安永元(1772)年7月13日、死去)
1749年3月14日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「Sir Humphrey Bland」(~17540531)
1749年3月16日 06:00|アメリカ| |||「ヴァージニア」のハイツ会社、ハイツ川上流に20万エーカーの土地を下付される
1749年3月17日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|寛延2年1月29日|<死去>上総大多喜藩2万石「松平正貞」(68歳)⇒養子「松平正温」が継ぐ(⇒明和4(1767)年、隠居)
1749年3月24日-09:00|日本|愛知県豊田市|寛延2年2月6日|<移封>上野安中藩2万石「内藤政苗」⇒三河挙母藩2万石(⇒明和(1766)年11月26日、隠居)
1749年3月24日-09:00|日本|群馬県安中市|寛延2年2月6日|<移封>遠江相良藩2万石「板倉勝清」⇒上野安中藩2万石(⇒明和4(1767)年、1万石加増され3万石)
1749年3月24日-09:00|日本|静岡県牧之原市|寛延2年2月6日|<移封>遠江国相良藩1万石「本多忠央」⇒遠江相良藩1万石(⇒宝暦8(1758)年10月25日、改易)
1749年3月25日-01:00|スペイン| |||スペイン・バレンシア地震、死者5千
1749年3月27日-09:00|日本|群馬県高崎市|寛延2年2月9日|<交替>上野高崎藩72000石「松平輝規」隠居⇒長男「松平輝高」が継ぐ(⇒安永8(1779)年12月15日、1万石加増され82000石)
1749年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」
1749年4月9日-01:00|オーストリア| |||<初演>クリストフ・ウーリハルト・グルク《歌劇「神々の闘い」》
1749年4月17日-02:00|ルーマニア| |||モルダヴィアで農奴制が廃止される
1749年4月17日-09:00|日本| |||寛延2年3月1日|幕府が御三家・大名・旗本が別荘地を新たに買い入れることを禁止し、また筋違いの譲渡を禁じる
1749年4月22日-01:00|フランス| |||<初演>ジャン・フィリップ・ラモ《オペラ「ナイス」》
1749年4月22日-09:00|日本|神奈川県横浜市金沢区|寛延2年3月6日|<死去>武蔵六浦藩12000石「米倉里矩」(17歳)⇒養子「米倉昌晴」が継ぐ(⇒天明5(1786)年12月20日、死去)
1749年4月23日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルグ総督「ロートリンゲンとバル公カール・アレクサンダー」(2回目~17800704)
1749年4月24日-09:00|日本|京都府京都市東山区|寛延2年3月8日|京都三十三間堂通矢の「金堂百射」で、山本郷右衛門が76総矢数100中)を記録
1749年4月27日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《組曲「王宮の花火の音楽」》
1749年5月-03:30|イラン| |||<即位>アフシャール王朝シャー「イスマイル・ロフ」(1回目~12.30)
1749年5月24日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Antoine Marie Desforges-Boucher」(1期目~8.23)
1749年6月10日-04:00|オーストリア| |||<即位>マリア・テレーシア王朝「マリア・アントニエッタ・マリア・イザベラ・マリア・ヨゼフ」(~17831214没)
1749年6月18日-09:00|日本| |||寛延2年5月4日|<死去>早川伝四郎(52歳)歌舞伎役者、歌舞伎作者
1749年6月24日-09:00|日本|長崎県島原市|寛延2年5月10日|<死去>肥前島原藩65900石「松平忠刻」(34歳)⇒7月13日、長男「松平忠祇」が継ぐ(⇒23日、下野宇都宮藩65900石に移封)
1749年7月4日-09:00|日本|東京都|寛延2年5月20日|町奉行が、町方の婦女が菅笠の代りに青紙張りの日傘をさすことを禁じる
1749年7月5日 00:00|イギリス| |||<死去>2代モンタギュー公・2代モンザマー侯「ジョン・モンタギュー」爵位廃絶
1749年7月9日 06:00|カタール| |||カタールでハリファスが創設/以後、英領北米の商業中心地・陸海軍基地
1749年7月13日-05:30|インド| |||<即位>ジョージ・ブルック・ラム・シン(1回目~1751年7月)
1749年7月16日-09:00|日本|熊本県|寛延2年6月3日|<死去>細川利恭(49歳)前肥後熊本新田藩主
1749年7月25日-09:00|日本|静岡県富士宮市|寛延2年6月12日|<創建>大石寺「五重塔」
1749年8月-05:30|インド/イギリス| |||イギリス東インド会社がマドラスを回復
1749年8月 06:00|アメリカ| |||フィラデルフィアでキンらがアメリカ初の劇団をつくる
1749年8月3日-05:30|インド| |||<就任>アークト国支配者「モハメド・アリ・カーン・ワシヤ」(~17951013没)
1749年8月3日 00:00|イギリス/インド| |||フランス、チャンドー・サーヒブとムザッファル・ジャングの連合軍は、カルナータ太守アンワルッディーン・ハンをアンゴールで破り殺害し(アンゴールの戦い)第二次カーナティック戦争が勃発
1749年8月3日-09:00|日本| |||寛延2年6月21日|幕府が持参金つきの養子縁組をした漆奉行粕谷金太夫と勘定方勘野喜四郎を死罪にする
1749年8月14日-09:00|日本| |||寛延2年7月2日|<寛延2年中国地方畿内風水害>瀬戸内海沿岸の備中、備前、播磨から日本海側の但馬、丹後、京都から江戸にいたる各地が大風雨に襲われ、特に播磨国の被害が大きく、姫路城下では大洪水となり、1000人余死亡、姫路城の城門、塀、石垣などが崩れて流失し、被害地域全体で3000人余が死亡した
1749年8月22日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|寛延2年7月10日|<死去>薩摩藩72万8700石「島津宗信」(22歳)⇒弟「島津重年」が継ぐ(⇒宝暦5年6月16日(17550724)、死去)
1749年8月31日-09:00|日本| |||寛延2年7月19日|幕府が非行の御家人3名を死罪とし、他の3名を遠島とする
1749年9月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「イオアン・ステファネスク」(~12月)
1749年9月4日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|寛延2年7月23日|<移封>肥前島原藩65900石「松平忠祇」⇒下野宇都宮藩65900石(⇒宝暦12(1762)年9月、隠居)
1749年9月4日-09:00|日本|長崎県島原市|寛延2年7月23日|<移封>下野宇都宮藩77850石「戸田忠盛」⇒肥前島原藩77000石(⇒宝暦4(1754)年7月25日、隠居)
1749年9月5日-09:00|日本| |||寛延2年7月24日|<死去>初代鶴沢友次郎(不明)浄瑠璃三味線方
1749年9月6日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Joseph Brenier」(1期目~17501016)
1749年9月6日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛延2年7月25日|<初演>竹田出雲・竹田出雲・三好松洛・並木千柳、人形

1760迄 (2926件)

浄瑠璃「双蝶々曲輪日記」大阪竹本座

- 1749年9月8日-10:00|グァム/北マリア諸島/スペイン| |||<就任>マリア諸島知事「Enrique de Olavide y Michelena」(1期目~17561106)
- 1749年9月12日-09:00|日本| ||寛延2年8月|<襲名>2代横綱「丸山権太左衛門」(~現役中没)
- 1749年9月12日-09:00|日本|京都府京都市|寛延2年8月|<初演>歌舞伎「双蝶々曲輪日記」京都嵐三右衛門座
- 1749年9月13日-09:00|日本|長野県上田市|寛延2年8月2日|<交替>信濃国上田藩53000石「松平忠愛」隠居⇒長男「松平忠順」が継ぐ(⇒天明3(1783)年2月8日、死去)
- 1749年9月14日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー知事「Richard Temple」
- 1749年9月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マチュセツ湾直轄植民地総督代理「スペンサー・フィッポス」(~17530807)
- 1749年9月16日-05:30|インド| |||<就任>ランプール国統治者(ナワブ)「ファイズ・ラ・カーン」(~17940717)、摂政「サルタル・ハフィズ・ラフマト・カーン」(~1752年)
- 1749年9月16日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<死去>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテ・デ・オ軍事司令官「Domingo Santos de Uriarte」
- 1749年9月16日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテ・デ・オ軍事司令官代理「Francisco de Gorriti」(~1750年)
- 1749年9月20日-09:00|日本|島根県安来市|寛延2年8月9日|<交替>出雲広瀬藩3万石「松平近明」隠居⇒長男「松平近輝」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年5月9日、死去)
- 1749年9月20日 11:00|日本|京都府京都市|寛延2年8月9日|夜、東本願寺厨火災
- 1749年9月21日-09:00|日本|秋田県秋田市|寛延2年8月10日|<死去>出羽久保田藩205800石「佐竹義峯」(60歳)⇒10月16日、孫「佐竹義真」が継ぐ(⇒宝暦3(1753)年8月20日、死去)
- 1749年9月29日-09:00|日本|千葉県野田市|寛延2年8月18日|<死去>久世暉之(51歳)前下総関宿藩主
- 1749年10月 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ暫定知事「de Lafond」(1期目~1750.12)
- 1749年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロトゥー・ニコ・ベルツィ」(マルク・アントニオ・タッシニ)
- 1749年10月3日 00:00|イギリス| |||<就任>ノサンバラント伯「アルジャーノン・シーモア」(~17500207死去)
- 1749年10月12日-09:00|日本|東京都|寛延2年9月2日|<死去>初代瀬川菊之丞(57歳)歌舞伎役者
- 1749年10月18日 00:00|イギリス| |||<就任>初代テンプル女伯「ヘスター・グレンヴィル」(~17521006死去)
- 1749年10月23日-09:00|日本|茨城県笠間市|寛延2年9月13日|<死去>常陸笠間藩8万石「牧野貞通」(43歳)⇒弟「牧野貞長」が継ぐ(⇒寛政4(1792)年3月21日、隠居)
- 1749年10月26日 06:00|アメリカ| |||ジョージア植民地で公式に奴隷制度の導入が認可される
- 1749年11月5日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ副王「ウイラル侯爵セル・アルフォンソ・ヒサロ」(~17531124)
- 1749年11月7日-09:00|日本|東京都千代田区|寛延2年9月28日|<就任>老中「酒井忠寄」(~宝暦14年5月26日)
- 1749年11月10日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「ハイメ・サンス」(~17610402)
- 1749年11月19日-09:00|日本|茨城県結城市|寛延2年10月10日|<死去>下総結城藩18000石「水野勝庸」(32歳)⇒弟「水野勝前」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年4月6日、隠居)
- 1749年11月23日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー知事「John Huske」(~17610118死去)
- 1749年11月24日-01:00|ベルギー| |||<就任>レックハイム伯「ヨハン・フレデリック・ゴッペル1世」(~17951001)
- 1749年11月24日-09:00|日本|愛知県豊橋市|寛延2年10月15日|<移封>遠江浜松藩7万石「松平信復」⇒三河吉田藩7万石(⇒明和5(1768)年9月19日、死去)
- 1749年11月24日-09:00|日本|京都府京都市|寛延2年10月15日|<就任>京都所司代「松平資訓」(⇒1752(宝暦2年3月26日))
- 1749年11月24日-09:00|日本|静岡県浜松市|寛延2年10月15日|<移封>三河吉田藩7万石「松平(本庄)資訓」⇒遠江浜松藩7万石(⇒宝暦2(1752)年3月26日、死去)
- 1749年11月25日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|寛延2年10月16日|<死去>肥前蓮池藩52625石「鍋島直恒」(49歳)⇒翌年3月22日、長男「鍋島直興」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年5月29日、死去)
- 1749年11月26日-09:00|日本|広島県福山市|寛延2年10月17日|鞆原町出火、焼失家屋244軒
- 1749年11月29日-01:00|トイッ| |||<死去>ヘッセン＝ローテンブルク方伯「エルスト2世レオポルト」
- 1749年11月29日-01:00|トイッ| |||<就任>ヘッセン＝ローテンブルク方伯「コンスタンティン」(~17781230死去)
- 1749年11月30日-09:00|日本|福井県福井市|寛延2年10月21日|<死去>越前福井藩30万石「松平宗矩」(35歳)⇒12月7日、養子「松平重昌」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年3月18日、16歳で死去)
- 1749年12月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・ミハイル・ラコヴィツァ」(1回目~17530703)
- 1749年12月1日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Fray Julian de Arriaga y Rivera」(~17510622)
- 1749年12月4日-09:00|日本|和歌山県新宮市|寛延2年10月25日|<死去>紀伊新宮藩35000石(紀州藩附家老)「水野忠昭」(50歳)⇒11月19日、長男「水野忠興」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年6月28日死去)
- 1749年12月5日-09:00|日本|大阪府豊中市|寛延2年10月26日|<死去>摂津麻田藩1万石「青木一都」(29歳)⇒翌年2月19日、弟「青木見典」が継ぐ(⇒宝暦4(1754)年8月14日、死去)
- 1749年12月9日-09:00|日本|沖縄県|寛延2年10月30日|<死去>惣慶忠義(64歳)琉球の歌人、和文学者
- 1749年12月15日-05:30|インド| |||<就任>マフラツ国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「ラジャラム2世」(~17771211没)
- 1749年12月17日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「アトキア伯爵ルイス・ペドロ・ペレグリーノ・デ・カルヴァリョ・デ・メネズ・エ・タイヤ」(~17540817)
- 1749年12月23日-09:00|日本| ||寛延2年11月14日|<死去>丸山権太左衛門、赤痢のため(37歳)3代横綱

1760迄 (2926件)

1749年12月25日 00:00|イギリス| |||<死去>20代クロフォート 伯・4代リンジ ー伯「ジョン・リンジ ー」
 1749年12月25日 00:00|イギリス| |||<就任>21代クロフォート 伯・5代リンジ ー伯「ジョージ・リンジ ー=クロフォート」(~17810811死去)
 1749年12月31日-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ副王「アミール・アラム・カーン・コーサーイマ」(1回目~17500109)
 1750年-08:00|マレーシア| |||<死去>バンダ ハー・セリ・マハラジャ「トウン・ムタヒル・ビン・スルタン・アフドゥル・シヤリル・リアヤット・シャー」
 1750年-08:00|マレーシア| |||<死去>ペラ・スルタン「ムハンマド・シャー・アミヌッラー・イブン・ニアル・マルフム・スルタン・マンスール・シャー」(下ペラ支配)
 1750年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ 総督「Nicolaas Jongsma」(~1752年)
 1750年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事代行「統治ジュンタ(フレイ・ジヤシント・ダ・コンセイカソ/ジヨアン・ホネ(2期目))」(~1751年)
 1750年-08:00|マレーシア| |||<就任>レンバウ統治者(ウンダン・ルアク・レンバウ)「ダトウク・レラ・マハラジャ・ルンソー」(~1790年頃)
 1750年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチ王国スルタン「マフムド・シャー」(~1781年)
 1750年-08:00|インドネシア| |||<即位>スマタラ 君主「Bendara Saud」(~1767年)
 1750年-08:00|マレーシア| |||<即位>バンダ ハー・セリ・マハラジャ「トウン・ハサン・ビン・トウン・アッハス」(~1770年)
 1750年-08:00|インドネシア| |||<即位>バンテン王国スルタン「ラトゥー・サリフ・ファティマ」(~1752年死去)
 1750年-08:00|インドネシア| |||<即位>パメラサン君主「Adiningrat」(~1752年)
 1750年-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン「ムザファル・シャー3世ヨハン・ペルダウラット・ペル・アラム・シヤルラ・イブン・ニアル=マルフム・スルタン・マンスール・シャー」(2度目~17540830)
 1750年-08:00|インドネシア| |||<廃位>バンテン王国スルタン「ザイヌル・アルフィン」実質的統治者ラトゥー・ファティマがVOC総督ファン・イムホフの了解を得て
 1750年-05:45|ネパール| |||<死去>マスタング 王「ソナム・プスタンジン・ハンギヤル」
 1750年-05:45|ネパール| |||<即位>マスタング 王「ダバンガ・ルギヤル・ラトラジェ」(~1797年没)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>カンガラ国ラジャ「カムヒル・チャンドラ」(~1751年没)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>クトレハール国支配者(ライ・サハブ・シュリ)「ダラム・ハル」(~不明)⇒「グルハル」(~不明)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>サンジエリ国統治者(ターケル)「サルダールシジ」(~1789年没)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>シヴァガナ国ラジャ「ムトウ・ウアト・ウガナター・ペリヤダヤ・テヴァル」(~1772年)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>シバ 国ラジャ「マト・シン」(~1770年没)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>ジャソ国統治者(デユワン)「ハリ・シン」(~1775年)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>スラト国支配者(ナワブ)「サファル・ムハンマド・カーン・ミルザ・グルム・マフムド」(2回目~17580221)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>ソネール国ラジャ「ティグ・イヤ・シン・デオ」(~1770年没)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>ナガール国ラジャ「フルソッタム・シン・マンダッタ」(~1755年)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>パントーラ国統治者(デユワン)「ドゥルジヤン・シン」ジャソ国から分裂(~不明)⇒「メドニー・シン」(~不明)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>ペリ国統治者(デユワン)「アチャルジュ・シン」建国(~不明)⇒「クマン・シン」(~1780年頃没)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>マウルニ国ラジャ「チャクラール・ハニ・デブ」(~1761年)
 1750年-05:30|インド| |||<就任>ラティ国統治者(タクル・サヒブ)「ラカジ 3世ジバワ」(~不明)⇒「スルシジ 2世ラハジ」(~不明)
 ⇒「ルンジャシ・スルシジ」(~不明)⇒「ジジバワ 2世ルンジャシ」(~不明)⇒「ラカジ 4世ジバワ」(~不明)
 1750年-05:30|インド| |||<設立>チュイカタン国(サミタリ)
 1750年-05:30|インド| |||ティルウイタムコトウ国にテックムクルを併合
 1750年-05:00|パキスタン| |||<就任>フンザ 国ミル・タム「シャー・キスロ・カーン」(~1780年)
 1750年-05:00|パキスタン| |||<就任>マクラン統治者(サダム)「ムハバット・カーン」(2回目~1751年)
 1750年-04:30|アフガニスタン| |||サル・イ・ブルをアフガニスタンに編入/バダフشانはドゥッラーニーの下でアフガニスタン(カブール)に組み込まれた(~1793年頃)
 1750年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ジャワト 汗国ハン「タラ・ハサン・ハン」(~17890329死去)
 1750年-04:00|アルメニア/イラン| |||<即位>エリヴァン汗国ハン「ホセイン・アリ・ハン」(~1780年)
 1750年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ユキ王国統治者(オムカマ)「キタビブ 71世」(~1780年頃没)
 1750年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「スレイマン1世・アフ・ライ」(~1762年)
 1750年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バスラのムタサリフ「ベシール・ケスリイェリ・アフメット・ハシヤ」(~1768年)
 1750年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブガンダ 王国首相「Kabinuli」⇒「Lugoloobi」(~1780年)
 1750年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブソコラ統治者(オムバイト)「キョウコイ」(~1775年)
 1750年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ルジュンバラ統治者(オムカマ)「ハホロ」
 1750年-03:00|エメン| |||<即位>上ヤファ首長「Salih ibn Ahmad Al Harhara」(~1780年)
 1750年-03:00|ウガンダ| |||<即位>ブガンダ 王国国王「Kyabaggu Kabinuli」(~1780年死去)
 1750年-03:00|マダガスカル/フランス| |||フランスがマダガスカル/サン・マリー島を占領し、交易所を設立
 1750年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Ismail Pasha」(~同年)
 1750年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>ボチヤ統治者(マンボ)「ムテクワクワ」
 1750年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハフィズ・アフメド・ハシヤ」(2度目~1752年)
 1750年-01:00|ベナン| |||<就任>シユグのゲルマンシュ国統治者「クルク 1世」建国
 1750年-01:00|ニジェール| |||<就任>ドツツ支配者(サルマキヨイ)「アハ・ハカル」建国
 1750年-01:00|ベルギー| |||<就任>リーニユ公「クロード・ラモラル2世」(~1766年)
 1750年-01:00|ガボン| |||<即位>オルング 王国国王「レンコンジエ」⇒「グウェラング・イウォ」(~1790年)
 1750年 00:00|ガーナ| |||<死去>アジャンティ王「林・クワレ・カキエ」
 1750年 00:00|トーゴ| |||<就任>ココツ統治者(ソマ)「ナ・ビエマ・ボンサフォ1世」
 1750年 00:00|セネガル| |||<就任>ジョロ帝国統治者(フルバ・ジョロ)「ラット=コトウ」(~1755年頃)

1760迄 (2926件)

1750年 00:00|トコ | |||<就任>チャンパ 統治者(オウエ)「ゲナ」建国
1750年 00:00|ガナ | |||<即位>アシャンティ王クシ・林・アダム(~1764年)
1750年 00:00|コートジボワール | |||<即位>サカスーのバウル王国女王「ナン・アブラ・ホク」建国(~1760年頃)
1750年 00:00|イギリス/グアトルプ | |||英国船に積み込まれた黒人奴隷350人が、グアトルプ 島付近で反乱。船を乗
っ取り脱出を図るも、軍により捕獲される
1750年 00:00|シエラレオネ/イギリス | |||王立アフリカ会社がベンス島に残した城砦がグランド・サージェント・アント・オスワルド 社の手に
渡る
1750年 03:00|ウルグアイ/スペイン | |||<就任>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテビデオ軍事司令官「Juan de Achucarro Mar
in」(~1751年死去)
1750年 04:00|マルティニーク/フランス | |||<死去>フランス領アンティル総督「Charles de Tubieres de Pastel de Levoy de Grim
oire」
1750年 04:00|モントセラト/イギリス | |||<就任>イギリス植民地モントセラト大統領「George Frye」(~1754年死去)
1750年 04:00|アンギラ/イギリス | |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「ベンジヤミン・Gumbs2世」(~1768年死去)
1750年 04:00|トミニカ共和国/スペイン | |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「ジョン・ジョセフ・ゴロンフス」(~10.8没)
1750年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス | |||<就任>バーズン諸島副知事「ジェームス・パーセル」(~1751年)
1750年 04:00|マルティニーク/フランス | |||<就任>フランス領アンティル総督「Maximin de Bompar」(~1757年)
1750年 04:00|サン・バルテルミー/フランス | |||<就任>フランス領サン・バルテルミー島司令官「Greaux」
1750年 04:00|ガイアナ/オランダ | |||オランダ 人によるデメラ入植(イセ林 に従属)
1750年 05:00|ケイマン諸島/イギリス | |||<就任>イギリス領ケイマン諸島主任判事「ウィリアム・Cartwright」(~1776年)
1750年 05:00|ペルー/スペイン | |||第2次討伐隊、モバンバ を攻略、アタワパ の根拠地エノをめざすが、ふたたび惨敗
1750年 06:00|ホンジュラス/スペイン | |||<就任>コマヤグア県暫定総督「ペドロ・トゥルッコ」(~1751年)
1750年1月-02:00|モザンビーク/ポルトガル | |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・デ・アマ、モモバ 総司令官「フランシスコ・デ・メロ・イ・カ
ストロ」(~17520419)
1750年1月3日-02:00|トルコ | |||<就任>オスマン帝国大宰相「デ・イヴァ・イタル・メフメト・エミン・パシャ」(~17520701)
1750年1月3日-09:00|日本|東京都|寛延2年11月25日|<死去>初代姉川新四郎
1750年1月6日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛延2年11月28日|<初演>並木千柳・並木千柳・三好松洛、人形浄瑠璃「源
平布引瀧」大阪竹本座
1750年1月10日-03:30|イラン | |||<就任>ペルシャ副王「ユセフ・アリ・カーン・ジャレル」(~3月)
1750年1月13日-03:30|イラン | |||<即位>サファヴィー朝シャー「ソレイマン2世」(マシヤト で~3.20)
1750年1月13日 00:00|ポルトガル/スペイン/ブラジル/ウルグアイ | |||マトリート 条約締結/スペインはサラメント(現ウルグアイ)を手
に入れるかわりに、ウルグアイ川流域のシエ・ミシオス をポルトガルに割譲/ブラジルのアマゾン、パラナ地域領有が認められる
1750年1月22日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|寛延3年9月27日|<加増>遠江横須賀藩3万石「西尾忠尚」+5000石→
35000石(⇒宝暦10(1760)年3月10日、死去)
1750年1月28日-09:00|日本|福島県会津若松市|寛延2年12月21日|(~27日)陸奥会津藩23万石(藩主:松平容貞)、凶
作による大一揆が発生
1750年2月7日-08:00|中国 | |||朝鮮・乾隆15年|<死去>ジュンガル・ホントイ「ツェワン・ドルジ・ナムジャル」
1750年2月7日-08:00|中国 | |||朝鮮・乾隆15年|<即位>ジュンガル・ホントイ「ラマ・ドルジ」(~17530113、死去)
1750年2月7日 00:00|イギリス | |||<死去>サマセット公・ノーサンバーク・ラント 伯「アルジャーノン・シーモア」
1750年2月7日 00:00|イギリス | |||<就任>2代ノーサンバーク・ラント 伯「ヒュー・パーシー」(⇒17661022初代ノーサンバーク・ラント 公・初代パー
シー伯~17860606死去)
1750年2月7日 00:00|イギリス | |||<就任>サマセット公「エドワード・シーモア」(~17571215死去)
1750年2月22日-09:00|日本|愛媛県大洲市|寛延3年1月16日|大洲藩領浮穴郡小田町・二名・露峰・薄木・大瀬村など
の農民18000人、凶作のため、特権商人の暴利停止・6か村庄屋の罷免を要求、内子河原に屯集(~28日)
1750年2月26日-05:00|モルデイグ | |||<即位>モルデイグ・スルタン「イマート・アッデイン3世ハナマド・アル・ムカラム」(17521212からマハラ
リの囚人~17570625没)
1750年2月26日-09:00|日本 | |||寛延3年1月20日|幕府が百姓の徒党・強訴・逃散を禁ずる
1750年2月26日-09:00|日本|香川県丸亀市|寛延3年1月20日|讃岐丸亀藩で一揆
1750年3月-03:30|イラン | |||<就任>ペルシャ副王「アミール・アラム・カーン・ホーザイ」(2回目~17541202没)
1750年3月 06:00|アメリカ | |||フランクリンが避雷針を発明
1750年3月3日-09:00|日本|三重県三重郡菰野町|寛延3年1月25日|<死去>伊勢菰野藩11000石「土方雄房」隠居⇒弟
「土方雄端」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年9月17日、死去)
1750年3月8日-09:00|日本 | |||寛延3年2月|幕府が諸国に人口調査を命じる/その数は、男1,381万8,654人、女1,2
09万9,176人、計2,591万7,830人
1750年3月10日-01:00|イタリア | |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アゴスティーノ・ヴァーレ」(~17520310)
1750年3月14日 06:00|コスタリカ/スペイン | |||<就任>コスタリカ総督「クリストバル・イクナシオ・デ・ソリア・イ・モンテロ・デ・エスピノーサ」(~1754
年)
1750年4月 04:00|アンティグア・バーブータ | |||<就任>アンティグア大統領代行「ジョサイア」(~1752年)
1750年4月1日-01:00|サンマリノ | |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリップ・マネンティ・ベルツィ」「ピエール・アントニオ・カッリーニ」
1750年4月1日 00:00|イギリス | |||<就任>ダルフイス伯「ヘンリー・スコット」(~17510421退任)
1750年4月12日 00:00|イギリス | |||イギリス議会が鉄条例を制定
1750年4月15日-02:00|リトアニア | |||<就任>リトアニア大元帥(首相)「イグナス・オギンスキー」(8.21まで代行~17680222)
1750年4月17日-09:00|韓国/朝鮮 | |||<就任>朝鮮国領議政「趙顯命」(~11.27)

1760迄 (2926件)

1750年4月20日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アーマー大司教ジョージ・ストーン/ニューポート男爵ロバート・ジョセリン」(~17510919)

1750年4月28日-09:00|日本|福井県福井市|寛延3年3月22日|福井城下三橋町で火事, 100軒余焼失

1750年5月-05:30|インド/フランス/イギリス| |||フランス領有地マダガスカルをイギリスが占領(~7月)

1750年5月-03:30|イラン| |||カリム・ハーンがイсфаハーンを占領

1750年5月8日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|寛延3年4月3日|<死去>大和小泉藩11129石「片桐貞音」(39歳)⇒5月29日、長男「片桐貞芳」が継ぐ(⇒天明7(1788)年12月8日、隠居)

1750年5月10日-09:00|日本|埼玉県深谷市|寛延3年4月5日|<死去>武蔵岡部藩20250石「安部信平」(41歳)⇒養子「安部信允」が継ぐ(⇒天明2(1782)年9月11日、隠居)

1750年5月12日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<死去>フランス領マルティニーク知事「Charles de Tubieres de Grimoard de Pestel de Levis」

1750年5月28日-09:00|日本|京都府京都市|寛延3年4月23日|<死去>桜町上皇(桜町天皇)、脚気衝心のため(31歳、享保5(1720)0101生)115代天皇

1750年5月29日-09:00|日本|新潟県新発田市|寛延3年4月24日|<死去>柳沢時睦(55歳)前越後三日市藩主

1750年6月-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ大宰相「ザカリヤ・カーン・ガズ」(~1751年6月)

1750年6月-03:30|イラン| |||<即位>アフシャール王朝対立シャー「イスマイル・ロフ」(2回目~同月)

1750年6月4日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホーエンツォレルン=ヘヒゲン侯「Friedrich Ludwig」

1750年6月4日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホーエンツォレルン=ヘヒゲン侯「Josef Friedrich Wilhelm」(~17980409死去)

1750年6月7日-02:00|ギリシャ| |||ギリシャ、ペロポネソス半島・キイラ島で地震(M7)死者2000人

1750年6月12日-05:00|パキスタン| |||<死去>パハルワル王国ナワブ・アミール「モハマト・パハルワル・カーン1世」

1750年6月12日-05:00|パキスタン| |||<就任>パハルワル王国ナワブ・アミール「モハラク・カーン2世」(~17720604没)

1750年6月29日-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「イスマイル3世」(~1773年没)

1750年7月-01:00|スペイン/ペルー| |||フランス・ガルシア・ヒメス, 皇帝の末裔フランス・インカと称しリマ東方の町ワトリで蜂起, 1週間にもわたり町を占拠しコレトールを殺害/副王軍は鎮圧後残酷な報復を繰り返す

1750年7月1日-09:00|日本| |||寛延3年5月28日|<死去>住吉広保(85歳)画家

1750年7月17日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「セイイド・アフドラ・パシャ」(~1751年)

1750年7月19日-09:00|日本|大分県佐伯市|寛延3年6月16日|<死去>豊後佐伯藩2万石「毛利高丘」33歳⇒次男「毛利高標」が継ぐ(⇒享和元(1801)年8月7日、47歳で死去)

1750年7月20日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「ルイス・フランシスコ・デ・オバンド」(~17540726)

1750年7月26日-03:00|マダガスカル/フランス| |||マダガスカルのカポ・マリ・島(ノシボロハ)が、タマツ(ベツミサラカ)の王ウツミラによってフランスに割譲された

1750年7月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの作曲家ヨハン=セバスチャン=バッハ/65歳(誕生16850321)

1750年7月31日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「ジョアン5世大度王」60歳(誕生16891022)

1750年7月31日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ブラガンサ公・ブラジル女公・ペイラ女公・パルメイラ女公・ウイラウ・ウイコサ女侯・パルメイラ女公・ウイラウ女公・ペイラ女公・マリ・ア・フランスカ「ジョゼ・フィセ国王の長女」(~17770224ポルトガル・アルガルヴェ女王~18160320死去)

1750年7月31日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル王「ジョゼ1世改革王」(~17770224死去)ジョアン5世の子

1750年8月2日-09:00|日本| |||寛延3年7月|幕府、銅座を廃止し諸山の銅を長崎直買い入れとする

1750年8月3日-09:00|日本| |||寛延3年7月2日|<死去>初代山下金作(不明)歌舞伎役者

1750年8月8日-01:00|ベルギー| |||<就任>フアン・レオ「クロード・ラモル2世」(~17660407)

1750年8月8日 00:00|イギリス| |||<死去>リッチモンド公・レノックス公・マーチ伯・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」

1750年8月8日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド公・レノックス公・マーチ伯・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」先代の子(~18061229死去)

1750年8月11日-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ司教公摂政「ヴァシリエ3世」(~17660310死去)

1750年8月11日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<死去>プエルトリコ知事兼提督「Juan Jose Colomo」

1750年8月11日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Agustin de Parejas」(~17510708死去)

1750年8月12日-09:00|日本| |||寛延3年7月11日|<死去>和田希因(51歳)俳人

1750年8月12日-09:00|韓国/朝鮮| |||朝鮮・乾隆15年7月11日|朝鮮で均役法施行、均役庁を設置

1750年8月15日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>ボネール司令官「Johannes Philippus Eijlbracht」(~17560202死去)

1750年8月20日-09:00|日本|京都府京都市|寛延3年7月19日|<死去>西川祐信(80歳)浮世絵師

1750年8月20日-09:00|日本|山梨県|寛延3年7月19日|甲斐幕領で一揆(米倉騒動)

1750年8月27日-09:00|日本|埼玉県行田市|寛延3年7月26日|<死去>阿部正喬(79歳)前武蔵忍藩主、元寺社奉行・老中

1750年8月29日-09:00|日本|香川県丸亀市|寛延3年7月28日|丸亀藩、西讃百姓一揆の関係者の処罰を行う。礪波三野郡笠岡村大西権兵衛以下4名、打首獄門は笠岡村新右衛門以下4名、そのほか打首3名・永牢1名・追放刑33名

1750年9月10日 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド 総督「ランツァウ伯爵オットー・マン・デルプ」(~17681002没)

1750年9月11日-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督「ジェイコブ・ベンソン・ティル・アガースガルト」(17700116まで副総督~17710208)

1750年9月19日-09:00|日本| |||寛延3年8月19日|<死去>八文字屋其笑(不明)浮世草子作者、版元

1750年9月23日-09:00|日本|宮崎県|寛延3年8月23日|日向大風/高鍋藩領1300余石損/佐土原藩領200余戸倒壊

1750年9月26日-09:00|日本|京都府京都市中京区|寛延3年8月26日|二条城天守に落雷し焼失(以後、再建されず)

1760迄 (2926件)

1750年9月27日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「ジョーゼ・アントニオ・フランシスコ・デ・アジス・ダ・タ・マラ」(~17540918)

1750年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・アントニオ・レオナルド・トリ」(アルフォンソ・ジヤンギ)

1750年10月8日 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官代行「ホセ・デ・スニエ・デ・ハステロス」(~17510618)

1750年10月10日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡日野町|寛延3年9月11日|<死去>市橋直方(62歳)前近江仁正寺藩主

1750年10月11日-09:00|日本| ||寛延3年9月12日|<死去>多田南嶺(53歳)神道家、国学者、故実家、浮世草子作者

1750年10月16日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Jean-Baptiste Charles Bouvet de Lozier」(1期目~17521214)

1750年10月26日-09:00|日本|福島県会津若松市|寛延3年9月27日|<死去>陸奥会津藩23万石「松平容貞」(27歳)⇒1月12日、長男「松平容頌」が継ぐ(⇒文化2年7月29日(18050823)、死去)

1750年10月30日-09:00|日本| ||寛延3年10月|<刊行>雑俳集「武玉川」初編

1750年10月30日-08:00|中国| ||朝鮮・乾隆15年10月|ヘットでキム・ナムギルが駐蔵都統に殺害される

1750年11月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ領東インド 総督「Gustaaf Willem van Imhoff」

1750年11月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド 総督代理「Jacob Mossel」(⇒1752年総督~17610515死去)

1750年11月3日-09:00|日本|京都府舞鶴市|寛延3年10月5日|<死去>丹後田辺藩35000石「牧野明成」(47歳)⇒三男「牧野惟成」が継ぐ(⇒天明3(1783)年6月12日、死去)

1750年11月5日-09:00|日本| ||寛延3年10月7日|佐渡一国惣代弥次右衛門ら5人、年貢減免などの訴願を勘定奉行に提出(寛延一揆)

1750年11月6日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>コネチカット植民地総督「ジョナサン・ロー」

1750年11月6日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>コネチカット植民地総督「ロジャー・ウォルコット」(~1754年)

1750年11月9日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Maximin」(⇒1752年知事~1752年)

1750年11月24日-09:00|日本| ||寛延3年10月26日|前年の諫早百姓騒動の中心人物・若杉春后と大坂町奉行所に直訴した農民3人が佐賀藩の手で磔刑に

1750年12月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Azizade Sa' deddin Pasha」(~1751年)

1750年12月 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 知事「Gabriel d'Erchigny de Clieu」(2期目~17520815)

1750年12月5日-01:00|イタリア| |||ベネチア、チロル地方の境界確定

1750年12月7日 00:00|イギリス| |||<死去>17代サースランド伯「ウィリアム・サースランド」

1750年12月7日 00:00|イギリス| |||<就任>18代サースランド伯「ウィリアム・サースランド」(~17660116死去)

1750年12月14日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ロッキンガム侯「トマス・ワトソン=ウェントワース」

1750年12月14日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ロッキンガム侯・初代モルトン伯「チャールズ・ワトソン=ウェントワース」(~17820701死去全爵位廃絶)

1750年12月15日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ダートマス伯「ウィリアム・レック」

1750年12月15日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ダートマス伯「ウィリアム・レック」先代の孫(~18010715死去)

1750年12月16日-05:30|インド| |||<就任>ハイデルアバード 国統治者(ニザム・アル=モルク)「ムヒ=アッ=ディン=ムサファル=ジヤン=ヒタヤット」(~17510213第二次カーナティック戦争で戦死)

1750年12月17日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|寛延3年11月19日|<交替>伊勢神戸藩15000石「本多忠統」隠居⇒五男「本多忠永」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年10月13日、隠居)

1750年12月22日-09:00|日本|兵庫県宍粟市|寛延3年11月24日|<死去>播磨山崎藩1万石「本多忠辰」(40歳)⇒長男「本多忠堯」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年2月25日、25歳で死去)

1750年12月25日-05:30|インド| |||<死去>ジャイプール国マハラジャ「サワイ=イシュワリ=シン」

1751年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「マヌエル=デ=エテル=デ=フィゲイロ=サルメント」(2期目~1756年)

1751年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ=スルタン「Ayan Shah」(~1754年)

1751年-07:00|ラオス| |||<即位>シェンクアーン王「オン=ロー」(~1779年)

1751年-05:30|インド| |||<就任>アッサム国ラジャ「スランファ=ラジ=エスガ=アル=シン」(~1769年没)

1751年-05:30|インド| |||<就任>アウグ国統治者「オラジ=ヤパ=ティ2世」(~1759年)

1751年-05:30|インド| |||<就任>ウトカ国ラジャ「ヒ=ラキシレ=ヴァ1世」(~1780年没)

1751年-05:30|インド| |||<就任>カウルダ国統治者(タークル)「マハ=バリ=シン」建国(~1801年)

1751年-05:30|インド| |||<就任>カンガラ国ラジャ「シュリンガ=チャンドラ」(~同年)⇒「ガマント=チャンドラ」(~1774年没)

1751年-05:30|インド| |||<就任>クルヌル国支配者(ナワブ)「ムナワル=カーン」(~1792年)

1751年-05:30|インド| |||<就任>セイロン国統治者(タークル)「シェン=マリ=1世=ライシン」建国(~1794年没)

1751年-05:30|インド| |||<就任>マニプル国ラジャ「ハ=ラト=シャー」(~1752年没)

1751年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国ガミール総督「ミール=モヒム=カーン」(~1752年)

1751年-05:30|インド| |||ウトカ国はマフラッタ宗主権下(~1803年)

1751年-05:00|パキスタン| |||<就任>マラン統治者(サドム)「マフムト=カーン1世」(~1816年)

1751年-05:00|ウズベキスタン/ガザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>コカント(フェルガナ)ベク「Nizam ad-Din Baba Biy」(~1752年死去)

1751年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ=ハン国ジャーン朝ハン「Ubayd Allah Khan3世」(~1754年死去)

1760迄 (2926件)

1751年-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ大宰相「モハンマド・サリム・カーン・アフシャル」(~1752年)
1751年-03:30|イラン| |||<即位>サント王朝ワキル・アル＝ラーヤ(民衆保護者)「カリム・ハーン・サント」(~17790301)
1751年-03:00|スーダン| |||<死去>コルトファン・スルタン国スルタン「イサウイ・イブン・ジヤンカル・アル＝ムサッバ・アウイ」
1751年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ暫定総督「Pedro Olaisa」(~同年)⇒総督「Carlos Francisco de Croix」(~1754年)
1751年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「シェリフ・ハリル・パシャ」(~17520418)
1751年-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏「フランツ・カール・フォン・グロット」(~1770年)
1751年-01:00|チャド| |||<即位>バギルミ王国スルタン「Hajji Mohammed al'Amin, Mbangi」(~1785年)
1751年-01:00|イタリア| |||ジェノヴァ、コルシカを征服
1751年 00:00|チャン礼諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー島管理人「Eleazar Le Marchant」(~1757.12死去)
1751年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「フランシスコ・ロケ・ソウト・マイオール」(1回目~1756年)
1751年 00:00|イギリス| |||イギリスがジン法を制定し、ジンの消費を規制
1751年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<死去>ヴァージン諸島副知事「ジョン・ハント」
1751年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島副知事「ジョン・パーセル」(~1771年死去)
1751年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督「マヌエル・デ・モンティアーノ・イ・ルヤント」(~1758年)
1751年 05:00|ハイチ| |||逃亡奴隷(マルーン)でモスレムの医術師フランソワ・マッカンドル、白人を駆逐し独立した「アフリカ王国」を建設しようとして反乱
1751年 05:00|ペルー| |||アタワパ、山間部へ攻勢をかけソモロ、アンタマルカを攻略
1751年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第3代総督「ヘンリー・パーカー」(~1752年)
1751年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「ドミンゴ・ソト・ベルムテス」(~1756年)
1751年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「ハシント・デ・パリス・イ・ハウレギ」(~1759年)
1751年1月1日-05:30|インド| |||<即位>ジャイプール国マハラジャ「サワイ・マト・シン1世」(~17680304没)
1751年1月17日-01:00|イタリア| |||「アルビノニのアタージョ」のイタリアの作曲家アルビノニ没/79歳(誕生:16710614)
1751年1月27日-09:00|日本| ||寛延4年1月|<刊行>烏有庵「万世百物語」
1751年1月27日-09:00|日本|東京都|寛延4年1月1日|<死去>初代坂東彦三郎(59歳)歌舞伎役者
1751年2月-05:30|インド| |||<就任>ハイデラバード国統治者(ニザム・アル・モルク)「カージー・アッデイン(反乱中)」(~17521016没)
1751年2月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ホフブルク方伯「フリートリヒ4世」
1751年2月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ホフブルク方伯「フリートリヒ7世」(~1806年本家のヘッセン大公国領に併合)
1751年2月13日-05:30|インド| |||<就任>ハイデラバード国統治者(ニザム・アル・モルク)「アサフ・アト・ダウラ・ミール・アリ・サラバット・ジャン」(~17620708廃位~17630916殺害される)
1751年2月24日-09:00|日本|沖縄県|寛延4年1月29日|<死去>琉球国王「尚敬」(52歳)
1751年2月26日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|寛延4年2月1日|宇和島城下に大火があり、140軒余焼失
1751年2月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛延4年2月1日|<初演>三好松洛・吉田冠子、人形浄瑠璃「恋女房染分手綱」(近松門左衛門「丹後与作侍夜の小室節」の改作)大阪竹本座
1751年2月27日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「リク・トルバーク」(~17710811)
1751年3月1日-09:00|日本|山口県萩市|寛延4年2月4日|<死去>長州藩369000石「毛利宗広」(35歳)⇒養子「毛利重就」が継ぐ(⇒天明2(1782)年8月28日、隠居)
1751年3月6日 00:00|カナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールト＝コスト長官「マグナス・クリストファー・リュツォウ」(~8日)
1751年3月8日 00:00|カナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールト＝コスト長官代行「マグナス・ハッセン」(~17520721)
1751年3月14日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>モンテビデオ総督「Jose Joaquin de Viana」(1期目~17640408)
1751年3月18日 00:00|イギリス| |||<死去>コグエンリー伯「ウィリアム・コグエンリー」
1751年3月18日 00:00|イギリス| |||<就任>コグエンリー伯「ジョージ・ウィリアム・コグエンリー」(~18090903死去)
1751年3月21日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ゲインズバラ伯「バティスト・ノエル」
1751年3月21日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ゲインズバラ伯「バティスト・ノエル」(~17590527死去)
1751年3月24日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン代行「ジェルジ伯爵エルデイ・モニコレキ・エス・モスロー」(~5.11)
1751年3月25日-01:00|スウェーデン/ドイツ| |||<死去>スウェーデン王国国王「フレドリク1世」兼ヘッセン＝カッセル方伯「フリートリヒ1世」74歳(誕生1676年)
1751年3月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝カッセル方伯「ゲイルヘルム8世」カールの下の子(~17600201死去)
1751年3月25日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「アドルフ・フレドリク」(~17710212死去60歳)
1751年3月26日-09:00|日本|京都府|寛延4年2月29日|京都で大地震/愛宕山の石灯籠残らず崩れ、近辺の諸社寺の築地・土蔵破損した。近衛家御構築地内に損所、知恩院の高塀、妙心寺の築地石垣少損、御香宮の石鳥居柱南北に5-6寸筋違い、町家なども破損。京都で1町土蔵2つずつ損ともいう。余震2ヵ月
1751年3月29日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミゴ 総督「エマニュエル・オーギュスト・ド・シトゥ・デュ・ボワ・ド・ラモ」(~17530531)
1751年3月31日 00:00|イギリス| |||<死去>2代オフォート伯「ロバート・ウォルポール」
1751年3月31日 00:00|イギリス| |||<死去>ロシー公(スコットランド王位の法定推定相続人)・コンウォール公・初代エディンバラ公・イリー候・25代チェスター伯・23代キャリック伯・初代エルム伯「フレデリック・ルイス王子」
1751年3月31日 00:00|イギリス| |||<就任>3代オフォート伯「ジョージ・ウォルポール」(~17911205死去)
1751年3月31日 00:00|イギリス| |||<就任>エディンバラ公・2代エルム伯「ジョージ王子」(~17601025、ジョージ3世としてイギリス)

1760迄 (2926件)

ス国王に即位、爵位は王領に統合)
1751年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アウレリオ・ウァローニ」「フィリッポ・ファブリーニ」
1751年4月15日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|寛延4年3月20日|<交替>摂津尼崎藩48000石「松平忠喬」隠居⇒次男「松平忠名」が継ぐ(⇒明和3(1766)年12月24日、死去)
1751年4月18日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「キョプ・リュリュ・ハック・アフメド・パシャ」(1回目~17521210)
1751年4月20日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金在魯」(~17521103)
1751年4月21日 00:00|イギリス| |||<退任>ダラム伯「ヘンリー・スコット」
1751年4月22日 00:00|イギリス| |||<死去>2代バクルー公・ドンカスター伯「フランス・スコット」
1751年4月22日 00:00|イギリス| |||<就任>3代バクルー公「ヘンリー・スコット」(⇒18101223兼5代クイーンズベリー公~18120111死去)
1751年4月23日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「ヘンドリック・エルスト男爵ファン・シュペルケ」(~17520907)
1751年4月24日-09:00|日本|山形県酒田市|寛延4年3月29日|<酒田宝暦(寛延4年)の大火「豊後火事」>荒瀬町から出火、日和山にある陣屋(米の集積場)まで焼き尽くした/80人死亡、住家2405軒と町家のほとんどを失い、米倉170棟、船舶10隻、米と麦10万2667俵、たばこ1万箱を焼失
1751年5月2日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Basil Cochrane」(~1761年)
1751年5月6日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ジョエルド・ジョーン・ヴァーランド」(~17520226死去)
1751年5月11日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライタイン「ルトヴイ・エルスト・ハッチャーニ伯爵メトウイヴァール」(~17651026没)
1751年5月18日-09:00|日本|東京都千代田区|寛延4年4月23日|<就任>老中「西尾忠尚」(~宝暦10年3月10日)
1751年5月21日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Antonio Rodrigues Neves」(~6.2死去)
1751年5月21日-07:00|日本|新潟県|寛延4年4月26日|<寛延4年越後高田地震「越中・越後地震」>丑の刻(午前2時ごろ)、越後高田城下を震源とするマグニチュード7クラスの内陸直下地震/高田城の多聞櫓、三重櫓などが大破/城下では今町の被害がひどく家屋全壊321棟、同半壊384棟など/城下全体で侍屋敷122棟、町家2082棟が全壊し、侍屋敷82棟、町屋敷414棟が半壊となり城下は壊滅/高田藩沿岸部では鉢崎-直江津-糸魚川間で山崩れが多発し、桑取川、名立川、能生川各谷あいも山崩れが多発/名立の小泊集落では裏山が崩れ406人が死亡、81戸埋没、4戸全壊、3戸半壊/この地震による被害合計1539人死亡、家屋全壊8088棟、同半壊8208棟、土蔵全壊147棟、同半壊41棟、同破損150棟、寺社全壊229か所、同半壊75か所、山崩れ1700か所以上など
1751年5月25日-08:00|中国| |||清・乾隆16年5月1日|雲南、剣川地震/M6.8、死者1050人
1751年5月25日 06:00|刊| |||刊、ビバオ州コンセプション沖で地震(マグニチュード8.6)死者65人
1751年5月27日-09:00|日本|山口県下関市|寛延4年5月3日|<交替>長門長府藩5万石「毛利匡敬」本家長州藩を相続⇒長男「毛利匡満」が継ぐ(⇒明和6(1769)年8月13日、22歳で死去)
1751年6月-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>マリアナ島司令官「ウインセント・フランソワ・マルテヌ・ド・ブルグイエ」(1回目~1758年3月頃)
1751年6月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Jean-Baptiste Hyacinthe de Saint-Michel Dunezat」(1期目~1752.5)
1751年6月2日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<死去>サントメ植民地総督「Antonio Rodrigues Neves」
1751年6月2日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Chamber Senate」(~1754年)
1751年6月5日-05:30|インド| |||<就任>ウタール国統治者(マハラ)「プラタプ・シン2世」(~17530110没)
1751年6月5日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ総督「アントニオ・ペドロ・サエ・ファリア」(~7.15)
1751年6月9日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの数学者ジョン・マチン(誕生1685年)/収束の速い円周率の計算法を発見
1751年6月18日 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「フランシス・ルビオ・イ・ペニャンタ」(~1759年)
1751年6月22日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Felipe Nicolas Ricardos」(~17570909)
1751年6月23日-09:00|日本|茨城県古河市|寛延4年6月1日|<死去>下総古河藩5万石「本多忠良」(62歳)⇒長男「本多忠敬」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年1月15日、石見浜田藩に移封)
1751年6月28日-01:00|フランス| |||フランスの数学者ダランベールが「百科全書」の刊行を開始
1751年7月-05:30|インド| |||<即位>ジョージ・プル国マハラジャ「バフト・シン」(~17520921没)
1751年7月2日 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「パントレオン・イ・ニエス・ケハス」(~1757年)
1751年7月8日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<死去>プエルトリコ知事兼提督「Agustin de Parejas」
1751年7月8日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Esteban Bravo de Rivero」(1期目~17530501)
1751年7月12日-09:00|日本|東京都千代田区|寛延4年6月20日|<死去>大御所・徳川吉宗が、脳卒中で(68歳、貞享1(1684)1021生)第8代將軍
1751年7月14日-09:00|日本|新潟県柏崎市|寛延4年6月22日|<死去>越後椎谷藩1万石「堀直喜」(22歳)⇒養子「堀直著」が継ぐ(⇒明和5年4月21日(17680605)、死去)
1751年7月15日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「商工会議所上院/フランス・ザビエル・デ・アラウジョ」(~1754年8月)
1751年7月27日 00:00|イギリス| |||<死去>2代セント・オールバンス公「チャールズ・ホークワーク」

1760迄 (2926件)

1751年7月27日 00:00|イギリス| |||<就任>3代セント・オールバンス公「ジョージ・ホークーク」(~17860201死去)
 1751年8月27日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス総督「Alvaro Jose Xavier Botelho de Tavora」(~17540516)
 1751年9月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドル(総督)「Seyyid Emir Ahmed Pasha」(~1752.6)
 1751年9月13日 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ギンジー島管理人「Josue Le Marchant」
 1751年9月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「ドゥーセット公爵ラファエル・クランフィールド・サックビル」(2回目~17550505)
 1751年9月21日-09:00|日本|京都府京都市|寛延4年8月2日|<死去>一条兼香(60歳)元関白、太政大臣
 1751年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・マリア・ジャンジ」「マリノ・ティニ」
 1751年10月2日-09:00|日本| ||寛延4年8月13日|<死去>7代千宗左(47歳)茶人、表千家家元
 1751年10月22日-01:00|オランダ| |||<死去>ネーデルラント連邦共和国全州総督「オラニエ公ウィレム4世」40歳
 1751年10月22日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ摂政「アンナ・ファン・ブランスウィク・ルネブルグ」(~17590112没)
 1751年10月22日-01:00|オランダ| |||<即位>ネーデルラント連邦共和国全州総督「オラニエ公ウィレム5世」オラニエ公ウィレム4世の子母后アムスが実権を握る(~17950119~18060409死去58歳)
 1751年10月25日-09:00|日本| ||寛延4年9月7日|<死去>並木宗輔(57歳)浄瑠璃作者
 1751年10月26日-09:00|日本| ||寛延4年9月8日|<死去>祇園南海(76歳)儒学者、漢詩人、画家
 1751年11月10日-09:00|日本|岡山県高梁市|寛延4年9月23日|<交替>備中松山藩5万石「板倉勝澄」隠居⇒長男「板倉勝武」が継ぐ(⇒明和5(1768)年5月27日、死去)
 1751年11月10日-09:00|日本|福島県田村郡三春町|寛延4年9月23日|<交替>陸奥三春藩5万石「秋田治季(延季)」隠居⇒弟「秋田定季」が継ぐ(⇒宝暦7年6月14日(17570729)、死去)
 1751年11月29日-09:00|日本|千葉県勝浦市|宝暦1年10月12日|<改易>上総勝浦城主1万石「植村恒朝」発狂、大和高取に幽閉
 1751年12月14日-09:00|日本| ||宝暦1年10月27日|「寶暦」に改元
 1751年12月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・デッサウ侯「Leopold2世」
 1751年12月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・デッサウ侯「Leopold3世」(⇒1807年アンハルト・デッサウ公に昇格~18170809死去)
 1751年12月21日-09:00|日本|千葉県富津市|宝暦1年11月4日|<死去>上総佐貫藩16000石「阿部正鎮」(53歳)⇒養子「阿部正興」が継ぐ(⇒宝暦14(1764)年3月11日、死去)
 1751年12月22日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクリス総督「Peter Clausen」(1期目~17550806)
 1751年12月28日-09:00|日本|愛知県岡崎市|宝暦1年11月11日|三河岡崎藩主水野忠辰が乱心として重臣により江戸屋敷座敷牢に押しこめられる
 1752年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督代理「Goderd Ludolf van Beusechem」(1期目~同年)⇒総督「Gerard Cluysenaar」(~1757年)
 1752年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベンクーレン副総督(マドラス総督に従属)「ロバート・Hindley」(~1754.9死去)
 1752年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルボン・パネンバハン君主「Panembahan Cirebon3世 Muhammad Tair Yarini Sabirin」(~1773年)
 1752年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテスルタン「Outhoorn Ayan Syah」(~1755年)
 1752年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハッセン王国スルタン「Abu al-Ma'ali Muhammad Wasi Zainal Alimin」(~1753年)
 1752年-08:00|インドネシア| |||<即位>パカサラン君主「Aria Cakraadiningrat1世, R. Alsari」(~1800年)
 1752年-05:45|ネパール| |||<即位>カンティヤ王「ジャヤプラサマ」(2回目~17680925)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>アウンド国統治者(ハンツ・プラーティニディ)「ジャギヴァンラオ・ハラシュラム・ダトバ」(2回目~1754年)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>オランダ国ジャ「サンワント・シン」(~1765年没)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>カッチ国統治者(ミルザ・マハラオ)「ラクハ・ツィ」(~1761年)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>シタマラ国ジャ「ファテ・シン」(~1802年没)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>タルチャー国ジャ「クリシュナ・チャンドラ・ヒラパール・ハリチャンドラン」(~1765年)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ジャ「ナヤンド・マルドラージ・ハリチャンドラン」(~1753年)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>パンナ国ジャ「アマン・シン」(~1758年没)
 1752年-05:30|インド| |||<就任>マニプール国ジャ「ガウリ・シャム」(1回目~1758年)
 1752年-05:30|インド| |||<設立>ハトラプル国
 1752年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<死去>ユーカント(フェルガナ)ベク「Nizam ad-Din Baba Biy」
 1752年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>ユーカント(フェルガナ)ベク「Irdana Biy」(2期目~1753年)
 1752年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>ユーカント・ハン国ベク「ボボベク」(~1753年)
 1752年-04:30|アフガニスタン/インド| |||アフガニスタンのアフマド・シャーが北インドに侵入
 1752年-04:00|アルメニア/イラン| |||<即位>エリヴァン汗国ハン「ハリール・ハン」(~1755年)
 1752年-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ大宰相「サカリヤ・ハン・カザジ」(~1756年)
 1752年-03:00|ウガンダ| |||<就任>オプウェラ統治者(オムカマ)「カハヤ」
 1752年-03:00|ウガンダ| |||<就任>カジャラ統治者(オムカマ)「キントワ」
 1752年-03:00|ウガンダ| |||<就任>キグル統治者(オムカマ)「ルイリ」(~1777年)
 1752年-03:00|クウェート| |||<就任>クウェート統治者「シェイク・アブ・アブド・アッラー・サハ1世・イブン・ジャビール・アル・サハ」(~17580905以前)オハイ族の出身で、元は商人。商人仲間から、オスマン帝国との交渉役として互選され、首長となる
 1752年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ル統治者(オムカマ)「タビン・ニロ」(~1780年)
 1752年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ルカ統治者(オムカマ)「ルンバキエ」

1760迄 (2926件)

1752年-03:00|カナンダ | |||<就任>ンシェン統治者(オムカマ)「ルカアリ」
1752年-03:00|マヨット | |||<即位>マレ・スルタン国スルタン「ボ・イ・コンボ」(~1790年)
1752年-03:00|カナンダ | |||ムル国が6つに分割される
1752年-01:00|フランス | |||<就任>ヌール公・モルテン伯「ルイ・フィリップ 1世」(~17851118死去)
1752年-01:00|ベナン | |||<即位>アジヤチエ・イェのフォン王国国王「ヌ1世」(~1757年)
1752年-01:00|フランス | |||<即位>エタンブ 公「Louise Henriette de Bourbon」(~17590209死去)
1752年-01:00|オランダ/インドネシア | |||バンテン王国内乱の收拾を巡り、バンテン王国はVOCの主権を認めてオランダの保護国になり、ランブンを割譲させられる
1752年 00:00|カリヤ諸島 | |||<死去>ランサローテ島領主「Martin Nicolas de Castejon e Ibanez de Segovia」
1752年 00:00|フェロ諸島 | |||<就任>フェロ諸島首席大臣代理「Hans Jacobsen Debes」(⇒1455年首席大臣~1769年死去)
1752年 00:00|セガル | |||<就任>フカ・トロ統治者(デナンケ・サティギ)「ジヤジエ・ウレ」⇒「スレー・ナジ」(3回目~1765年頃)
1752年 00:00|カリヤ諸島 | |||<就任>ランサローテ島領主「Martin Miguel de Castejon y Davila」(~17640824死去)
1752年 04:00|アンティグア・バプーダ | |||<就任>アンティグア大統領「ジョント・ムリソン」(~1753年没)
1752年 04:00|マルティニーク/フランス | |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Alexandre Rouille de Rocourt」(~1757年)
1752年 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第4代総督「パトリック・クラム」(~1754年)
1752年 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領メリランド植民地総督「ベンジャミン・タッカー・シニア」(~1753年)
1752年 06:00|アメリカ/スペイン | |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督代理「フアン・セバスティアン・デ・ソリス」(~1755年)
1752年 06:00|ニカラガ/スペイン | |||<就任>ニカラガ総督「ルイス・ゴンサレス・ランカーニョ」(~1756年)
1752年1月-02:00|エジプト/トルコ | |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハンマド・メルク・パシャ」(~12月)
1752年1月 04:00|バミューダ/イギリス | |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「フランシス・ジョーンズ」(2期目~17561121)
1752年1月3日 00:00|イギリス | |||イギリス:メルビルがフアウンホーファー線を発見※ナトリウムに炎色反応する黄色のスペクトル線
1752年1月7日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン | |||<就任>トリニダード 知事「フランシスコ・マンクレス」(~17570117)
1752年1月16日-09:00|日本|東京都中央区|宝暦1年12月|<初演>歌舞伎「戀女房染分手綱」中村座
1752年1月17日 06:00|グアテマラ/スペイン | |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「ルイス・バスケス・プレゴ・モンタス・イ・ソトマヨール」(~17530624)
1752年1月22日-09:00|日本|千葉県勝浦市|宝暦1年12月7日|<立藩>上総勝浦藩1万石「大岡忠光」(⇒宝暦4(1754)年3月1日、5000石加増され15000石)
1752年1月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦1年12月11日|<初演>人形浄瑠璃「一谷嫩軍記」大坂豊竹座
1752年2月3日-09:00|日本|愛知県岡崎市|宝暦1年12月19日|<死去>三河西大平藩1万石「大岡忠相」(75歳)⇒次男「大岡忠宜」が継ぐ(⇒明和3(1766)年8月26日、死去)
1752年2月4日-01:00|フランス | |||<死去>ヴアロア公・モンパソエ公・ヌール公「ルイ・ド・ブルボン=オルアン」兼オルアン公「ルイ4世」48歳
1752年2月4日-01:00|フランス | |||<即位>ヴアロア公・オルアン公・モンパソエ公・ヌール公「ルイ・フィリップ 1世」(~17851118死去60歳)
1752年2月8日-09:00|日本|宮城県仙台市|宝暦1年12月24日|<死去>伊達吉村(72歳)前陸奥仙台藩主
1752年2月15日-09:00|日本|沖縄県|宝暦2年|<即位>琉球国王「尚穆」(~17940502死去)
1752年2月15日 04:00|グアドループ/フランス | |||<就任>マリ・ガラント知事「Nicolas Baptiste des Merliers de Longueville」(~1759年)
1752年2月18日-03:00|サウジアラビア | |||<就任>メッカ・シャリフ「マサド・ブン・サイド 2世」(1度目~17590824)
1752年2月19日-09:00|日本|東京都港区|宝暦2年1月5日|赤坂の紀州徳川邸が焼失
1752年2月19日-09:00|日本|長崎県対馬市|宝暦2年1月5日|<死去>対馬府中藩22800石「宗義如」天然痘のため(37歳)⇒弟「宗義蕃」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年閏4月28日、隠居)
1752年2月26日-05:30|スリランカ/オランダ | |||<死去>オランダ領セイロン総督「ジェラルド・ジョン・ウーリランド」
1752年2月26日-05:30|スリランカ/オランダ | |||<就任>オランダ領セイロン総督代理「ジェイコブ・デ・ヨング」(~9. 10)
1752年2月27日-09:00|日本|広島県広島市|宝暦2年1月13日|<死去>安芸広島藩42万6500石「浅野吉長」(72歳)⇒3月7日、長男「浅野宗恒」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年2月21日、隠居)
1752年2月29日-06:30|ミャンマー | |||<即位>ビルマ王「アラウンパヤ」(~17600511没)
1752年3月-04:00|ジョージア | |||<即位>イメレティ王「ソロモン 1世」(1回目~1766年)
1752年3月7日-01:00|イタリア | |||<死去>ヴェネツィア共和国ドーージェ(元首)「ピエトロ・グリマニ」
1752年3月10日-09:00|日本 | |||宝暦2年1月25日|紋尽、人形などでの賭博行為が禁じられる
1752年3月15日 00:00|イギリス | |||<死去>3代スカパーラ伯「トマス・ラムリー=サンダーソン」
1752年3月15日 00:00|イギリス | |||<就任>4代スカパーラ伯「リチャード・ラムリー=サンダーソン」(~17820512死去)
1752年3月17日 06:00|カタール/フランス | |||<死去>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ラ・ジョンキエル侯爵ジャック=ピエール・ド・タファネル・デ・ラ・ジョンキエル」
1752年3月17日 06:00|カタール/フランス | |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ドゥケヌ侯爵シエル=アンジュ・ド・メネイユ」(~1755年)
1752年3月18日-01:00|イタリア | |||<就任>ヴェネツィア共和国ドーージェ(元首)「フランチェスコ・ロレンツォ」(~17620519死去)
1752年3月20日-09:00|日本|福岡県北九州市|宝暦2年2月5日|<死去>豊前小倉藩15万石「小笠原忠基」(71歳)⇒六男「小笠原忠総」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年11月8日、死去)
1752年3月21日 11:00|日本|宮城県仙台市|宝暦2年2月6日|<仙台宝暦2年の大火>戌の刻(20時頃)仙台北城下の中心、元柳町から出火、町人の屋敷を中心に家数(世帯数)で1527戸を焼く大火となった/侍屋敷19軒、町屋敷385軒の

1760迄 (2926件)

合計404軒

1752年3月23日-06:30|ミャンマー| |||ヒルマのモン族がインワを攻撃し、トウングー朝が滅ぶ
1752年3月23日 06:00|カナダ| |||カナダで最初の新聞ハリファックス・ガゼットが発行
1752年3月28日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ステファノ・ロメッリ」(~6.7退任)
1752年3月31日-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<死去>コンゴ王国マニコンゴ「カリス4世」
1752年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャコモ・ベグニ」(「ポンペイ・ゾリ」)
1752年4月8日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ギルフォード伯「フランス・ノース」(~17900804死去)
1752年4月14日 11:00|日本|鹿児島県鹿児島市|宝暦2年3月|地頭川上式部ら、諏訪(潜木)神社の拝殿を新たに造る
1752年4月14日-09:00|日本|静岡県掛川市|宝暦2年3月1日|<死去>小笠原長熙(63歳)前遠江掛川藩主
1752年4月15日-06:30|ミャンマー| |||トウングーはアに再編入
1752年4月18日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ダンモア伯「ジョン・マレー」
1752年4月18日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ダンモア伯「ウィリアム・マレー」先代の弟(~17561201死去)
1752年4月19日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「フランスコ・デ・メロ・エ・カストロ」(~17580315)
1752年5月-05:30|インド/アフガニスタン| |||カミールは新しく設立されたアフガニスタン王国によって征服される
1752年5月 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア知事「Gilbert Guillaouet」(4期目~1753.7)
1752年5月5日-09:00|日本|愛知県岡崎市|宝暦2年3月22日|<交替>三河岡崎藩6万石「水野忠辰」強制隠居幽閉⇒9月、養子「水野忠任」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年9月29日、肥前唐津藩4万石に移封)
1752年5月9日-09:00|日本|静岡県浜松市|宝暦2年3月26日|<死去>遠江浜松藩7万石「松平(本庄)資訓」(53歳)⇒5月12日、三男「松平資昌」が嗣ぐ(⇒宝暦8(1759)年12月27日、丹後宮津藩7万石へ移封)
1752年5月11日-09:00|日本|岩手県盛岡市|宝暦2年3月28日|<死去>陸奥盛岡藩10万石「南部利視」(45歳)⇒5月25日、従弟「南部利雄」が継ぐ(⇒安永8年12月5日(17800111)、死去)
1752年5月14日-08:00|中国| |||清・乾隆17年4月|清で湖北羅田県民の馬朝柱の反乱計画が発覚
1752年5月20日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦2年4月7日|<就任>大坂城代「松平右京大夫輝高」(~宝暦6.5.7)
1752年5月20日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦2年4月7日|<就任>京都所司代「酒井忠用」(⇒1756(宝暦6年4月10日))
1752年5月27日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アーサー大司教ジョージ・ストーン/ニューポート男爵ロバート・ジョセリン/ハンリー・ボイル」(~17530921)
1752年6月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンダー・ワリス(総督)「Sari Abdurrahman Pasha」(~同年)⇒「Sehla Ahmed Pasha」(4期目~1753.2)
1752年6月7日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジョヴァンニ・パチスタ・グリアルディ」(~17540607)
1752年6月7日-01:00|イタリア| |||<退任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ステファノ・ロメッリ」
1752年6月7日-09:00|日本|長野県長野市|宝暦2年4月25日|<死去>信濃松代藩13万2千石「真田信安」(39歳)⇒6月10日、長男「真田幸弘」が継ぐ(⇒寛政10(1798)年8月21日、隠居)
1752年6月12日-05:30|インド| |||<死去>カルナータカ太守「チャンドー・サーヒブ」
1752年6月21日 06:00|アメリカ| |||ベンジャミン・フランクリンが、雷が電気現象との仮説を実証するため、雷雨の中で風を揚げて実験
1752年7月1日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ケセ・パヒル・ムスタファ・パシャ」(1期目~17550215)
1752年7月4日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ジョージアがイギリス王領化される
1752年7月21日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「カール・エンゲマン」(~17570311)
1752年7月21日-02:00|シリア・アラブ| |||シリア西部・レバノンで地震(M7)死者2万人
1752年7月31日-01:00|オーストリア| |||シェンブロン動物園開園(ウィーン)【現存する世界最古の動物園】
1752年8月1日-09:00|日本| |||宝暦2年6月22日|<死去>武藤巴雀(67歳)俳人
1752年8月5日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ゴートン公・6代ハントリー侯「ロスモント・ジョージ・ゴートン」
1752年8月5日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ゴートン公・7代ハントリー侯「アレクサンダー・ゴートン」(⇒17840702兼ノーリッチ伯~18270617死去)
1752年8月9日-08:00|中国| |||清・乾隆17年7月|清が沿海地域において日本の寛永通宝の使用を禁止
1752年8月14日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>リワード・カリビ諸島総司令官・総督代行「ギルバート・フレミング」(~17530702)
1752年8月15日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ暫定知事「de Lafond」(2期目~17531227)
1752年8月18日-09:00|日本|島根県鹿足郡津和野町|宝暦2年7月9日|<死去>石見津和野藩43468石「亀井茲胤」(27歳)⇒養子「亀井矩貞」が継ぐ(⇒天明3(1783)年4月18日、隠居)
1752年8月27日-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコンゴ「ニコラス1世」(~1758年)
1752年8月27日-09:00|日本| |||宝暦2年7月18日|<死去>油谷倭文子(20歳)歌人
1752年9月7日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「ウィレム・クロメル」(1回目~17541022)
1752年9月10日-09:00|日本| |||因幡で、暴風雨による洪水に襲われる
1752年9月10日-05:30|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ジョン・ギデオン・ローテン」(~17570317)
1752年9月11日-09:00|日本|京都府綾部市|宝暦2年8月4日|<死去>九鬼隆直(66歳)前丹波綾部藩主
1752年9月14日 00:00|イギリス| |||ユリウス暦9月3日|イギリスでグレゴリウス暦が採用され、旧暦9月2日の翌日が9月14日と

1760迄 (2926件)

なる

1752年9月19日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントヤゴ 総督「チャールズ・ノウズ」(~17560127)
1752年9月21日-05:30|インド| |||<即位>ジョージ・ブルゴマハジャ「ヒンズー・シン」(1回目~17530131)
1752年9月25日-09:00|日本|愛知県岡崎市|宝暦2年8月18日|<死去>水野忠辰(29歳)前三河岡崎藩主
1752年10月1日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「マシュー・グリーゴール・ギカ」(~17530622)
1752年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「コスタンティーノ・ボネリ」「ジョヴァンニ・マルテリ」
1752年10月2日-09:00|日本| ||宝暦2年8月25日|<死去>彭城百川(56歳)画家
1752年10月6日 00:00|イギリス| |||<死去>初代テンポル女伯「ハスター・グレンヴィル」
1752年10月6日 00:00|イギリス| |||<就任>2代テンポル伯「リチャード・グレンヴィル=テンポル」(~17790912死去)
1752年10月11日-09:00|日本| ||宝暦2年9月5日|<死去>松尾宗二(76歳)茶人
1752年11月21日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<死去>セント・ユースティウス島司令官「Johan Heyliger Pzn.」
1752年11月21日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島暫定司令官「Jan de Windt, Jr.」(⇒17530924、司令官~17750119、死去)
1752年11月22日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李宗城」(~17530626)
1752年12月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ハッサン・アシュ＝シャヤロ」(~1755年10月)
1752年12月10日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ハチ・メフメト・パシャ」(1回目~17561206)
1752年12月12日-05:00|モルティイブ| |||<即位>モルティブ・スルタン「アミナ・ラニ・キラケファヌ」(17570625まで摂政~17591206)
1752年12月12日-01:00|トイツ| |||<死去>メレンブルク=シュトレリツ公「アドルフ・フリートリヒ3世」
1752年12月12日-01:00|トイツ| |||<即位>メレンブルク=シュトレリツ公「アドルフ・フリートリヒ4世」アドルフ・フリートリヒ3世の甥(~17940602死去)
1752年12月14日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブレン島知事「Joseph Brenier」(2期目~17560114)
1752年12月18日-09:00|日本|東京都|宝暦2年11月13日|<死去>浮世絵宮川流の始祖・宮川長春(71)
1753年-08:00|インドネシア| |||<即位>チル・ン・スプ・ハン君主「Sultan Sepuh4世 Muhammad Zainuddin」(~1773年)
1753年-08:00|インドネシア| |||<即位>バンテン王国スルタン「アリフ・ザイヌル・アキン」(~1773年)
1753年-07:00|ラオス/ミャンマー| |||ヒルマ軍がラオスのルアン・ラバン王国を攻撃
1753年-05:30|インド/アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン・カシミール総督「イシャク・アカシ」(~5ヶ月)⇒「アブドゥラ・カーン・カブリ」(~同年)⇒「ラジャ・スカ・ジワン・マル」(~1762年)
1753年-05:30|インド| |||<就任>イタル国ラジャ「シブ・シン・アナン・シン」(~1791年没)
1753年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「スティーブン・バーモント」(~1758年)
1753年-05:30|インド| |||<就任>ゴンドル国統治者(タル・サーヒブ)「クンボ・ジ・2世ハロ=ジ」(~1790年没)
1753年-05:30|インド| |||<就任>サント国統治者(ラ)「パ・ダ・ンジン・ラタンジン」(~1774年没)
1753年-05:30|インド| |||<就任>タスラウ国ラジャ「トリロカン・デ・オ・バニ」(~1775年)
1753年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ラジャ「デビ・ア・シン・マル・ラー・ジ・ハリヤン・ダン」(~1771年)
1753年-05:30|インド| |||<就任>パルサ国支配者(ナワブ)「アフサン・アッラー・カーン」建国(~1786年没)
1753年-05:30|インド| |||<就任>ハンスタ国統治者(ラジャ・サーヒブ)「ウダ・イムジ・3世」(~1770年頃没)
1753年-05:30|インド| |||<即位>ゴラ・スルタン「アマス・マティ・ナ・ハ・タラ・コウ」(~1767年)
1753年-05:30|インド| |||<即位>ラック国王(チョス・ギル・チェン・ボ)「ツェワン・ナムギル2世」(~17820617)
1753年-05:30|インド| |||クルワイのもとにムハンマド・ガル国設立
1753年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ・ハン国マンギト朝アミール「ムハンマド・ラヒム」(⇒1756. 12ハンを僭称~17580324)
1753年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<復位>コカンド・ハン国ベイ「エルニ」(2期目~1764年死去)
1753年-04:00|ロシア| |||ロシアで国内関税廃止の布告
1753年-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「ソルタン・ホセイン2世」(対立~6月)
1753年-03:00|スーダン| |||<即位>ダフル・スルタン国スルタン「アブール・カシム」(~1756年頃)
1753年-03:00|バレーン/イラン| |||イランがバフライン島を支配
1753年-02:00|モザンビーク| |||<建国>サンクル首長国
1753年-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「エーバールト・ライヒスライヘル・フォン・ゲミンゲン」(1回目~17551020)
1753年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「セイイド・ヌマン・パシャ」(~1754年)
1753年-01:00|ベナン| |||<就任>サグ・イ・フェタ 国統治者「サグ・ベ」(~1774年)
1753年-01:00|トイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「Count Karl-Wilhelm Finck von Finckenstein」(~1777年)
1753年-01:00|フランス| |||<即位>アキテーヌ公「ゲザウ・イ」フランス王太子ルイ・フェルディナンの次男(~1754年)
1753年-01:00|トイツ| |||トイツで最初の蒸気機関ができる
1753年-01:00|フランス| |||モリが共産主義ユートピア論「バジリアド」を刊
1753年 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島副王「Alexis Brin」(~1763年)
1753年 04:00|アンティグア・バブーダ| |||<就任>アンティグア大統領「アンドリュー・レスリー」(~1760年)
1753年 05:00|タークス・カイコス諸島/フランス| |||タークス・カイコス諸島をフランスが占領(~1754年)
1753年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド 植民地総督「ホレイショ・シャープ」(~1769年)
1753年 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ルイジアナ 植民地総督「ルイ・ビルアル」(~1763年)
1753年1月9日-09:00|日本|岡山県岡山市|宝暦2年12月6日|<交替>備前岡山藩31万5千石「池田継政」隠居⇒長男「池田宗政」が継ぐ(⇒宝暦14(1764)年3月14日、38歳で病死)
1753年1月10日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦2年12月7日|<初演>浅田一鳥・浪岡鯨児・並木素柳・豊竹甚六、人形

1760迄 (2926件)

浄瑠璃「倭假名在原系図」四段目<蘭平物狂>、豊竹座

- 1753年1月11日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの医者ハンス・スローン卿がロンドンで/92歳(誕生16600416)/大英博物館はスローンの遺産をもとに開館することになる
- 1753年1月13日-08:00|中国| |||<死去>ジュンガル・ホンタイジ「ラマ・ドルジ」
- 1753年1月13日-08:00|中国| |||<即位>ジュンガル・ホンタイジ「ダワ・チー」(~1755年)
- 1753年1月18日 00:00|イギリス| |||<死去>8代ストラモア=キング・ホーン伯「トマス・ライオン」
- 1753年1月18日 00:00|イギリス| |||<就任>9代ストラモア=キング・ホーン伯「ジョン・ホーズ」先代の息子(~17760307死去)
- 1753年1月25日 03:00|ウルク・アイ/ポルトガル| |||<就任>サラムント新植民地ポルトガル総督「ホセ・デ・ラ・ベラ・ゴメス・フレイレ・デ・アン・ドラデ」(~17540422)
- 1753年1月31日-05:30|インド| |||<即位>ジョート・プル国マハラジャ「ラム・シン」(2回目~17730823)
- 1753年2月1日-09:00|日本|三重県鳥羽市|宝暦2年12月29日|<死去>志摩鳥羽藩3万石「稲垣昭賢」(55歳)⇒翌年正月25日、甥「稲垣昭央」が継ぐ(⇒安永2(1773)年7月22日、隠居)
- 1753年2月3日-09:00|日本| ||宝暦3年1月|<初演>歌舞伎「倭假名在原系図」四段目<蘭平物狂>山下座
- 1753年2月10日-04:00|モリスヤス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督「ジャン=バティスト・シャルル・ブーヴェ・ド・ロジエ」(~17551203)
- 1753年2月13日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|宝暦3年1月11日|<死去>因幡鹿奴藩3万石「池田仲央」(62歳)⇒長男「池田中庸」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年6月12日、死去)
- 1753年3月1日-01:00|スウェーデン| ||ユリウス暦2月18日|スウェーデンでグレゴリウス暦が採用される
- 1753年3月9日 04:00|日本|広島県広島市|宝暦3年2月5日|広島水主町出火、船頭・水主屋敷等家数102軒焼失
- 1753年3月11日 04:00|セントルシア/フランス| |||セントルシアは事実上フランスの所有物(~17550913)
- 1753年3月14日 00:00|イギリス| |||<死去>2代タンカーヴ・イル伯「チャールズ・ベネット」
- 1753年3月14日 00:00|イギリス| |||<就任>3代タンカーヴ・イル伯「チャールズ・ベネット」(~17671027死去)
- 1753年3月16日 00:00|イギリス| |||ニューカースル政権成立
- 1753年3月30日-05:30|インド| |||<就任>ラダンプール国支配者(ナワブ)「ジャワーン・マルト・カン2世」建国(~1765年没)
- 1753年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」「ジュゼッペ・フランツォーニ」
- 1753年4月2日 04:00|日本|広島県|宝暦3年2月29日|(~3月1日)深津・安那・品治・芦田・御調・沼隈郡の百姓2万余人、つぎつぎと庄屋宅等を打ちこわす
- 1753年4月5日 00:00|イギリス| |||ロンドンに大英博物館が設立される
- 1753年4月24日-09:00|日本| ||宝暦3年3月21日|<死去>2代中山小十郎(49歳)長唄唄方
- 1753年4月27日 04:00|日本|鳥取県鳥取市|宝暦3年3月24日|<鳥取宝暦3年の大火「帽子屋火事」>午の下刻(13時ごろ)、多門町の綿屋佐一郎宅から出火/鹿野海道や智頭海道あるいは若桜町の商家、それに続く侍屋敷まで焼亡/真宗寺に飛び火し堂宇を灰にした炎は袋川を飛び越えて菅能寺へ移り、隣接する瓦町の町家に延焼、今町も全焼したが妙玄寺は門が焼けたが本堂だけは焼けずに残った/被害総数、東西6丁、南北8丁が焼け、侍屋敷104軒、町家1641かまど数(世帯)、土蔵60か所、寺院は真宗寺は本寺と塔頭(子院)とも焼け、浄覚寺、浄宗寺、菅能寺のほか4寺が被害を被った/火事は放火の仕業と判明、犯人は捕らえられて火刑に処せられた
- 1753年4月29日-09:00|日本|東京都中央区|宝暦3年3月26日|<初演>「京鹿子娘道成寺」[作・藤本斗文][曲・杵屋作十郎、弥三郎]初代中村富十郎、中村座
- 1753年5月1日 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<就任>ポルトリコ知事兼提督「Felipe Ramirez de Estenos」(~17570830)
- 1753年5月3日-09:00|日本|東京都|宝暦3年4月|(~9月)江戸で麻疹が流行し、死者多数
- 1753年5月10日-09:00|日本|石川県金沢市|宝暦3年4月8日|<死去>加賀藩102万5千石「前田重熙」(25歳)⇒異母弟の「前田重靖」が継ぐ(~9月29日(17531025)、死去)
- 1753年5月13日-05:30|インド| |||<退任>アワド王サダール・ジャングが宰相職を辞して、帝都デリーからアワドに引き上げた
- 1753年5月13日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「グエンツェル・アントン・グラーフ・ツー・カニッツ・リットベルク」(~17920819)
- 1753年5月23日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「ラルフ・Weeks」(~17560810)
- 1753年5月29日-09:00|日本|新潟県佐渡市|宝暦3年4月27日|幕府、佐渡国に代官を創設
- 1753年5月31日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミノー 総督「ヴァオドール・ド・ラ・ロウ」(~17570324)
- 1753年6月6日 00:00|イギリス| |||<就任>初代シェルブーン伯「ジョン・ペティ」初代ケー伯の次男(~17610514死去)
- 1753年6月7日-01:00|イタリア| |||ベネチアで浮浪者や物乞いを集めて就労させる施設(アルベルゴ)が作られる
- 1753年6月7日 00:00|イギリス| |||大英博物館設立される
- 1753年6月10日-05:30|インド| |||<就任>ウダipur国統治者(マハラ)「ラージ・シン2世」(~17610403没)
- 1753年6月24日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ暫定総督・総司令官・大統領「フアン・デ・ベラルデ・イ・シエンフエス」(1回目~17541017)
- 1753年6月25日-09:00|日本|千葉県香取市|宝暦3年5月24日|<死去>下総小見川藩主「内田正美」(19歳)⇒養子の正良が継いだ
- 1753年6月30日 00:00|イギリス| |||<就任>初代コンウォリス伯「チャールズ・コンウォリス」(~17620623死去)
- 1753年7月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「マティ・グーリコ・ル・ギカ」(~17560208死去)
- 1753年7月-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「コンスタンティン・ミハイ・ラコヴィツ」(1回目~1756年3月)
- 1753年7月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事代理「Jean-Baptiste Hyacinthe de Saint-Michel Dunezat」(2回目~1757. 4)
- 1753年7月1日-09:00|日本|岐阜県中津川市|宝暦3年6月1日|<死去>美濃苗木藩10021石「遠山友明」(37歳)⇒7月23日、養子「遠山友清」が継ぐ(⇒安永6(1777)年11月8日、隠居)

1760迄 (2926件)

1753年7月2日 04:00|アンティグア・バ・ブーダ/イギリス| |||<就任>リーワード・カリブー諸島総司令官・総督「ジョージ・トマス卿」(~17660601)

1753年7月3日-09:00|日本| ||宝暦3年6月3日|<死去>閑院宮直仁親王(50歳)皇族

1753年7月20日-09:00|日本|茨城県下妻市|宝暦3年6月20日|<死去>常陸下妻藩1万石「井上正敦」(47歳)⇒養子「井上正辰」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年5月27日、25歳で死去)

1753年7月26日-09:00|日本| ||宝暦3年6月26日|「麻疹送り」と称して太鼓を叩き、屋台を引き賽銭を集めて回ることが禁止される

1753年7月31日-01:00|アングラ・ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・アルヴァレス・ダ・クーニャ」(~17581014)

1753年8月-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「クニャース・ウラジミール・ペトロヴィッチ・トルコスキー」(~1758年6月)

1753年8月 00:00|ガナ/フランス/イギリス| |||フランスのアマゾンのアマゾン川をイギリス軍が占領、ウィリアム砦と改名

1753年8月6日-09:00|日本| ||宝暦3年6月20日|<死去>似雲(81歳)浄土真宗の僧、歌人

1753年8月7日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「ウィリアム・シャリー」(~17560925)

1753年8月14日-09:00|日本| ||宝暦3年7月16日|<死去>初代吉住小三郎(55歳)長唄唄方

1753年8月15日-05:30|インド/オランダ| |||トラヴァンコール王マルタンダ・ヴァルマがオランダと和平条約締結

1753年8月19日-09:00|日本|宮崎県児湯郡高鍋町|宝暦3年7月21日|<死去>秋月種弘(67歳)前日向高鍋藩主

1753年8月27日-09:00|日本|愛媛県西条市|宝暦3年7月29日|<交替>伊予西条藩33000石「松平頼邑」隠居⇒養子「松平頼淳」が継ぐ(⇒安永4(1775)年2月3日、紀伊国紀州藩を相続)

1753年9月3日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金在魯」(~17540626)

1753年9月17日-09:00|日本|秋田県秋田市|宝暦3年8月20日|<死去>出羽久保田藩205800石「佐竹義真」腫れ物のため(26歳)⇒9月3日、養子「佐竹義明」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年3月18日、死去)

1753年9月21日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリアとバイエルンが貨幣協定締結

1753年9月22日 05:00|エアドル/スペイン| |||<就任>スペイン領北総督・総司令官・大審問院長「セルヴァ・アレグレ侯爵ファン・ビョ・デ・モントーファル・イ・フラス・ホ・ラス・イ・デル・コロ」(~17610924)

1753年9月27日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦3年9月1日|江戸深川三十三間堂通矢「五十間堂百射」で、湯川徳次郎(14歳)が58本(総矢数100中)を記録。種目最初

1753年9月27日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦3年9月1日|江戸深川三十三間堂通矢「四十間堂百射」で、平岩団之助(13歳)が82本(総矢数100中)を記録。種目最初

1753年9月28日-09:00|日本| ||宝暦3年9月2日|<死去>初代津打門三郎(51歳)歌舞伎役者

1753年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「フィリップ・マネンティ・ベルツィ」「マルク・アントニオ・タッシーニ」

1753年10月17日-09:00|日本|長崎県長崎市|宝暦3年9月21日|長崎奉行所に目安箱を置く

1753年10月25日-09:00|日本|石川県金沢市|宝暦3年9月29日|<死去>加賀藩102万5千石「前田重靖」(19歳)⇒異母弟の「前田重教」が継ぐ(⇒明和8(1771)年4月、隠居)

1753年10月29日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||サントメ・プリンシペ植民地を形成するためにサントメとプリンシペ統合

1753年10月29日-09:00|日本|滋賀県長浜市|宝暦3年10月4日|<死去>近江宮川藩13000石「堀田正陳」(45歳)⇒長男「堀田正邦」が継ぐ(⇒明和9(1772)年6月2日、39歳で死去)

1753年11月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官「ニコラ・デ・ピナ・デ・アラウ」(~1757年)

1753年11月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||ビサウにサン・ジョゼ・ビサウ要塞が建設される

1753年11月5日-05:30|インド| |||<就任>アフド国統治者(スバ・タル・ナワブ)「アブ・イル・マンスール・モハメド・モキム・カーン」(2回目~17541005)

1753年11月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>ナッサウ＝ヴァイルブルク侯「Charles August」

1753年11月9日-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ＝ヴァイルブルク侯「Charles Christian」(~17881128死去)

1753年11月23日-05:30|インド/フランス| |||ニザーム王国4代国王サラハト・ジヤングはフランスとアウランガーバード条約を結び、フランス軍の駐留費として、北サルカルと呼ばれる地域を割譲

1753年11月24日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラタ副王「セル・マヌエル・ソリス・フォルチ・デ・カルトナ」(~17610224)

1753年12月3日 00:00|イギリス| |||<死去>3代バーリントン伯・第4代ヨーク伯「リチャード・ポイル」

1753年12月3日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ヨーク伯「ジョン・ポイル」5代オウリー伯(~17621123死去)

1753年12月10日 00:00|イギリス| |||<死去>4代クレントン伯・2代ロチェスター伯「ヘンリー・ハイド」断絶

1753年12月25日-09:00|日本|愛知県田原市|宝暦3年12月1日|<死去>三宅康徳(71歳)前三河田原藩主

1753年12月27日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ知事「Jean Antoine Joseph」(~1757年)

1754年-05:30|インド| |||<就任>アウド国統治者(パンツ・プティニティ)「ジュリニガ・アスラ・ガンガタル」(2回目~1762年)

1754年-05:30|インド| |||<就任>シムル国ラジャ「キラット・プ・ラカシュ」(~1773年没)

1754年-05:30|インド| |||<就任>ジョシ国統治者(デ・シュムク)「イェシュワント・ラウ」(~1759年没)

1754年-05:30|インド| |||<就任>ラジピット王国統治者(ラジャ・マハナ)「ダリルシジ(篡奪者)」(~6ヶ月)⇒「フ・ラタ・シンジ」(~1764年没)

1754年-05:30|インド| |||<就任>ランプル国ラジャ「ナルシン・バジジュタル・ナレントラ」(~1789年)

1754年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<死去>ブハラ・ハン国ハン「Ubayd Allah Khan3世」

1754年-05:00|パキスタン| |||<即位>カトール朝国王「Shah Fazil」

1754年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ・ハン国ジャーン朝ハン「アブル＝ガーズィー」イマーム・クリの孫サイド・イブラヒムの子(~1756年廃位)

1754年-03:00|イラク| |||<即位>ハバン首長「Nawaub Sulaiman Pasha」(~1765年)

1754年-01:00|ドイツ| |||<就任>イゼンブルク・ウント・ヒューテングェン・イン・ビルシュタイン侯「ウ・オルファンク・エルンスト2世」(~1803年)

1754年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハフィズ・アフメト・パシャ」(3度目~1755年)

1760迄 (2926件)

1754年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ暫定総督「Juan de Urbina」(~同年)⇒総督「Miguel Agustin Carren o」(~1759年)

1754年-01:00|ナジエリヤ| |||<即位>オヨ王国アラフィン「ラビシ」(~同年)⇒「アオンビオ」(~同年)⇒「アグホルエ」(~同年)⇒「マエブエ」(~1770年)

1754年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Lopo de Sousa Coutinho」(~同年死去)⇒「Chamber Senate」(~1758. 2)

1754年 00:00|イギリス/チリ| |||ミグ 提督の率いる英艦隊、サンチアゴを襲撃、略奪

1754年 04:00|アルバ/オランダ| |||<死去>アルバ 島司令官「Daniel Nieuwkerk」

1754年 04:00|モントセウト/イギリス| |||<死去>イギリス植民地モントセウト大統領「George Frye」

1754年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ 島司令官代理「Lourens Groes」(~1756年)

1754年 04:00|トミニカ国/フランス| |||<就任>フランス・トミニカ司令官代行「デ ッサー (デ ッサー・ボンタンの弟)」⇒「ルイ・ロベール・ド・ラ・トゥーシュ・ド・ロンプレ」(~1761年6月)

1754年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・フータ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ニコラス・ヒメネス・デ・ロバトン・イ・アザニャ・マルケス・デ・ロジャエルテ」(~1757年没)

1754年 04:00|パラグアイ| |||イエス会、マドリッド条約に反対し、パラナ河流域のグアラニ族をスペインとポルトガルに対して武装蜂起させる(グアラニ戦争)2年後に敗北

1754年 04:00|チリ| |||コンセプション、アラウカ族の襲撃により破壊され移転

1754年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第5代総督「ジョン・レイノルズ」(~1757年)

1754年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ペンシルベニア植民地総督「ロバート・ハンター・モリス」(~1756年)

1754年 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ暫定総督「フランシスコ・フェルナンデス・デ・ラ・パストラ・イ・ミランダ」(~17560702没)

1754年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>コネチカット植民地総督「トマス・フィッチ」(~1766年)

1754年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Francisco Antonio Marin del Valle」(~1760年)

1754年 06:00|グアテマラ/スペイン/イギリス| |||ベテン県の部隊による大規模なベリセ制圧作戦。失敗に終わる。英国は各所に砦を築き、スペイン軍を撃退

1754年1月3日-06:30|ミャンマー| |||アワ王国が独立

1754年1月3日-09:00|日本|愛媛県西条市|宝暦3年12月10日|西条藩領新居郡宇高・郷村など16か村の農民3900人、検見取による高免に反対、西条加茂河原に集まる(伊予百姓一揆)。郷村平兵衛ら斬首となるが、年貢増徴は撤回

1754年1月4日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|宝暦3年12月11日|<交替>日向国佐土原藩27000石「島津忠雅」隠居⇒三男「島津久柄」が継ぐ(⇒天明5(1785)年5月23日、隠居)

1754年1月6日-09:00|日本|広島県広島市|宝暦3年12月13日|広島稲荷町出火、東柳町全焼、家196軒(503竈)焼失

1754年1月11日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦3年12月18日|<初演>「けいせい天羽衣」北川惣左衛門・初代中山新九郎、山名宗全、赤松四郎、初代中村歌右衛門☆大掛りなセリ上がり、(3間四方)大坂角の芝居→翌年4月

1754年1月23日-09:00|日本| ||宝暦4年|<完成>俳人白井鳥酔、師佐久間柳居の年忌を催し、記念集「百蓮香」

1754年1月23日-08:00|インドネシア| |||和平方約によって、伝統あるマラム王国は、「スラカル王国」と「ジョジャカルタ王国」に分割された

1754年3月4日-01:00|ドイツ| |||<死去>アレンベルク公「レオポルト・フィリップ」

1754年3月4日-01:00|ドイツ| |||<即位>アレンベルク公「カール・マリア・ライムント」(~17780817死去)

1754年3月6日 00:00|イギリス| |||<死去>グレートブリテン連合王国第3代首相「ヘンリー・ペラム」

1754年3月12日-09:00|日本|東京都|宝暦4年2月19日|千住大橋が架け直される

1754年3月16日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン王国第4代首相「初代ニューカッスル公爵トマス・ペラム=ホルズ」ホイッグ 党(1期目~17561116)

1754年3月22日-09:00|日本| ||宝暦4年2月29日|<死去>杉浦真崎(65歳) 歌人

1754年3月30日-09:00|日本|京都府京都市中京区|宝暦4年閏2月7日|山脇東洋らが、壬生で初めて刑死体の解剖を指導/その記録「蔵志」は宝暦9年(1759)刊

1754年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「シロ・ラモ・ゴジ」「ウインチェンツォ・モラッチ」

1754年4月2日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ハートウィック伯「フィリップ・ヨーク」(~17640306死去)

1754年4月9日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官フェルナント・デ・シルバ(第12代アルバ 公爵) (~17540515)

1754年4月17日 06:00|アメリカ/フランス| |||フランス軍、カイ川の要衝にデュケヌ砦建設

1754年4月22日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<就任>サクラメント新植民地ポルトガル総督「Luis Garcia de Bivar」(2期目~17600217死去)

1754年4月22日-09:00|日本|千葉県勝浦市|宝暦4年3月1日|<加増>上総勝浦藩1万石「大岡忠光」+5000石⇒15000石(⇒宝暦6(1756)年5月21日、武蔵岩槻藩2万石へ加増移封)

1754年5月11日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アマー大司教ジョージ・ストーン/ニューボート男爵ロバート・ジョセリン/ヘスバウ伯爵ブラザン・ボンソルビー」(~17550505)

1754年5月11日-09:00|日本|福岡県久留米市|宝暦4年3月20日|久留米藩領で人別銀の廃止などを求めて一揆が起る(久留米騒動)

1754年5月15日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官リカルド・ウォール(~17631009)

1754年5月16日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マティウ総督「Manuel de Saldanha e Albuquerque」(~1758. 4)

1754年5月28日 06:00|アメリカ| |||ワシントンがネセティ砦を建設しフレンチインディアン戦争開始

1754年5月31日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「トマス・フォーク」(~17560712)

1754年6月2日-05:30|インド| |||<即位>ムガル帝国皇帝「アーラムギール2世」(~17591129死去60歳)

1760迄 (2926件)

1754年6月2日-05:30|インド| |||<退位>ムガル帝国皇帝「アフマド・シャー」(~17750101死去49歳)
1754年6月9日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦4年4月19日|江戸三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、久保田源太(14歳)が11,638本(総矢数14,320中)を記録
1754年6月21日-09:00|日本| ||宝暦4年夏|平瀬徹斎編「日本山海名物図会」が刊行される
1754年6月23日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジャン・ジャコモ・ヴェネツ」(~17560623)
1754年7月3日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李天輔」(~17580913)
1754年7月4日 06:00|アメリカ/フランス| |||(3~)ワシントン、セシティ砦の戦いでフランスとインディアンの連合軍に敗退、フォートセシティを放棄。フランス人、カハ付全域を掌握
1754年7月12日-09:00|日本|徳島県徳島市|宝暦4年5月22日|<交替>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀宗鎮」隠居⇒弟「蜂須賀至央」が継ぐ(⇒7月12日、死去)
1754年7月14日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト＝コスト総裁「ニコラス・マテウス・ファン・デル・ヌート・デ・ジ・テレ」(~17551024在任中死去)
1754年7月24日-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・ベイルベ・イレリ「アリ1世パシャ」(~17930730)
1754年7月26日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「ペドロ・マヌエル・デ・アラランダ」(~17590531死去)
1754年8月 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ総督「ルイス・アントニオ・ダ・ケニヤ・デ・サ」(~1757年3月)
1754年8月2日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総代行督「シャルル・ロベール・ゴデフリュ・ザ・イモン」(~17550216)
1754年8月3日-07:00|タイ| |||<即位>ナン王国第2代国主「アリヤワソントク」ヒルマの指名(~17680708)
1754年8月6日-09:00|日本| ||宝暦4年6月18日|<死去>仲村渠致元(59歳)陶工
1754年8月7日-09:00|日本|滋賀県彦根市|宝暦4年6月19日|<交替>近江彦根藩30万石「井伊直定」隠居⇒甥「井伊直孝」が継ぐ(⇒同年8月29日、急逝)
1754年8月17日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「暫定政府軍事フタ(セルホ・テリョ・デ・マトス/マヌエル・アントニオ・ダ・ケニヤ・ソウト・メジャール/ロレンソ・モンティロ)」(~17551223)
1754年8月18日-08:00|中国/モンゴル| ||清・乾隆19年7月|ジュンガル部のアムルサが清に亡命
1754年8月23日-03:00|イェメン| |||<死去>ラシー朝イマム「アナジュール・ムハンマド・ヒン・イシャク」
1754年8月23日-01:00|フランス| |||<即位>ベリ公「ルイ」(~17651220⇒ルイ16世)
1754年8月23日-09:00|日本|広島県庄原市|宝暦4年7月6日|庄原新庄町残らず焼失
1754年8月24日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<設立>デンマーク王領植民地(デンマーク西インド諸島)
1754年8月26日 00:00|イギリス| |||<死去>ポルトン公・ウィンチェスター侯「チャールズ・ホーレット」
1754年8月26日 00:00|イギリス| |||<就任>ポルトン公・ウィンチェスター侯「ハリー・ホーレット」(~17591009死去)
1754年8月27日-09:00|日本|東京都|宝暦4年7月10日|<死去>3代嵐三右衛門(58歳)歌舞伎役者
1754年8月28日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦4年7月11日|<郡上一揆>美濃国郡上藩小駄良口(旧八幡町)の庄屋たちが御用金負担が重いことを訴え、新規の課税と御用金の徴収を止めるよう嘆願
1754年8月29日-09:00|日本|徳島県徳島市|宝暦4年7月12日|<死去>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀至央」(19歳)⇒8月25日、養子「蜂須賀重喜」が継ぐ(⇒明和6(1769)年10月晦日、隠居)
1754年8月30日-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン「イスカンダール・ルカルナイン・イナヤット・シャー・カハラ・ハリファット・ウル・ラーマン・ヨハン・ベルダウラト・ジラヒ・フィルク・アラム・イブニ・アル・マフム・スルタン・ムハンマド・シャー・アマウラ」(~17650714没)
1754年9月-08:00|インドネシア/イギリス| |||<死去>ペンケレン副総督(マダガスカル総督に従属)「ロバート・Hindley」
1754年9月-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ペンケレン副総督(マダガスカル総督に従属)「ジョン・Walsh -Supervisor」(~1755年)
1754年9月1日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦4年7月15日|<死去>初代芳澤あやめ/歌舞伎女形役者
1754年9月3日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦4年7月17日|<郡上一揆>美濃国郡上藩那留ヶ野という場所に郡上郡内の庄屋、組頭が黒崎佐一右門が行った郡上領内の巡検は容認できるものではなく、何事によらずこれまでの先例通り行って欲しい旨の嘆願書を郡上藩側に手渡す
1754年9月4日-09:00|日本| ||宝暦4年7月18日|<死去>2代芳澤あやめ(53歳)歌舞伎役者
1754年9月5日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランバル)司令官「ハンス・ゲオルク・クログ」(~17590810)
1754年9月7日-09:00|日本| ||宝暦4年7月21日|<死去>伏見宮貞建親王(55歳)皇族
1754年9月8日-09:00|日本| ||宝暦4年7月22日|<死去>羽川珍重(76歳)浮世絵師
1754年9月11日-09:00|日本|長崎県島原市|宝暦4年7月25日|<交替>肥前島原藩77000石「戸田忠盈」隠居⇒弟「戸田忠寛」(⇒天明2(1782)年9月10日、大坂城代に就任し河内国・播磨国77000石に移封)
1754年9月15日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦4年7月29日|<初演>千落荘主人、人形浄瑠璃「義経腰越状」豊竹座、三段目の口五斗三番、切鉄砲場
1754年9月18日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「アルヴァ伯爵ルイス・マスカレニャス」(~17560628没)
1754年9月18日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦4年8月2日|<郡上一揆>美濃国郡上藩内の約120名の庄屋ら各村の惣代が郡上南宮神社に集まって惣代寄合を行い、神社の神前で一味同心の誓いを立てた上で傘連判状を作成し、年貢徴収法改正お断りの嘆願書を作成し藩側に手渡されたものの、藩側からきちんとした年貢徴収法改正断念の返事はなかった
1754年9月20日-09:00|日本|京都府綾部市|宝暦4年8月4日|<死去>谷衛憑(81歳)前丹波山家藩主
1754年9月21日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|宝暦4年8月5日|<死去>出羽本荘藩2万石「六郷政長」(49歳)⇒養子「六郷政林」が継ぐ(⇒天明5(1785)年3月10日、隠居)
1754年9月25日-01:00|イタリア| |||ベネチア市の国勢調査実施

1760迄 (2926件)

1754年9月26日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦4年8月10日|<郡上一揆>美濃国郡上藩中そして郡上藩の越前領内からも集結した大勢の農民たちは、藩側に検見法への年貢徴収法改正断念を願う願書とともに、金森頼錦が藩主となって以降の各種の税や御用金、使役の負担増を指摘し、負担免除を願った十六か条の願書を差し出すという強訴に及んだ/藩側は願書を受け入れ検見法への年貢徴収法改正を断念する旨記した免許状を渡し、十六か条の願書についても了承する旨の免許状を手渡した

1754年9月30日-09:00|日本|大阪府豊中市|宝暦4年8月14日|<死去>摂津麻田藩1万石「青木見典」⇒25日、弟「青木一新」が継ぐ(⇒明和7(1770)年7月26日、隠居)

1754年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マッテオニ」「オットー・イオ・ファツィーニ」

1754年10月1日-01:00|オーストリア| ||オーストリアでマリア・テレジアの関税令が発表

1754年10月3日 00:00|イギリス| ||<死去>ノースampton伯「ジェームズ・コンプトン」

1754年10月3日 00:00|イギリス| ||<就任>ノースampton伯「ジョージ・コンプトン」(~17581206死去)

1754年10月5日-05:30|インド| ||<就任>アワド 国統治者(スバダル・ナワブ)「ジャラル・アブ・デイン・ショジャ・アブ・ダウラ・アブ・アル・マン・スール・カーン・ハイダル」(~17620215)

1754年10月15日-09:00|日本|滋賀県彦根市|宝暦4年8月29日|<死去>近江彦根藩30万石「井伊直視」(28歳)⇒叔父「井伊直定」が再任(⇒宝暦5(1755)年、隠居)

1754年10月15日-09:00|日本|福島県いわき市|宝暦4年8月29日|<交替>陸奥泉藩15000石「本多忠如」隠居⇒長男「本多忠壽」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年4月16日、5000石加増され2万石)

1754年10月16日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興15年9月|大越でオランダのキリスト教禁止

1754年10月16日-09:00|日本| ||宝暦4年9月1日|世界初の計算で予測された日食/予測したのは大阪の麻田剛立

1754年10月17日 06:00|グアテマラ/スペイン| ||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「アロンソ・デ・アルコス・イ・モレノ」(~17601027没)

1754年10月22日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督「ピーター・アルベルト・ファン・デル・メル」(~17560824)

1754年10月22日-09:00|日本|滋賀県高島市|宝暦4年9月7日|<交替>近江大溝藩2万石「分部光命」隠居⇒長男「分部光庸」が継ぐ(⇒天明5(1785)年3月10日、隠居)

1754年10月25日-09:00|日本|福岡県朝倉市|宝暦4年9月10日|<死去>筑前秋月藩5万石「黒田長貞」(61歳)⇒長男「黒田長邦」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年2月23日、死去)

1754年10月31日 06:00|アメリカ| ||キングス・カレッジ(後のコロンビア大学)創立

1754年11月3日 00:00|イギリス| ||<死去>エクセター伯「フランシス・セル」

1754年11月3日 00:00|イギリス| ||<就任>エクセター伯「フランシス・セル」(~17931226死去)

1754年11月6日-05:30|インド| ||<就任>デウス国ラジャ「クリシュナ・ラオ1世パール」(~17890324没)、摂政「ラニ・サトリバイ」(~1756年)

1754年11月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦4年10月13日|<初演>竹田出雲・吉田冠子・中邑閨助・近松半二・三好松洛、人形浄瑠璃「小野道風青柳硯」竹本座

1754年11月29日-03:30|イラン| ||サント朝キリム・ハーンがシーラーズに入城

1754年12月2日-09:00|日本| ||宝暦4年10月19日|土御門(安倍)泰邦、西川正休、渋川六蔵らによって貞享暦の改正、宝暦5年から宝暦暦となる

1754年12月11日-01:00|アルジェリア| ||<就任>アルジェのデイ「アリ3世ブー・セハ」(~1766年2月没)

1754年12月13日-02:00|トルコ| ||<死去>オスマン帝国第24代スルタン「マフムト1世」

1754年12月13日-02:00|トルコ| ||<即位>オスマン帝国第25代スルタン「オスマン3世」先代の弟、22代ムスタファ2世の子(~17571030死去)

1754年12月22日 00:00|イギリス| ||<死去>2代アルバマル伯「ウィリアム・アン・ヴァン・ケッペル」

1754年12月22日 00:00|イギリス| ||<就任>3代アルバマル伯「ジョージ・ケッペル」先代の息子(~17721013死去)

1754年12月25日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ゴア伯「ジョン・ルーソン・ゴア」

1754年12月25日 00:00|イギリス| ||<就任>2代ゴア伯「ケラングイル・ルーソン・ゴア」先代の長男(⇒17860301兼初代スタッフォート侯~18031026死去)

1754年12月25日-09:00|日本|東京都台東区|宝暦4年11月12日|江戸寛永寺根本中堂でできる

1754年12月31日-01:00|フランス/イギリス/インド| ||フランス領インドのポンデシェリで英仏和平協定が締結

1755年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ベンクーレン副総督(マドラス総督に従属)「ジョン・Pybus」(~同年)⇒「トマス・Combes」(~1756年)

1755年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「アブラハム・Abeleven」(~1758年)

1755年-08:00|インドネシア| ||<即位>テルナテ・スルタン「Syah Mardan」(~1763年)

1755年-08:00|インドネシア| ||<即位>マタラム王国スルタン「パク・ウオノ3世」スラカルタとジョグジャカルタに分裂⇒スラカルタ君主(~1788年死去)

1755年-07:00|カンボジア| ||<死去>カンボジア王国国王「チェッタ5世」

1755年-07:00|カンボジア| ||<即位>カンボジア王国国王「アントン」(2回目~1758年)

1755年-05:30|インド| ||<就任>ケムハルサイン国統治者(タナ・サハブ)「タリフ・シン」(~1789年)

1755年-05:30|インド| ||<就任>コッタ・サンガニ国統治者(タクル)「ホティン」(~1812年没)

1755年-05:30|インド| ||<就任>サヴァンティイ国統治者(サル・デサイ)「ケム・サヴァン3世」(~17850512)、摂政「スバギヤウ・アティ・シヤキ・バイ」(~1763年)

1755年-05:30|インド| ||<就任>サリウ国ラジャ「アマン・シン」建国(~1788年没)

1755年-05:30|インド| ||<就任>ナバ 国ラジャ「ハミル・シン」建国(~1783年12月没)

1760迄 (2926件)

1755年-05:30|インド| |||<就任>ナガール国ラジヤ「ムルトウジ・エイ・シン・マンダッタ」(~1789年)
 1755年-05:30|インド| |||<就任>レウ国ラジヤ「アジ・ット・シン」(~1809年没)
 1755年-05:00|パキスタン| |||<就任>トラル国統治者(ミフタル)「ファラムス・シャー」(~1770年)
 1755年-04:00|アゼルバイジャン| |||<死去>シャッキ汗国ハーン「ハジ・チャラビ・ハーン」
 1755年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャッキ汗国ハーン「アガ・キシ・ハーン」(~1759年死去)
 1755年-04:00|アルメニア| |||<即位>エリヴァン汗国ハーン「ハサン・アリ・ハーン・カーズ・ジャール」(~1762年)
 1755年-03:00|カンタ| |||<死去>ブラモキ統治者(オムカマ)「ジボント1世カンバンキ1世」
 1755年-03:00|カンタ| |||<就任>バグウェリ統治者(オムカマ)「ンハンテ」(~1764年頃)
 1755年-03:00|スーダン| |||<就任>フンジのコルト・ファン総督「ムハンマド・アフ・リカイリク」(~1762年)
 1755年-03:00|カンタ| |||<就任>バグブラ統治者(オムカマ)「ナエレル」(~1783年頃)
 1755年-03:00|カンタ| |||<就任>ブラモキ統治者(オムカマ)「ジボント2世ムホソコ2世」
 1755年-03:00|イラク| |||<即位>ハバン首長「Muhammad Pasha」(~1775年)
 1755年-03:00|ジブチ| |||<即位>ラハイト・スルタン「ハマト・ヒン・ブルハン」⇒「ブルハン・ヒン・デ・ニ」
 1755年-03:00|カンタ| |||<即位>ンコレ王国国王「Rwabirere」⇒「Karara」⇒「Karaiga」⇒「Kahaya1世 Nyamwanga」(~1783年死去)
 1755年-01:00|スペイン| |||<就任>第12代アルバ公・オリバーレス公「フェルナント・デ・シルバ・イ・アルバレス・デ・テレサ・アルバレス・デ・トレド」(~17761115死去) 先代の子
 1755年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「オメル・ハ・シャ・カガ・アジエ」(~1768年)
 1755年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ムスタファ・ハ・シャ」(2度目~1756年)
 1755年-01:00|カメルーン| |||<即位>マダラ・スルタン国スルタン「ブラデ・イア・ワンダラ」(~1773年)
 1755年-01:00|ドイツ| |||オイラーがarctan無限級数を発見
 1755年 00:00|セネガル| |||<就任>ジョロフ帝国統治者(ブールバ・ジョロフ)「ハカム・ブ・ウリ・ニヤフ」(~1770年頃)
 1755年 04:00|モントセラト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセラト大統領「George Wyke」(~1764年死去)
 1755年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督「アロンソ・フェルナンデス・デ・エリディア」(~1758年)
 1755年 06:00|カナダ/アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ウオード・ルイユ・カガ・アニャル侯爵ビエール・フランソワ・トリコ」(~1760年)
 1755年1月 06:00|ニカラガア| |||<死去>モスキート王「エドワート1世」
 1755年1月 06:00|ニカラガア| |||<即位>モスキート王「ジョージ1世サミュエル・ロデリック・カントラ」(~1776年1月没)
 1755年1月4日-09:00|日本| ||宝暦4年11月22日|幕府が1715年の酒造制限令を廃し、1697年の額に復活させる
 1755年1月7日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|宝暦4年11月25日|<死去>鍋島宗茂(69歳)前肥前佐賀藩主
 1755年1月12日-04:00|ロシア| ||ロシア暦1月1日|女帝エリザベータ・ペトロヴナがモスクワ国立大学を創設
 1755年1月19日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦4年12月8日|<郡上一揆>美濃国郡上藩中の村方三役が呼び出され、8月10日の強訴は不屈さではあるが、農民らの訴えを聞き届ける旨の藩主の意向が示された
 1755年1月25日-04:00|ロシア| |||科学者ミハイル・モノソフの建言によって「モスクワ大学」創設
 1755年1月27日 00:00|フェロ諸島| |||<死去>フェロ諸島首席大臣「Samuel Pedersen i Lamhauge」
 1755年1月27日-08:00|中国| ||清・乾隆19年12月16日|雲南、易門地震/M6. 5、死者345人
 1755年2月10日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの法律家・啓蒙思想家シャルル＝ルイ・ド・モンテスキュー(1689-、66歳)「ベルシヤ人の手紙」・「法の精神」で知られる
 1755年2月11日-09:00|日本|大谷大学|宝暦5年|東本願寺の学寮を京都高倉魚棚に移転し高倉学寮と改称
 1755年2月11日 00:00|イギリス/中国| ||清・乾隆20年|イギリス東インド会社が商船を浙江に派遣し、寧波での貿易を要求
 1755年2月11日-09:00|日本| ||宝暦5年1月1日|幕府が貞享暦を廃し、宝暦戊暦を使う
 1755年2月13日-08:00|インドネシア| |||<即位>ジョグジャカルタ・スルタン「Hamengkubuwono1世」(~17920324死去)
 1755年2月13日-01:00|オランダ/インドネシア| |||オランダとジャワのマタラム王国がギヤンティ条約を締結、王領を折半しハモンク・ブウォノ1世のジョグジャカルタ王国(首都:南西ジョグジャカルタ)とパグワノ3世のスラカルタ王国(首都:スラカルタ)が並び立ち、事実上オランダの保護下に入った
 1755年2月14日-05:30|インド| |||<就任>ナグプール国統治者(セ・サーヒブ・スパー)「ジャナジ」(~17730521没)
 1755年2月15日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ヘキメル・アリ・ハ・シャ」(3期目~5. 18)
 1755年2月16日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 暫定総督「秘密委員会(ハルテルミ・ボイロー・ギョール)」(~4. 8)
 1755年2月20日 00:00|イギリス| |||<就任>キルデア伯「ジェームズ・フィッツジェラルド」(⇒17610303初代キルデア侯・初代オファリー伯⇒17661126兼初代リンスター公~17731119死去)
 1755年3月16日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|宝暦5年2月4日|<交替>美濃加納藩65000石「安藤信尹」強制隠居⇒次男「安藤信成」が継ぐ(⇒翌年5月21日、陸奥磐城平藩6万石に減移封)
 1755年3月20日-09:00|日本|静岡県沼津市|宝暦5年2月8日|<死去>駿河松永13000石「大久保教起」(23歳)⇒長男「大久保教倫」が継ぐ(⇒安永2(1773)年5月9日、死去)
 1755年3月31日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦5年2月19日|<就任>関白「一条道香」(~宝暦7年3月16日)
 1755年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ビ・アジ・オ・アントニオ・マルテリ」「ジュゼッペ・ベルトーニ」
 1755年4月8日-05:30|インド/フランス| |||就任>フランス領インド 総督「ジョルジュ・デュヴァル・ド・レリット」(~1758年)
 1755年4月10日-09:00|日本|東京都|宝暦5年2月29日|幕府が、諸役所の経費節減のため勝手向御用掛を任命
 1755年4月11日 00:00|イギリス| |||<死去>3代オックスフォード伯＝モティマー伯「エドワート・ハーレー」
 1755年4月11日 00:00|イギリス| |||<就任>4代オックスフォード伯＝モティマー伯「エドワート・ハーレー」(~17901011死去)
 1755年4月15日 00:00|イギリス| |||サミュエル・ジョンソンの「英語辞典」が刊行される

1760迄 (2926件)

1755年4月21日-09:00|日本|栃木県日光市|宝暦5年3月10日|地震により、日光東照宮奥院が崩壊
1755年5月5日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「デヴオンシャー公爵ウィリアム・キャヴァンティッシュ」(~17570925)
1755年5月6日-09:00|日本|群馬県沼田市|宝暦5年3月25日|<死去>上野沼田藩35000石「土岐頼熙」(37歳)⇒弟「土岐定経」が継ぐ(5月18日襲封⇒天明2(1782)年8月20日、55歳で死去)
1755年5月9日-03:30|イラン| |||<即位>アフシャール王朝対立シャー/ホーサン・シャー「イスマイル・ワ」(3回目、ホサンで対立~17960514)
1755年5月18日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ネリ・アフドゥッラー・パシャ」(~8.24)
1755年5月20日-09:00|日本|栃木県日光市|宝暦5年4月10日|大地震により日光山奥院が崩壊
1755年5月21日-05:30|インド| |||<死去>パトラポル国マハラジャ「バダナン・シン」
1755年5月21日-05:30|インド| |||<即位>パトラポル国マハラジャ「スジャンジ・シン」(~17631225没)
1755年5月31日-09:00|日本|島根県安来市|宝暦5年4月21日|<死去>松平近明(54歳)前出雲広瀬藩主
1755年6月7日-03:30|イラン| |||イラン北西部で地震(M5.9)死者1200人
1755年6月10日-08:00|中国| ||清・乾隆20年5月|清軍がアムルサとともにジュンガル部の動乱を平定
1755年6月17日-01:00|イタリア| |||ベネチアでグリマーニ、サン・ベネデットに立派な劇場を建設
1755年6月19日-05:00|パキスタン| |||<死去>カホラ朝君主「Mian Noor Muhammad」
1755年6月19日-05:00|パキスタン| |||<即位>カホラ朝君主「Muhammad Muradyab Khan」(~1757年)
1755年6月19日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||ニュー・イングランド 民兵、ボージェール砦占領
1755年6月26日-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「ヤス2世アスマ・ギヨルギス」
1755年6月26日-03:00|エチオピア| |||<就任>エチオピア帝国(ソモン朝) 摂政「メンテワ 皇后」(2回目~17690507)
1755年6月26日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「イブス・ヤス」(~17690507~17690514死去)
1755年7月1日-09:00|日本|岐阜県|宝暦5年5月22日|薩摩藩は幕府から命じられた木曽川、長良川、揖斐川が合流する、下流域の治水工事(木曽川治水工事御手伝普請、宝暦4年2月22日~)の完成が認められた/新築造や修復した堤防の総延長は120kmという前代未聞の大工事/工期中の藩士の病死者33人、自害した者52人、総奉行の家老平田鞠負は工事一切の責任を負い、この日の3日後の早朝、割腹自害
1755年7月8日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||フレンチ・インディアン戦争開始。フランス領ルイジアナ植民地にイギリス軍侵入。フランスはインディアンと共同しこれを迎え撃つ/ウィルトネの戦いで英軍は壊滅的敗北を喫する
1755年7月9日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||<フレンチ・インディアン戦争モンカヘラの戦い>英軍ブラッドック将軍戦死
1755年7月17日-09:00|日本|熊本県|宝暦5年6月9日|<宝暦5年球磨川の洪水、「瀬戸石崩れ」>球磨川中流部に山崩れから出来た天然ダムが崩壊し、同川の下流一帯の大洪水で506人死亡、住家流出2118戸、番所流出2か所、神社、辻堂の流出10か所、舟の流出101艘/水田2万1753町余(約216平方km)、畑7625町余(約76平方km)が埋没
1755年7月19日-09:00|日本| ||宝暦5年6月中旬|(~6年3月)宝暦の大飢饉、東北大冷害で米価高騰
1755年7月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|宝暦5年6月16日|<死去>薩摩藩72万8700石「島津重年」(27歳)⇒長男「島津重豪」が継ぐ(⇒天明7(1787)年1月29日、隠居)
1755年7月25日-05:30|インド| |||<就任>グワリル国統治者(スプタル)「ジャンゴラオ1世・シンディ」(~17610115没)、摂政「タッタラオ・シンディ」(~17600110没)
1755年7月27日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Koca Mehmed Raghib Pasha」(~1756年)
1755年8月2日 00:00|イギリス| |||<死去>デンビー伯・デズモンド伯「ウィリアム・フィールド・イング」
1755年8月2日 00:00|イギリス| |||<就任>デンビー伯・デズモンド伯「ハシル・フィールド・イング」(~18000714死去)
1755年8月5日-09:00|日本|東京都|宝暦5年6月28日|城郭付近や住宅密集地での花火の打ち上げ禁止
1755年8月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ケーテン侯「Augustus Louis」
1755年8月6日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ケーテン侯「Karl George Lebrecht」(~17891017死去)
1755年8月6日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「Christian Leberecht Baron von Prock」(~17660807)
1755年8月20日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ロクスバラ公「ロバート・カー」
1755年8月20日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ロクスバラ公「ジョン・カー」(~18040319死去)
1755年8月24日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「シラタール・ブユル・アリ・パシャ」(~10.25)
1755年8月28日 06:00|カナダ| |||ノヴァスコシアで忠誠誓約拒否のアカディア人に対して強制追放令
1755年8月29日-09:00|日本|千葉県勝浦市|宝暦5年7月22日|<死去>植村恒朝(55歳)元上総勝浦藩主
1755年8月31日-09:00|日本|新潟県長岡市|宝暦5年7月24日|<死去>越後長岡藩74000石「牧野忠利」(22歳)⇒弟「牧野忠寛」が継ぐ(⇒明和3(1766)年6月30日、死去)
1755年9月1日-09:00|日本|滋賀県彦根市|宝暦5年7月25日|<交替>近江彦根藩30万石「井伊直定」再隠居⇒甥「井伊直幸」が継ぐ(⇒寛政元(1789)年2月26日、死去)
1755年9月5日-09:00|日本| ||宝暦5年7月29日|<死去>渡辺始興(73歳)絵師
1755年9月5日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦5年7月29日|<死去>公家近衛家の臣で、各地へ光琳派の絵を広めた絵師渡辺始興(73)
1755年9月6日-08:00|中国| ||清・乾隆20年8月|清にアムルサが反乱
1755年9月8日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||ジョージ湖の戦い、植民地軍、フランス軍に勝利
1755年9月8日-09:00|日本| ||宝暦5年8月3日|<死去>望月玉蟾(64歳)画家
1755年9月8日-09:00|日本|岩手県一関市|宝暦5年8月3日|<死去>陸奥一関藩3万石「田村村頭」(49歳)⇒9月24日、養子「田村村隆」が継ぐ(⇒天明2(1782)年2月6日、死去)
1755年9月11日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル首相「ペドロ・ダ・モッタ・エ・シルバ」
1755年9月13日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア司令官「ニコラ・バティスト・デ・メリ」(2回目~17611117)
1755年9月30日-09:00|日本|広島県広島市|宝暦5年8月25日|暴風雨・洪水、広島領の流失損壊家屋2304軒、死者11

1760迄 (2926件)

人

- 1755年10月-08:00|中国| |||<即位>ジュンガル・ホンタイジ「アム・ルサ」(~17571004、死去)
- 1755年10月-05:30|インド| |||<就任>サハヌル国支配者(ナワブ)「ティラー・アフドゥル・ハキム・カーン1世」(~17940220没)
- 1755年10月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ヘキモール・アリ・パシャ」(2回目~1756年12月)
- 1755年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャコモ・ベグニ」「パオロ・ティニ」
- 1755年10月3日-09:00|日本|愛知県田原市|宝暦5年8月28日|<交替>三河田原藩12000石「三宅康高」隠居⇒従弟「三宅康之」が継ぐ(⇒安永9(1780)年11月29日、隠居)
- 1755年10月8日-05:30|インド/デンマーク| |||フレデリックスナゴール(セランボア)、ベンガルをデンマークが領有(~18451010)
- 1755年10月10日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦5年9月5日|<郡上一揆>美濃国郡上藩農民代表40名のうち3名が、宿屋江口屋仁右衛門の案内で郡上藩江戸屋敷に出向き、総百姓名で願書を提出/農民たちは十六か条の願書に加えて、新たに十七か条の願書を作成し、一緒に提出/農民代表らの対応に当たった用人の宇都宮は、代表を宿預けとした上でたびたび藩邸に呼び寄せたあげく、最終的には農民代表全員を牛込御筆笥町の藩別邸に監禁した
- 1755年10月11日-09:00|日本| ||宝暦5年9月6日|<死去>有栖川宮音仁親王(27歳)皇族
- 1755年10月18日-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督代行「フランツ・ヴェンツェル・グラーフ・ウリス」(~1757年)
- 1755年10月20日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ総督「エルスト・デ・イートリッヒ・マシヤル・フォン・ブルクツハウゼン」(~1766年)
- 1755年10月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ウアンフリート方伯「クリスティアン」断絶、領土は本家筋にあたるヘッセン＝ローテンブルクが相続
- 1755年10月24日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールドコースト総裁「ニコラス・マテウス・ファン・デル・ヌート・デ・ジューレ」
- 1755年10月24日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「ロエフ・ウルセン」(~17580115)
- 1755年10月25日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「イルミナザード・メフメト・サイード・パシャ」(~17560401)
- 1755年11月-01:00|フランス| |||コルシカでパスカール・パオリによる独立共和国が憲法を制定
- 1755年11月-01:00|イタリア| |||コルシカ独立(ジェノヴァが領土権)パオリを首班とした独立政府を樹立
- 1755年11月1日 00:00|ポルトガル| |||<リスボン地震>ポルトガルのリスボン港付近を震源とする大地震が発生/大津波も発生し、6日間の火災などによって6万2千人が死亡
- 1755年11月8日-09:00|日本|茨城県行方市|宝暦5年10月5日|<交替>常陸麻生藩1万石「新庄直隆」隠居⇒弟「新庄直侯」が継ぐ(⇒明和9(1772)年10月10日、死去)
- 1755年11月10日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「アマリス侯爵アグスティン・デ・アフマダ・イ・ビジャロン」(~17600205)
- 1755年11月11日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相代理「デ・イゴ・デ・メントンカ・コレレアル」(~17560505)
- 1755年11月17日-01:00|フランス| |||<即位>アンジュー公・プロヴァンス伯・メヌ伯・ベルチエ伯・セネチス伯「ルイ5世」フランス王太子ルイ・フィリップとマリー＝ジョゼフ・ド・サカスの四男(~1790年)
- 1755年11月19日 00:00|モロッコ| |||モロッコ地震、死者3千
- 1755年11月22日-09:00|日本|山形県山形市|宝暦5年10月19日|出羽が凶作となり山形城下で打ち壊し
- 1755年11月25日-09:00|日本|山形県天童市|宝暦5年10月22日|出羽が凶作のため、天童で打ち壊し
- 1755年11月26日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ローズベリー伯「ジェームズ・プリムローズ」
- 1755年11月26日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ローズベリー伯「ニール・プリムローズ」(~18140325死去)
- 1755年11月28日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦5年10月25日|<郡上一揆>美濃国郡上藩三家老の免許状を紛失した件で村預けになっていた小野村半十郎に入牢を申し付けたのを皮切りに、一揆の首謀格と見られた農民30名あまりを拘束し入牢を申し付け、更に100名余りを手錠、村預けの処分を下した
- 1755年12月2日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦5年10月29日|<郡上一揆>美濃国郡上藩:剣村藤次郎、柘洞村清兵衛の2名が新たに江戸に派遣到着、金森屋敷に向かい、40名の農民代表の消息について探りを入れてみたが全く手がかりがつかめなかったため、40名が郡上藩によって軟禁されているものと判断し、郡上藩に改めて訴えを行うことは危険性が高いため、公事師であった医師の島村良仙の協力で新たに訴状を作成した上で、藩主金森頼錦の弟である井上遠江守の邸に訴状を提出
- 1755年12月3日-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督「ルネ・マコンド・ラ・ヴィルバーク」(~17591104)
- 1755年12月3日-09:00|日本|岩手県盛岡市|宝暦5年冬|陸奥盛岡藩9万2千石(藩主:南部利雄)、南部大飢饉、餓死者5万余を出す
- 1755年12月5日 00:00|イギリス| |||<死去>3代デヴォンシャー公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ」
- 1755年12月5日 00:00|イギリス| |||<就任>4代デヴォンシャー公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ」先代の息子(~17641002死去)
- 1755年12月23日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「アルコス伯マルコス・ホセ・デ・ノロニャ・エ・フレイタス」(~17600109)
- 1755年12月25日-09:00|日本|茨城県牛久市|宝暦5年11月23日|<死去>山口弘豊(72歳)前常陸牛久藩主
- 1755年12月28日 04:00|リベリア| |||<就任>リベリア総督「マヌエル・ダマト・イ・デ・ジュニント・プラネッラ・アイメリック・イ・サンタ・パウ」(~17610909)
- 1755年12月28日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦5年11月26日|<郡上一揆>美濃国郡上藩:東気良村善右衛門、切立村喜四郎、前谷村定次郎、東気良村長助、那比村藤吉の願主5名に高原村弁次郎を加えた6名は、駕籠訴を決行/老中酒井忠寄の江戸城登城の行列に訴状を差し出し酒井老中は駕籠訴人らの宿所を尋ね、自らの邸に連れて行くよう命じた
- 1755年12月30日-03:00|エチオピア| |||<死去>ハル首長国エミール「ユフ・イブン・アビ・バクル」

1760迄 (2926件)

1755年12月30日-03:00|エチオピア| |||<就任>ハル首長国エミル「アファト1世・イブ・アビ・ハ・クル」(~17821216没)
1756年-12:00|ウォリス・ツナ| |||<即位>ウァエ王「Vaivaikava」(~1780年)、「Finekata」(~1780年死去)
1756年-12:00|ウォリス・ツナ| |||<即位>トゥア(アロ)王「Mala' evaoa」(2期目~1784年)
1756年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「ビセンテ・フェレイラ・デ・カルヴァーリョ」(~1759年)
1756年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベンケレン副総督(マドラス総督に従属)「Roger Carter」(1期目~1757年)
1756年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・ラジャ「ラジャ・ロング・パンダ・ク・イブニ・アル=マルフム・トゥアン・スロン」(~17580904没)
1756年-05:30|インド| |||<就任>コタ国支配者(マハラ)「アジット・シン」(~1758年3月没)
1756年-05:30|インド| |||<就任>ゴハド国支配者(ラナ)「フ・ラタッパ・シン」(~1757年没)
1756年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<廃位>ブハラ・ハン国ジャン朝ハン「アブル=ガースィー」
1756年-04:00|ジョージア| |||<就任>ゲリア公「ギオルジ5世」(1回目~1758年)
1756年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>イリス・スルタン「アルカス・ベク」(~1762年)
1756年-03:00|スーダン| |||<即位>ダルフール・スルタン国スルタン「ムハマト2世タイラブ」(~1787年没)
1756年-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ総督代行「エーバーハルト・ライヒスフライヘル・フォン・ゲミンゲン」(2回目~1763年)
1756年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「イブラヒム・パシャ」(~1758年)
1756年-01:00|フランス| |||フランスのド・ブロスが「南方大陸への航海の歴史」を刊
1756年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Charles Pinfold」(~1766年)
1756年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス大統領「ウィリアム・メイナード」(~1761年)
1756年 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||セント・トマス島とセントジョン島はデンマーク西インド諸島の一部(独立した管理は1862年まで続く)
1756年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ベネチア植民地総督「ウィリアム・デニー」(~1759年)
1756年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「マヌエル・アマテ」(~1757年)
1756年 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「メルチョル・ビダル・デ・ロカ・イ・ビリエナ」(1回目~1759年)
1756年 06:00|グアテマラ/スペイン| |||スペイン軍、モスキート族に奪われたマティケ渓谷の奪回に乗り出す。この戦いでコスタリカ州長官が戦死
1756年1月1日-05:30|インド/デンマーク| |||フレデリック諸島はデンマーク領土(トングバルに従属)(~18480610)
1756年1月2日-09:00|日本|新潟県|宝暦5年12月|(~翌年7月)村松藩領蒲原郡葎谷・遅場・吉ヶ平の各村で、飢饉により32人餓死、30人行方不明
1756年1月6日-09:00|日本|広島県|宝暦5年12月5日|恵蘇郡百姓6000余人、秋作不熟難渋により蜂起、郡目付・大庄屋宅等8軒を打ちこわす
1756年1月16日-01:00|ドバイ/イギリス| |||イギリスとプロイセンがウェストミンスター協定を結び、イギリスとフランスの抗争の際にプロイセンが中立であることを約す
1756年1月18日-01:00|ドバイ| |||<死去>トリア選帝侯「フランツ・ゲオルク」
1756年1月18日-01:00|ドバイ| |||<就任>トリア選帝侯「ヨハン9世フィリップ」(~17680112死去)
1756年1月22日-09:00|日本|広島県|宝暦5年12月21日|高田郡百姓5~6000人、割庄屋・村庄屋宅を打ちこわす。更に山県郡へも波及、広島藩、鎮庄のため足軽等を派遣
1756年1月27日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントアゴ総督代行「サー・ヘンリー・ムーア」(1回目~17590403)
1756年1月28日-04:30|アフガニスタン/インド| |||アフガニスタンのアフマド・シャー・ドゥラニがデリーを占領
1756年1月31日-09:00|日本|長崎県長崎市|宝暦6年1月1日|丑刻、長崎今紺屋町の太田某の錦屋より出火。中紺屋町、本大工町、今魚町、引地町に延焼、423戸を焼失
1756年2月2日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<死去>ボネール司令官「Johannes Philippus Eijlbracht」
1756年2月2日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>ボネール司令官「Theunis Dirkszoon Kock」(~17681112)
1756年2月2日-09:00|日本|東京都|宝暦6年1月3日|<死去>初代澤村宗十郎(72歳、貞享2(1685)年生)元禄歌舞伎の立役者
1756年2月3日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|宝暦6年1月4日|淀城火災
1756年2月8日-02:00|ルーマニア| |||<死去>モルダヴィア総督「マティ・グリゴール・ギカ」
1756年2月10日 00:00|ポルトガル/スペイン/パラグアイ| |||カハテの戦い/南米パラグアイで、先住民グアラニ族の蜂起が、スペイン・ポルトガル連合軍3000人とその火器の圧倒的威力で全滅させられる
1756年2月13日-09:00|日本|東京都中央区|宝暦6年1月14日|中村座、市村座焼失
1756年2月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・乾隆21年1月16日|朝鮮で士族婦女の髻(かもじ)を禁止し冠を使用させる
1756年2月21日-09:00|日本|広島県広島市|宝暦6年1月22日|広島小屋新町出火、家109軒(148竈)焼失
1756年2月25日-09:00|日本|広島県|宝暦6年1月26日|三次・高田・高宮郡百姓、一揆を起こす。鎮庄のため広島藩、足軽を派遣する
1756年3月-04:00|ロシア/中国| |||タヌ・トゥヴァが正式に中国に併合(唐龍唐海として)
1756年3月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・ミハイル・ラコウ・イツァ」(2回目~1757年3月)
1756年3月-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハン「ハム・ギレイ」(~17581021)
1756年3月5日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|宝暦6年2月5日|<死去>松平忠喬(75歳)前摂津尼崎藩主
1756年3月15日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチアのバン「ザグレブ」司教「フランシス・タウゼー」、「イワン・ラウチ」(~10.31)
1756年3月20日-01:00|イタリア| |||ベネチアでスキアヴェニア(アドリア海対岸)のハブスブルグ国家との境界を画定する条約
1756年3月21日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ウィームズ伯「ジェームズ・ウィームズ」

1760迄 (2926件)

1756年3月21日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ウィムズ伯「デヴィッド・ウィムズ」(~17870429死去)
1756年3月26日-09:00|日本|香川県丸亀市|宝暦6年2月26日|<死去>讃岐多度津藩1万石「京極高慶」(37歳)⇒5月2日、六男「京極高文」が継ぐ(⇒寛政8(1796)年7月5日、隠居)
1756年3月29日-09:00|日本|群馬県高崎市|宝暦6年2月29日|<死去>松平輝規(75歳)前上野高崎藩主
1756年4月1日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ケセ・パヒル・ムスタファ・パシャ」(2期目~17570111)
1756年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・ベッリツィ」(フランチェスコ・ガリ)
1756年4月3日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ケー伯「アレクサンダー・アースキン」
1756年4月3日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ケー伯「トマス・アースキン」(~17811009死去)
1756年4月9日-06:00|ハンガリー| |||<就任>ベンガル・ナワブナジム「シラジュッダ・ウラ・ムハンマド・カーン」(~17570623)
1756年4月9日-05:30|インド| |||<死去>ベンガル太守「アリー・ウ・アルデ・イー・ハーン」
1756年4月9日-05:30|インド| |||<就任>ベンガル太守「シラージュ・ウッダ・ウラ」(~17570623退位)
1756年4月15日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「コンスタンティン・ニコラエ・マヴロコダット」(5回目~1758年9月)
1756年4月20日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦6年3月21日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、寺内佐吉(11歳)が11,683本(総矢数14,603中)を記録
1756年4月23日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|宝暦6年3月24日|<死去>安房勝山藩12000石「酒井忠大」(31歳)⇒5月18日、次男「酒井忠鄰」が継ぐ(⇒寛政5(1793)年5月6日、隠居)
1756年4月27日-09:00|日本|香川県高松市|宝暦6年3月28日|高松城下今新町失火、野方町・御坊町付近まで延焼、町家73軒、竈数126か所、土蔵13か所焼失
1756年5月 00:00|キニアビサ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「マヌエル・ピレス・コレイア」(2回目~1758年7月)
1756年5月1日-01:00|オーストリア/フランス| |||フランスがオーストリアとヴェルサイユ中立防衛同盟を結ぶ
1756年5月2日-09:00|日本|島根県鹿足郡津和野町|宝暦6年4月4日|<死去>亀井茲延(35歳)前石見津和野藩主
1756年5月5日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相「セバスチャン・ホセ・ト・カルヴァルホ・エ・メロ」(~17770304)
1756年5月10日-09:00|日本|石川県金沢市|宝暦6年4月12日|加賀の金沢町民が藩の銀札に反対して打ち壊しの一揆
1756年5月11日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「ニューポート男爵ロバート・ジョセリン」(17561203まで)/キルデア伯爵ジェームズ・フィッツジェラルド/ヘスラ伯爵ラバゾン・ホッソング(~17570925)
1756年5月17日-01:00|フランス/イギリス| |||イギリスがフランスに宣戦、植民地戦争激化
1756年5月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>メクレンブルク=シュヴェリーン公「クリスティアン=ルートヴィヒ2世」
1756年5月30日-01:00|ドイツ| |||<即位>メクレンブルク=シュヴェリーン公「フリートリヒ2世敬虔公」クリスティアン=ルートヴィヒ2世の息子(~17850421死去)
1756年6月-01:00|スペイン/フランス/イギリス| |||フランス軍が地中海のミノルカを攻略
1756年6月1日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ウィリアム・ヘンリー・リトルトン」(~17600405)
1756年6月4日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦6年5月7日|<就任>大坂城代「井上河内守正経」(~宝暦8.11.28)
1756年6月4日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦6年5月7日|<就任>京都所司代「松平輝高」(⇒1758(宝暦8年10月18日))
1756年6月7日-09:00|日本| |||宝暦6年5月10日|<死去>初代山彦源四郎(不明)浄瑠璃三味線方
1756年6月7日-09:00|日本|大阪府岸和田市|宝暦6年5月10日|<交替>和泉岸和田藩53000石「岡部長著」隠居⇒次男「岡部長住」が継ぐ(⇒明和9(1772)年4月23日、隠居)
1756年6月17日-09:00|日本|岐阜県山県市|宝暦6年5月20日|<死去>美濃高富藩1万石「本庄道倫」(37歳)⇒養子「本庄道堅」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年4月26日、28歳で死去)
1756年6月18日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|宝暦6年5月21日|<移封>武蔵岩槻藩33000石「永井直陳」⇒美濃加納藩32000石(⇒宝暦12(1762)年8月2日、隠居)
1756年6月18日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|宝暦6年5月21日|<加増移封>上総勝浦藩15000石「大岡忠光」⇒武蔵岩槻藩2万石(⇒宝暦10(1760)年4月26日、死去)
1756年6月18日-09:00|日本|福島県いわき市|宝暦6年5月21日|<減移封>美濃加納藩65000石「安藤信成」⇒陸奥磐城平藩6万石(⇒寛政5(1793)年8月24日、67000石へ加増)
1756年6月19日-05:30|インド| |||ベンガル太守シラージュ・ウッダ・ウラがカルカッタを占領
1756年6月20日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦6年5月23日|江戸三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、根岸勝之助(13歳)が11,655本(総矢数12,669中)を記録
1756年6月21日-09:00|日本|宮城県仙台市|宝暦6年5月24日|<死去>陸奥仙台藩62万石「伊達宗村」(39歳)⇒7月、嫡男「伊達重村」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年6月23日、隠居)
1756年6月22日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジョヴァンニ・ジャコモ・グリマルディ」(~17580622)
1756年6月22日-01:00|スウェーデン| |||スウェーデン王妃リザ・ウルリカのクーデターが失敗
1756年6月28日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「統治委員会(アントニオ・タウエイラ・ダ・ネイヴァ・ブルム/タ・シルヴェイラ(1回目)/ジョアン・デ・メスキータ・マテイス/フィリッパ・デ・バリアレス・ソウト・マイオール)」(~9.23)
1756年6月28日 02:00|英領SG・SS諸島/スペイン| |||(~29日)レオンに乗ったスペインの大尉ゲレロ・リャレスによってサウスジョージアが発見され、サントロと命名
1756年6月30日-09:00|日本|大阪府岸和田市|宝暦6年6月4日|<死去>岡部長著(46歳)前和泉岸和田藩主
1756年7月 00:00|イギリス| |||この夏、イギリス各地で食糧蜂起が多発
1756年7月4日-02:00|トルコ| |||オスマン朝の首都イスタンブールで大火事が発生し、まる2日間燃え続ける
1756年7月12日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「ジェームズ・ホウ」(~17570416)
1756年7月20日-01:00|ロシア| |||<即位>ホルツァ大公「イワン・パヴロヴィッチ」

1760迄 (2926件)

1756年7月21日-09:00|日本| ||宝暦6年6月25日|<死去>黒川亀玉 (24歳) 画家
1756年7月21日-09:00|日本| ||宝暦6年6月25日|<死去>桜井吏登 (75歳) 俳人
1756年7月23日-09:00|日本| ||宝暦6年6月27日|<死去>西村重長 (60歳) 浮世絵師
1756年7月27日-09:00|日本|熊本大学|宝暦6年7月|肥後藩主細川重賢により蕃滋園が創立
1756年7月29日-09:00|日本|愛知県西尾市|宝暦6年7月3日|<死去>三河西尾藩23000石「三浦義理」(61歳)⇒8月24日、甥「三浦明次」が継ぐ(⇒明和元(1764)年6月21日、美作勝山藩23000石に移封)
1756年7月30日-04:00|ロシア| |||<完成>「エカテリナ宮殿」ロシア皇帝エリザベータの命でバルトロメオ・ラストレリが建築
1756年8月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブランデンブルク=アンスバッハ辺境伯「カール・ヴィルヘルム・フリードリヒ」
1756年8月3日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランデンブルク=アンスバッハ辺境伯「カール・アレクサンダー」(~17910116)
1756年8月10日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「チャールズ・Pinfold」(~17660527)
1756年8月12日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ暫定総督「セ・アントニオ・デ・オレアル・イ・バスケス=メンデス」(1回目~17571024)
1756年8月14日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||オスウィゴ砦の戦い、イギリス軍、フランス軍に敗北
1756年8月20日 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Jan van der Biest1世」(~17681010死去)
1756年8月24日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「ヤン・ネーヴェウ」(1回目~17570121)
1756年8月29日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||フリードリヒ2世が突然ザクセンに侵入して、七年戦争が始まる(~17630215:フーベルトス・ルプ平和条約)
1756年9月2日-01:00|チェンジア| |||<死去>フサイン朝ベイ「アリ1世」68歳
1756年9月2日-01:00|チェンジア| |||<即位>フサイン朝ベイ「ムハンマド1世アル=ラシッド」(~17590212死去49歳)
1756年9月20日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿国務長官「アルベリコ=アルキント」(~17580930)
1756年9月20日-09:00|日本|愛媛県大洲市|宝暦6年8月26日|<交替>伊予新谷藩1万石「加藤泰広」隠居⇒長男「加藤泰宦」が継ぐ(⇒明和8(1771)年7月4日、35歳で死去)
1756年9月22日 00:00|イギリス| |||<死去>初代バッキンガムシャー伯「ジョン・ホバート」
1756年9月22日 00:00|イギリス| |||<就任>2代バッキンガムシャー伯「ジョン・ホバート」(~17930803死去)
1756年9月23日-05:30|イント=ホルタル| |||<就任>ホルタル領イント総督「マヌエル・デ・サルダニャ・デ・アルバ=カーキ・エ・カストロ、コンテ・ダ・エカ」(~17651019)
1756年9月25日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督代理「スペンサー・フィップス」(~17570404)
1756年9月28日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦6年9月5日|江戸三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、岩堀元之丞(11歳)が11,668本(総矢数12,987中)を記録
1756年10月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・ベニ」「フランチェスコ・アントニオ・リギ」
1756年10月9日-09:00|日本| ||宝暦6年9月16日|<宝暦6年畿内暴風雨>夜からの暴風雨によって淀川は、淀橋、宇治橋を落橋させ、宇治の平等院前にある十三層の大石塔を破壊し中流域では奔流が堰を切ったように押し寄せ、牧野村の堤防を52間(約95m)、味生村(現・摂津市)の堤防それぞれを決壊させ、同村一円を水浸しにした。同川の下流域でも大坂の曽根崎新地、梅田、大仁、野田、福島、浦江などが残らず水に浸かり、中津川筋も堤防が決潰し南中之島の地が水没するなど、多くの人が死亡/同川支流の木津川も氾らん、山城木津の里は全町1000軒のところ700軒余が流れ多くの人が死亡/大和川も氾らんし、道明寺村の堤防を決壊させて、20戸が流失36人の犠牲者を出した/紀州熊野では、夜、大水となり、石垣が五つを残すだけで崩壊、不明門損壊、その外寺の外廻りが大破損/その外近江では洪水で家が流れ多くの人が死亡
1756年10月10日-09:00|日本| ||宝暦6年9月17日|<宝暦6年畿内暴風雨>南の紀ノ川も氾らん、八軒家で堤防を決壊させ、和歌山城下を水浸しにし、死亡した人も多かった
1756年10月28日 00:00|イギリス| |||<死去>ボーフート公「チャールズ・サマセット」
1756年10月28日 00:00|イギリス| |||<就任>ボーフート公「ヘンリー・サマセット」先代の子(~18031011死去)
1756年10月31日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチアのバン「フェレンツ・ゲロフ・ナダステイ」(~17830515)
1756年11月-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ総督「スタニスワフ・ウコライエフ・ラドンイチ」(~17580317没)
1756年11月 00:00|イギリス| |||ニューカッスル辞任し、ヒット政権(名目上はデヴオンシャー首相)
1756年11月1日-04:00|セイシェル/フランス| |||インド洋上セイシェル諸島がフランス領となった
1756年11月4日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ペドロ・アントニオ・デ・セバロス=コルテス=イ・カルデロン」(~17660815)
1756年11月6日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Andres del Barrio y Rabago」(~17591120)
1756年11月13日-09:00|日本|宮崎県延岡市|宝暦6年10月21日|<交替>日向延岡7万石「内藤政樹」隠居⇒養子「内藤政陽」が継ぐ(⇒明和7(1770)年10月29日、隠居)
1756年11月16日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン連合王国第5代首相「第4代デヴオンシャー公爵ウィリアム・キャヴァンディッシュ」ホイッグ党(~17570625)
1756年11月17日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ニューカッスル=アーンライン公「トマス・ヘラム=ホルズ」初代ニューカッスル=アーンライン公・初代クレア侯(~17681117死去ニューカッスル=アーンライン公爵位消滅)
1756年11月17日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦6年10月25日|江戸深川三十三間堂通矢「四十五間堂百射」、古田平次(11歳)が62本(総矢数100中)を記録。種目最初
1756年11月21日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ウィリアム・ホップル」(2期目~1763.12)

1760迄 (2926件)

1756年11月22日-09:00|日本|長野県松本市|宝暦6年11月1日|<死去>信濃松本藩6万石「松平光雄」(41歳)⇒長男「松平光徳」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年1月6日、死去)
1756年11月24日 00:00|イギリス| ||<就任>初代ケアンズ伯「ジェームズ・ハミルトン」(~17580317死去)
1756年11月25日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦6年11月4日|<死去>浄瑠璃作者の竹田出雲(66歳、元禄4(1691)生)/仮名手本忠臣蔵の浄瑠璃作者
1756年11月28日-09:00|日本|群馬県富岡市|宝暦6年11月7日|<死去>上野七日市藩1万石「前田利理」(58歳)⇒四男「前田利尚」が継ぐ(⇒天明2(1782)年5月9日、隠居)
1756年12月-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「サデ・イン・パシャ・アル=アズム」(~17570429)
1756年12月1日 00:00|イギリス| ||<死去>3代ダンモア伯「ウィリアム・マーレイ」
1756年12月1日 00:00|イギリス| ||<就任>4代ダンモア伯「ジョン・マーレイ」先代の息子(~18090225死去)
1756年12月5日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦6年11月14日|江戸深川三十三間堂通矢「四十間堂千射」、塙幸之助(14歳)が956本(総矢数1000中)を記録。種目最初
1756年12月6日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア総督「カミル・アフメト・パシャ」(~17570828)
1756年12月7日 00:00|イギリス| ||<死去>2代オークニー女伯「アン・オブ・ライエン」
1756年12月7日 00:00|イギリス| ||<就任>3代オークニー女伯「メアリー・オブ・ライエン」(~17910510死去)
1756年12月8日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ハリントン伯「ウィリアム・スタンホフ」
1756年12月8日 00:00|イギリス| ||<就任>2代ハリントン伯「ウィリアム・スタンホフ」先代の息子(~17790401死去)
1756年12月14日-03:00|日本|東京都|宝暦6年11月23日|<江戸宝暦6年「大学火事、青山六道火事」>卯の刻(午前6時ごろ)、麹町八代州河岸にある林大学頭民部少輔信充の屋敷から出火、近隣の大名屋敷に延焼、鍛冶橋門から数寄屋橋門、日比谷門に及ぶ郭内の大名小路に立ち並ぶ武家屋敷の多くを焼き尽くし、周辺の町家にも延焼/その後、数寄屋町から郭外へと進み、京橋あたりから木挽町など浜辺の方へと延び、通りの町家を焼き尽くした上、築地門跡寺内に飛び火して周辺も含め灰とし、翌日寅の刻(午前4時ごろ)ようやく消し止められた/辰の刻(午前8時ごろ)過ぎ、築地の武家屋敷からも出火し、西本願寺地内の14ある寺でから小田原町など海手の方まで焼き、未の刻(14時ごろ)過ぎ鎮火。麹町からの炎による焼け跡とあわせ、築地周辺は灰じんと歸した/四つ時(午前10時ごろ)、青山権田原の六道辻あたりからも出火、炎は麻布谷町から芝二本榎、三田あたりまで延びて周辺を焼き尽くした
1757年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>アンボン島オランダ総督「Meyert Johan van Idsing」(~1763年死去)
1757年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ベンクーレン副総督代理(マダガスカル総督に従属)「ジョセフ・Gun」(~6週間)⇒「Rando lph Marriott」(~1758年)
1757年-08:00|マレーシア| ||<即位>ジエブ・スルタン支配者(ウンタ・ン・ラク・ジエブ)「ダトウク・モヤン・サハ」(?)
1757年-08:00|インドネシア| ||<即位>ティール・スルタン「Amir Muhammad Masud Jamaluddin」(~1779年)
1757年-08:00|インドネシア| ||<即位>パレンバン・スルタン「Sultan Ahmad Najamuddin1世Adi Kusumo」(~1776年)
1757年-08:00|インドネシア| ||<即位>マンクスガラン君主「Mangkunegara1世」(~1795年)
1757年-08:00|インドネシア| ||マanker・ブーミと共に戦った王族マ・サイドも降伏し、スカル王国に從属するマンクスガラン王家を開く
1757年-05:30|インド| ||<就任>アリバウ国統治者(ラ)「アチャル・シン」建国(~1790年没)
1757年-05:30|インド| ||<就任>カチャリ国ラジャ「ハリスチャンド 2世」(~1772年)
1757年-05:30|インド| ||<就任>ケンジヤル国ラジャ「デーニシュワル・ナヤン・パナンジ」(~1758年)
1757年-05:30|インド| ||<就任>コハト国支配者(ラ)「チャトラパット・シン」(~1784年)
1757年-05:30|インド| ||<就任>シャイナ国ラジャ「ジャスワント・シン1世」(~1772年没)
1757年-05:30|インド| ||<就任>ジャンシウ国ワル「モハマト・カーン1世」(~同年没)⇒「イブラヒム・カーン1世」(2回目~1759年)
1757年-05:30|インド| ||<就任>チャヤ国統治者(ラ)「サルタンジ 2世・ウイクマティ」(~18130422没)
1757年-05:30|インド| ||<就任>パソリ国ラジャ「アムリット・パル」(~1776年没)
1757年-05:30|インド| ||<就任>ポール国統治者(パント・サフ)「サダシフ・ラ」(~1787年没)
1757年-05:30|インド| ||<就任>ルパバタ国統治者(ラ)「ディップ・シン」(~1782年没)
1757年-05:30|インド| ||<即位>カウリ国マハラジャ「トウルサム・パル」(~17721024没)
1757年-05:30|インド| ||カチャリ国首都がカスプールに移転
1757年-05:30|インド/フランス| ||フランスがサトラス占領(~1758年)
1757年-05:00|ウズベキスタン| ||<死去>カラカルパク・ハン「Baybor i Khan」
1757年-05:00|パキスタン| ||<即位>カトゥール朝国王「Shah Nawaz Khan」
1757年-05:00|パキスタン| ||<即位>カルホラ朝君主「Mian Ghulam Shah Kalhoru」(~1772年死去)
1757年-05:00|ウズベキスタン| ||カラカルパクスタンはホラズム汗国に併合され大多数はアマ・リヤ川に定住
1757年-04:30|アフガニスタン| ||<就任>シバルガン汗国ハキム「ダウラット・カーン」(~1800年)
1757年-04:00|ジョージア| ||<就任>アフハジア公「スラブ」(~1779年)
1757年-04:00|アゼルバイジャン| ||<就任>サルヤン汗国ハン「カルブ・アリ・スルタン」(~1768年)
1757年-04:00|ジョージア| ||<就任>ミングレリア公「カツィア2世」(~17881217没)
1757年-04:00|ロシア| ||ロシアで芸術アカデミーが開設
1757年-02:00|リトアニア/ロシア| ||タウロゲンとセーはロシアに占領された(~1762年)
1757年-01:00|ニジェール| ||<就任>ダマガラム国統治者(サルキン・ダマガラム)「タニム・バハミ」(~1775年)
1757年-01:00|ベナン| ||<即位>アジャチエ・イェのフォン王国国王「ホ」(~1761年)
1757年-01:00|フランス| ||フランスの重農主義者ミホー「人間の友、あるいは人口論」で「civilisation」が初見
1757年 00:00|セネガル| ||<就任>ケヨル統治者(タンメル)「ヒリマ・コトゥ」(~1758年)

1760迄 (2926件)

1757年 00:00|モリタニア| |||<就任>トラザ 連邦エミール「ムファル・ウルト・ウマル」(~1759年)
1757年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官代行「ベント・セルノゲイラ」(~1758年頃)
1757年 00:00|ポルトガル| |||ワイン取引の自由化を求める民衆が暴動を起こし、ポンバル侯爵によって弾圧を受けた
1757年 04:00|グレナダ/フランス| |||<就任>グレナダ 総督「ピエール・クロード・アントワヌ・フランソワ・ド・ブルレー・ド・ボングー・ド・ネー」(~17620304)
1757年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Francois Beauharnais de Beaumont」(~1761年)
1757年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ファン・フランシスコ・ペスターニャ・イ・チャムセロ」(~1766年)
1757年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第6代総督「ヘンリー・エリス」(~1760年)
1757年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニュージャージー総督「ジョン・レディング」(~1758年)
1757年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「フルヘンシオ・ガルスア・デ・ソリス」(~1759年)
1757年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「ヘルナンド・デ・ラ・トリニダド」(1回目~1759年)
1757年1月-05:30|インド/アフガニスタン| |||アフガン王アフマト・シャー・ド・ウッラーニーはムガル帝国の首都デリーを占領
1757年1月1日 00:00|イギリス/インド| |||プラッシーの戦いでマドラスから援軍を率いてきたクライブ、カルカッタを奪回
1757年1月3日-09:00|日本|東京都|宝暦6年閏11月13日|<死去>瀬川菊次郎(初代瀬川菊之丞の弟)
1757年1月11日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「コカラフ・パシャ」(~17630408)
1757年1月17日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリアがプロシヤに宣戦布告し、七年戦争に参加
1757年1月17日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード 知事「ペドロ・デ・ラ・モナダ」(~17600406)
1757年1月21日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督代行「ウィグボルト・クロンリッ」(2度目⇒9. 20、総督~17681122)
1757年1月22日-09:00|日本|長崎県平戸市|宝暦6年12月3日|<死去>松浦篤信(73歳)前肥前平戸藩主
1757年1月28日-05:30|インド/アフガニスタン| |||パンジャブ 国がアフガニスタンに併合
1757年2月-05:30|インド/アフガニスタン| |||アフガン王アフマト・シャー・ド・ウッラーニーはデリーで虐殺・略奪を行い、その近郊マトゥラーやウリナグ・ヴァンでも同様に虐殺を行った
1757年2月16日-03:00|日本|高知県高知市|宝暦6年12月28日|<高知宝暦6年の大火>未中刻(15時ごろ)出火したが、申下刻(20時ごろ)には鎮火/侍屋敷13軒、町及び郷(城下郊外)の家1363軒を焼失/町及び郷の内訳は、町家1191軒と郷家172軒で、ほかに寺2か所、土蔵19軒を焼失
1757年2月18日-09:00|日本|東京都中央区|宝暦7年|この年、杉田玄白が日本橋に蘭方外科を開業
1757年2月18日-08:00|中国| |||清・乾隆22年|クルムは中国に編入(カンは支配を続ける)
1757年2月18日-08:00|中国| |||清・乾隆22年|ダライ・ラマ7世が死去、清が継承法を変更し名代職を設ける
1757年2月18日-07:00|カボ・ジ・ア/ベトナム| |||大越黎朝・景興18年|大越はカボ・ジア国内で内乱が起こった隙に、現在のベトナムの南部の領土をすべて占領してしまった
1757年2月22日 05:00|エジプト| |||エジプト中部で地震(M7)死者1000人
1757年2月25日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Husayn Pasha ibn Makki」(~12月)
1757年2月26日-09:00|日本|熊本大学|宝暦7年1月9日|肥後藩主細川重賢医学寮を創設して再春館と称した
1757年3月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Haci Ali Zishtovili Pasha」(~同年)
1757年3月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「ドミトリシュ・ストウルツァ」(~同月)⇒「スカルラット・クリゴール・ギカ」(~1758年8月)
1757年3月-01:00|フランス| |||ルイ15世の暗殺を企てたロベール・ダミアンが裁判にかけられ、溶かした鉛をかけられたうえ八つ裂きの刑に処せられる
1757年3月 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 知事「Charles Francois Emmanuel Nadeau du Treil」(~17590427)
1757年3月11日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「クリスチャン・ジェッセン」(~17620214)
1757年3月17日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ 領セイロン総督「ヤン・シュロイター」(~17620917)
1757年3月21日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯・パークシャー伯「ヘンリー・ボウス・ハワード」
1757年3月21日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯・パークシャー伯「ヘンリー・ハワード」(~17790307死去)
1757年3月23日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||イギリス軍がフランス領チェンジャーナゴールを占領
1757年3月24日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンス 総督「フィリップ・フランソワ・バール」(~17620730)
1757年3月27日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「マヌエル・アントニオ・デ・ソザ・エ・メネズ」(~17611006)
1757年3月27日-03:00|日本|福井県坂井市|宝暦7年2月8日|<死去>越前丸岡藩5万石「有馬孝純」(41歳)⇒八男「有馬允純」が継ぐ(⇒明和9(1772)年9月2日、26歳で死去)
1757年3月28日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「ウルヘルメス・フランチェスコ・ジョセフ・カタランド・オコン」(~17620908年)
1757年4月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Gilbert Guillaouet」(5期目~1763. 5)
1757年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・バッティスタ・エンジェル」
1757年4月16日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「ウィリアム・ヒューム」(~17610428死去)
1757年4月17日-03:00|日本|三重県鈴鹿市|宝暦7年2月29日|<死去>本多忠統(67歳)前伊勢神戸藩主、若年寄
1757年4月22日-01:00|スペイン| |||<死去>スペイン領メリダ総督「Antonio Villalba y Angulo」
1757年4月22日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリダ暫定総督「Francisco de Alba」(2期目~1758年)
1757年4月29日-08:00|中国| |||清・乾隆22年|<就任>チベット摂政「デモ・スブルスク・ナガ・グ・タン・グ・ジャム・ト・パル・フ・デ・レク

1760迄 (2926件)

ス=ルギヤ=ツボ」(~17620828)

1757年4月30日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハンマド・サイード・パシャ」(2回目~1758年)
1757年5月2日-06:30|ミャンマー| |||ビルマでアラウンパヤ王がベグーを包囲攻撃し、国土を統一
1757年5月3日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦7年3月16日|<就任>関白「近衛内前」(~宝暦12年7月12日)
1757年5月6日-01:00|チェコ/オーストリア/ドイツ| |||<七年戦争>プラハの戦い>プラハ城外でプロシヤ軍がオーストリア軍に勝利
1757年5月6日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ケラトン公・3代アーリントン伯「チャールズ・フィッツロイ」
1757年5月6日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ケラトン公「オーガスタス・ヘンリー・フィッツロイ」(~18110314死去)
1757年5月17日-03:00|日本|福井県小浜市|宝暦7年3月30日|<交替>若狭小浜藩10万3500石「酒井忠用」隠居⇒弟「酒井忠興」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年6月18日、42歳で死去)
1757年5月18日-09:00|日本|新潟県|宝暦7年4月|頸城郡大潟新田組合24か村が新堀川の自普請完成
1757年5月25日-03:00|日本| ||宝暦7年4月8日|<死去>深江蘆舟(59歳)画家
1757年5月31日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Francois Beauharnais de Beaumont」(~17610207)
1757年6月18日-01:00|チェコ/オーストリア/ドイツ| |||<七年戦争>コリンの戦い>プロシヤのフリードリッヒ大王が、プラハの東方40kmのコリンでオーストリア軍と戦い、大敗北
1757年6月23日-05:30|インド| |||<退任>ベンガル太守「シラージュ・ウッダウラ」
1757年6月23日-05:30|インド/フランス/イギリス| |||イギリス東インド会社軍が、フランス・ベンガル太守の連合軍をブラッシーの戦いで破る
1757年6月24日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>サンジェル島ドナリア長官「Jose da Camara Teles」
1757年6月24日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>サンジェル島ドナリア長官「Joana Tomasia da Camara」(~17660802)
1757年6月25日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン連合王国首相代理「ウォルト・グレイヴ 伯ジェームス・ウォルト・グレイヴ」(~29日)Whg
1757年6月25日-03:00|日本|島根県安来市|宝暦7年5月9日|<死去>出雲広瀬藩3万石「松平近輝」(28歳)⇒弟「松平近貞」が継ぐ(⇒安永2(1773)年11月23日、隠居)
1757年6月29日-06:00|バングラデシュ| |||<就任>ベンガル・ナワー・ナーム「ムハンマド・ジャファール・アリー・ハーン」(1回目~17601020)
1757年6月29日 00:00|イギリス| |||<再任>グレートブリテン王国第6代首相「初代ニューカッスル公爵トマス・ペラム＝ホルズ」ホイッグ党(2期目~17620526)
1757年6月29日-03:00|日本|大分県大分市|宝暦7年5月13日|<死去>松平近貞(69歳)前豊後府内藩主
1757年7月 00:00|イギリス| |||夏から秋にかけてイギリスで民兵制の反対暴動がおこる
1757年7月2日-05:30|インド| |||<就任>ベンガル太守「ミール・ジャファール」(~17601020退位)
1757年7月5日-02:00|リトアニア/ロシア| |||メメルはロシアが占領(17580124~17620708併合~17620806)
1757年7月8日-03:00|日本|兵庫県加東市|宝暦7年5月22日|<死去>播磨三草藩1万石「丹羽薫氏」(63歳)⇒長男「丹羽氏栄」が継ぐ(⇒明和8(1771)年7月9日、死去)
1757年7月10日-03:00|日本|山形県米沢市|宝暦7年5月24日|<宝暦7年梅雨前線豪雨>(~27日)出羽国米沢藩領内では、大雨が降り各地が洪水に見舞われた/家屋流出397軒、同倒壊297軒、37人死亡、水田8万2271石
1757年7月12日-04:00|リュエノン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Antoine Marie Desforges-Boucher」(2期目~10.15)
1757年7月15日-03:00|日本|佐賀県佐賀市|宝暦7年5月29日|<死去>肥前蓮池藩52625石「鍋島直興」水腫のため(28歳)⇒弟「鍋島直寛」が継ぐ(⇒安永2(1773)年7月26日、死去)
1757年7月16日-09:00|日本| ||宝暦7年6月|国学者の賀茂真淵が、枕詞に関する「冠辞考」を著す
1757年7月17日-03:00|日本| ||宝暦7年5月29日|<死去>2代大谷広次(41歳)歌舞伎役者
1757年7月21日-03:00|日本| ||宝暦7年5月29日|<死去>初代富士松薩摩掾(72歳)浄瑠璃太夫
1757年7月29日-03:00|日本|福島県田村郡三春町|宝暦7年6月14日|<死去>陸奥三春藩5万石「秋田定季」(32歳)⇒8月7日、甥「秋田千季(倩季)」が継ぐ(⇒寛政9(1797)年7月20日、隠居)
1757年7月31日-03:00|日本| ||宝暦7年6月16日|<宝暦7年梅雨前線豪雨>(~17日)横田村の破堤が所から大洪水(横田切れ)、信濃川ほか各河川が氾らんして各所で破堤、越後平野一帯が大洪水となる/新発田領内で死者1000人余、家屋全壊256戸、田畑5万3000石が被災、長岡藩領の被災は7万5000石余
1757年8月-05:30|インド/アフガニスタン| |||ムガル王国宰相バラーザー・ハーンは弟ラガナート・ラオをデリーへと派遣し、デリーの戦いでアフガン勢力を破った
1757年8月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンダー・パシャ(総督)「Ceteci Abdullah Pasha」(~10月)
1757年8月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「トマス・パナル」(~17600603)
1757年8月6日 05:00|イタリア| |||イタリア・シラクーザ地震M5.6、死者1万
1757年8月9日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||ウィリアム・ヘンリー砦の戦い、イギリス軍、フランス軍に降伏
1757年8月15日-09:00|日本|東京都文京区|宝暦7年7月|田村藍水が湯島で初の物産会である「薬品会」を開く
1757年8月16日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|宝暦7年7月2日|<死去>紀伊和歌山藩55万5千石「徳川宗直」(76歳)⇒8月7日、長男「徳川宗将」が継ぐ(⇒明和2(1765)年2月25日、死去)
1757年8月20日-09:00|日本| ||宝暦7年7月6日|<死去>高野蘭亭(54歳)漢詩人
1757年8月22日-06:30|ミャンマー/イギリス| |||ビルマのアラウンパヤ王がネーリス島をイギリスに割譲(~17591006)
1757年8月26日-09:00|日本| ||宝暦7年7月12日|<死去>梁田蛻巖(86歳)漢詩人
1757年8月27日-09:00|日本|東京都|宝暦7年7月13日|<死去>佐渡島長五郎/座長兼役者
1757年8月28日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ハチ・メフメト・パシャ」(2回目~17600813)

1760迄 (2926件)

1757年8月30日 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<就任>ポルトリコ知事兼提督代理「Esteban Bravo de Rivero」(2期目~17590603)

1757年8月31日-09:00|日本|兵庫県たつの市|宝暦7年7月17日|<死去>播磨龍野藩51000石「脇坂安弘」(20歳)⇒弟「脇坂安実」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年7月21日、死去)

1757年9月-01:00|フランス/ドイツ/イギリス| |||ハノーヴァー防衛に派遣されたカンバーランド公、クスターゼン協定でフランス軍に降伏

1757年9月9日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Felipe Ramirez de Estenoz」(~17631112)

1757年9月9日-09:00|日本|愛媛県今治市|宝暦7年7月26日|今治領内大風雨により倒壊家屋・潰家1,846軒

1757年9月9日-09:00|日本|香川県|宝暦7年7月26日|讃岐が大洪水に襲われ、堤防が数十箇所で崩れて多数の死者を出す

1757年9月9日-03:00|日本|広島県|宝暦7年7月26日|<宝暦7年安芸国暴風雨・洪水、高潮>芸州藩で暴風雨・洪水・高潮、城中・城下被害/流失損壊家屋2万7118軒。死者91人

1757年9月13日-08:00|中国/モンゴル| |||清・乾隆22年8月|アムルサが敗走してロシアに入り病死

1757年9月25日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「ヘットフォード男爵ジョンラッセル」(~17611006)

1757年9月30日-09:00|日本|宮崎県日南市|宝暦7年8月18日|<死去>日向飢肥藩51000石「伊東祐隆」(42歳)⇒長男「伊東祐福」が継ぐ(⇒天明元(1781)年7月20日、42歳で死去)

1757年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・マネンティ・ベルツィ」(アントニオ・カピッジオニ)

1757年10月2日-09:00|日本|福井県坂井市|宝暦7年8月20日|<死去>有馬一準(61歳)前越前丸岡藩主

1757年10月4日-08:00|中国| |||清・乾隆22年|<死去>ジュンガル・ホタガイ「アムルサ」

1757年10月13日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦7年9月|<初演>歌舞伎「源平布引庵」大坂嵐座

1757年10月17日-09:00|日本|香川県|宝暦7年9月5日|7月に続き、讃岐が再び大洪水に襲われ、高松城が大破

1757年10月19日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Jean-Baptiste Charles Bouvet de Lozier」(2期目~17630906)

1757年10月19日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦7年9月7日|<死去>広島藩儒学者・医師「堀景山」京都で(70)

1757年10月19日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦7年9月7日|幕府、江戸神田佐久間町の天文台を廃止

1757年10月24日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ暫定総督「ホセ・ゴンサレス・ランカーニョ」(~17580918)

1757年10月27日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ハース公(ジャコバイト)「ジョン・ドラモンド」

1757年10月27日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ハース公(ジャコバイト)「エドワード・ドラモンド」先代の弟(~17600206死去)

1757年10月30日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国第25代スルタン「オスマン3世」

1757年10月30日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第26代スルタン「ムスタファ3世」先代の従弟。23代アフメト3世の子(~17740121死去)

1757年11月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァハン国第35代ハン「アフドゥッラー-1世カラバイ」(~1758.3)

1757年11月5日-01:00|ドイツ/フランス| |||ロスマハの戦い/コリンの戦いでオーストリア軍に大敗北を喫したフリードリッヒ大王率いるプロシヤ軍が、鋒先を転じてライプツィヒ西方のロスマハで4万を越えるフランス・ドイツ諸侯連合軍と戦い、勝利を得る

1757年11月10日 00:00|モロッコ| |||<死去>アラウィー朝スルタン「アフドゥ・アッラー」79歳

1757年11月10日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「ムハンマド3世アルハティフ」(2回目~17900409死去)

1757年11月12日-09:00|日本| |||宝暦7年10月|江戸相撲独特の縦番付が初めて刊行(このころから江戸相撲の諸制度が整いはじめる)

1757年11月20日-09:00|日本| |||宝暦7年10月9日|<死去>柳川直政(66歳)装剣金工

1757年11月22日-01:00|ポーランド/オーストリア/ドイツ| |||<七年戦争>ブレスラの戦い>オーストリア連合軍がプロシヤ軍に勝利

1757年12月 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ガーンジー島管理人「Eleazar Le Marchant」

1757年12月5日-01:00|ポーランド/オーストリア/ドイツ| |||ロテンの戦い/フリードリッヒ大王が、コリンの戦いの余勢をかってシュレシエンを占領しているオーストリア軍を破る

1757年12月15日 00:00|イギリス| |||<死去>サセット公「エドワード・シーモア」

1757年12月15日 00:00|イギリス| |||<就任>サセット公「エドワード・シーモア」(~17920102死去)

1757年12月30日-09:00|日本|兵庫県姫路市|宝暦7年11月20日|<死去>建部政周(84歳)前播磨林田藩主

1758年-08:00|モンゴル| |||<就任>化身ラマ「インタンニヤム(ジェブツタンパ3世)」(~1773年没)

1758年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベンクーレン副総督(マダガスカル総督に従属)「Roger Carter」(2期目~17600403)

1758年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Jacob van Schoonderwoert」(~1766年)

1758年-08:00|インドネシア| |||<即位>チボーン・ガレボナン君主「Sultan Cirebon3世 Muhammad Harruddin」(~1768年)

1758年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「オウテイ2世」(~1775年)

1758年-05:30|インド| |||<就任>アジヤガル国ラジャ「ハール・シン」(~1765年没)

1758年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「エック男爵ルパート・ヤン」(~1761年)

1758年-05:30|インド| |||<就任>ケンジヤル国ラジャ「ジャガデシュワル・ナラヤン・バンス」(~1762年)

1758年-05:30|インド| |||<就任>ジャイトプル国ラジャ「ハール・シン」(~1765年)

1758年-05:30|インド| |||<就任>ジャブア国ラジャ「ハートウル・シン」(~1770年)

1758年-05:30|インド| |||<就任>ジュバル国統治者(ラ)「ワカム・チャント」(~1773年没)

1758年-05:30|インド| |||<就任>タランプール国ラジャ「ダラムデガジ」(~1774年没)

1758年-05:30|インド| |||<就任>トランカトウ国摂政「ラ・ニジ・ジジバハイ・クングアーバ・ジャシュワンツイムジ2世」(~1782年)

1758年-05:30|インド| |||<就任>ハルナガル国統治者(マハラワット)「サリム・シン」(~17751026没)

1758年-05:30|インド| |||<就任>パンナ国ラジャ「ヒンドウパット・シン」(~1777年没)

1758年-05:30|インド| |||<就任>マニプール国ラジャ「ジヤイ・シン」(1回目~1761年)

1760迄 (2926件)

1758年-05:30|インド| |||パシノール国が独立
1758年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<死去>プハラ・ハン国マンギト朝ハン「ムハンマド・ラヒム」
1758年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>プハラ・ハン国ジャン朝ハン「アブル・ガーズィー・ハン」イマム・クリーの孫
サイト・イブラヒムの子(〜1785年)
1758年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>プハラ・ハン国マンギト朝アタリク「ダニヤル・ビー」ムハンマド・ラヒムの叔父
(〜1785年死去)
1758年-05:00|パキスタン/アフガニスタン| |||カラット国はアフガニスタン宗主権下
1758年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>カフ汗国ハン「ファト・アリ・ハン」(〜1789年3月)
1758年-04:00|ジョージア| |||<就任>ゲリア公「マミ74世」(2回目〜1765年)
1758年-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ大宰相「ミルザ・アキル・アラガイ」(〜1763年)
1758年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ケセ・バヒル・ムスタファ・パシャ」(1回目〜1761年)
1758年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハジ・ハサン・パシャ」(1回目〜1761年)
1758年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコ「アフォンソ4世」(〜17600617没)
1758年-01:00|フランス| |||フランスの重農主義者フランソワ・クネーが「経済表」を作成
1758年-01:00|スウェーデン| |||リンネがヒトにヒト・サ・エンスの学名を与える
1758年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ギンザー島管理人「Samuel Bonamy」(〜1771年死去)
1758年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「フランシスコ・ロケ・ソト・マイオール」(2回目〜1759年)
1758年 00:00|セネガル| |||<就任>ケール統治者(タンメル)「イサ・ビツ」(2回目〜1759年)
1758年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官「マヌエル・ピレス・コレイア」(〜1759年)
1758年 00:00|シエラレオネ| |||<即位>カ・ブ・ロム国王「レイ・サマ」(〜1792年頃)
1758年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督「アントニオ・デ・ギル・イ・ゴンザレス」(〜1761年)
1758年 05:00|ハイチ| |||マッカナルが逮捕される。反乱終了。死者は6千を数える
1758年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニュージャージー総督「フランシス・バーナード」(〜1760年)
1758年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督「ルイス・フェルナント・ハラジョ」(〜1761年)
1758年1月4日-09:00|日本|東京都中央区|宝暦7年11月25日|<死去>六代目中村勘三郎
1758年1月8日-08:00|マレーシア| |||セランゴールはジョホール統治下(〜1766年)
1758年1月8日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ceteci Abdullah Pasha」(〜1760. 1)
1758年1月8日 00:00|イギリス| |||<死去>2代セックス伯「ジョージ・オーガスタス・イェルグアートン」
1758年1月8日 00:00|イギリス| |||<就任>3代セックス伯「ヘンリー・イェルグアートン」(〜17990422死去)
1758年1月14日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦7年12月5日|<初演>人形浄瑠璃「祇園祭礼信仰記」四段目<金閣寺>
6人ほどの合作、大坂豊竹座
1758年1月15日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ランバート・ジエイコブ・ヴァン・テッツ」(〜3. 12)
1758年1月17日-04:30|アフガニスタン/インド| |||アフガニスタンのアフマドが北インドに侵入し、一時デリーを占領
1758年1月17日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ハミルトン公・3代ブランドン公「ジェームズ・ハミルトン」
1758年1月17日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ハミルトン公・4代ブランドン公「ジェームズ・ハミルトン」先代の息子(⇒17610721兼た
ゝグラス侯〜17690707死去)
1758年1月27日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦7年12月18日|<郡上一揆>美濃国郡上藩郡上八幡城下で首謀者と
見られていた気良村甚助は穀見の刑場でひそかに打ち首にされた
1758年2月 00:00|サントメ・プリンセ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンセ 総督「Luis Henrique da Mota e Melo」(〜176
1年)
1758年2月3日-09:00|日本|栃木県さくら市|宝暦7年12月25日|<交替>喜連川藩4500石(10万石格)「喜連川茂氏」隠
居⇒次男「喜連川氏連」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年12月17日、死去)
1758年2月7日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|宝暦7年12月29日|<名古屋宝暦7年の大火>七つ時(午前4時ごろ)、中
橋裏から出火、北は信行院の際まで、延長1里10町(約5000km)の範囲を焦土と化し、四つ時(午前10時ごろ)鎮火/
2500余軒焼失
1758年2月8日-09:00|日本|愛媛県松山市|宝暦8年|松山領井門の大庄屋豊島家住宅(国指定重要文化財)が建てら
れる
1758年2月8日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦8年1月|<初演>歌舞伎「祇園祭禮信仰記」京都澤村座
1758年2月8日-09:00|日本|東京都|宝暦8年1月|<郡上一揆>美濃国郡上藩・鮎走村甚左衛門、那比村久助が江戸に
着いて、駕籠訴の後も弾圧が止まることがない上に、藩側は駕籠訴は取り下げられたとの虚偽の話を広めるあ
りさまであり、早く駕籠訴の訴えを聞き届けていただきたいとの内容の訴状を町奉行所に提出する追訴を行っ
たが、町奉行側は訴状を受け取ることなく門前払いされた
1758年2月8日-08:00|中国| |||清・乾隆23年1月|天山南路のウイグル族が反乱をおこす
1758年2月12日-09:00|日本| |||宝暦8年1月5日|<死去>豊竹肥前掾(54歳)浄瑠璃太夫
1758年2月15日-09:00|日本|長野県小諸市|宝暦8年1月8日|<死去>信濃小諸藩15000石「牧野康周」(52歳)⇒長男「
牧野康満」が継ぐ(⇒天明4(1784)年12月22日、隠居)
1758年2月21日-05:30|インド| |||<就任>スーリ国支配者(ナワブ)「アリ・ナワズ・カーン」(〜12. 2)
1758年2月26日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相「グラーフ・ミハイル・イリオノヴィチ・ヴォロツォフ」(12. 4まで副首相〜17650402
)
1758年3月-05:30|インド| |||<就任>コタ国支配者(マハラ)「チャタル・サル・シン1世」(〜17641217没)
1758年3月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第36代ハン「テムル・ガーズィー」(〜1764年死去)
1758年3月12日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールドコースト総裁「ランバート・ジエイコブ・ヴァン・テッツ」

1760迄 (2926件)

- 1758年3月13日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||<フレンチ・インディアン戦争かんじきの戦い>フランス軍がかんじきを履いた英国軍に勝利
- 1758年3月15日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「ジョアン・マヌエル・メロ」(~17580406没)
- 1758年3月17日-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ総督「スタニスラフ・ウゴライエフ・ラトニッチ」(~17580317没)
- 1758年3月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代クランプラシル伯「ジェームズ・ハミルトン」
- 1758年3月17日 00:00|イギリス| |||<就任>2代クランプラシル伯「ジェームズ・ハミルトン」(~17980206死去)
- 1758年3月22日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「ヤン・ピーター・テオドル・ハイデコパー」(1回目~17601005)
- 1758年4月-05:30|インド| |||マラーター軍がラーホールを占領
- 1758年4月-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>マリアンヌ島司令官「カテック」(~1759年12月)
- 1758年4月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Muhsinzade Mehmed Pasha」(~7月)
- 1758年4月 00:00|ポルトガル| |||<就任>マデラ総督代理「Gaspar Afonso da Costa Brandao」(1期目~17590527)
- 1758年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロベール・コペルツィ」「マリノ・ティニ」
- 1758年4月2日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦8年2月24日|<郡上一揆>美濃国郡上藩の足軽4名と歩岐島村久右衛門を始め十数人の寝者農民が、歩岐島村久右衛門の家に押し入り、帳面、金銭などを奪った/歩岐島村四郎左衛門はからくも逃げることに成功し、隣家に匿われた/た近隣の一揆勢は、さっそく大挙して駆けつけ、久右衛門ら四郎左衛門の家に押し入った寝者を捕え、逆に四郎左衛門宅に監禁
- 1758年4月7日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官代行「デビッド・マルクス・ペレイラ」(~8.5)
- 1758年4月13日-07:00|タイ| |||<死去>アユタヤ王朝第34代国王「ホーローマチャーティラート3世ホーローマコート」
- 1758年4月13日-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第35代国王「ホーローマチャーティラート4世ウットホーン」(~8月)
- 1758年4月13日-09:00|日本|長野県上田市|宝暦8年3月6日|<死去>松平忠愛(58歳)前信濃上田藩主
- 1758年4月15日-09:00|日本| ||宝暦8年3月8日|幕府が、公用旅行者が規定以上の人馬を不法に徴発することなどを禁じる
- 1758年4月21日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦8年3月14日|江戸深川三十三間堂通矢「四十五間堂千射」、黒谷岩吉(13歳)が827本(総矢数1000中)を記録。種目最初
- 1758年4月25日-09:00|日本|秋田県秋田市|宝暦8年3月18日|<死去>出羽久保田藩205800石「佐竹義明」(36歳)⇒5月11日、長男「佐竹義敦」が継ぐ(⇒天明5年6月1日(17850706)、死去)
- 1758年4月25日-09:00|日本|福井県福井市|宝暦8年3月18日|<死去>越前福井藩30万石「松平重昌」(16歳)⇒21日、弟「松平重富」が継ぐ(⇒寛政11(1799)年9月18日、隠居)
- 1758年4月28日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ラリ伯爵トマス・アサー・トレンダール」(~17610115)
- 1758年4月30日 00:00|セカール/イギリス| |||<就任>イギリス・セカール総督「リチャード・アルコーヌ・ウォルジュー」(~1763年)
- 1758年4月30日 00:00|セカール/イギリス| |||セカールをイギリスが占領(~17790211)
- 1758年5月3日-01:00|バチカン| |||<死去>246代ローマ教皇「ベネディクトゥス14世」83歳(誕生:16750331)
- 1758年5月8日-04:30|アフガニスタン| |||ペシャワールはマラーター帝国に占領された(~1759年)
- 1758年5月8日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦8年4月2日|<郡上一揆>美濃国郡上藩:江戸に滞在していた郡上一揆勢のうち歩岐島村治衛門、二日町村伝兵衛、市島村孫兵衛、東俣村太郎衛門の4名と、訴訟実行の人員として派遣された向鷺見村弥十郎、剣村藤次郎の2名の計6名が、目安箱に訴状を投函する箱訴を決行
- 1758年5月9日 07:00|日本|広島県|宝暦8年4月3日|<広島「宝暦の大火」>申の刻(16時ごろ)、白神五丁目から出火、北東方向に伸び、隣接する尾道町、塩屋町、革屋町、紙屋町、猿楽町と次々と焦土と化し、袋町、西魚屋町、鉄砲屋町、平田屋町、立町とこれまた炎の下に収め、ついで研屋町、播磨屋町、車屋町、東魚屋町、東白鳥町から九軒町、牛田村を焼いた/さらに八丁堀、鉄砲町、上流川町、幟町の侍屋敷と城内の一部を焼いて翌4日寅の刻(明け方午前4時ごろ)いったん鎮火
- 1758年5月10日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アーサー・大司教ジョージ・ストーン/シャノン伯爵ヘンリー・ポイル/ジョン・ボンソナー」(~17591007)
- 1758年5月10日 04:00|日本|広島県|宝暦8年4月4日|<広島「宝暦の大火」>午後、国泰寺の境内からふたたび出火、東を目指して伸び、白神社、小野国泰寺をはじめ町家へと進み、新川場町から竹屋町、竹屋新開、下流町、田中屋敷を灰にしていった/そして炎は京橋川を目指し下柳町、薬研堀、東柳町と伸び、ついに京橋川を渡り、稲荷町、比治山町、茅屋町、松川町から段原村の家々までも焼いて翌5日酉の刻(18時ごろ)鎮火/この二度にわたる火事で城下東部の大半が焼失/被害のうち人家が、町家は世帯数で3504間余、侍屋敷172軒ほど、扶持人(所領のない給料受給侍)の家927軒、安芸郡牛田村の百姓家104軒、そのほか町内の土蔵90か所、通行門24か所、橋1か所、寺院22か所、神社2か所/城内の被害は、二曲輪内の櫓4か所(うち1か所は土手、堀とも焼失)、町口の櫓門1か所、城中囲い土手の堀2か所、御用屋敷1か所、普請屋敷1か所、泉水屋敷1か所、厩屋敷1か所、米蔵2か所、紙蔵2か所、銀札場1か所
- 1758年5月14日-09:00|日本|山口県周南市|宝暦8年4月8日|<交替>周防徳山藩3万石「毛利広豊」隠居⇒次男「毛利広寛」が継ぐ(⇒宝暦14(1764)年2月26日、死去)
- 1758年5月17日-09:00|日本|東京都|宝暦8年4月11日|<郡上一揆>美濃国郡上藩:初回と同様の内容で2度目の箱訴を行った/2度目の箱訴が受理され、訴人の6名は町奉行の依田政次に呼び出され、訴状が受理され吟味が行われることを告げられた上で、6名の訴人に宿預けが言い渡された
- 1758年5月18日-09:00|日本|熊本県人吉市|宝暦8年4月12日|<死去>肥後人吉藩22165石「相良頼峯」(24歳)⇒養子「相良頼央」が継ぐ(⇒宝暦9年8月3日(17590926)暗殺される)

1760迄 (2926件)

1758年5月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=アイルハ公・ザクセン=アイルハ公「エルスト・アウグスト2世コンスタンティン」
1758年5月28日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ヴァイマル公・ザクセン=アイルハ公「カール・アウグスト」エルスト・アウグスト2世の息子(⇒1809年ザクセン=ヴァイマル=アイルハ公⇒1815年、ザクセン=ヴァイマル=アイルハ公⇒18280614死去)
1758年5月28日-09:00|日本|大阪府高槻市|宝暦8年4月22日|<死去>摂津高槻藩36000石「永井直行」(29歳)⇒弟「永井直珍」が継ぐ(⇒明和7(1770)年11月17日、死去)
1758年6月-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「ピーター・アウグスト・フリードリヒ・ヘルツォーク・フォン・ホルシュタイン=ベック」(~1762年)
1758年6月1日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・トマス島・セントジョン島総督「Harrien Felchenhauer」(~17601018)
1758年6月2日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|宝暦8年4月27日|<死去>河内狭山藩11000石「北条氏貞」(56歳)⇒長男「北条氏彦」が継ぐ(⇒明和6(1769)年4月27日、死去)
1758年6月23日-01:00|ドイツ/フランス| |||<七年戦争クレフェルトの戦い>プロシヤ連合軍がフランス軍に勝利
1758年7月4日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ヘスペラ伯「フランク・フォン・ホッソルバー」
1758年7月4日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ヘスペラ伯「ウィリアム・ホッソルバー」(~17930311死去)
1758年7月6日-01:00|バチカン| |||<就任>第248代ローマ教皇「クレメンティス13世」(~17690202死去)
1758年7月7日-05:30|インド| |||<死去>トラヴァンコール王「マルタン・ヴァルマ」
1758年7月7日-05:30|インド| |||<死去>トラヴァンコール王「マルタン・ヴァルマ」→<即位>ダルマ・ラージャ[息子の](~17980217死去)
1758年7月7日-05:30|インド| |||<就任>ティルヴァティムコト国ラジャ「ダルマ・ヴァルマ2世」(~17980217没)
1758年7月8日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||<フレンチ・インディアン戦争タイコンデロガ>(6日)フランス軍が英国軍に勝利
1758年7月9日 00:00|イギリス| |||<死去>7代ダントナル伯「ウィリアム・コラン」
1758年7月9日 00:00|イギリス| |||<就任>8代ダントナル伯「トマス・コラン」先代の従兄弟(~17781031死去)
1758年7月10日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督代行「ジョン・ガンビア」(1回目~17591230)
1758年7月15日-09:00|日本|東京都|宝暦8年6月11日|<郡上一揆>美濃国郡上藩預地の石徹白で続いていた石徹白騒動についても箱訴が行われた
1758年7月16日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|宝暦8年6月12日|<死去>因幡鹿奴藩3万石「池田仲庸」(38歳)⇒長男「池田澄延」が継ぐ(⇒明和6(1769)年9月3日、死去)
1758年7月26日 00:00|イギリス/カナダ| |||イギリス軍が、ヌーヴェル・フランスの要塞リブールを奪う
1758年7月26日 06:00|カナダ/フランス/イギリス| |||<フレンチ・インディアン戦争リブールの戦い>(6月8日)英国軍がフランス配下リブール要塞攻略
1758年8月-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第36代国王「ホー・ロマラーチャー3世(スリヤトアマリン(エーカット))」(~17670407)
1758年8月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「ゲイターレ」(~同月)⇒「イヴァン・テオドール・カリマチ」(~1761年6月)
1758年8月 06:00|アメリカ| |||北米最初のネイティブ・アメリカン居留地、ニュー・ジャージー植民地に設けられる
1758年8月4日-09:00|日本|北海道|宝暦8年7月|東部ノッシャフのアイヌ、西部ソウヤのアイヌを襲撃、60余人を殺害し、200余人を傷つける
1758年8月5日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「ペドロ・デ・サルターニャ・エ・アルバカーキ」(1回目~17630106)
1758年8月5日-09:00|日本|東京都|宝暦8年7月2日|<郡上一揆>再度、美濃国郡上藩預地の石徹白で続いていた石徹白騒動について箱訴
1758年8月15日-09:00|日本|広島県広島市|宝暦8年7月12日|広島新開組西愛宕町出火、東の町両側全焼
1758年8月16日-09:00|日本|山形県酒田市|宝暦8年7月13日|<酒田宝暦8年の大火>港町の中心部伝馬町より出火、家屋1479軒、土蔵48棟を焼失
1758年8月19日 00:00|イギリス| |||<死去>14代エール女伯「メアリー・ヘイ」
1758年8月19日 00:00|イギリス| |||<就任>15代エール伯「ジェームズ・ヘイ」(~17780703死去)
1758年8月22日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「マテオ・フランツォーニ」(~17600822)
1758年8月24日-09:00|日本|東京都|宝暦8年7月21日|<郡上一揆>美濃国郡上藩:石徹白騒動の3回目の箱訴が受理されて吟味が開始されることになった
1758年8月25日-01:00|ドイツ/ロシア| |||ツォルントルフの戦い/フリードリヒ大王がツォルントルフでロシア軍と会戦し、辛くも勝利を収める
1758年8月27日-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ラースロー・グロフ・ケメーニ・ム・アギヤル・ジエルモストリ」(政府大統領~17620517)
1758年8月27日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||植民地軍、フロントナク砦を占領
1758年8月27日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦8年7月24日|京都所司代が公家への尊王論を講義していた、尊王論者の竹内式部を捕らえる(宝暦事件)
1758年9月-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「スカルラット・ケリゴール・ギカ」(1回目~1761年6月)
1758年9月3日 00:00|イギリス| |||<死去>カーリル伯「ヘンリー・ハワード」
1758年9月3日 00:00|イギリス| |||<就任>カーリル伯「フレデリック・ハワード」4代伯の四男(~18250904死去)
1758年9月4日-08:00|マレーシア| |||<死去>クランタン・ラジャ「ラジャ・ロング・パンダク・イブニ・アル=マルフム・トゥアン・スロン」
1758年9月4日-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・ラジャ「ラジャ・ロング・ムハンマド・イブニ・アル=マルフム・トゥアン・スロン」(~1763年7月没)
1758年9月5日-03:00|ケニア| |||<就任>ケニア統治者「シェイク・アブドゥラ1世・イブン・サハ・アル・サハ」(~18140503没)
1758年9月5日-09:00|日本| |||宝暦8年8月4日|<死去>伊藤単朴(79歳)戯作者

1760迄 (2926件)

1758年9月7日-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Francesco Felice Alberti di Enno」(~17621231)
1758年9月13日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「俞拓基」(~17950414)
1758年9月18日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「マヌエル・ソレル」(~1760年)
1758年9月19日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリウ総督「Narciso Vazquez y Nicuesa」(~1767年)
1758年9月23日-09:00|日本|京都府京都市左京区|宝暦8年8月22日|台風による豪雨で高野川・谷川が氾濫し、御蔭神社境内埋没、社殿流失
1758年9月28日-05:30|インド| |||<就任>ジュナガド国支配者(ナワブ)「モハメド・マハムド・ハンジ-1世」(1回目~1760年)
1758年9月28日-05:30|インド| |||<就任>バラシノール国支配者(ナワブ・バビ)「ムハンマド・ハンジ・バハドール・ハンジ」(~不明)⇒「ジャミヤット・ハンジ 1世ムハンマド・ハンジ」⇒「サラバット・ハンジ 1世ジャミヤット・ハンジ」(~1820年5月没)
1758年10月-05:45|ネパール| |||<死去>ラリタプラ王「ジャヤラジヤプ ラサマツラ」
1758年10月-05:45|ネパール| |||<即位>ラリタプラ王「ジャヤビスワアジツマラ」(~1760年8月没)
1758年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・マリア・ジヤンツ」「シユセッパ・フランツォーニ」
1758年10月2日 06:00|カナダ| |||カナダのハリアックスで初の代議制議会が開会
1758年10月3日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦8年9月2日|<解任>老中「本多正珍」
1758年10月4日-09:00|日本|静岡県牧之原市|宝暦8年9月3日|<改易>遠江相良藩1万石「本多忠央」金森頼錦事件に連座、美作津山に幽閉
1758年10月4日-09:00|日本|静岡県牧之原市|宝暦8年9月3日|<拝領>相良藩1万石「田沼意次」(⇒宝暦12(1762)年2月15日、15000石に加増)
1758年10月6日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|宝暦8年9月5日|<死去>柳沢淇園(55歳)絵師(池大雅の師にあたる)、漢詩人
1758年10月8日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿國務長官「ルドヴィコ・マリア・トリジヤニ」(~17690202)
1758年10月14日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・デ・ウァスコネロス」(~17640606)
1758年10月14日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||ホッホキルヒの戦い/ドレスデン東方のホッホキルヒでレオポルト・フォン・ダウ元帥の9万オーストリア軍が、フリードリヒ2世の3万7000プロシヤ軍を夜のうちに包囲し、夜明けとともに猛攻撃
1758年10月18日-09:00|日本|三重県三重郡菰野町|宝暦8年9月17日|<死去>伊勢菰野藩11000石「土方雄端」(43歳)⇒長男「土方雄年」が継ぐ(⇒安永9(1780)年10月8日、隠居)
1758年10月20日 00:00|イギリス| |||<死去>3代マルバラム公「チャールズ・スペンサー」5代サントーラント伯
1758年10月20日 00:00|イギリス| |||<就任>4代マルバラム公「ジョージ・スペンサー」先代の子(~18170129死去)
1758年10月21日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「クルム・ギレイ」(1期目~1764. 9)
1758年10月23日-09:00|日本| ||宝暦8年9月22日|<死去>吉子内親王(45歳)徳川家継の婚約者、霊元天皇の皇女
1758年10月25日-09:00|日本|東京都|宝暦8年9月24日|<死去>2代市川團十郎(71歳)歌舞伎役者(初代市川團十郎の息子)
1758年10月27日-09:00|日本|大分県中津市|宝暦8年9月26日|<死去>豊前中津藩10万石「奥平昌敦」(35歳)⇒長男「奥平昌鹿」が継ぐ(⇒安永9(1780)年7月24日、死去)
1758年10月28日 00:00|イギリス| |||<死去>5代トモタラ伯「エドワード・ムーア」
1758年10月28日 00:00|イギリス| |||<就任>6代トモタラ伯「チャールズ・ムーア」(⇒1791. 7初代トモタラ侯~18221227死去)
1758年11月5日 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<死去>グリーンランド管理者「Hans Egede」
1758年11月5日 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<就任>グリーンランド管理者「Paul Hansen Egede」(~17890603死去)
1758年11月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>シュヴァルツブルク=ゾンダーシャウゼン侯「ハインリヒ35世」
1758年11月6日-01:00|ドイツ| |||<就任>シュヴァルツブルク=ゾンダーシャウゼン侯「クリスティアン・ギューンター3世」(~17941014死去)
1758年11月10日-02:00|ラトヴィア| |||<就任>ケルラント・ゼムカレン公「カール・フォン・ザクセン」(~17630123)
1758年11月18日-09:00|日本|滋賀県大津市|宝暦8年10月18日|<死去>近江堅田藩1万石「堀田正實」(43歳)⇒12月10日、長男「堀田正富」が継ぐ(⇒天明7(1787)年9月16日、隠居)
1758年11月18日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦8年10月18日|<就任>老中「田沼意次」(~宝暦10年5月6日)
1758年11月25日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||フォブス准将の率いるイギリス軍が、デュークス砦を占領
1758年12月2日-05:30|インド| |||<就任>スラト国支配者(ナワブ)「ミール・モイン・アッティーン・ムハンマド・カン・ミアン・アッチャン」(2回目~17630227)
1758年12月3日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣「ショワール公エティエンヌ・フランソワ・ド・ショワール」(~17701224)
1758年12月6日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーサンプトン伯「ジョージ・コンプトン」
1758年12月6日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーサンプトン伯「チャールズ・コンプトン」(~17631018死去26歳)
1758年12月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アラン伯「チャールズ・ハートレー」
1758年12月20日-09:00|日本|三重県三重郡菰野町|宝暦8年11月20日|<死去>土方雄房(48歳)前伊勢菰野藩主
1758年12月24日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡日野町|宝暦8年11月24日|<交替>近江仁正寺藩17000石「市橋直拳」隠居⇒養子「市橋長弘」が継ぐ(⇒天明5(1785)年10月6日、53歳で死去)
1758年12月25日 00:00|宇宙/イギリス| |||エドモンド・ハレーが予言した彗星が出現/「ハレー彗星」と名付けられる
1758年12月28日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦8年11月28日|<就任>大坂城代「青山因幡守忠朝」(~宝暦10. 7. 15)
1758年12月28日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦8年11月28日|<就任>京都所司代「井上正経」(⇒1760(宝暦10年12月3日))
1758年12月30日-09:00|日本| ||宝暦8年12月|幕府が、江戸・大坂に加えて京・堺に明礬会所を新設
1758年12月30日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦8年12月1日|<創設>清水徳川家3万石「松平萬二郎」(9代将軍徳川家重の次男⇒翌年9月29日、「徳川重好」と改名)
1758年12月31日 00:00|セネガル/イギリス| |||イギリス軍がコレを占領(~17630210)

1760迄 (2926件)

1759年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「パト・レ・セバ・ステイアン・デ・アゼ・ベト・エ・フリ」(~1760年)

1759年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー王朝国王「オン・チャン」(~1761年)

1759年-07:00|タイ| |||<即位>ラムパーン国王「チャー・イェー・オ」(~1774年)

1759年-05:30|インド| |||<就任>アウグ国統治者「クマラ・カウ・ヴァ」(~1767年)

1759年-05:30|インド| |||<就任>コラハ 国統治者(サルケル)「ラグジ 1世 アンゲ・リア」(~1793年没)

1759年-05:30|インド| |||<就任>ジャファラバード 国タタール兼ジャングラウ国ワジル「イブラヒム・カーン1世」(~1761年)

1759年-05:30|インド| |||<就任>シヨス国統治者(デ・シュムク)「アムリット・ラオ1世」(~1790年没)

1759年-05:30|インド| |||<就任>タラト 国統治者(ターケル)「ハンジ」建国(~1786年没)

1759年-05:30|インド| |||<就任>タフラフ 国統治者(デ・シュムク)「アムリット・ラオ1世」(~1790年没)

1759年-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド 諸島(トランケバル) 司令官「ピーター・ヘンリッヒ・マイヤー」

1759年-05:30|インド| |||タティアの下でサムタル国(ジャギル)が設立された

1759年-05:30|インド/イギリス| |||トリプラ国の一部がイギリス領インドに併合される(残りは1920年まで植民地政府にヒル・タイラとして知られていた)

1759年-05:00|パキスタン| |||<就任>カン統治者(ミール)「シャハ・ト・カーン2世」(~1764年)

1759年-04:00|アゼルバイジャン| |||<死去>シャッキ汗国ハン「アガ・キシ・ハン」

1759年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>カラバーク 汗国摂政「メフル・アリー・ベグ」(~1763年)

1759年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャッキ汗国ハン「ムハンマト・フサイン・ハン」(~1780年8月死去)

1759年-04:00|ロシア| |||アケティはカバ 汗国に従う(~1789年); デルベントはカバ 汗国のヴァッサル(~1806年)

1759年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブザヤ統治者(オムカマ)「ムザ・ヤ・カベガ」(~1784年頃)

1759年-02:00|ラトビア| |||<就任>クールラント・セムガレン公国政府議長「オットー・クリストフ・フォン・デア・ハウエン」(1回目⇒同年、首相・議長代理~1763年)

1759年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>ムベレ統治者(マンボ)「スガ・オスベ・チャンガラ」(~1785年頃)

1759年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナ・クリス(総督)「スレイマン・パシャ」(~1762年)

1759年-01:00|ニジェール| |||<就任>アイル国統治者(アメリカル)「ムハンマト・グマー・イブン・ウスマーン」(~1763年)

1759年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Jose Sant Just」(~1760年)

1759年-01:00|アルジェリア| |||<即位>トゥゲルト・スルタン「ムハンマト 2世」(~1765年)

1759年-01:00|フランス/イギリス| |||カリブ 海西インド 諸島グアートルフを英軍占領(~63年)

1759年-01:00|ルウェー| |||ルウェーに初のジャギイが入る

1759年 00:00|セネガル| |||<就任>ケヨール統治者(タンメル)「ヒリマ・ヤム」(~1760年)

1759年 00:00|モリタニア| |||<就任>トラルザ 連邦エミール「ムハンマト・ハバナ」(~1786年)

1759年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官「ドゥアルテ・ホセ・ロイス」

1759年 04:00|トミカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「マヌエル・アス・ロール・デ・アラゴン・イ・ウリス」(~1771年)

1759年 04:00|グアートルフ/フランス| |||<就任>マリー・ガランテ知事代理「Joseph de Jarrier de La Chassaigne」(2期目~5. 26)

1759年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ベッセルニア植民地総督「ジェームズ・ハミルトン」(~1763年)

1759年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマヤグア県暫定総督「ガブリエル・フランコ」(~1761年)

1759年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「フランシスコ・イグナシオ・チャモロ・ソトヨール・イ・ビラビセンシオ」(~1761年)

1759年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「アンヘル・デ・マルトス・イ・ナバレ」(~1766年)

1759年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「パントレオン・イバニェス・クエバス」(~1761年)

1759年1月10日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦8年12月12日|<初演>「三十石よぶねの始」[作・並木正三]☆廻り舞台使用、大坂角の芝居、中山文七座

1759年1月12日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ 摂政「マリヤ・ルイーザ・フォン・ヘッセン＝カッセル」(~17650409)、「ルトウグ・イ・エルンスト・フォン・ブラウンシュヴァイク＝グオルフェンビュッテル」(~17660308)

1759年1月13日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>フロレス島・コルヴォ島トナリ財長官「Jose de Mascarenhas da Silva e Lencastre, marques de Gouveia」

1759年1月13日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||フロレス島・コルヴォ島はポルトガル王が没収(~1814年)

1759年1月15日 00:00|イギリス| |||<一般公開>大英博物館[ロンドン・モンタギューハウス]

1759年1月20日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦8年12月22日|大阪・角座で世界初の回り舞台が発明され公開される/並木正三が考案

1759年1月23日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦8年12月25日|<改易>美濃郡上藩38900石「金森頼錦」郡上一揆領内混乱/陸奥盛岡に幽閉

1759年1月25日-09:00|日本|岐阜県郡上市|宝暦8年12月27日|<移封>丹後宮津藩48000石「青山幸道」⇒美濃郡上藩48000石(⇒安永4(1775)年11月11日、隠居)

1759年1月25日-09:00|日本|京都府宮津市|宝暦8年12月27日|<移封>遠江浜松藩7万石「松平資昌」⇒丹後宮津藩7万石(⇒宝暦11(1761)年11月27日、隠居)

1759年1月25日-09:00|日本|静岡県浜松市|宝暦8年12月27日|<加増移封>陸奥磐城平藩37000石「井上正経」⇒遠江国浜松藩6万石(⇒明和3年5月30日(17660706)、死去)

1759年1月27日-09:00|日本|東京都荒川区|宝暦8年12月29日|<死去>馬場文耕. 金森騒動の講釈や書物を頒布したため捕縛され、市中引き回しの上打首、獄門に処される(41歳)講釈師

1760迄 (2926件)

1759年1月29日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|宝暦9年|<交替>下野烏山藩3万石「大久保忠胤」隠居⇒次男「大久保忠卿」が継ぐ(⇒明和6(1769)年2月10日、死去)
1759年1月29日-08:00|中国| ||清・乾隆24年|清が生糸、絹織物の価格高騰を理由にその輸出を禁止
1759年2月3日-09:00|日本|長野県松本市|宝暦9年1月6日|<死去>信濃松本藩6万石「松平光徳」(23歳)⇒養子「松平光和」が継ぐ(⇒安永3(1774)年12月9日、隠居)
1759年2月9日-01:00|フランス| ||<死去>エタン°公「Louise Henriette de Bourbon」
1759年2月9日-01:00|フランス| ||<即位>エタン°公「ルイ・フィリップ° 2世」オルレアン公(〜1792年)
1759年2月12日-01:00|チュニジア| ||<死去>サイン朝ベ°イ「ムハンマド° 1世アル=ラシッド°」49歳
1759年2月12日-01:00|チュニジア| ||<即位>サイン朝ベ°イ「アリ2世」(〜17820526死去69歳)
1759年2月12日-09:00|日本|茨城県古河市|宝暦9年1月15日|<移封>石見浜田藩5万石「松平康福」⇒下総古河藩5万石(⇒宝暦12(1762)年9月晦日、三河岡崎藩に移封)
1759年2月12日-09:00|日本|島根県浜田市|宝暦9年1月15日|<移封>下総古河藩5万石「本多忠徹」⇒石見浜田藩5万石(⇒宝暦9年7月10日(17590802)、死去)
1759年2月14日-09:00|日本|栃木県大田原市|宝暦9年1月17日|<死去>大関増恒(74歳)前下野黒羽藩主
1759年2月27日-09:00|日本| ||宝暦9年2月|山県大弼が「柳子新論」を著し、尊王論を説く
1759年2月27日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦9年2月1日|<初演>近松半二ほか、人形浄瑠璃「日高川入相花王」大坂豊竹座
1759年3月4日-05:30|インド°/イギリス| ||スーラト国はイギリスの保護領
1759年4月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「ジャコモ・ベ°グニ」「ホ°ン°イ°ゾ°リ」
1759年4月3日 05:00|ジャマイカ°/イギリス| ||<就任>英領サティアコ°総督「ジョージ°ホルデン」(〜7.27没)
1759年4月14日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「李天輔」(〜6.1)
1759年4月14日-01:00|ドイツ°/イギリス| ||<死去>ドイツの作曲家ジョージ°ヘンデル°がイギリスで/74歳(誕生16850223)
1759年4月20日 00:00|イギリス| ||<死去>レスター伯「トマス°ケック」
1759年4月27日 04:00|グアートルフ°/イギリス| ||<就任>グアートルフ°知事「John Barrington」(〜5.1)
1759年4月27日 04:00|グアートルフ°/イギリス| ||グアートルフ°をイギリスが占領(〜17630704)
1759年5月1日 04:00|グアートルフ°/イギリス| ||<就任>グアートルフ°知事「Byam Crump」(〜17600311死去)
1759年5月6日 06:00|日本|石川県金沢市|宝暦9年4月10日|<金沢宝暦9年の大火>未の下刻(15時ごろ)、泉野寺町にある玉龍寺の塔頭(子院)舜昌寺より出火、本院の玉龍寺に延焼、その矛先は龍淵寺、遍照寺を焼き、笹ヶ町へと伸びた/そこから野田寺町へと伸びに伸び、南側の極楽寺より伏見寺、大円寺を焼いた/北側に伸びた炎は、永井源太左衛門屋敷から妙典寺までを灰とした/妙典寺に入った炎の勢は激しく、出火から半刻(約1時間)ほど経った、申の上刻(16時)過ぎには、犀川を飛んで十三間町の上町に延焼、そこから四方に飛び火し、町家が立ち並ぶ新笠町、百姓町、川除町、水溜町を焼く/暮れるころ、炎は、柿木台の本多遠江守屋敷など侍屋敷から、古堂形を経て、本丸辰巳櫓に延焼、城郭内は本丸のほとんどを全焼、二の丸、三の丸を焼き、大手門、坂下門などその城門の数々、櫓、塀、蔵の数々が灰となった/城郭の大半を焼いた炎は再び城下に転じ、石引町、材木町を焼け抜け、松山寺、雲龍寺、宝円寺を焼き、浅野川も飛び越えて、御歩町、観音町、愛宕町、森下町と次々とひとためにし、森本町から金屋町、高道町、大衆免もなめになめた/一方、材木町から延びた炎は、尾張町、彦三、博労町をも焼いて、翌日の辰の下刻(午前9時ごろ)鎮火/城下の焼失家屋、町家4775軒、寺社門前の百姓家1506軒、武家屋敷は家老以下の居宅など4150軒、防火のための破壊家屋23軒など1万454軒。その他、土蔵283棟、寺社99か所、番所87軒、木戸61か所、橋梁89か所/26人死亡、城中の宿直の家人202人が死亡
1759年5月9日-05:30|インド°/デンマーク| ||<就任>東インド°諸島(トランケバル)デンマーク領総督(ギ°ュバ°ーン)「クリスチャン°フレ°リック°ホイヤ°」(〜17600704)
1759年5月24日-09:00|日本|東京都江東区|宝暦9年4月28日|江戸深川三十三間堂通矢「全堂百射」で、神戸亘が68本(総矢数100中)を記録
1759年5月26日 04:00|グアートルフ°/イギリス| ||<就任>マリー°ガ°ランテ知事「Francis Maclean」(〜1763年)
1759年5月26日 04:00|グアートルフ°/イギリス| ||マリー°ガ°ランテをイギリスが占領(〜1763年)
1759年5月27日 00:00|イギリス| ||<死去>5代ゲ°インズ°バラ°伯「ハ°ティスト°ノ°エル」
1759年5月27日 00:00|イギリス| ||<就任>6代ゲ°インズ°バラ°伯「ヘ°ンリー°ノ°エル」(〜17980408死去断絶)
1759年5月27日 00:00|ポルトガル| ||<就任>マテ°イ°総督「Jose Correia de Sa」(〜17671209)
1759年5月27日-09:00|日本|新潟県阿賀野市|宝暦9年5月2日|幕領水原役所付きの村々26か村、代官山中源四郎の悪政を江戸に訴える
1759年5月29日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦9年5月4日|道頓堀芝居小屋三軒焼失(人形浄瑠璃竹本座も)
1759年5月31日-08:00|フィリピン°/スペイン| ||<死去>スペイン領フィリピン°諸島総督「ペ°ドロ°マヌエル°デ°アラ°ンデ°イ°」
1759年6月-08:00|フィリピン°/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン°諸島総督代理「Miguel Lino de Ezpeleta」(〜1761.7)
1759年6月-02:00|シリア°アラブ°/トルコ| ||<就任>アレク°・ワ°リス(総督)「Kucuk/Sinek Mustafa Pasha」(〜1760.1)
1759年6月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「金尚魯」(〜17601121)
1759年6月2日-09:00|日本| ||宝暦9年5月8日|<死去>初代大薩摩主膳太夫(65歳)浄瑠璃太夫
1759年6月3日 04:00|プ°ルトリコ°/スペイン| ||<就任>プ°ルトリコ°知事兼提督「Mateo de Guazo Calderon」(〜17600307死去)
1759年6月15日 00:00|ポルトガル| ||<就任>初代エ°イ°ラス公「セバ°スチャン°ホ°スト°・カ°ル°ウ°アル°ホ°エ°・メ°ロ」(⇒17690916兼初代ホ°ンハ°ル°候〜17820508死去)
1759年6月26日-09:00|日本| ||宝暦9年6月2日|<死去>伏見宮邦忠親王(29歳)皇族
1759年6月26日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|宝暦9年6月2日|<交替>伊勢南林崎藩1万石「有馬氏久」隠居⇒養子「有

1760迄 (2926件)

馬氏恒」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年2月24日、22歳で死去)
1759年7月-08:00|中国| ||清・乾隆24年|カシュガリア(1757年からカシュガル、1759年からヤルカント)が清帝国に占領された
1759年7月8日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| ||アマースト将軍がタイコンデロガ、クラウンポイント攻略;別働隊がナイアガラ攻略
1759年7月15日-09:00|日本| ||宝暦9年6月21日|<死去>服部南郭(77歳)儒学者、漢詩人、画家/荻生徂徠門下の逸材
1759年7月23日-09:00|日本|広島県広島市|宝暦9年6月29日|佐伯郡草津村出火、家238軒(310竈)焼失)
1759年7月25日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| ||フランス軍、ナイアガラ砦を放棄
1759年7月26日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| ||フランス軍、タイコンデロガ砦を放棄
1759年7月27日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サントイアゴ 総督代行「ヘンリー・ムーア卿」(2度目~17620120)
1759年8月-05:30|インド| ||<就任>コチン国統治者(マハラジャ・ガングア・ダラ・コウイラティ・カリカル)「ケララヴァルマ2世」(~1775年9月没)
1759年8月2日-09:00|日本|島根県浜田市|宝暦9年7月10日|<移封>石見浜田藩5万石「本多忠敬」(33歳)⇒養子「本多忠盈」が継ぐ(⇒明和4年閏9月16日(17671107)、死去)
1759年8月5日-09:00|日本|愛媛県今治市|宝暦9年7月13日|<死去>松平定基(73歳)前伊予今治藩主
1759年8月10日-01:00|スペイン| ||<死去>スペイン国王「フェルナント6世」45歳(誕生17130923)
1759年8月10日-01:00|スペイン| ||<就任>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「カルロスフェルナント6世の甥、後のスペイン王カルロス4世」(~1788年~18190120死去)
1759年8月10日-01:00|スペイン| ||<即位>スペイン国王(ボルボン朝)「カルロス3世」フェリペ5世の息子(~17881214死去72歳)
1759年8月12日-01:00|オーストリア/トルコ/ロシア| ||ケーナーストルフの戦い/フリードリヒ2世がケーナーストルフでオーストリア・ロシアの連合軍に大敗
1759年8月13日-09:00|日本|兵庫県たつの市|宝暦9年7月21日|<死去>播磨龍野藩51000石「脇坂安実」(15歳)⇒27日、養子「脇坂安親」が継ぐ(⇒天明4(1784)年4月13日、隠居)
1759年8月19日-01:00|フランス/イギリス| ||フランス地中海艦隊がラゴス湾でイギリス艦隊に敗れる
1759年8月24日-03:00|サウジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「ジャアファル・ブン・サイード」(~1760年1月)
1759年9月3日 00:00|ポルトガル| ||ポルトガルが全領土からイエズス会士を追放する
1759年9月7日 00:00|イギリス| ||<死去>ウリック伯・ホント・伯「エドワード・リッチ」
1759年9月13日 06:00|カナダ/フランス/イギリス| ||<フレンチ・インディアン戦争>七年戦争で英国軍がフランス領「イル・ド・ケベック」を占領
1759年9月18日 06:00|カナダ/フランス/イギリス| ||フランス領北アメリカ植民地ニューフランスの中心地ケベックが、イギリスに攻略される
1759年9月21日-09:00|日本|京都府京都市|宝暦9年8月|伊藤若冲が「向日葵雄鶏図」を描く
1759年9月21日-08:00|中国| ||清・乾隆24年8月|清がウイグルの反乱を鎮圧し東トルキスタン平定、ウルムチを省都に新疆と呼称
1759年9月23日-09:00|日本|熊本県人吉市|宝暦9年8月3日|<死去>肥後人吉藩22165石「相良頼央」閏7月15日に鉄砲で撃たれ、その傷が元で(23歳)⇒12月11日、養子「相良晃長」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年2月4日、死去)
1759年9月28日-09:00|日本| ||宝暦9年8月8日|幕府が、新規の銀札発行と金札・銭札の発行を禁止
1759年10月-05:30|インド/アフガニスタン| ||アフガン王アブドゥル・シャー・ドゥッラーニはマラーターからラホールを奪還し、デリーに向けて進軍
1759年10月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| ||<就任>ガチー司令官代行「トウアルテ・ホセ・ロドリゲス」(~1761年)
1759年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・アントニオ・レオナルディ」「フィリッポ・ファッツィーニ」
1759年10月6日-01:00|イタリア| ||<即位>ナポリ王「フェルディナント4世」(~18060330)兼シチリア王「フェルディナント3世」(~18161212)
1759年10月9日 00:00|イギリス| ||<死去>ポルトン公・ウィンチェスター侯「ハリー・ホーレット」
1759年10月9日 00:00|イギリス| ||<就任>ポルトン公・ウィンチェスター侯「チャールズ・ホーレット」(~17650705死去)
1759年10月21日-05:00|日本|長崎県対馬市|宝暦9年9月1日|対馬府中大火、千戸を焼失
1759年10月30日-02:00|シリア・アラブ/イスラエル| ||シリア西部、イスラエルで地震(M6.6)死者2000人
1759年11月3日-09:00|日本| ||宝暦9年9月14日|<死去>岡昌名(79歳)雅楽家
1759年11月4日-04:00|モーリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| ||<就任>マスカリン諸島総督「アントワーヌ・マリー・デ・フォルジュ・ブーシェ」(~17670714)
1759年11月13日 00:00|イギリス| ||<就任>ウリック伯「フランス・グレヴィル」ブルック伯(~17730706死去)
1759年11月18日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦9年9月29日|<改名>清水徳川家3万石「松平萬二郎」⇒「徳川重好」(⇒宝暦12(1762)年5月15日、10万石に加増)
1759年11月20日-10:00|ケニア/北マリアナ諸島/スペイン| ||<就任>マリアナ諸島知事「Jose de Soroa y Lorca」(~17680609)
1759年11月20日-01:00|フランス/イギリス| ||フランス大西洋艦隊が、ブルターニュ半島リアン南部のキロン湾でイギリス艦隊に敗れる/イギリスは海上制覇を確立し、北アメリカでのフランスとの戦いを有利に
1759年11月25日-02:00|シリア・アラブ/イスラエル/レバノン| ||シリア西部、レバノン、イスラエルで地震(M7.4)死者4万人
1759年11月29日-05:30|インド| ||<死去>ムガル帝国皇帝「アラムギール2世」宰相ガーズイー・ウッディーン・ハーンに暗殺される/60歳
1759年12月-04:00|モーリシャス/フランス| ||<就任>マリアヌ島司令官「ウイセント・フランソワ・マルテヌ・ド・ブルグイエ」(2回目~17620104)
1759年12月1日-04:30|アフガニスタン/インド| ||アフガニスタンのアブドゥル・シャーがデリーに入城
1759年12月6日-05:00|モルデイグ| ||<即位>モルデイグ・スルタン「イッサ・アッディン・アル・ハサン・バティイリ・アル・ガジ」(17530309から

1760迄 (2926件)

事実上の摂政~17670202没)

1759年12月6日-05:00|モルデイグ | |||<退位>モルデイグ・スルタン「アミナ・ラニ・キラグ・ファヌ」
1759年12月10日-05:30|インド | |||<即位>ムガル帝国対立皇帝「シャー・ジ・ヤハ3世」(~17601010廃位~1772年死去)
1759年12月12日-09:00|日本|愛知県田原市|宝暦9年10月23日|<死去>大垣新田藩1万石「戸田氏房」(56歳)⇒長男「戸田氏之」が継ぐ(⇒明和8(1771)年1月17日、死去)
1759年12月19日-09:00|日本|東京都中央区|宝暦9年11月|富士田吉次、江戸市村座に出演し長唄を始める
1759年12月24日-05:30|インド | |||<即位>ムガル帝国皇帝「シャー・アーラム2世」(1回目~17880731廃位~18061119死去78歳)
1759年12月29日-09:00|日本|群馬県甘楽郡甘楽町|宝暦9年11月11日|<交替>上野小幡藩2万石「織田信右」隠居⇒弟「織田信富」が継ぐ(⇒明和元(1764)年6月7日、死去)
1759年12月30日 05:00|バハマ/イギリス | |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「ウィリアム シャーリー」(~17681128)
1760年-08:00|マレーシア | |||<就任>ジョホール統治者(ウンダング・ルアク・ジョホール)「ダトウク・プトリ・セティアワン2世」(~1790年頃没)
1760年-08:00|マレーシア | |||<就任>スナガイ・ウジヨン統治者(ウンダン・ルアク・スナガイ・ウジヨン)「ダトウク・パドル」(~1780年頃)
1760年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル | |||<就任>ティモール知事代行「統治ジュンタ(フレイ・ジョシント・ダ・コンセイカン(3期目)/ヒ・センテ・フェレイラ・デ・カルヴァリョ/アラス規制当局株)」(~1762年)
1760年-08:00|インドネシア | |||<即位>アチ王国スルタン「マフムド・シャー」(~1781年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>アラルコト国ラジャ「シャハジ・ラオ1世ファッテシ・ラオ・ホンスレ・バハ・サハブ・ラジエ」(~1789年没)
1760年-05:30|インド | |||<就任>キラス国統治者(タークル)「ヒムジ・カゾ」(~不明)⇒「サナジ・ヒムジ」(~不明)
1760年-05:30|インド | |||<就任>ジエツフォル国支配者(アサム・ウアラ)「ジェサ・ジャヤサ」(~不明)⇒「ガナガ・ウイカムシ」(~1847年没)
1760年-05:30|インド | |||<就任>ジュナガド国支配者(ナワブ)「ムザファル・ハンジ」(~1762年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>スルグジャ国ラジャ「シオ・シン・デオ」(~不明)
1760年-05:30|インド | |||<就任>チャンデリ国ラジャ「アニルド・シン」(~1774年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>トリプラ国ラジャ「クリシュナ・マーニーヤ」(1回目~1761年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>トル国統治者(タクル・サヒブ)「ジェイシムジ1世・ウァージ」(~1781年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>ナルグント国統治者(ラオ)「ハスカララオ1世」(~1773年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>バルニ国統治者(ラ)「ウメッド・シン」(~1794年没)
1760年-05:30|インド | |||<就任>ホンチ国ラジャ「ルスタム・カーン」(~1787年)
1760年-05:30|インド | |||<就任>マナバル国支配者(カーン)「サダ・ル・ナトゥ・カーン・デ・イラー・カーン」(~不明)⇒「ガザファール・カーン・ナトゥ・カーン」(~不明)
1760年-05:30|インド | |||<就任>ラジャウリ国ラジャ「イザ・タラ・カーン」(~1765年)
1760年-04:00|アゼルバイジャン | |||<死去>ガンジヤ汗国ハーン「シャー・ワルディ・ハーン」
1760年-04:00|アゼルバイジャン | |||<就任>ガンジヤ汗国ハーン「ムハンマド・ハサン・ハーン」(1回目~1778年)
1760年-04:00|UAE | |||<即位>アルカシミ・スルタン「Sheikh Rashid bin Matar Al Qasimi」(~1777年)
1760年-04:00|アゼルバイジャン | |||シャマカはダゲスタンのガジ・クムクに占領される(~1762年)
1760年-03:00|ウガンダ | |||<就任>ブコノ統治者(オムカマ)「キソジ」(~1785年頃)
1760年-03:00|イェメン | |||<即位>下ヤファ・サルタン「Ghalib ibn Ma`awda al-Afifi」(~1780年)
1760年-03:00|イェメン | |||<即位>カシーリ国サルタン「Ahmad ibn `Amr al-Kathir」(~1800年)
1760年-03:00|エチオピア | |||<即位>ワシリ・スルタン(ファルメ)「タンブ・ウェ・ノ・フム・ワムラ・ナウ」
1760年-02:00|コンゴ民主共和国 | |||<死去>カバレ王国ムワミ・ナフシ・カバレ「ナブシ19世ムウェルエ」
1760年-02:00|ザンビア | |||<就任>カゼンベ統治者(ムワ・カゼンベ)「カゼンベ3世イルガ・ルウェサ」(~1805年10月没)
1760年-02:00|エスワティニ | |||<就任>スワジランド最高支配者「ケワネ3世」(~1780年)
1760年-02:00|コンゴ民主共和国 | |||<即位>カバレ王国ムワミ・ナフシ・カバレ「ナブシ20世ヒルンジラ」(~1799年)
1760年-01:00|イタリア | |||<就任>パンツッティ伯「Fortune-Bernard de Felice, 3rd Count Panzutti」(~1832年)
1760年-01:00|オランダ/ドイツ | |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「カール・クリスティアン・フォン・ナッサウ＝ヴァイルブルク」(~1765年)
1760年-01:00|クロアチア | |||<即位>ポルツァ大公「ジュレ・ノウ・アコグ・イチ」(~1768年)
1760年-01:00|オーストリア | |||ウィーンに帝国議会在が創設される
1760年-01:00|ポーランド | |||ポーランドのコナルスキが「有効な議決法について」刊
1760年 00:00|セネガル | |||<就任>ケール統治者(タンメル)「イサ・ビゲ・ナゴネ」(~1763年)
1760年 00:00|トゴ | |||<就任>ケニグバ統治者(フィオ)「エクウェ・アサンクボ」(~1785年)
1760年 00:00|イギリス | |||<就任>ヨーク・オルバニ公「エドワード・オーガスタス」(~17670917死去)
1760年 00:00|コートジボワール | |||<即位>サスーのバウル王国女王「ナン・アク・ボニ」(~1790年)
1760年 00:00|イギリス | |||イギリスで衣料生産の工場制工業化がすすみ、産業革命が本格化
1760年 05:00|ジャマイカ/イギリス | |||元コマンチ族首長タキの反乱/ポートマリアを占領し捕らえた白人を皆殺しにする
1760年 06:00|カナダ/イギリス | |||<就任>イギリス領ケベック植民地総督「ジェフリー・アマー・スト卿」(~1763年)
1760年 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第7代総督「ジェームズ・ライト」(~1776年)
1760年 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領ニュージャージー総督「トマス・ブーン」(~1761年)
1760年 06:00|コスタリカ/スペイン | |||<就任>コスタリカ総督代行「フランシスコ・ハビエル・デ・オレアムノ・イ・バスケス・メンデス」(2回目~1762年)
1760年 06:00|アメリカ/スペイン | |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督代理「Mateo Antonio de Mendoza」(~同年)
1760年 10:00|ポルネシア | |||<就任>アヒネ統治者「Rohianu`u」(~1777年)
1760年1月-03:00|サウジアラビア | |||<就任>メッカ・シャリフ「マサード・ブン・サイト2世」(2度目~17700523死去)
1760年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ | |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Boynuegri Abdullah Pasha」(~3月)

1760迄 (2926件)

1760年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダ・マスカス・ワリス(総督)代行「Mustafa Agha」(~2.18)
1760年1月9日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「ラウラジ・オウ・侯爵アントニオ・アルメイダ・ソアレス・ポルトカ
ル・デ・アラカン・エサ・エ・モロ」(~7.8)
1760年1月10日-05:30|インド/アフガニスタン| |||<バハラガートの戦い>デリー近郊でクワリヤル摂政ダッター・ジー・ラー・オ・シンデ・イアがアフ
ガン王アフマト・シャー・ド・ウッラーニーと戦いを交え戦死、アフマト・シャーはデリーを占拠
1760年1月13日-09:00|日本| ||宝暦9年11月26日|<死去>3代岩井半四郎(62歳)歌舞伎役者
1760年1月16日-09:00|日本|長崎県対馬市|宝暦9年11月29日|<死去>宗方熙(64歳)前対馬府中藩主
1760年1月24日-05:30|インド/アフガニスタン| |||マラーター軍が、アフマト・シャー・ド・ウッラーニーが占拠しているデリーを攻撃
1760年1月25日-09:00|日本|岐阜県海津市|宝暦9年12月8日|<死去>美濃今尾藩3万石「竹腰正武」(75歳)⇒28日、養
子「竹腰勝紀」が継ぐ(⇒天明5(1785)年3月1日、隠居)
1760年2月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝カッセル方伯「ヴィルヘルム8世」
1760年2月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝カッセル方伯「フリートリヒ2世」ヴィルヘルム8世の息子(~17851031死去)
1760年2月5日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニャ副王「フランシスコ・アントニオ・デ・エチエガアリ」(~4.28)
1760年2月6日-01:00|イタリア| |||ベネツィアでガスパロ・ゴッツィの「カゼット・ウエネツ」の第一号発刊
1760年2月6日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ハース公(ジャコバイト)「エドワード・ドラモンド」
1760年2月6日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ハース公(ジャコバイト)「ジェームス・ドラモンド」先代の従兄弟の息子(~1781071
8死去)
1760年2月17日-09:00|日本|玉ひで|宝暦10年|江戸日本橋和泉町に、軍鶏専門店「玉鉄」が開店
1760年2月17日-07:00|ベトナム| |||ベトナムの呉時仕が「越史標按」全10巻を完成
1760年2月17日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<死去>サラメント新植民地ポルトガル総督「Luis Garcia de Bivar」
1760年2月17日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<就任>サラメント新植民地ポルトガル総督代理「Manoel de Azevedo Marqu
es」(~3.5)
1760年2月18日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダ・マスカス・ワリス(総督)「Muhammad Pasha al-Shalik」(~11.6)
1760年3月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクホ・ワリス(総督)「Kose Bahir Mustafa Pasha」(~1761.12)
1760年3月5日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<就任>サラメント新植民地ポルトガル総督「Vicente da Silva Fonseca」(~1
7621031)
1760年3月6日-09:00|日本| ||宝暦10年1月19日|<死去>吉田文三郎(不明)人形浄瑠璃の人形遣い、作者
1760年3月7日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<死去>プエルトリコ知事兼提督「Mateo de Guazo Calderon」
1760年3月7日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Esteban Bravo de Rivero」(3期目~17
610420)
1760年3月7日-09:00|日本| ||宝暦10年1月20日|<死去>2代津打治兵衛(82歳)歌舞伎作者
1760年3月11日 04:00|ケアドルーフ/イギリス| |||<死去>ケアドルーフ知事「Byam Crump」
1760年3月11日 04:00|ケアドルーフ/イギリス| |||<就任>ケアドルーフ知事「Campbell Dalrymple」(~17630704)
1760年3月20日-05:00|日本|東京都|宝暦10年2月4日|<江戸宝暦10年2月連日の火災>(~7日)明け七つ時(午前4時
ごろ)、赤坂今井谷に住む將軍親衛隊の小十人組正木新蔵宅より出火、麻布辺りから日が窪、雑色、十番綱坂、三
田寺町へ、伊皿子聖坂から田町、品川へと海辺まで延焼し、朝四時半時(午前10時ごろ)鎮火
1760年3月21日 12:00|日本|東京都港区|宝暦10年2月5日|<江戸宝暦10年2月連日の火災>夜五つ半ごろ(21時ごろ
)麻布狸穴の武家屋敷から出火し近辺を焼失、九つ時(午前0時ごろ)前には鎮火
1760年3月22日 09:00|日本|東京都港区|宝暦10年2月6日|<江戸宝暦10年2月連日の火災>暮れ六つ時(18時ごろ)
芝神明前の湯屋(銭湯)から出火し、増上寺片町より本芝四丁目の浜通りまで全焼、金杉橋を焼き落とし田町方
面に延焼して夜四つ過ぎ(22時ごろ)鎮火/夜の五つ時(20時ごろ)、神田旅籠町一丁目の足袋商・明石屋から出火
、火元に近い佐久間町を灰とし、その勢いで浅草辺りから両国橋、馬喰町、本町、日本橋、江戸橋辺りまでと延び
に延び、霊巖島から新川辺りまで延焼。さらに炎は新大橋、永代橋を焼いて隅田川を越えて深川へ飛び火し、州
崎、木場辺りまで灰にして、翌朝四つ時(午前10時ごろ)焼け止まった「明石屋火事」
1760年3月23日-09:00|日本|石川県加賀市|宝暦10年2月7日|<加賀大聖寺宝暦10年の大火>子の刻(午前0時ごろ)
前、中新道袋町より出火、一向宗本善寺や願成寺の堂宇に燃え移り、そこから勢いを増して炎は拡がり、横新町、
観音町、越前通町、荒町、寺町、京町から下口福田町まで焼き、翌日の辰の刻(午前8時ごろ)鎮火/被害は町家では
わずかに150軒程が焼け残り、侍屋敷では家老の山崎伊織宅と小身の侍の家12、3軒が残った程度であとは寺院
も含め灰となった/御算用場(会計を統括する役所)など役所3か所が焼失/郊外では上福田村と下福田村の民家
5、60軒が焼失/全体で住家1252軒、土蔵57棟が焼失し、6人死亡
1760年3月24日-09:00|日本|滋賀県彦根市|宝暦10年2月8日|<死去>井伊直定(61歳)前近江彦根藩主
1760年3月25日-09:00|日本| ||宝暦10年2月9日|<死去>三橋検校(不明)箏曲家
1760年3月29日-09:00|日本|福井県坂井市|宝暦10年2月13日|丸岡城下で火事、町家176軒・侍屋敷36軒焼失
1760年4月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「アウレリオ・ヴァローニ」「フランチェスコ・アントニオ・リギ」
1760年4月1日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ヨーク・オールバニ公・初代アルスター伯「エドワード・オーガスタス王子」(~17670917死去
)
1760年4月3日-08:00|インド・ネパール/フランス| |||<就任>フランスのベンケレン司令官「Jean-Baptiste チャールズ・Henri Hector」(~
1760年)
1760年4月5日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ウィリアム・フール2世」(~17611222)
1760年4月6日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード知事「ジャント・サン・ファン」(~1762年)
1760年4月9日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|宝暦10年2月24日|<死去>伊勢南林崎藩1万石「有馬氏恒」(22歳)⇒4月9
日、養子「有馬氏房」が継ぐ(⇒安永2(1773)年間3月20日、17歳で死去)

1760迄 (2926件)

1760年4月15日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||フランス領カリカをイギリス軍が占領
1760年4月17日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Juan Wanmarch Lumen de la Vice」(~17630321)
1760年4月22日-09:00|日本|群馬県高崎市|宝暦10年3月7日|<死去>上野吉井藩1万石「松平信友」(49歳)⇒養子「松平信有」が継ぐ(⇒明和8(1771)年12月4日、隠居)
1760年4月26日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|宝暦10年3月10日|<死去>遠江横須賀藩35000石(老中)「西尾忠尚」(72歳)⇒4月26日、家督を養子「西尾忠需」が継ぐ(⇒天明2(1782)年9月29日、隠居)
1760年4月28日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニア暫定副王「ガダル侯爵フランスコ・アントニオ・ガダル・デ・ベカ」(~10.5)
1760年4月29日-09:00|日本|岡山県浅口市|宝暦10年3月14日|<交替>岡山新田藩25000石「池田政方」隠居⇒長男「池田政香」が継ぐ(⇒明和5(1768)年8月25日、28歳で死去)
1760年5月5日 00:00|イギリス| |||<死去>4代フェラーズ伯「ローレンス・シャーリー」
1760年5月5日 00:00|イギリス| |||<就任>5代フェラーズ伯「ワシントン・シャーリー」(~17781001死去)
1760年5月5日 00:00|イギリス| |||ロンドンで初めて絞首刑が実施されるアル・フェラーズの処刑で
1760年5月10日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Manuel de Portillo y Urrisola」(~1762年)
1760年5月11日-06:30|ミャンマー| |||<死去>ビルマ王「アラウンパヤ」
1760年5月11日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビルマ王「サントーキー」(~17631128没)
1760年5月15日-09:00|日本|千葉県佐倉市|宝暦10年4月1日|<加増>下総佐倉藩10万石「堀田正亮」+1万石⇒11万石(⇒翌年2月8日、死去)
1760年5月16日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦10年4月1日|<就任>老中「秋元涼朝」(~明和1年2月24日)
1760年5月18日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官代行「パトリック・アロンソ」(~17610207)
1760年6月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督代理「トマス・ハッチソン」(~8.2)
1760年6月9日-09:00|日本|岐阜県山県市|宝暦10年4月26日|<死去>美濃高富藩1万石「本庄道堅」(28歳)⇒6月24日、養子「本庄道信」が継ぐ(⇒明和3(1766)年12月18日、19歳で死去)
1760年6月9日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|宝暦10年4月26日|<死去>武蔵岩槻藩2万石「大岡忠光」(49歳)⇒長男「大岡忠喜」が継ぐ(⇒天明2(1782)年、隠居)
1760年6月10日 00:00|イギリス| |||<死去>3代アビンドン伯「ウィリアム・パーティ」
1760年6月10日 00:00|イギリス| |||<就任>4代アビンドン伯「ウィリアム・パーティ」(~17990926死去)
1760年6月17日-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<死去>コンゴ王国マニコンゴ「アフォンソ4世」
1760年6月17日-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコンゴ「アンソニ-2世」(~1762年)
1760年6月19日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦10年5月6日|<解任>老中「松平輝高」
1760年6月23日-01:00|オーストリア/ドイツ/ポーランド| |||<ランデスフートの戦い>七年戦争でオーストリア軍がプロシヤ軍に大勝
1760年7月4日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>東インド諸島(トングバル)デンマーク領総督「ギュンター・ヘルマン・ヤコブ・フォルク」(~17610427)
1760年7月8日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督代行「トマス・ルビ・バロス・バレット」(~17610621)
1760年7月9日-09:00|日本|茨城県下妻市|宝暦10年5月27日|<死去>常陸下妻藩1万石「井上正辰」(25歳)⇒長男「井上正意」が継ぐ(⇒天明4(1784)年2月17日、26歳で死去)
1760年7月16日-09:00|日本|岡山県新見市|宝暦10年6月4日|<死去>備中新見藩18000石「関政富」(38歳)⇒次男「関政辰」が継ぐ(⇒安永3(1774)年8月23日、死去)
1760年7月18日-09:00|日本|新潟県新発田市|宝暦10年6月6日|<死去>越後三日市藩1万石「柳沢保経」(55歳)⇒長男「柳沢信著」が継ぐ(⇒天明2(1782)年3月10日、死去)
1760年7月28日-09:00|日本|大分県佐伯市|宝暦10年6月16日|<死去>豊後佐伯藩主「毛利高丘」(33歳)⇒次男「高橋」が継いだ
1760年8月-05:45|ネパール| |||<死去>ラリタプ王「ジャヤビスワアジットマラ」
1760年8月-05:45|ネパール| |||<即位>ラリタプ王「ジャヤワラサマラ」(1回目~1762年)
1760年8月2日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「フランス・バーナード」(~17690801)
1760年8月11日-09:00|日本|東北大学|宝暦10年7月|仙台藩明倫養賢堂で医学教育開始
1760年8月13日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「メフメト・パシャ・ムシナーテ」(~17640408)
1760年8月15日-01:00|オーストリア/ドイツ/ポーランド| |||プロシヤのフリードリヒ2世がシュレジエンのリーグニッツでオーストリア軍を急襲し破る
1760年8月18日-09:00|日本|宮城県児湯郡高鍋町|宝暦10年7月8日|<交替>日向高鍋藩27000石「秋月種美」隠居⇒長男「秋月種茂」が継ぐ(⇒天明8(1788)年11月6日、隠居)
1760年8月20日-08:00|マレーシア| |||<死去>ジョホール・パハン・リアウ・リンガ(ジョホール帝国)スルタン「スルタン・スライマン・バドル・アラム・シャー」
1760年8月20日-08:00|マレーシア| |||<即位>ジョホール・パハン・リアウ・リンガ(ジョホール帝国)スルタン「アブドゥル・ジャリル・ムアッザム・シャー・イブニ・アル=マルフム・スルタン・スライマン・シャー」(~17610129死去)
1760年8月20日-09:00|日本|東京都|宝暦10年7月10日|幕府が人家付近での花火を禁止
1760年8月25日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|宝暦10年7月15日|<死去>丹波篠山藩5万石「青山忠朝」(53歳)⇒養子「青山忠高」が継ぐ(⇒天明元(1781)年6月24日、隠居)
1760年8月31日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦10年7月21日|<初演>近松半二・三好松洛、人形浄瑠璃「極彩色娘扇」竹本座

1760迄 (2926件)

1760年9月2日 00:00|イギリス| |||<就任>初代モントン伯「ギャレット・ウェズリー」(~17810522死去)
1760年9月8日 06:00|カナダ/フランス/イギリス| |||フレンチ・インディアン戦争で、イギリスがフランスからモントリオールを奪う/フランス軍、全かたをイギリス軍に引き渡す
1760年9月13日-09:00|日本| ||宝暦10年8月5日|幕府が、将軍代替わり時慣例の諸国巡見使への法度を公布
1760年9月20日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|宝暦10年8月12日|<死去>但馬豊岡藩15000石「京極高永」41歳)⇒長男「京極高品」が継ぐ(⇒寛政3(1791)年5月10日、隠居)
1760年9月22日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アゴスティーノ・ロメリニ」(~17620910)
1760年9月23日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝暦10年8月15日|<就任>大坂城代「松平周防守康福」(~宝暦12. 12. 9)
1760年9月26日-09:00|日本|広島県呉市|宝暦10年8月18日|安芸郡宮原呉町にて大火、焼失家数、町家237軒(293竈)・村分家9軒(18竈)など
1760年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャンバティスタ・エンツェルス」「シヨヴァンニ・ピエトロ・マルテッリ」
1760年10月5日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「デヴィッド・ピーター・エラスムス」(~17630719在任中死去)
1760年10月6日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニア副王「カルロス侯爵ホセ・アントニオ・デ・モントセラト・イ・シウナ」(~17660823)
1760年10月9日-01:00|ドイツ/ロシア| ||ロシア暦9月28日|ロシア女帝エリザベータが、ペルシンを急襲し、街を焼きつくす
1760年10月10日-09:00|日本|東京都千代田区|宝暦10年9月2日|家重の長男徳川家治が第10代の征夷大將軍になる/政治の舵取りは田沼意次になる
1760年10月18日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・マース島・セントジョン島総督「John Georg von John」(~17640421死去)
1760年10月20日-06:00|バングラデシュ| |||<就任>ベンガル・ナワブナジム「ミール・ムハンマド・カシム・アリー・ハーン」(~1763年)
1760年10月20日-05:30|インド| |||<就任>ベンガル太守「ミール・カシム」(~17630707退位)
1760年10月20日-05:30|インド| |||<退任>ベンガル太守「ミール・ジャファール」
1760年10月25日 00:00|イギリス/ドイツ| |||<死去>グレートブリテン国王「ジョージ2世」兼ザクセン=ラウエンブルク公・ハノーファー選帝侯・ブラウンシュヴァイク=リュネブルク選帝侯「ゲオルク2世」/76歳(誕生16831110)
1760年10月25日 00:00|イギリス/ドイツ| |||<即位>グレートブリテン国王「ジョージ3世」兼ハノーファー選帝侯・ブラウンシュヴァイク=リュネブルク選帝侯「ゲオルク3世」ゲオルク2世の孫(~1806年フランスによるハノーファー占領と神聖ローマ帝国崩壊で選帝侯位を喪失)兼ザクセン=ラウエンブルク公「ゲオルク3世」(~1803年)
1760年10月27日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ暫定総督・総司令官・大統領「フアン・デ・ペラルテ・イ・シエンフエロス」(2回目~17610614)
1760年10月28日-09:00|日本|鹿児島県|宝暦10年9月20日|<死去>島津継豊(60歳)前薩摩藩主
1760年10月28日-09:00|日本|新潟県長岡市|宝暦10年9月20日|<死去>越後与板藩2万石「井伊直存」(42歳)⇒次男「井伊直郡」が継ぐ(⇒同年2月26日、死去)
1760年11月7日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Sulayman Bey」(~12. 11)
1760年11月20日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|宝暦10年10月13日|<交替>伊勢神戸藩15000石「本多忠永」隠居⇒甥「本多忠興」が継ぐ(⇒明和3(1766)年7月15日、死去)
1760年11月21日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・雍正5年6月|<就任>朝鮮国領議政「李天輔」(~17611024)
1760年11月29日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||イギリス軍、デトロイト占領
1760年12月11日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Uthman Pasha al-Kurdji」(~17711022)
1760年12月20日-05:30|インド| |||<就任>コルハール国摂政「シシバ・イサーヒブ・ホンスレ」(~17730217没)
1760年12月30日-09:00|日本|新潟県佐渡市|宝暦10年11月24日|幕府、佐渡蔵奉行を創置